建築と社會

御大禮記念號

第十二輯第一號

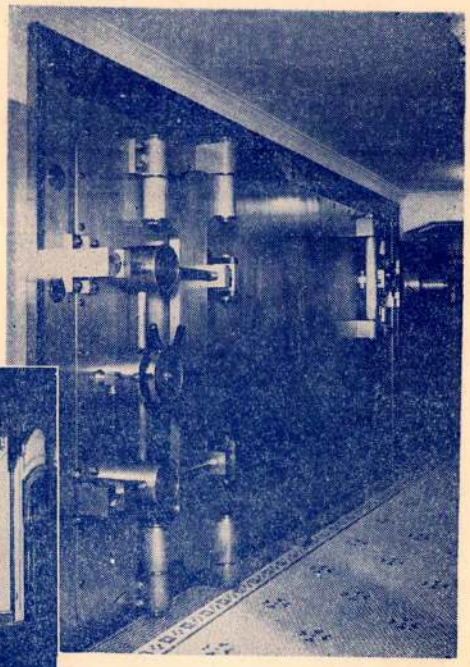
昭和四年一月一日

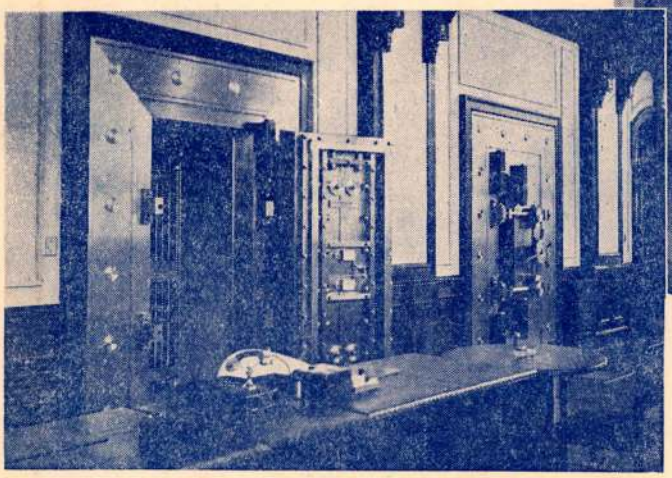
日本建築協會

モスラー金庫扉及内部設備

堅牢無比!!

斯界ノ權威!!





（最近竣工ノ三井銀行大阪西支店御使用）

モスラー金庫會社製

▶金庫扉◀

▶銀行保護預金金庫扉◀

▶内部諸設備及附屬品一式◀

總代理店

三機工業株式會社

本店　東京市麹町區内幸町一ノ三(大阪ビル内)
電話銀座(57)5330—5335(6)2831—2833(3)

支店　大阪市東區備後町二ノ二一(野村ビル内)
電話本町1166・1525

取扱店　各地三井物産株式會社支店機械部

商標 OHNO SHUTTER PATENTED 登錄

特許第七九三五號（延長許可）外十數件併用

大野式防火捲上ヶ戸

特許大野式シヤッター

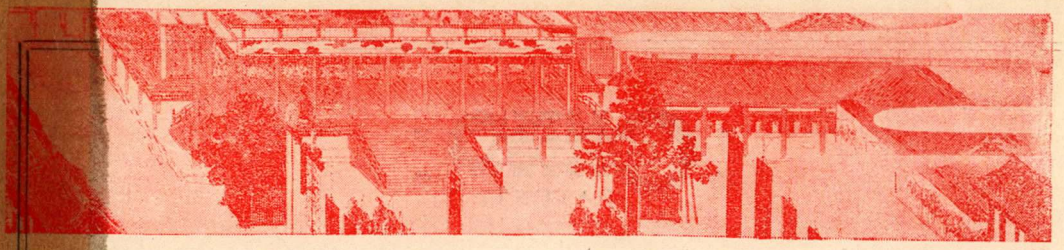
主要製品

大野式シヤッター
大野式自働防火鎧戸
大野式工場用軸承
大野式轉子入軸筐
大野式轉子入戸車
大野式回轉軸抵抗測定機
各種防火扉
應用特殊機械類

合資會社 大野製作所

東京市芝區三田四國町二番地（電話高輪 二七七五五・二七七五六・三七七五七番）

（電話土佐堀二七二五）大阪市此花區上福島中二・所詰員張出付近



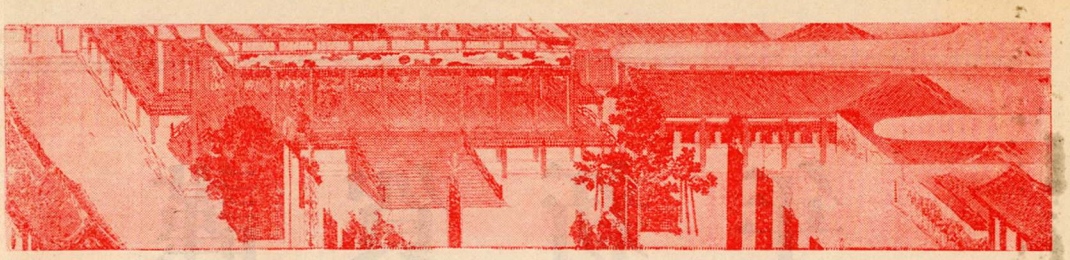
御大禮記念號　建築と社會　第十二輯　第一號　目次

＝口繪寫眞＝

◇鳳輦二重橋進御……一
◇平安朝時代に於ける大極殿御即位式模型（その一）……二
◇同上……（その二）……四
◇悠紀・主基兩地方風俗屏風……四
◇卷頭（新春所感）……一

御大禮記事

◇昭和の新時代と我建築界……工學博士　片岡安……二四
◇御即位の大禮と建築……工學博士　片岡安……五七
◇昭和の即位大典に際して……工學博士　武田五一……八九
◇平安京・大內裡及內裡の建築……工學博士　伊東忠太……一五



◇御大典と京都の表慶施設……工學士 松室重光…二六…四〇

◇御大禮謹記……五五…八四

研究

◇建築道の爲に

フランク・ロイド・ライト (1)……名古屋高等工業學校助教授 松永德昌

◇ランフアン

都市計畫家銘々傳 (5)……藤田進一郎…四五…五〇

◇セメントの凝固と顯微鏡的觀察……京都帝國大學教授 城戸久…四一…四四

◇秋季大會高野行……八木幸次郎・松室重光…X Y 生…八三…九五

◇會報……

御大禮記念號 建築と社會 第十二輯 第一號 目次

謹賀新年

本店　大阪市東區京橋三丁目五十七番地

東京支店　東京市麹町區永樂町二丁目一番地

横濱支店　横濱市中區太田町二丁目二十三番地

名古屋支店　名古屋市中區新柳町六丁目三番地

小倉支店　小倉市米町二丁目三十二番地

株式會社 大林組

京都營業所　京都市（上京區堺町御池下ル丸木材木町六七五番地）

神戸營業所　神戸市海岸通十二番地

京城出張所　京城府漢江通八番地

工作所大阪工場　大阪市港區千島町六番地

工作所東京工場　東京市深川區鹽崎町一號埋立地

謹賀新年

大阪市東區釣鐘町二丁目二十九番地

大倉土木株式會社大阪出張所

電話東（長三二一・三二二・三二五／三八三・一三一二・一三一三／長六二五〇・六二五一・二〇六）

本店　東京市京橋區銀座二丁目七番地

出張員詰所

京都市上京區新烏丸通リ丸太町上ル　電話上一七一五番

吳市本通リ十四丁目七〇番地

門司市內濱町二丁目　電話一四三五番

謹賀新年

大阪市堂島ビル三階

合名會社 **竹中工務店**

電話北長八一〇〇※三三〇〇番

横濱出張所　横濱市花咲町七丁目　電話長者町(3)一八八九番

京都出張所　京都市坊城通り三條下ル　電話市二二四七番

大阪製作所　大阪市港區南境川町　電話西長八〇四二一二八番

東京製作所　東京市深川區西平井町　電話本所(73)五七四一番

東京支店　東京市丸ノ内郵船ビル三階　電話丸ノ内一二五〇番・一二五八番・一二五九番

神戸支店　神戸市熊内町六丁目　電話葺合八〇五番

名古屋支店　名古屋市西區菅原町二丁目　電話市局長一八四二番

謹奉賀新年

合資會社

清水組大阪支店

大阪市西區土佐堀通二丁目二番地

電話土佐堀(六六六・六六七〇)九一三・四九六〇

本店　東京市麹町區永樂町一丁目一番地　丸ノ内ビルデング六階　六四四區

支店　名古屋、京都、博多、京城

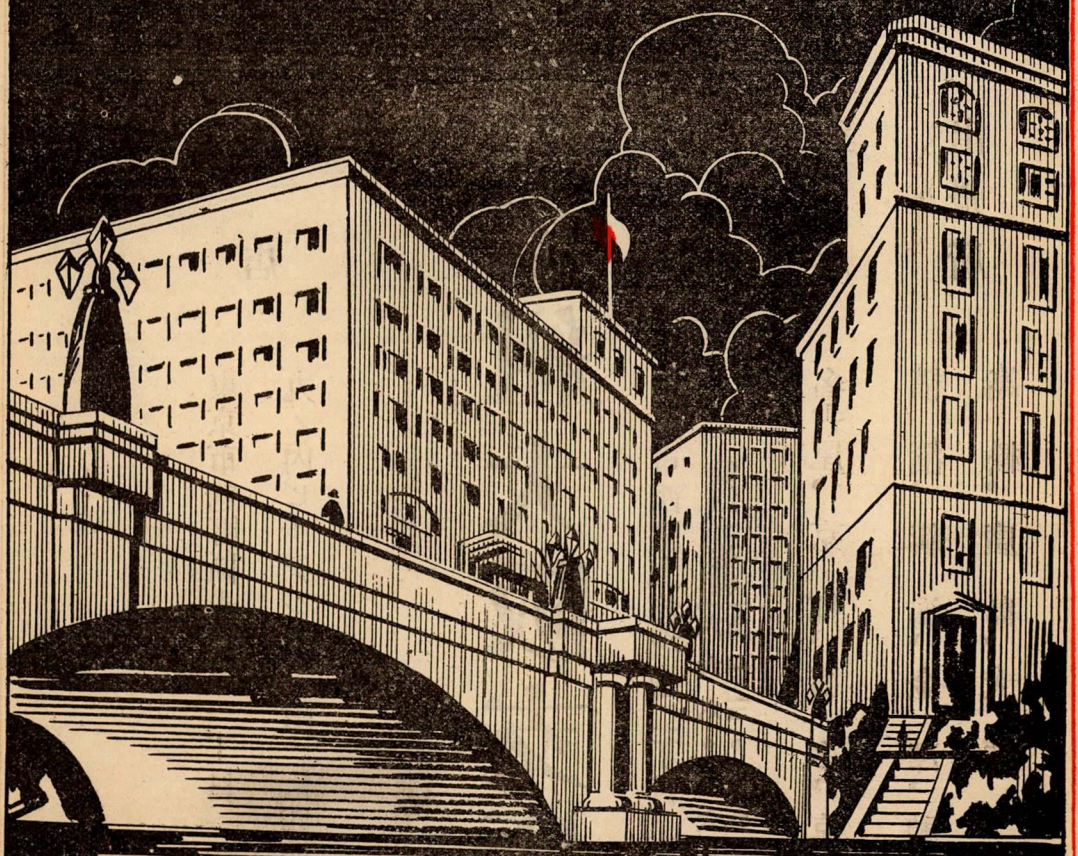
出張所　横濱、新潟、金澤、神戸、高松、廣島、大連

小野田白色ポルトランドセメント

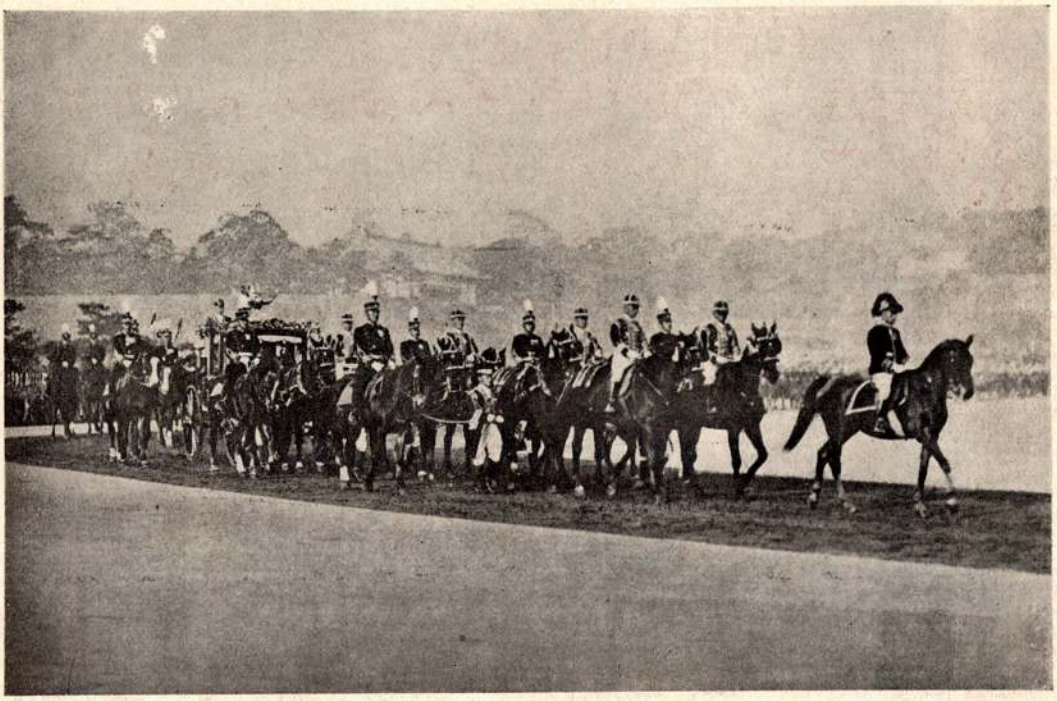
小野田ポルトランドセメント

創立　明治十四年
資本金　金参千万円
年産額　八十八万瓲(五百二十万樽)
本社工場　山口県厚狭郡小野田町

支社工場
大連市外周水子
朝鮮平壌府外勝湖里
朝鮮咸鏡南道線川内里
名古屋市南区熱田東町

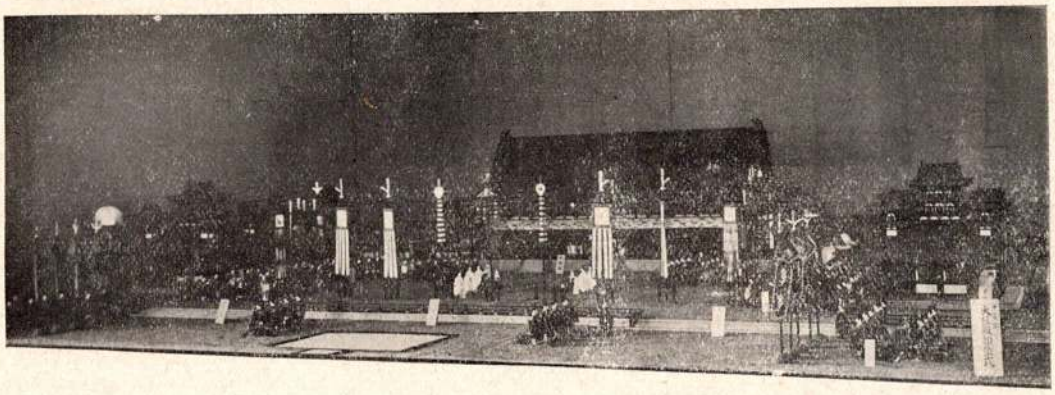


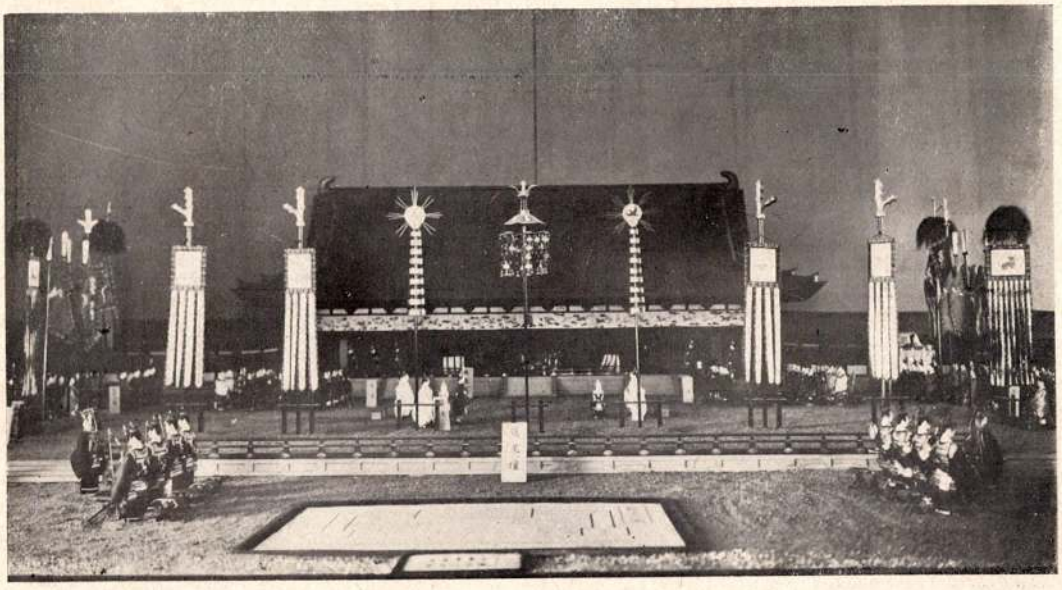
一手販売
三井物産株式會社



御進前橋重二葦鳳

口絵 2



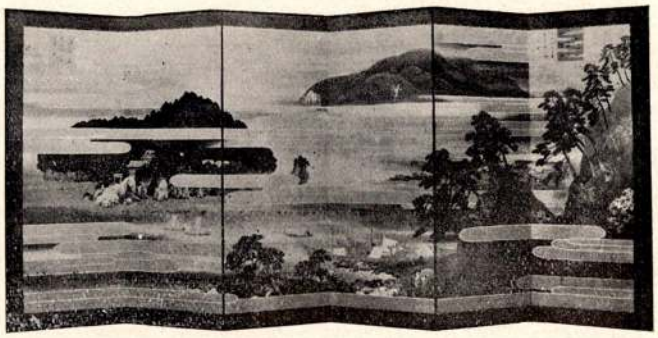


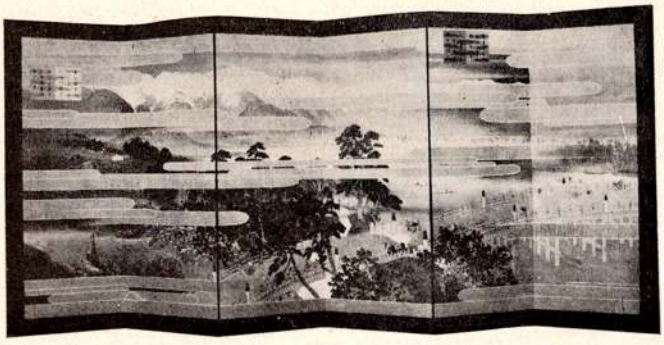
平安朝時代に於ける大極殿御即位式模型





平安朝時代に於ける大極殿御即位式模型　上・會昌門　下・同門内

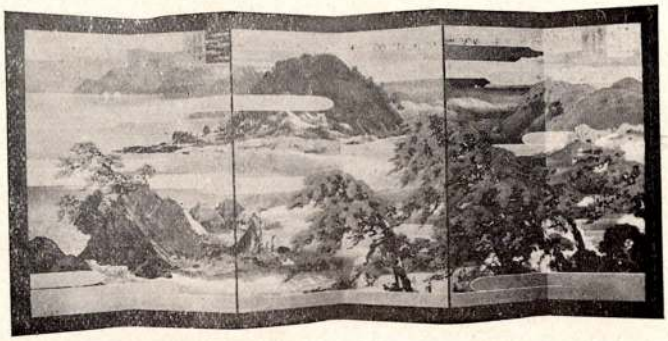


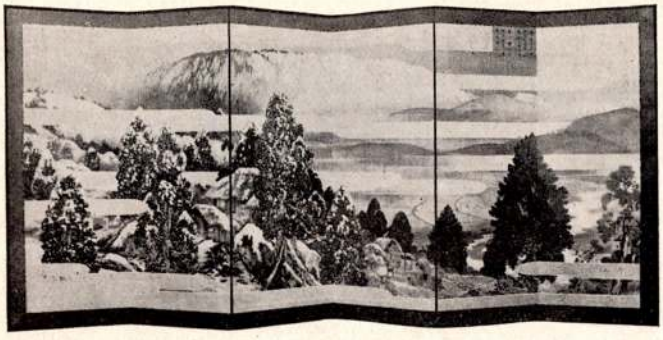


悠紀地方風俗歌屏風

川合玉堂氏謹畫

（上 側 二 雙）





主基地方風俗歌屏風

山元春擧氏謹畫

（下 側 二 雙）



木製品工業とオイルステイン

ありとあらゆる木製品のニス仕上乃至は着色に使用して**オイルステイン**は完く神秘的な働きをします、廿種類からなる豊富な色の中から思ふまゝの色を選び木へ刷毛の運びによつて本職の塗師でも出し兼ねる色合が素人でも不熟練な職工でも美装することが出来ますから小量生産の場合、大量生産の時でも本品を利用して仕上るのは労力経済、製品の美麗なる點より**オイルステイン**は廣く研究し盛んに使用されつゝあり、現時の激烈なる競爭場裡に於て覇者たらんとするには、須く本部は**オイルステイン**着色を以て其の秘策とする。

美麗なる色見本付型錄送呈

合資會社

田中源太郎商店塗料部

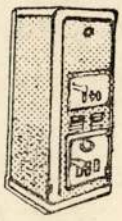
東京營業所　東京丸ノ内昭和ビル　電丸ノ内(三三)二〇三四二〇三五

大阪營業所　大阪市北區樋上町　電　北二五六六二五六七

札幌營業所　札幌市北一條西三丁目　電　三二八二

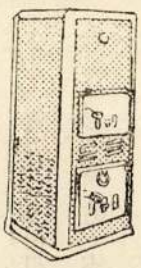
AMERICAN RADIATOR COMPANY

New IDEAL Vecto



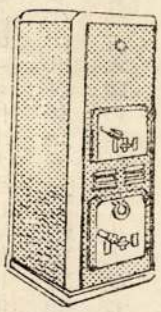
No3C

Heats 2 to 3 Rooms



No5C

Heats 3 to 5 Rooms



No8C

Heats 5 to 8 Rooms

重ナル寸法

型	高サ	間口	奥行
No3C	33″	15″	14″
No5C	43″	18″	17″
No8C	48″	21″	21″

日本總代理店

大倉商事株式會社

東京銀座　　大阪東區釣鐘町

夏ハ蚊蟲ハ

ロールスクリーン

Rolscreens

The Ideal Screen For Casements

特許第74197號

近來模造品多數あり本品御指定ありたし



（型錄贈呈）

島貿易株式會社建材部

日本總代理店　本店　大阪市東區高麗橋四丁目
電話本局自五〇四〇—至五〇四七番

支店　東京市日本橋區平松町
電話日本橋　二二四番　三一六九番
三一六八番

晝は蠅、夜は蚊と

夏は閑靜な郊外の住宅に在つても中々に快よき休息は出來かねます。これ我が優美輕便なロールスクリーンの御使用を切に御薦めする所以であります。

從來病院や郊外住宅や又は料理場などで、窓の設備中最も苦心して來たものは實にスクリーンの問題であります。凡そ傳染病の豫防とか、夏期蠅や蚊や、其他色々の虫類が飛込んで來るのを防いだり、又工場地帶で煤煙防止の必要な場所などには、是非共此のスクリーンの用意をして置かねばなりません。

然るに此迄のものは、何れも取扱上の不便や、不體裁の點や或は又、不經濟などの點で、其必要を生ずる都度、頭痛の種となつて居たものであります。

此の久しい間の、難問解決の使命を果たすものこそ、實に我がロールスクリーンの出現及び提供であります

小野田セメント専用

セメントタイル
セメントモザ井ックタイル
コンクリートタイル
ストンブロック
模造ゼンターム
塀用ホーローブロック
其他各種人造石製造

大阪市港區大正通一丁目六三

創業明治三十六年　合名會社　田中タイリング商會

電話櫻川二〇四七番

分工場　大阪市東成區鴫野町五一一

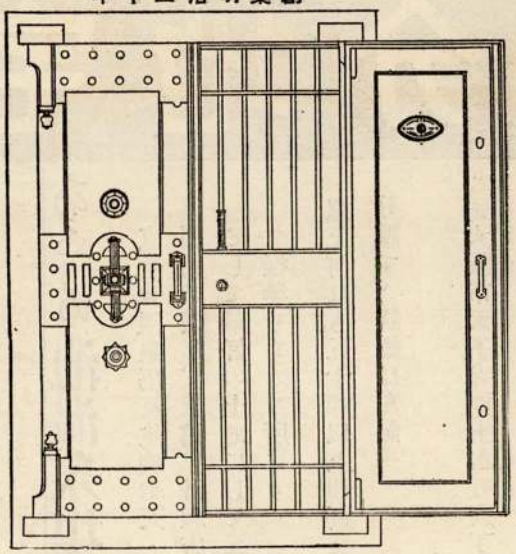
電話鮫江二六八番

東京工場　東京市深川區東平井町一ノ一

電話本所四六六二番

大塚製金庫扉の特色は

防火的理想の完成したる
昭和參年新案特許第壹壹貳五七〇號
瀧村式防火裝置（自働アスベストパッキング）



金庫室防火扉

創業明治二十年

金庫室は完全なる扉と
内部什器（書棚及書函）の
鋼鐵化に因り始めて絶對的
災害防止の効果を實現す

御一報次第型錄差出申候
應貴意設計圖面調製提出
可仕候

營業科目

金庫室入口防火扉
マンホール幷ニ窓扉
倉庫出入口防火扉
鋼鐵製書函並ニ書棚
美術建築用金物一式

御用命を蒙り納入せる尊名

三十四銀行　吉備貯蓄銀行　奈良信託株式會社　武田長兵衛商店
三井銀行　蘇原銀行　三井信託大阪支店　八馬邸
名古屋銀行　灘商業銀行　三井物産名古屋支店　竹内邸
名古屋貯蓄銀行　西海商業銀行　岡谷本邸　池田商店
加島銀行　大阪貯蓄銀行　岡谷合資東京金物部　安藤商店
明治銀行　内國貯金銀行　三菱電氣神戸製作所　瀬邸
野村銀行　山口銀行　萩町信用組合　西郷邸
野村證券株式會社　久美濱銀行　松坂屋呉服店　宅邸
濱松銀行　大垣貯蓄銀行　東邦瓦斯株式會社　大垣共立銀行
中埜銀行　武庫銀行　大日本人造肥料株式會社　日本銀行
濃飛農工銀行　大野銀行　鹽野義商店　岩津邸

大阪市港區九條南通一丁目一三〇番地

大塚鐵工所金庫部

所主　瀧村松之助

電話西五〇一七番

工場　九條南通一丁目　三軒家上之町　北境川町

住宅地分譲

山本・長瀬・小阪

何れも土地高燥閑靜にして上下水道完備し交通又至便、各停留場に隣接し、郊外住宅地として最も理想的の地なり

あやめ池溫泉場附近 生駒

直營大溫泉場及生駒聖天・生駒山上遊園地に接し、旅館、料理店、土產物店として最好の土地にして又別莊向として推奬せらるゝ所なり

以上何れも五十坪以上即賣又は年賦にて分讓す。詳細は左記へ

大阪市天王寺區上本町六丁目

大軌電車事業課

電南 二一三〇 二五一〇



大阪市港區市岡町五三二

關西ステンドグラス製作所

電話西二二三四番

創業　明治二十六年
製造最大能力　二千五百萬斤

營業品目

印銅、眞鍮、輕銀、輕合金アルモデユール板類、
輕銀各種器物、ストツプバルブ並ニ特許分銅屋根板

壁張
分銅屋根板
應用

特許

分銅屋根板

分銅屋根板は經濟的であります

現今一等瓦參拾圓モスルニ比スレバ約六割ノ貳拾圓内外デ立派ナモノガ葺上リマス尙坪當リ葺上拾四圓位ヨリ出來マス

分銅屋根板は體裁優美であります

普通銅板ニ特殊加工ヲ施シテアリマスカラ體裁ハ極メテ優美デアリマス

分銅屋根板は應用範圍が廣い

本葺瓦棟葺棧葺平葺四半張綾目張等ハ勿論壁張腰張等ニモ至極適當ナモノデアリマス

（型錄進呈）



日本伸銅株式會社

大阪市北區天神橋筋四丁目

堀川（35）自至 四〇〇 三三 一六番番（夜間及休日專用）

大理石

貯藏石材製板豊富
諸機械設備完全
尚伊太利産石材モ多數在庫ニ付キ御下命ヲ乞

期限確實施工入念

大理石工業株式會社

大阪市港區市岡町（市岡元町停留場南）
電話西七六七番　西八〇三番

大理石工業株式會社東京出張所

東京市本郷區駒込富士前町八〇
電話小石川七三七八番

ホイツトコー……素的に好い金物です

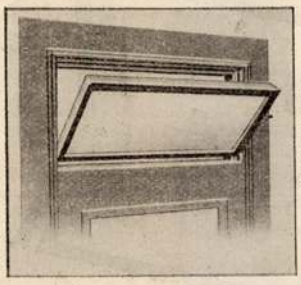
CASEMENT WHITCO HARDWARE

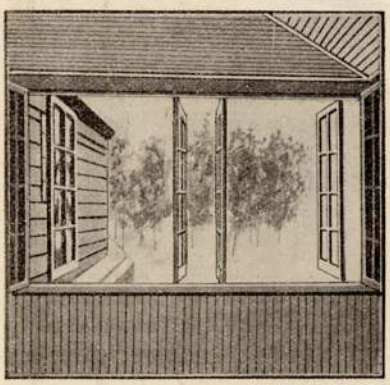
外開窓・回轉窓・欄間用としては

是以上の金物は他にありません。

下圖はホイツトコーにて釣れる

ウ井ンドウ及ランマの數例です





◇春夏秋冬……四季を通じて開閉、通風　換氣、採光、保溫耐久、拭掃除にも頗る便利!!



米國ビンセツトオ井ツトニーカンパニー日本總輸入元

近江セールズ株式會社

大阪出張所　大阪市西區土佐堀一丁目大同ビル七階一號室

電話土佐堀五三八四番

淺野波形板

母屋が木質でも鐵骨でも
野地板がなくも勾配が緩
くも取付られる
天下無敵の屋根材

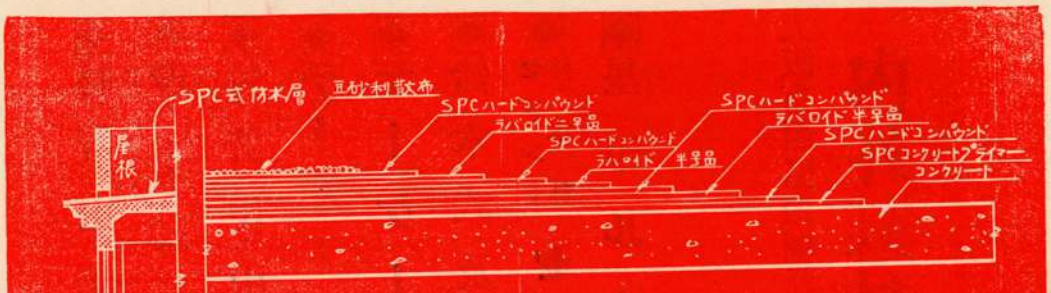


淺野スレート株式會社

東京	大阪	門司	名古屋	札幌
電話	電話	電話	電話	電話

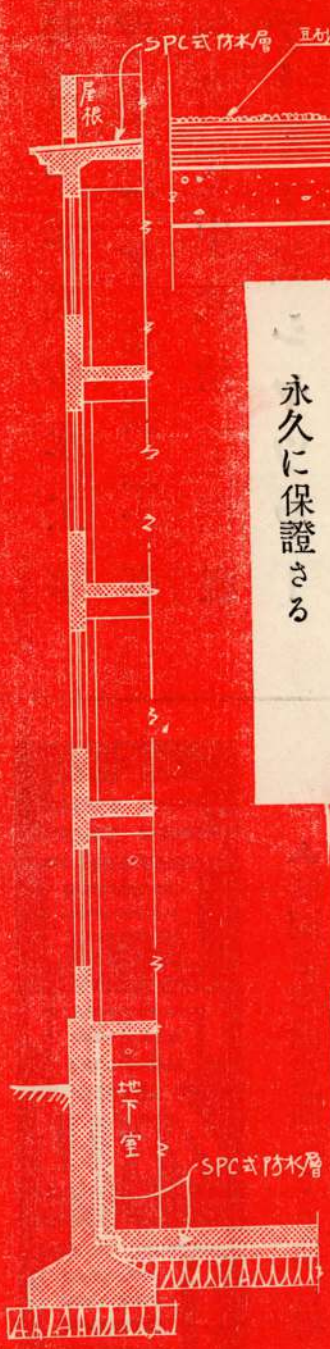
強靱の石綿セメント製
床下見・内壁・天井・間
仕切壁等に用ひて
比類なき最敵品

淺野壁板



SPC式 ラバロイド防水層

防水は
建築の生命である
防水の生命は
ラバロイドに依て
永久に保證さる



大阪市西區江戸堀北通一丁目二〇番地
株式會社 **ラバロイド商會**
電話土佐堀（長八五二番 三三三〇番）

門司市東本町二丁目
合資會社 **明正社**
電話門司（長 三七八番 六九〇番 一五六〇番）

◆特許山添式防水工事
◆ターピヤ鋪裝工事
◆特許田中式硝子屋根
◆デーケー式シヤツター
◆デーケー式サツシユ
◆鈴木式及デーケーラス
◆セメント防水料セレシット
◆星印ルーフヒング

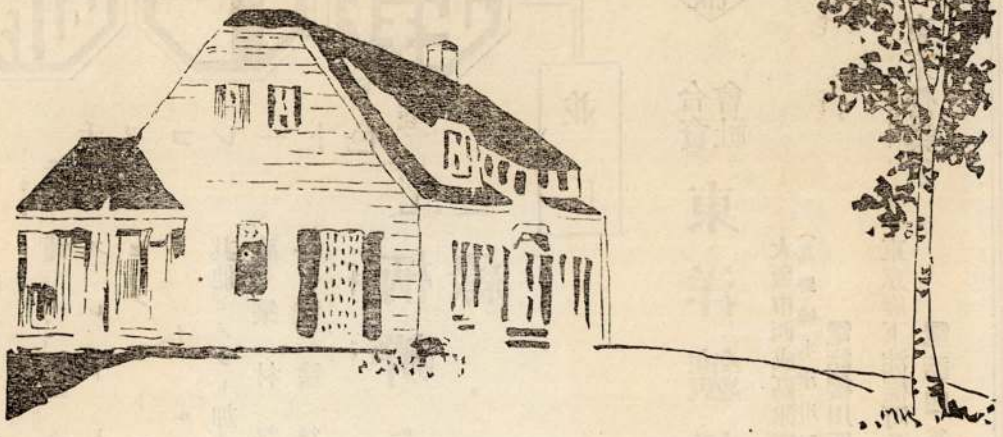
大阪市西區南堀江下通二丁目
内外土木建築材料合資會社
電話阿櫻川一六一〇番

青寫眞

▲晴雨を不論夜間にても燒付得る
▲燒付に乾燥凡てを電氣應用
▲集配は最も敏速を期す

青寫眞
トレース
書類複寫
感光紙販賣

大阪市此花區今開町二丁目四九
河村青寫眞調製所
電話長土三七四二（ナヨブ）



コンクリート建造物の防水と美裝

◉槌印コンクリートペイントの推奨

事務所、住宅等總べてのコンクリート建造物の內外壁は本塗料の塗裝により完全に防水と美裝の效果を揚げ得る事が出來ます。
新らしい設計にて是非御採用を願ひます。

見本說明書
塗見本帳　贈呈

製造元　日本**ペイント**製造株式會社

發賣元　**大元商會**

大阪市西區薩摩堀東町
電話新町長二六五二二一六

顏化粧

チヨコレート色

【用途】

舖床、壁塗用
スレート用
セメント瓦斯タイル用
其他セメント加工品用
建築材料用
各種塗料用

柄辨・黑
綠・黃

並に

合資會社 東洋鑛粉所

大阪市西成區津守町六壹壹
（高野線木津川驛際）
電話櫻川四二四六番

東京營業所
東京府下淀橋町角筈六六八
電話四谷七八六番

純國産
ニュース印（日本ドアーチエック製品）

扉閉鎖器（ドアーチエック） 各種

重なる納入先

農林省　大阪朝日新聞社
八幡製鐵所　大阪毎日新聞社
大阪鐵道局　大阪遞信局
吳海軍工廠　寶塚ホテル
株式會社大丸　大林組
丸龜市役所　清水組
大阪商船會社　大倉組
大阪鐵工所　大阪高等工業學校
明治海運　其他省略

發賣元

合資會社 高陽商店

大阪市西區立賣堀南通四丁目
電話新町四三九六番
振替大阪二一二五二番

日本ペイント

創業明治十四年

日本**ペイント**が東洋の化學界を驚倒せしめた最初の**ペイント**であると同時に最良最優の**ペイント**である事は餘りによく人の知る處で茲に事新らしく言ふの必要はない、唯一言附け加へねばならぬ事がある。則ち**ペイント**は其の善悪良否を知るに最も困難な品物であるから歴史あり信用あり十分の責任を荷ふに足る大會社の製品を選ぶの外はない。

日本**ペイント**は五十餘年の經驗と東洋最大の資本とを具へ最も完備せる研究機關と最も進歩せる製造設備とを有し高遠なる理想の下に經營して居るが故に此點に於て十分の信頼に答ふる事が出來ると思ふ、之が唯一の誇りであり又生命である。

（製品目錄說明書御一報次第送呈）

資本金五百萬圓

大阪　東京

家具ト室内裝飾

設計施工

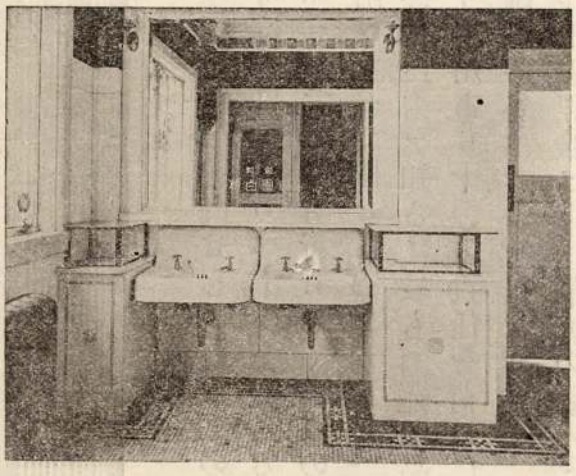
創業明治三十五年

松安洋家具商會

會主 安川熊吉
安川梅太郎

大阪市西區南堀江上通ッ三丁目
市電立花通ッ停留所東入ル南側
電話櫻川二四七〇番

●各建築設計施工者ニ御依賴
●備品家具ノ下請負仕ル可ク候



便所…化粧室…湯殿

ビトロライトは永久に、汚染、腐蝕變質、クラック等の憂は絶對にないと云ふ理想的の貼瓦材であります。これを便所に使用してはじめて衛生的と云ひ得るものではないでせうか

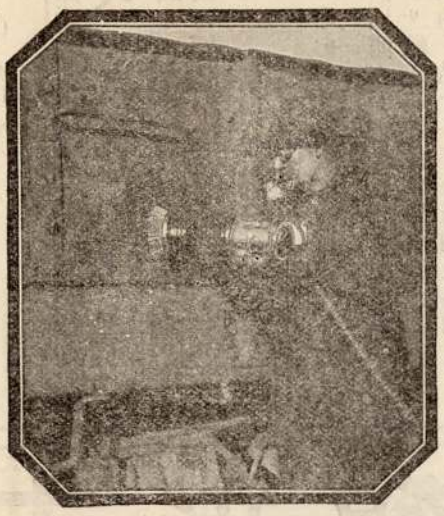
ビトロライトの大きさ
3尺×6尺
色合…白、黑、アイボリー、ジエイト

大阪市浪速區櫻川町一丁目一〇五四番地

大阪ビトロライト工事合資會社

電話櫻川二二一四番
出張所　東京市京橋區本材木町一丁目二三　電話日本橋(24)〇九六九番

Cleveland
Pneumatic Tools



No. 7-X Cleco Grinder

“クレコ”
グラインダーとドリル

左圖に錆取りペンキ剝ぎ等に御使用を賜わるボール ベヤリング附ワイヤー ブラシ グラインダー，下圖に 4ピストンエアードリルを示しました。
各々特種構造と特徴を有するツールで特に高價なる壓縮空氣を最も經濟的に使い且振動も與へないツールであります。

クレコ リベツター・クレコ チツピング ハンマー・エアー ドリル・グラインダー・ランマー其他各種エアー ツールあり

〔詳細御問ひ合せを乞ふ。〕



A Piston Air Drill

The Cleveland Pneumatic Tool Co.

東洋總代理店

株式會社 **アンドリユウス商會**

本社　東京市芝區芝公園五號地二ノ五
支店　大阪市西區江戸堀南通三ノ一八
名古屋●小倉●札幌●京城●大連●紐育

恭賀新禧

弊社の營業

專賣特許西洋床式

コンベス

現代的床式ニシテ堅牢優美弊社獨特ノ技巧ニヨリ完成ス價格低廉其他各種、床式施工請負

櫻富士印

固素液（セメント防水硬化劑）

工學博士西田博太郎先生ノ指導證明品ニシテ純國產ナリ輸入防遏在來品ニ比シ効果超越眞ニ代表的ノ品ナリ官公衙納入品御用命ヲ希フ

（類似品あり御注意）

東洋コンベス商社

大阪市東區淡路町三丁目
船場ビル二〇一號室
電話本局二七五〇—二七五五

社員
丸井藤吉
中谷啓一
笹村隆昭
難波武夫
木富武志

東京出張所
坪根小三郎
松田勝弘

謹賀新年

雜誌廣告取次業界の第一人者

試みに一度御引合を乞ふ

（創業明治四十三年）

◎八官町本社鐵筋本建築中

左記へ假移轉す

東京市麹町區內幸町

大阪ビルデング三階

KAA

東京市京橋區八官町六番地
電話銀座（57）二〇五五番
二九六八番
五六二二番

割引勉強
型錄送呈

廣業社

KAA KOGYOSHA

NIPPON ELEVATOR CO.



營業科目

一般輸送機械
ホイスト
ロープホーレージ
エスカレーター
ケーブルカー
コンベヤー各種
エレベーター各種
製作
設計

大阪市東區中道川西町

日本エレベーター製造株式會社

電話東 2367 . 3805 . 5642 番

取締役社長 工學博士 片岡安

專務取締役 工學博士 堀覺太郎

東京支店

東京驛前丸ノ内ビルディング四階

電話丸ノ内 (23) 3073 . 3074 番

專賣特許 東松式外二拾四件



庭園

設計と施工

造庭學上の新智識を實地に應用して經驗を積むこと十年
獨特の技術と從業職人の訓練と優秀な設計と完備せる施工

和洋庭園築造請負專門
創業大正五年我國唯一　設計と施工案内進呈

橋本庭園工務所

大阪市住吉區田邊町鶴ケ丘
電話天王寺(七)一三三四番

冷藏防熱用

製産高工場設備 東洋第一位!!

住宅敷物用、リノリユーム下敷用

炭化コルク

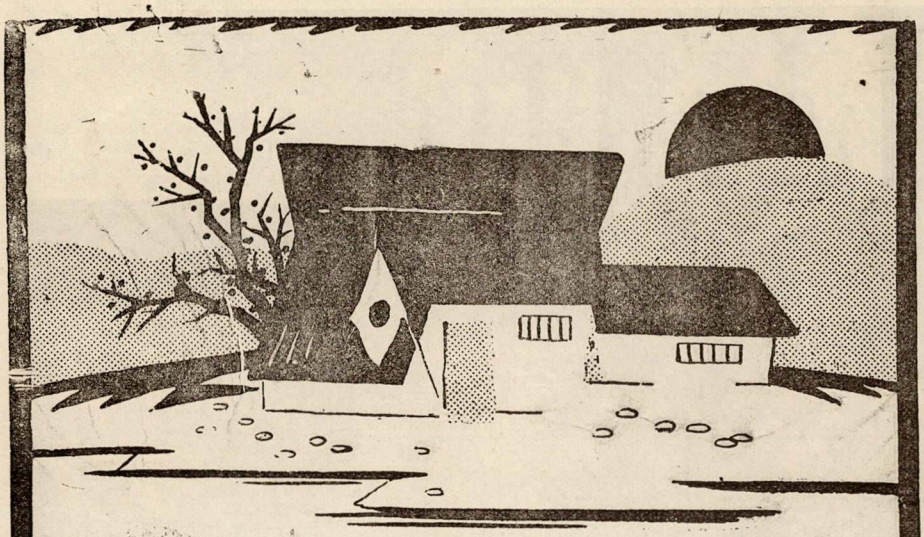


東洋工業株式會社
コルク部

本社及工場　廣島市吉島町
電特長一七九二

大阪出張所　大阪市北區堂島濱通一丁目百十番地
電話北一三八九

東京出張所　東京市神田區豊島町七番地
電浪花八五三番



謹で新年の御慶を申上げます

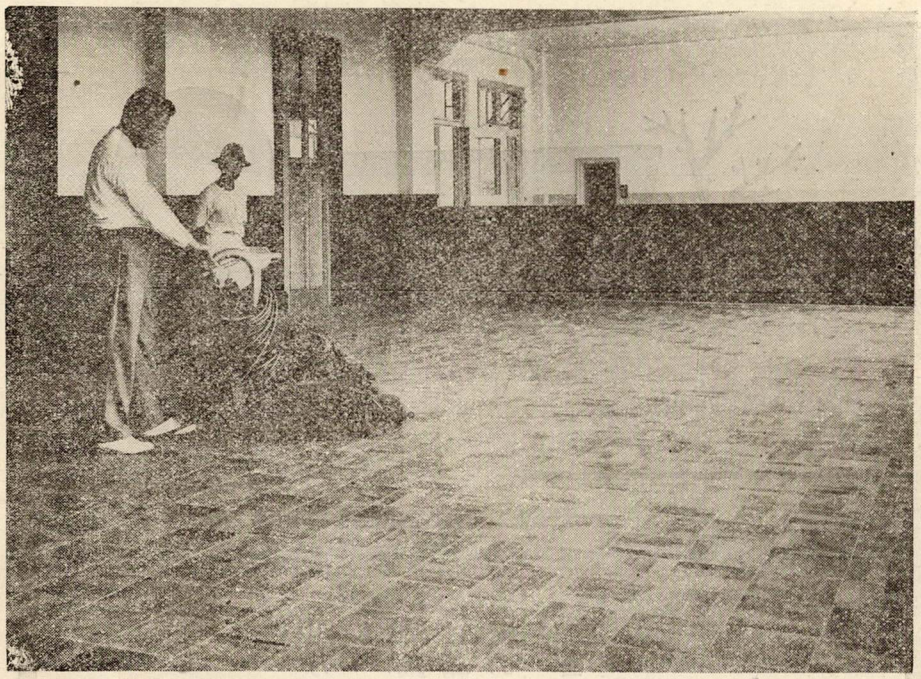
新裝華やかな一月の三越

四方に輝く初春の光うらゝかに、三越の裝ひも一陽來復の華かさ、加ふるに吉例の音樂に舞踊に、和洋こりごりの雅興は、歡びと希望に滿つる新しき年の首途を祝ぎつゝ、一只管皆樣の御光來を御待ち申して居ります。

◆元旦、二日は年頭休業いたします
◆新年のお寫眞は……三越へ
寫眞部に限り元日より無休にて營業いたします

大阪 三越

◀ 工施內舍廳察警府都京



アホイ式フローリングブロック
丸上式リソード床張の圖

理想的根太無床板

專賣特許新案特許第一七一號　公告第二二三三號

專賣特許 練革床

特許ピトリウム床
特許ピトチック內外壁

剝實 楢床板

特許葵式淨化裝置
水道、衛生工事
タイル、衛生陶器

衛生工事

葵商會

大阪市港區境川町四丁目四十番地　電西〔長〕四一九六
東京營業所　東京市京橋區木挽町一ノ一三　電話京橋三五九・九三二

◆耐震耐火＝品質優良＝優美高尚＝價格至廉◆

金屬天井



金屬天井御採用の三菱銀行東京本店

◆田村商會創始
◆參拾五年經驗
◆施工全部請負
◆特殊圖案製作

營業種目

◆建築材料部
- ▲金屬天井
- ▲リブプレックス（リブラス）
- ▲コーナービード
- ▲内外メタルラス
- ▲タイガーボード（耐火石膏板紙）
- ▲舶來ウオールボード各種
- ▲ルーフキング（便利瓦）
- ▲アスファルトフェルト
- ▲其他建築材料一般

◆木材部
- ▲米材各種
- ▲チーク材
- ▲ラワン材
- ▲床板各種

◆穀類部
- ▲内外小麥粉
- ▲内外麩
- ▲内外米

◆工業部
- ▲製粉工場
- ▲製米工場
- ▲金屬飯工場

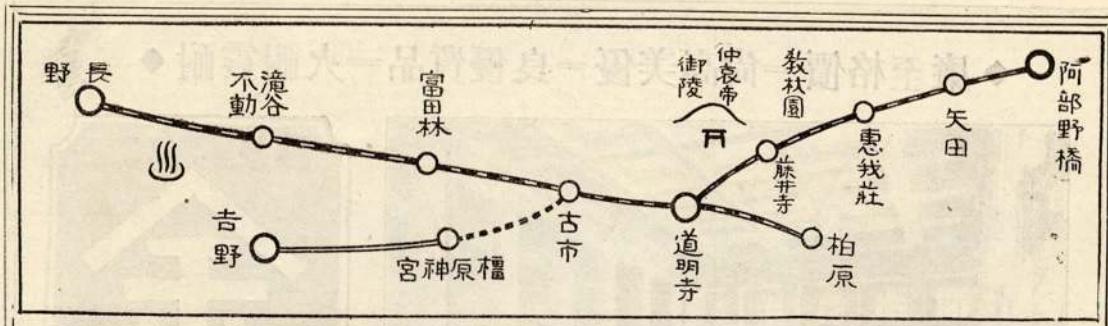
型錄進呈

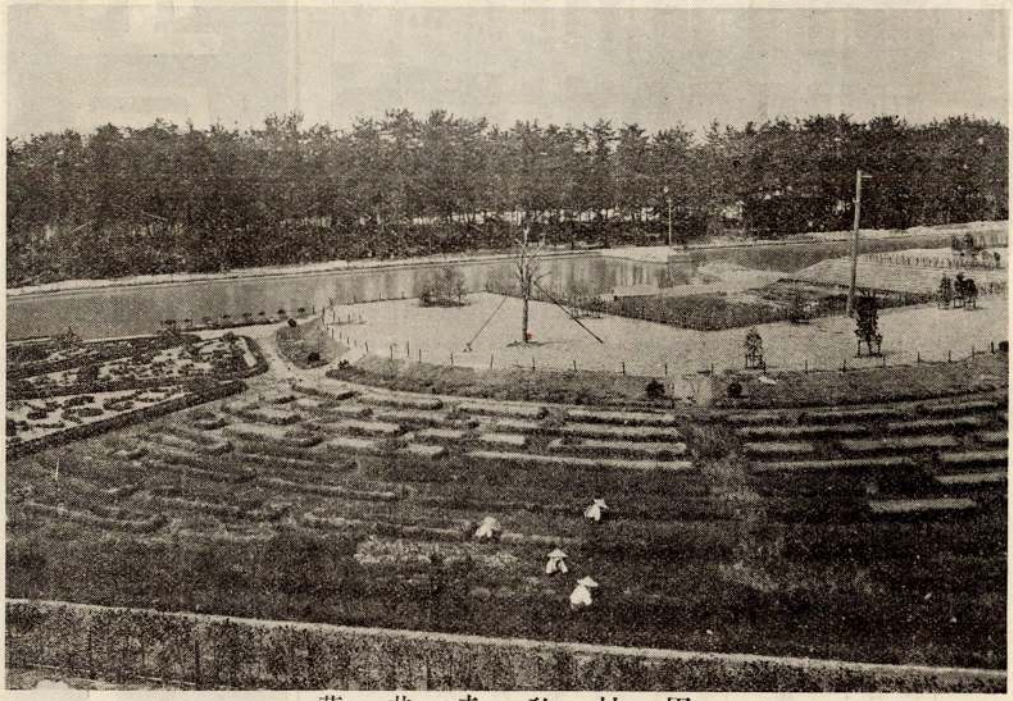
田村商會

本店
神戸市榮町六丁目
電話元町（五〇一、五〇二、五〇三、五〇四、五〇五、

支店
大阪市西區靱上通り一丁目
電話土佐堀（六八八一〇
東京市日本橋區元四日市町
電話大手（三七〇五、六三六〇、四六七一、二五二六
横濱市港町一丁目
電話長者町 二五四〇
北米晩香坡市ダンレピー街
電話 八八一

工場
神戸市兵庫新川
電話兵庫（九一、二四〇三、二四四、六四〇





藤井寺教材園

◎住宅經營地◎

▲矢田住宅地

一萬五千坪

大阪市域ニ接續耕地整理完成阿部野橋ヨリ約八分水質良好

▲惠我莊住宅地

二萬坪

既ニ百五十戸ノ住宅完成、田園都市ヲ形成ス上下水道、クラブ、兒童運動場完備、阿部野橋ヨリ十七分

▲藤井寺住宅地

十萬坪

第二期賣出シ一萬坪

東洋第一ノ藤井寺球場本邦唯一ノ大教材園アリ大道路、上下水道、電燈設備アリ、設備名所史蹟ニ富ミ住宅地トシテ理想的ノ地ナリ

百坪內外ヨリ分讓、月賦住宅ノ設計建築ニモ適ス御希望ノ方ハ事業課ヘ申込マレタシ

大鐵電車事業課

電天王寺{一三三・二三三番



伸びゆく姿　（大大阪の中心地域）

新春所感

曩古の御盛典、嘉儀の御大禮、萬民奉祝の龍歳を送りて、茲に多望多幸なる新春を迎ふ。慶すべき哉。賀すべき哉。想ふに、昭和の世務は『會通更張』の時期にして『日進日新』の道を講じ以て、質實にして創意ある世運を將來するの努力なかるべからず。

我國建築界の事務亦正に多望多難の機に會す而かも、斯界愈多士濟々たり俟。宜しく和衷協同の實を擧げ、向上發展の一路に誠意を盡くすの覺悟なくして可ならんや。

茲に、謹んで、皇國の盛運を奉祝し斯界の興隆を期成するの微意を致し、新年初頭の辭となす。

昭和の新時代と我建築界

工學博士　片岡安

我建築界の沈滯不振は可なり久しい間である。歐米の模倣を事とする時代或ひは混亂時代が餘りに永く續きつゝある。こは我建築界の最近數十年の過去を通觀するものゝ齊しく唱ふるところである。而してそれは必ずしも建築界のみではないけれども、建築物の如く民衆の風俗習慣其他國民生活の凡てを支配するに最大の偉力を有するものが、何時までも我國固有の藝術に根ざしたる樣式を發揮し得ずして、常に歐米各國のそれを徒らに模倣しそれに追從せんとして居ることは、我國民の一大恥辱であり、且つ我國文化の墮落であると考へられる。我國の文化は明治維新以來如何にそれが急速に進轉しつゝありとは言へ、我國固有の特色を帶び、大和民族傳統の精華を發揮しつゝ向上するようでなくてはならぬ。唯徒らに英吉利の古典的なる國風に倣らひ佛蘭西の流麗なる趣味を追ひ、或は獨逸の鬱勃たる新興氣分を尊びて直ちにそれ等の形態を我國に植へ付けんとしても、所詮そのものは我建築界の混亂を來たし、不自然なる渦流を激成する以外何等得るところなきは理の當然である。

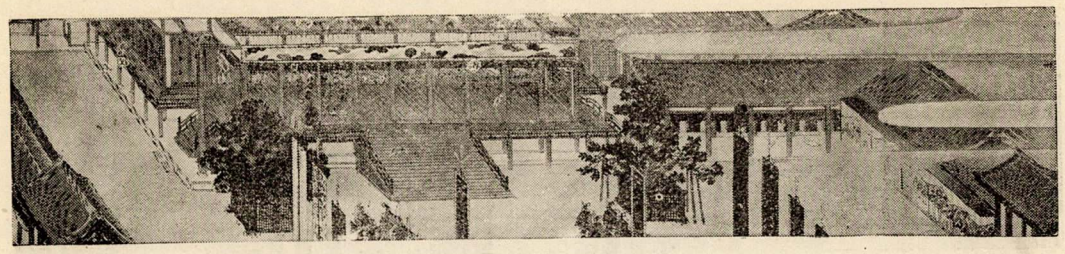
明治維新の當初我建築界は未だ嘗て試みたことのない煉瓦造建築物の出現により一大混亂を來したのである。而して其所謂煉瓦造なるものゝ藝術上又實際上の價値如何を批判するの能力を欠きたる時代が可なり長く續いたのは事實である。從つて其時代は全然歐米各國に於ける建築を模倣する事を目標として進展して來たのであつて、其優秀なるものと言へば概ね英國建築技師或は獨逸技術家の設計に成つたものであつた。英獨の建築技師が或る程度の我國の風土習慣を其考案の中に織り込んだであらふが、其設計

が大體に於て彼等の故國の都市建築と何等變りのないものである事は當然である、我國朝野の識者も其設計を見て滿足せる事實から推定すれば、其當時は我國民は凡て模倣病に罹つて居つたと考へられるのである。之を實用上から言へば、電信、汽船、汽車等の通信交通の機關を始め、兵器彈藥或は醫藥等に至るまで國民一般の生活用品は凡て歐米のそれを移入することに專心努力するの時代であつて、最もよく巧みに彼地のものを模寫移植するを得ればそれが最上の成功であつたのであるから、建築物の實現に於ても最も完全に歐米のものを模寫することが最高の理想であつたとも考へられる。由來我國の文明は模倣に始まり漸次それを國風に同化し來つたと言はれて居る。三韓の文化、支那の六朝、唐宋の藝術は正さに我國文化の根源であつて、我大和民族は其模倣を基礎として、能くそれを我國風に同化し、以て獨特固有の文化を築き上げた立派な歷史を有つのであるから、最近に歐米の文化を一時その儘に輸入したとて、若しそれを十分に咀嚼して我國固有の文明に同化し得たならば、模倣必ずしも排斥すべきではないのであるが、我建築界に於ける明治年間の其同化作用は甚だ喜ばしからぬ情況であつて、先づ不振を極めたとも言へる。

大正年間に於ては歐洲大戰亂に伴ふ我國一般產業の勃興は我建築界を刺戟して其建設の數量に於て其十年間は明治年間四十年のそれに數倍するの盛況を呈し、表面甚だ好況に見へたけれども、建築物としての價値は果して如何なるものであつたか、模倣萬能の時代より漸く混亂の時代を現出したのではないかと思はれる。即ち模倣を大體の主義とするもの、模倣を極端に脫離せんとするもの、分離派として全然傳統的文化を超越せんとするもの等續出し、アカデミツク派、構造派或は表現派或は何派或は何式としてそれ等を分類せねばならぬ程に雜然として混亂の狀態を現出したのである。而して此の建築界混亂の趨勢は二十世紀の世界的の一現象ではあるが恐らく我國の情況の如き甚しき混亂は世界中稀に見るところのものである。歐洲大陸に於ては近代に至るまで建築は比較的濃厚に傳統を尊重し、殊に其國民の特性を強調に保持したのであるが、二十世紀に入りてよりそこに傳統に捉はれざる眞理の上に立脚して、居る新しき建築樣式を樹立せんとする潮流が生じて所謂分離派運動が盛んになつて來たのであるから、之を過

去數百年の堅實なる漸進的進展から見ればたしかに一つの急進的狀態であると考へられるのである。而して我國の模倣時代が漸く覺醒時代に入り所謂混亂狀態を現出せんとする際に世界的の此の潮流を取り入れて以て我國固有の藝術に同化せんとすることは我建築界の採るべき一大方針でなくてはならぬのである。此の見解よりすれば我國の最近十數年間の建築界の混亂は必ずしも悲觀すべきものではなく、その同化作用の前提であり、其の道程であるといふ點に於て大なる期待を繋ぎ得ることも考へられる。

昭和の新政は我國第二の維新であり、模倣より獨創に移らねばならぬ一大回轉期であることは、政治、軍事、教育、産業、其他社會萬般の方面を通じて凡て然らざるはないのであるが、建築界に於ては殊にその回轉の重大危機である事を痛愛せざるを得ないのである。昭和の時代は已に滿二年を過ぎ茲に第四年の初春を迎ふるに際し、我建築界は果して其回轉期に入れるの機運を醸成しつゝあるや否や甚だ疑なきを得ない。職に建築界にありて或は學術的に或は事業的に一身を捧ぐるものは深く思をこゝに致し、協力一致以て漸く模倣の時代を過ぎて、混亂の狀態に入らんとする此の危機を好轉し、眞實の我建築藝術の進路を確立することに努力せねばならぬのである。昭和の新政に入りてより政治界には普選は實行されて民衆の參政權は從來に數倍して擴大された。交通通信の方面には無線の電信電話及放送と航空機の應用は益々盛んならんとし、産業界には驚くべき大發明は日に月に相踵いで出現し、その量と質とに於て益々能率を高めつゝある。即ち我社會生活の面目は國際的に又國内的に時々刻々進轉して已まざるの趨勢になつて來たのは事實である。建築界に於ても建設上の技能は一般産業の進轉と共に驚くべき程度に向上して來た、けれども建築を根本的に支配するその藝術的手法に至つては上述の如き混亂の狀態にあつて未だ其危機を好轉するに至らざるやの憾がある。今や昭和の御代は諒闇の期を過ぎ昨秋には 今上陛下御即位の振古未曾有の御盛典は華々しく又壯嚴に擧行され、臣民一同直接間接に之を拜觀し感激極りなきの際、我々建築界に在るものは愈々以て我建築界の眞實の進展を確立するの決心をなし、其實現に努力すべく献身的の態度を發揮せねばならぬのである。(終)

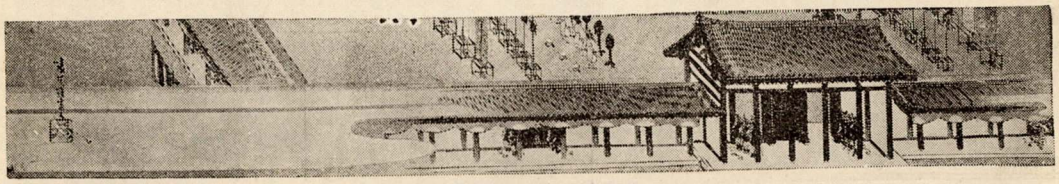


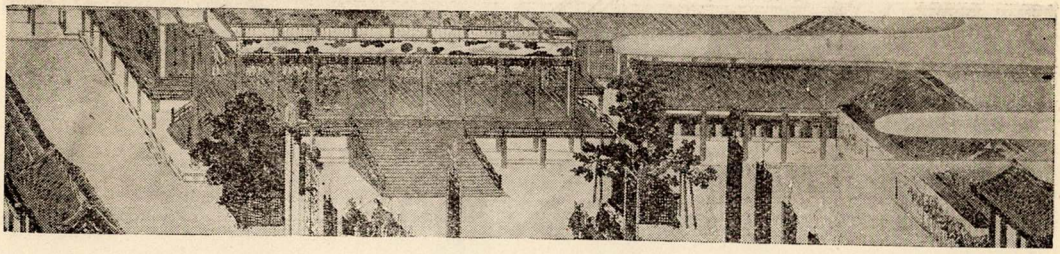
御卽位の大禮と建築

工學博士　片岡安

萬世一系の皇統を戴ける我日本帝國に於て、歷代御卽位の式典が如何に重大にして且超國民的の深長宏大の意義を有するものであるかは茲に敷衍するの要はない。畏くも今上陛下には昭和第三年秋十一月京部の地に於て御卽位の式典を擧げさせられ、臣民一同直接或は間接に慶典に直前するの鴻恩に浴し、奉祝の誠意を極度に發露しつゝ明るき此新年を迎ふるに際し、吾々建築界に在るものは、此意義深厚なる御大禮と建築の關係を考へずには居らぬのである。

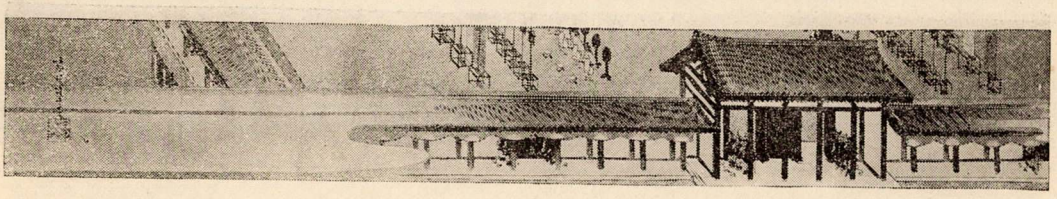
御卽位の大禮は京都御所卽ち內裏に於て行はせらるゝの範例であつて、其式殿たる紫宸殿を始め諸殿宇は凡て今より千百年以前桓武天皇平安建都の時に定まれる諸樣式を踏襲して建設されたるものであると拜承する。而して其式典は凡て千年來我朝廷に傳はりしその法式に則り、諸殿宇の配置、構造及樣式と全く調和融合せる純日本式を以て行はせらるゝのであるから、御大禮と純日本式宮殿建築とは全く同一體のものであると拜察さるゝのである。殊に陛下高御座に座御し給ひ群臣の拜賀を受けさせらるる光景は純日本式の宮殿と古來の服裝と相待つて、全く壯嚴無比の神聖なる場面を現出し、我國體の精華を如實に浮き出すの感あらしめることは推察するだに畏しき極である。大嘗祭の諸殿宇がその儀式を彌が上にも嚴肅ならしめ、大饗宴場の內外の裝飾設備また我日本帝國の連綿たる皇室の底深き恩惠の萬民に普からんとする溫情溢るゝの思あらしめるのである。觀じ來れば御卽位の大禮は大嘗祭及大饗宴と共に純日本式宮殿建築の圓滿豐裕なる設備によりて完全にその式典が行はるゝのである。詳言すれば我國の宮殿建築はその構造の本質に於て木造燃燒質にして且つ腐朽の虞あるものであるに拘らず、輪奐の美はその極度に達し、其配置に於て、其環境との調和に於て渾然融合の理想を實現し、御卽位の諸大典を最も壯嚴に流麗に行はせらるゝに少しの支障もないといふ程度に洗練されたものであると考へらるゝのである。

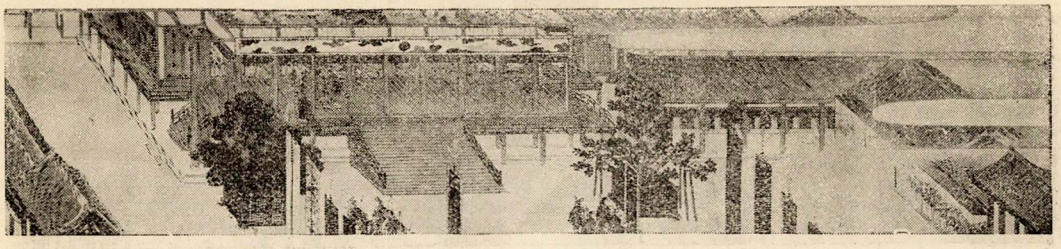




御大禮の奉祝に因み、各方面に臨時に建設された博覽會建築を初め、各都市に於ける裝飾塔及奉祝燈、或は奉祝の爲めの街頭裝飾及店頭裝飾は、何れも臨時的の建設物ではあるが、建築及裝飾藝術の眞摯なる表現であることは言ふまでもない。而して全國を通じてのそれ等の建設物及裝飾設備に現はれたる我建築技術及裝飾家の手腕はたしかに從來のそれに比し一段の進歩と活氣を呈したように思はれた。唯甚しき不滿を感ぜしめたのは、上野公園の博物館敷地の一隅に於て　今上陛下の未だ皇太子殿下で在らせられた時御慶事の紀念の爲め博物館が建築されて永久に傳へらるゝにも拘らず、今次御即位の御大典に際し、一大紀念建築物として同博物館の再興が企圖されながら、未だにその建築物の圖案さへも出來上つて居ない一事である。固より工費一千萬圓に近き大建築物にして新興日本帝國に相應しき理想的！博物館を建立せんとする立案であるから、その案の出發點には何等遺憾はないけれども、此運び方の如何にも遲々たる點と其建築物の設計に餘り重きを置かざる點とは、甚だしく不滿の感を抱かしめるのである。

先年我國會議事堂建設の議あるや、我建築界に於て端なくも一大論爭が行はれた。甲論者は議事堂建築は立憲治下の國民が有する最大の象徵物であつて、其建築に當つては其國民が有する最高の藝術的手腕を揮ひ、最新の學理を應用し、外觀内容ともに我國民の誇とするに足るものでなくてはならぬから、廣く一般國民に公開して其設計圖案の競技募集をなし、其最優等のものに依りて實施すべしと唱へたるに對し、乙論者は議事堂は一公館であるに過ぎない、殊に内容設備に尤も複雜なる實際的要求の存するものであるから、現在議事堂營繕の衝に當る技術家の指導によるを最も適當なる道程とする、設計圖案の競技によりて外觀のみ稍優秀なるものを得たとて、議事堂として果して望ましきものなるや否や疑問であると應酬し、可なり激烈なる論爭を戰はしたことがあつたが、その當時は兩派とも其目的を達せずして議事堂建築の議は延期されてしまつた。その後十數年を經て現在建築中の議事堂は一般募集の競技圖案を基礎とし、少數の委員建築家の修正に依り實施させて居るのである。今次の御大典紀念に建築されんとする博物館は國會議事堂よりも更に重大なる國民紀念物ではあるまいかその意味に於て吾人は一日も早くその設計案を國民に公開し懸賞募集をなさんことを當局に進言せざるを得ない。唯寄附金募集にのみ沒頭して、設計案の甲乙優劣を輕視せんとする現狀を見ては、建築





界にあるものとして之を默視する譯にゆかないのである。又建築家も此の好個の國民的大紀念たる建築物に於て、我國現代文化の精華を代表し得るよりも優秀なる技能を發揮すべく努力せねばならぬ。

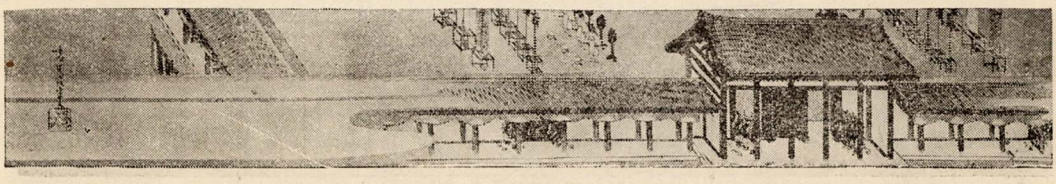
我大阪市に於ては今次御大典の紀念として大阪城の天守閣再建の案を樹て、今やその設計は着々進行中であるが、慶長の年代に於ける我大阪の昔を偲ぶ紀念としては、大に意義あるけれども、昭和の新政に於て斯かる紀念建築を實現せんとすることは果して如何なるものであるか、敢て當事者の態度を批難するのではないが、他に更に適當なる紀念建造物を考へざりしを惜まざるを得ない。尙大阪市以外各地にそれぞれ御大典紀念として永久に保存さるべき建造物の計畫もあることならんが、不幸にして吾人は其等計畫の内容に就て餘り多くを知る機會なきを遺憾とする。而して其等の計畫は全國各地の公共團體又は地方官憲に於て比較的輕率に且つ事務的に取扱はれて居るやに傳へらるゝを聞く時に、我大阪市のそれよりも更に更に適當ならざる立案をなしつゝあるのではないかと推定され、まことに遺憾の念を禁ずる能はざるものがある。由來我國に於ては斯かる特種の研究と深慮を必要とする永久紀念の大事業(たとへその建設の工費は小なりとも)を計畫する際に、一般事務に精通する以外何等特種の技能なき事務家がそれを事務處理と同一筆法に取扱はんとする惡弊がある事は事實である。我國各地に於ける今次の紀念事業には斯かる間違の鮮きことを信ずれども、御大典の紀念を最も有意義ならしむる點に於て當事者の反省深慮を特に希望して已まない次第である。

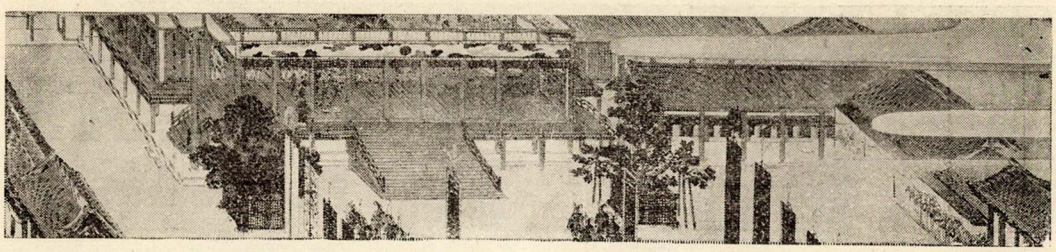
入江爲守

おほみのりあけます時と萬代のこゑをあはせていはふ國民

齋藤茂吉

高御座のぼらせたまふ吾おほぎみ仰ぎまつれば尊くもあるか





昭和の卽位大典に際して

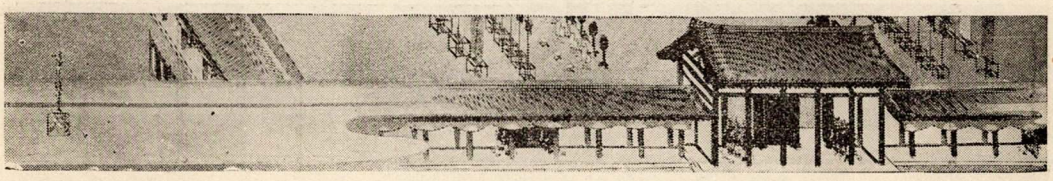
工學博士　武田五一

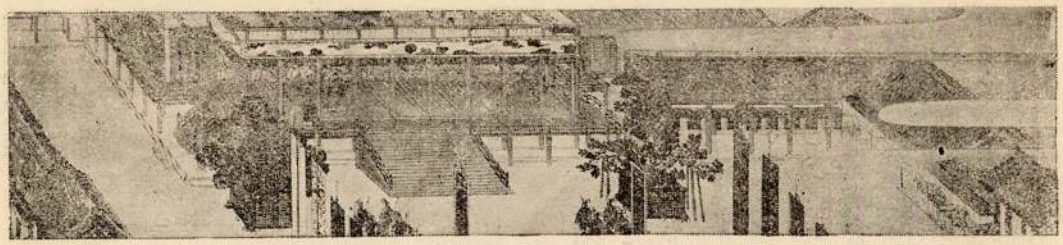
御大典、曠古の大禮。三週間近く、辱くも神器を京洛の地に移しまして、上御一人を初めまつり、文武百官。帝都を空にして、悉く京都の地に集まり來る。京都は全市を擧げて奉祝の至誠を表現する爲めに、又王城の地なる極りなき誇りを示さんが爲めに町と云ふ町、廣場と云ふ廣場、殊に其中心たる御苑附近は、唯之れ灯の海萬歳旗の行列である。

此國家最高の卽位式に直面して誰れか心の高鳴りを覺へざるものがあらうか。此國民的感激の秋の佳き時に於て、建築者としての感想は唯之れ一國民としての誠意を表はさんとせる以外に何物もない。此至聖にして畏き極みなる數週間諸儀が滯りなく終らせられて衷心より陛下の萬々歳を唱和し奉りたいものである。

由來京都の地は盛儀の行はせられる機會が多いことは桓武聖帝以來一千有余年王城の地たりしに因緣たると云ふも畏き事であるが。其都度街路の裝飾を初め都市は臨時に滿街飾をなするを例として居る。其內でも京都驛頭の歡迎奉送門は常に數萬の巨費を要して其數日若しく數週の期間を過ぐるや直ちに撤去されるものである。其建築費は永年の間には相當巨額に達するものであらう。若し此臨時の建造物に換ふるに永久的の記念門を作り臨機之れを裝飾することゝせられば、其時々に消費さるる。費用は非常に節約せらるゝことゝなるであらう。

我邦の習慣として儀式に使用するものは總て新調することを以て淸淨なりとする。之れ元より其理由あることではあるが。巨大なる建造物に至るまで、其都度々々新築するすと云ふことは國家の經濟策として多少は考へて見る必要がある所ではないであらうか。家具調度、衣裳及裝飾の如き儀式毎に新たにするのも止むを得ざるべきも、しかも共れとても數回反復使用して居る例のないこともない。奉迎門の如き建造物は、其臨時的のものと雖も、尙數萬の費用を要し、しかも其意匠は多くは一夜漬





けの思ひ付きにすぎない。之れを愼重に考案したる計畫のもとに其僅かに數倍の費用を以て永久的のものとなし、儀式毎に之れを新意匠を以て裝飾すること、巴里の凱旋門の如く伯林のブランデンブルガー門の如きものとするも、國家的浪費を防止することゝなるではなからうか。畏れ多き例ではあるが京都皇居の紫宸殿の如きも御即位の大禮を行はせらるゝ神聖の宮居として舊きものを常に御使用になつて居る。舊き建築を保有し夫れと御大禮を結び付くることに於て御大典の意義が一層深くはなるのであるまいか。京都市の如き貴賓に對する歡迎奉送相繼で行はるゝ地に於て今回の御大典の如き千載一遇の佳き日に記念門を築造して置くことは全く大に意義深きことであつたと思ふ。

御大典記念として美術館建築の企劃があり之れに要する寄附金は既て豫定額の五割以上に達して居るが其内容に於て又其用途に就てさへ未だ明確に極つて居らない狀態である。京都市民の内の有力なる團體の意見として美術館を見本市の會場とすべしと云ふ如き暴論さへ眞面目に唱へられて居るが、少くとも其費用の一部を以て此際永久的の記念門を作る事は敢て無益なる企ではなからうと思はれるのである。市街裝飾の如きは常に新しき意匠を以て必要の都度之れを作るも亦面白いことであり其れに要する費用なぞは別に惜むにも足らないと考へる次第である。

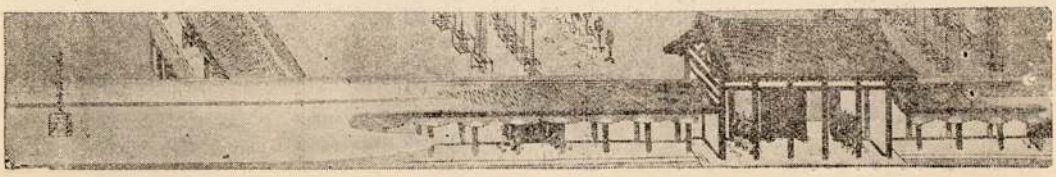
大阪の地に於ては御大典記念として大阪城天主閣の再建事業に既に着手して居る。京都市に於ても記念門を築造することは京都市の特種の事業よりして見本市場に兼用さるゝ如き變體的なる美術館築造より遙に意義あることゝ考へられないこともない。（了）

霜月の日より和みの空ひろし天つ日高は寮籠ふらし

釋　迢空

大君の高御座据ゑ菊咲きて長五百秋のここより起る

與謝野晶子



平安京・大內裡及內裡の建築

工學博士　伊東忠太

一　はしがき

敬て惟るに、曩に皇室典範第二章第十一條に於いて天皇即位の禮及び大嘗祭は、京都に於て之を行ふと決定されたので畏くも　大正天皇御卽位の大禮もこれに準て行はせられ、今また　今上陛下御卽位の大禮も此處に擧行されるので、千百有餘年の歷史を有する舊都が永遠にこの尊き使命を保持することは洵に意義深きことで、吾人臣民の感激措く能はざる所である

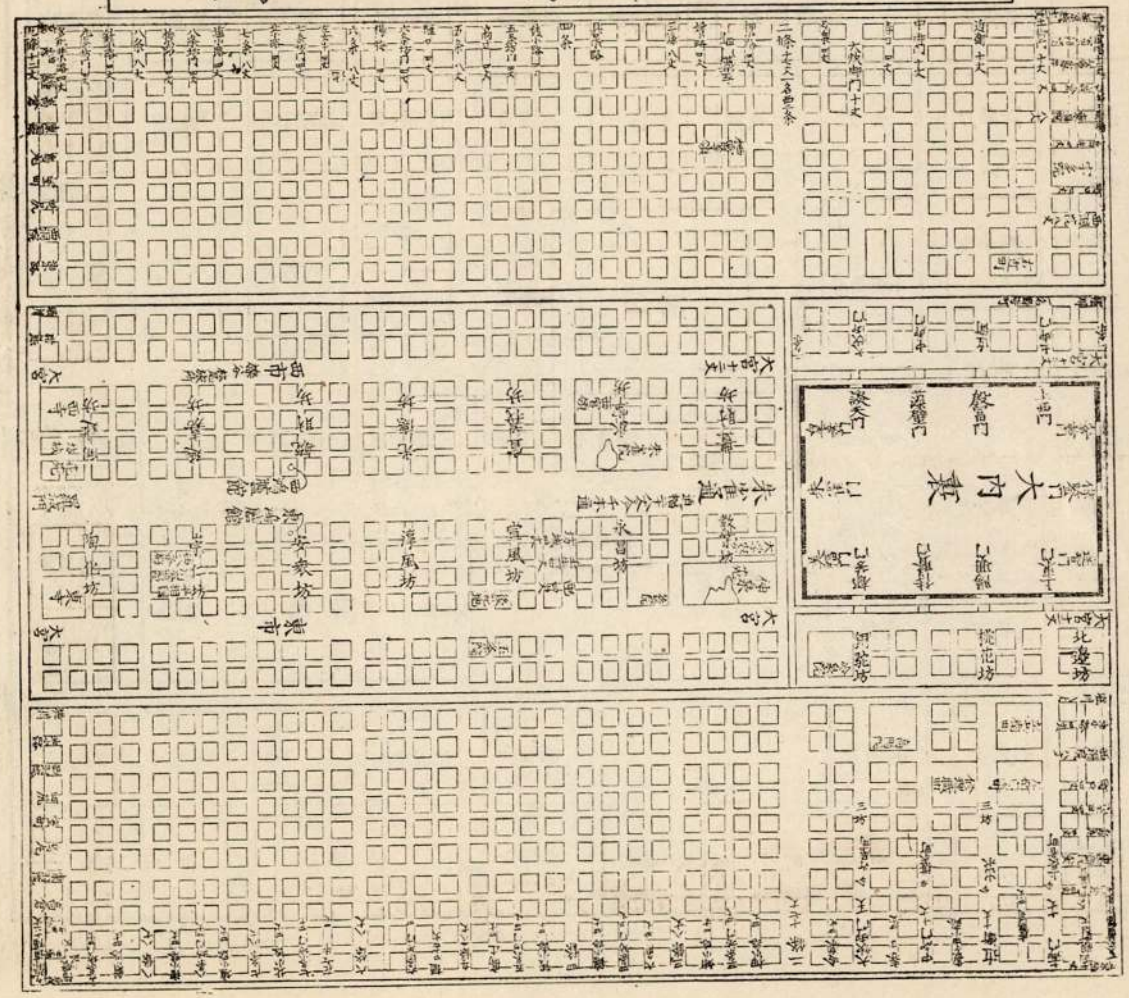
茲に今次の御大禮を行はせらるべき京都御所の建築に就て其大要を述ぶることは予の最も光榮とする所である。而してこれ等の諸建築を說明せんが爲には當然內裡の規模を說かねばならず、內裡の規模を說かんが爲には當然大內裡の制を述べねばならず、大內裡の制を述べんが爲には當然平安京全體の計畫から說き起こさねばならぬのである。從て事は甚だ重大となるのであるが、極力簡にして要を得んことに努めるのである。その不備の點は他日別に題を改めて記述し度いと思ふ。

二　平安京

桓武天皇の延曆十三年十月、皇都は平安京卽ち今の京都に奠められた。天皇の叡慮の程は忖度し奉ることが出來ないが七代繼承の奈良の都を棄てゝ一たび山城の長岡に遷都し玉ひ次て平安京に遷御になつたのである。其の地域は東は加茂川を限り、西南角は大堰川に接し、東西千五百八丈、南北千七百五十五丈の矩形であり、所謂四神相應の地と稱せられる。夫は北に山を負ひ、南は汗池に臨み、東は河に沿ひ、西に大道を通ずるを謂ふので、國都として理想の地相であると考へられたのである。

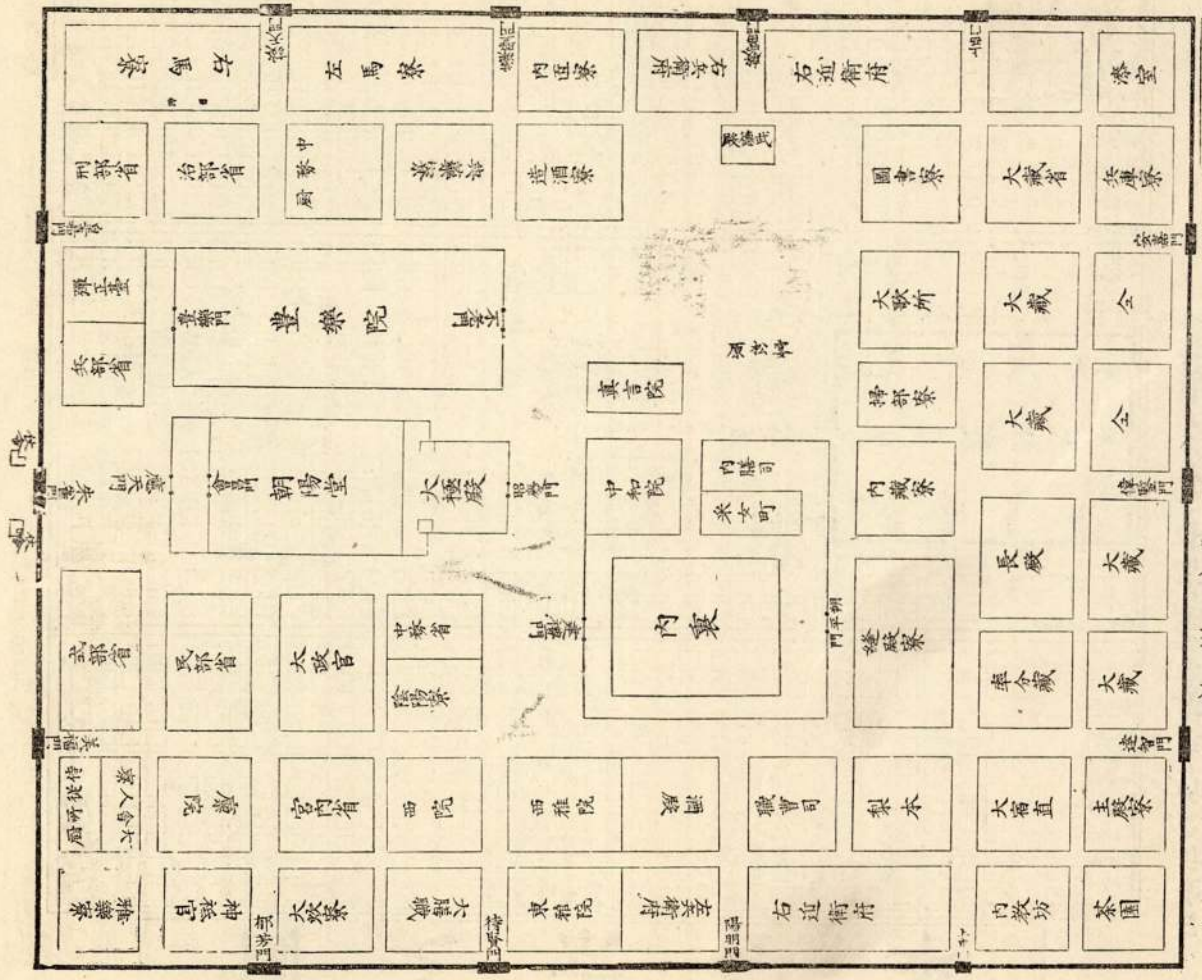
平安京の規模は勿論支那の都城の制に倣つたのである。支那では周代から既にその制度が定められ、周禮に由れば都城の大さ方九里、之を九經九緯に分つとある。唐の長安城は更に之を擴張したもので、東西三千二百九十七丈、南北二千七百八十七丈五尺の矩形をなして居たが、我が平安京は之を縮寫して若干日本化したかの趣がある。其大體のプランは第一

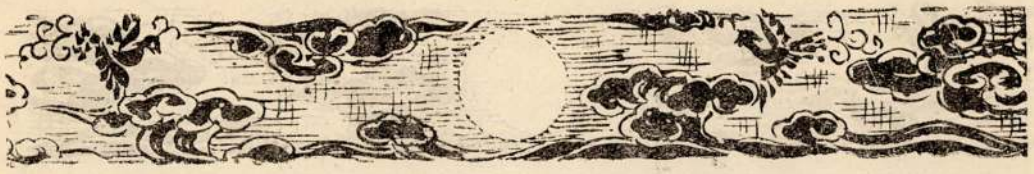
平安京之圖



平安京ハ　桓武天皇其ノ地ヲ相シ之ヲ經營セシメラル延暦十三年ヨリ其事ヲ始メ同十八年ニ至リ全部落成セリ南北壹千七百五十三丈東西壹千五百四丈周廻六千五百十四丈大内裏其北位ニ在リ南面ス皇宮百司其中ニ在リ街衢ノ東西ニ通スルモノ三十八之ヲ九坊ニ分チ一條ヨリ九條ニ至ル同南北ニ通スル者三十二朱雀大路ヲ中ニシ左右ヲ分ツ羅城門朱雀ノ正面ニ在リ之ヲ平安城ノ正門トナス是其大概ナリ其詳細ハ他日発行スル所ノ平安京造営諸書ニ就テ之ヲ見ルヘシ

大内裏全圖


左馬寮
右馬寮
内匠寮
修理職
右近衛府
掃部寮
主殿寮
刑部省
治部省
中務省
内藏寮
造酒司
圖書寮
大藏省
兵庫寮
兵部省
豐樂院
豐樂門
大歛所
大藏
大藏
大藏



圖に示すが如く、周圍には築地を繞らし、その表裏に犬行と隍を設けた。築地の厚さ六尺犬行七尺、隍は十尺であつた。街路は碁盤の眼の如く、南九條より北一條に至り、各條の間隔は四町であるが、只だ二條と一條の間が十町である。南面中央に九間七戸の樓門卽ち羅城門を開き、北に向て幅二十八丈の朱雀大路が一直線に大內裡の正門なる朱雀門に達する。卽ち今の千本通りである。この大路を中心として東半を左京とし西半を右京とする。大路から左右に四町毎に經路を取り左右京極に至て終るので、この經路が各條の緯路と相交はつて茲に四町四方の大區を作り、これを一坊とする。一坊は更に四々十六の小區に分たれ、小區は四十丈四方である。この四十丈卽ち一町を六十分したものが一間であるから、一間は六尺六寸六分……となるが、これが卽ち所謂京間である。之を今日の尺度に換算すれば六尺五寸となるのである。

街路の名稱、その幅員、重要寺院、官衙等の所在は圖面の上に明記されて居るから、茲には一切說明を省く事にする。

三　大內裡

大內裡は皇居及諸官衙の在る所で、平安京の北端の一區域を占め、其規模は第一圖に示されたる如く、南は二條より北は一條に至り、その長さ四百六十丈、東西は大宮通を限りてその長さ三百八十四丈である。その正門は朱雀門で、南面中央に在て遙に羅城門と相對し七間五戸重屋であるから今日の芝增上寺や、京都知恩院の山門などよりは更に巨大であつたが、しかも羅城門に比すれば著しく小さいのである。

朱雀門を加へて大內裡には十二門があつた。南面には朱雀門の左右に美福門皇嘉門があつたが、共に五間三戸で重屋であつた。東面の郁芳・待賢・陽明、西面の談天・藻璧・殷富、北面の偉鑒・達智・安嘉の諸門は何れも五間三戸であるが、單層であつたと考へられて居る。

別に上東・上西の二門があるが、これは十二門以外である。

大內裡の內部の諸建築の配置は第二圖に示すが如く、街路の分布と連絡を保つて甚だ整然たるものであつた。就中重要なるものは中央の內裡卽ち皇居を始めとし、朝堂院及豐樂院を以て最高の宮殿とし、武德殿を以て之に亞ぐものとする。この三ヶ所には高御座を安置して天皇の臨御に備ふるのである。

內裡・朝堂院・豐樂院に就ては後章に說明するのであるが、武德殿に就ては事の序に一言附記して置き度い。

武德殿はその東方の廣場卽ち宴の松原に於て公達等が騎射その他の競技などを行ふ際に、天皇親しく臨御さるゝ御殿である。現今武德會なるものが設立され、各地方に武德殿なる建築が造られ、その內で柔劍道などの武技を演じて居るのは結構であるが、建物に武德殿の名を附けることは僭上も亦た甚しい。武德殿は元來天皇に專屬するものであつて漫りに其名を犯すことは許されぬ筈である。夫は恰も個人公衆饗宴場を經營して之を豐樂殿と名けるに均しいのである。予は切に全國の武德殿の名稱の改廢を希望して止まぬのである。

四朝堂院

朝堂院は朝陽堂又八省院と云ひ、大內裡中最も重要なるもので、卽位禮を始め三大節の朝賀、外國使節の謁見等に用ゐられた處である。そのプランは第三圖に示すが如く、先づ南の正面に五間三戸重層の應天門があり、その左右から閣廊卽ち重層の廊が出て東西朝集堂を包んで北に繞り會昌門に至る朝集堂は卽ち參列員の控所である。應天門の左右に栖鳳、翔鸞の兩樓が閣廊に由て連絡されて對立するが、そのプランが色紙を斜めにづらして重ねた樣な形であり、これに應じて立面を合理的に考案したもので、實に巧妙を極めたものである。

會昌門以北の一區は單層の複廊を以て圍み、その中に十二堂が左右均齊に配置されて居る。十二堂は卽ち參列員がその資格に應じて着席する處である。十二堂の北に一段高く壇を作り、之を龍尾壇と名ける。壇に昇る爲に正面を避けて左右二ヶ所に階段が設けられてある。之を龍尾道といふ。龍尾道の兩袖及壇の上には朱塗の欄干が繞らされて居る。

龍尾壇上の廣場は卽ち式場であり、その正面に大極殿が屹立する。殿は卽ち天皇臨御の正殿であり、その後にある小安殿は卽ち便殿に當る。大極殿の東西に單層の複廊があり、夫が折れて南に延び、その終る處に東に蒼龍西に白虎の兩樓が對立する。兩樓共にその屋根の上に更に重層の五樓が聳立するので、其考案は彼の印度の佛陀伽耶の塔や、支那の五塔寺なご、同巧であるが、此は彼に比して更に遙かに奇巧である。

廊の北に走るものは內に折れて昭慶門に終るのである。

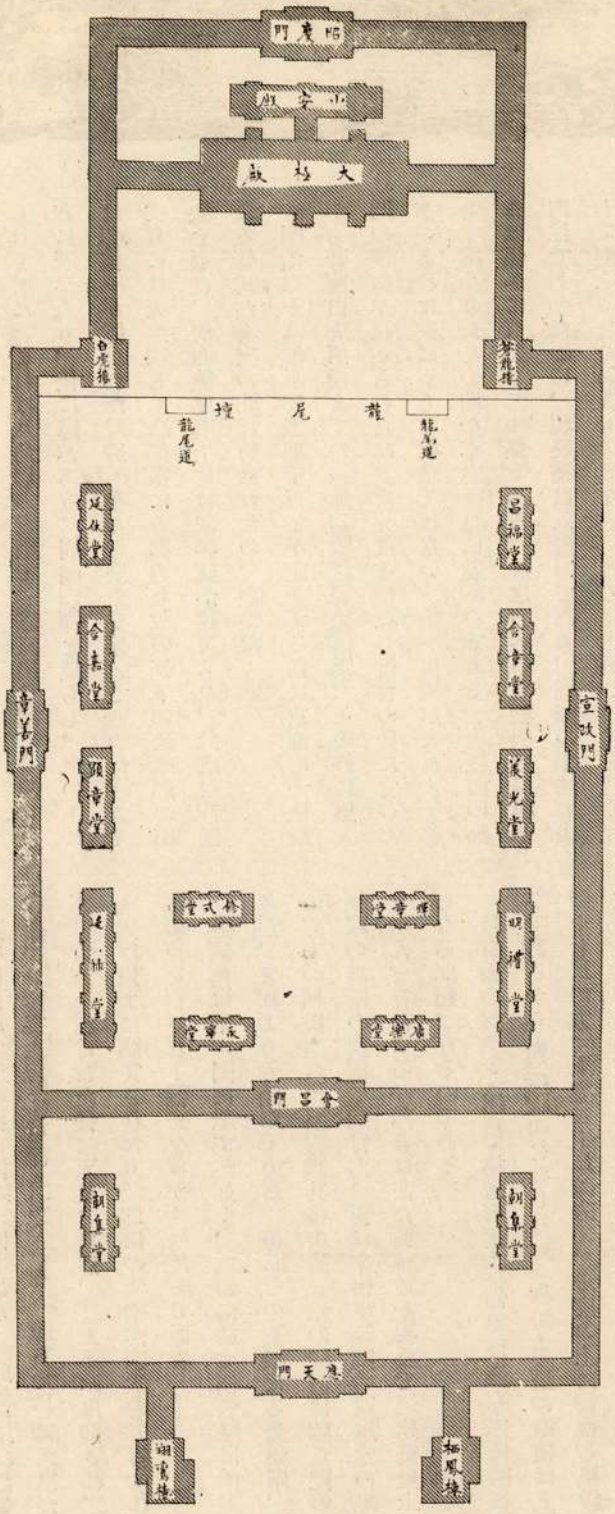
朝堂院の建築は全部丹楹碧甍・朱欄青瑣の手法で、大體支那氣分であるが、實に莊麗雄偉であつたのみならず、其殿堂門廊・樓閣等の意匠に縱橫無盡の變化があつて、獨り大內裡中第一の善美なる建築であつたのみならず、また我國古今を通じて無比の巧妙なる建築と稱するも過言ではないのである。朝堂院は高倉天皇治承の大火に烏有に歸してより、再興されなかつたので、卽位禮は太政官で行はれたこともあつたが、後には紫宸殿に移されたのである。

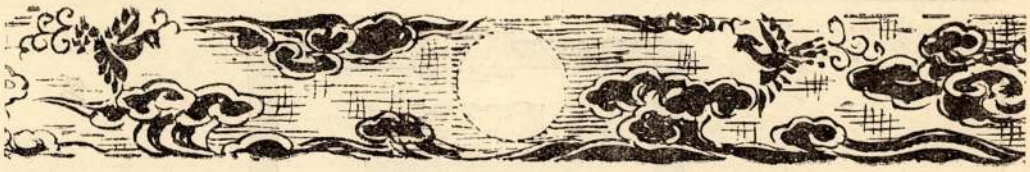
五大極殿

大極殿は朝堂院の正殿で、大內裡第一の大建築でもあり美建築でもある。その大さ東西十一楹百七十六尺、南北四楹五十二尺、この坪二百五十四坪餘である。內に東西九楹南北二楹の身舍を取り、身舍を繞る一楹を廂とする。建築は高い土壇の上に立ち、南面に三ヶ所の階段卽ち陛があり、北面は中央に小安殿に通ずる廊があり、その左右に陛がある。殿の左右は複廊に通ずること上記の如くである。

樣式は單層屋根四注で、棟上に金銅の沓形卽ち蜚吻が上げられた。木部は悉く丹土を以て塗り、屋根は碧甍を以て葺き欞子は綠青で塗り壇及陛の欄干は朱漆塗である。又金鏤玉礎と謂て、柱の根巻や垂木の端は鍍金の金具を以て裝はれ、柱の礎石は美質の材であつた。壇上の床面は五色の甎を以て敷かれたこあるが、これは如何のものにや。

第三圖　平安京大內裡八省院圖（大內裡圖考證附圖に依る）


昭慶門
小安殿
大極殿
白虎樓
青龍樓
龍尾壇
龍尾道
龍尾道
延休堂
合歡堂
頒幣堂
建禮堂
招賢堂
合香堂
淸涼堂
明禮堂
朝集堂
朝集堂
應天門
朝堂院
朝堂院
朝堂院



構造に關しては、內部は梁が露出し居り、天井は化粧垂木であつたと想像される。何となれば、或る時鶯が殿內に入て梁の上に止まつたと云ふ記錄があるからで、勿論梁を露出してその上に格天井を作つた例は佛殿にあるが、宮殿に於ては化粧垂木の方が正格とされて居たのである。

內部の周壁には軟障を張り、身舍の中央には高御座が据ゑられて居た。これは八角形の寶座で、陛三出と謂て、前と左右に陛があり、後に障があり、周圍に欄を繞らし、坐の上には御椅子が置かれた。即ち殆んど全く支那式であつた。さて式日には天皇親しく高御座に着御あり殿の軒下には獸形の帽額を懸け、前面龍尾壇上には四神旗が建てられ、此處に莊嚴なる儀式が奏樂の間に行はれたのであつた。

明治二十八年平安遷都千百年を記念する爲に京都に大極殿から蒼龍白虎兩樓までの一廓、龍尾壇及龍尾道、その外に應天門の模造が試みられた時、自分はその設計監督の任に當つたが、あれは實は正しい模造ではない。第一規模が夫れ〳〵著しく縮少されその縮少率が棟每に違ふのである。大極殿の如きは僅かに百二十二坪強である。加之古への大極殿は屋根が四注であつたのに、現建築は入母屋であり、細部の手法も決して創立當時の如きものでない。卽ち現建築の樣式を以て古式復原と思ふのは非常なる誤である。勿論自分等の最初の希望は古式復原にあつたのであるが、多數の關係者の干渉やら邪論やらで、終にあの樣な不得要領な建築となつたのは自分としては甚だ遺憾であるが、當時の勢實に已むを得なかつたのである。餘事ながら茲に之を釋明して豫め世人の誤解を防ぎたいと思ふのである。なほこの模造大極殿は平安神宮の拜殿に利用された。

六　豐樂院と豐樂殿

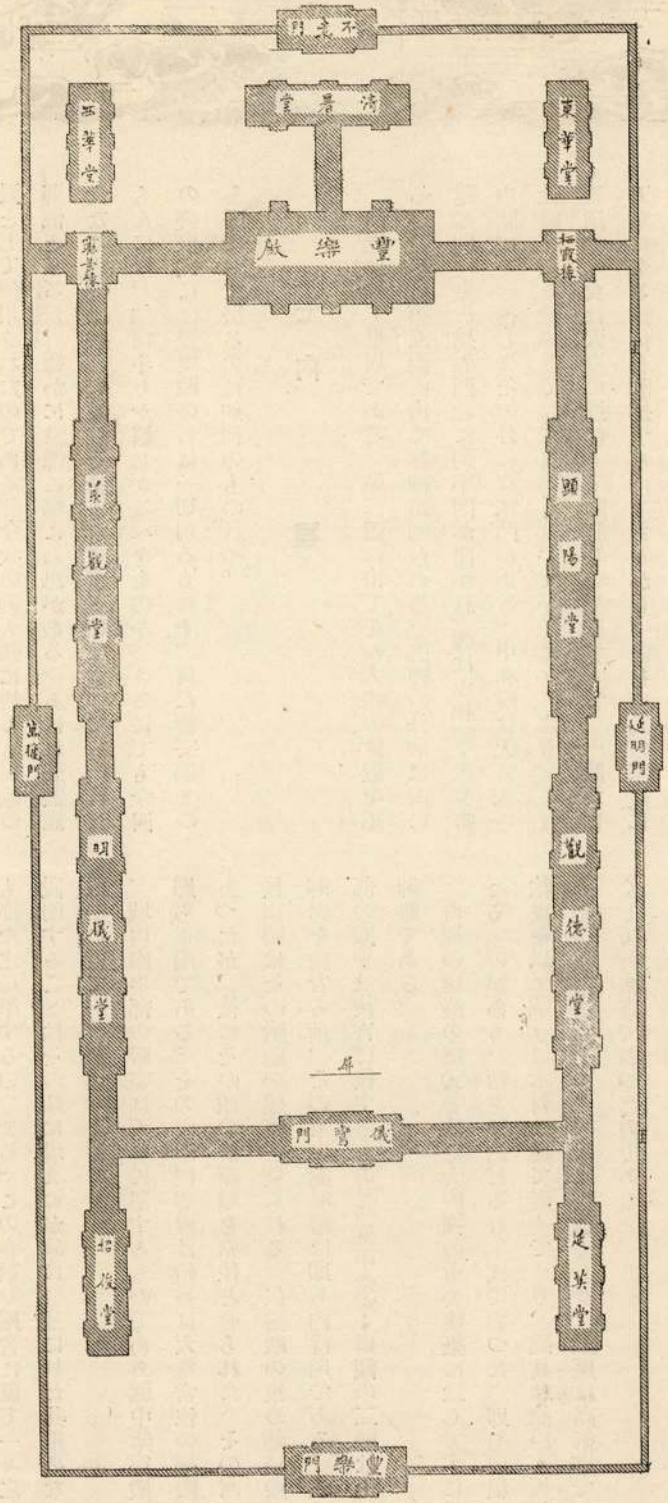
豐樂院は朝堂院の西に隣る一區である。此處は大嘗會・節會・賜宴・饗宴・禮射等を行ふ處である。卽ち元旦は天皇が賀正の大禮を行はれた後、天皇、皇后、皇太子が出御され、親王大臣以下に賜宴されたり、卽位の大禮が朝堂院で行はれた後群臣を召されて饗宴を催うされた處である。

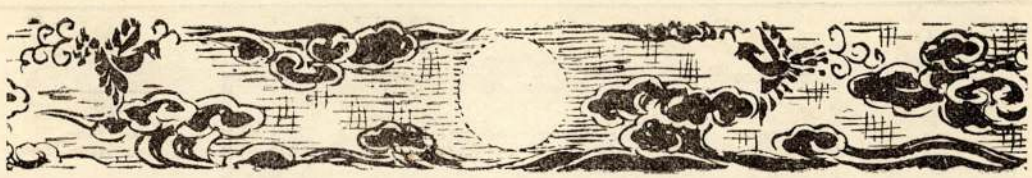
其規模は第四圖に示すが如く、大體に於て朝堂院に似て居るが、これよりも簡單である。但しその正殿なる豐樂殿、その左右の栖霞・霽景の兩樓、其後の淸暑堂の配置は朝堂院の大極殿の周圍の配置と酷肖し、更に宇治平等院の鳳凰堂の配置と殆んど符合するが如きは甚だ興味ある現象で、建築史上重要なる問題となるのである。

豐樂殿のプラン・幅員・構造形式・設備等は全く大極殿と同じであるから、別に說明を要しない。栖霞・霽景の兩樓は下屋四十七尺四方、上屋二十尺四方で、步廊の上に聳ゆる風貌は宛ら鳳凰堂の兩樓を見るの思ひがある。

豐樂院は後冷泉天皇の康平六年の大火に罹つて燒失し、再建された新建築は六年を經て又火災に罹つて以來、終に再建を見なかつた。從て豐樂院に於て行はるべき儀式は朝堂院に於て辨ぜられたが、朝堂院も無くなつた後は紫宸殿で行はれ

第四圖　平安京大內裡豐樂院之圖（大內裡圖考證附圖に依る）





たのである。

曩に登極令に於て、御即位禮及大嘗祭終了の後豊樂殿に於て饗宴を給はるべき事に制定された爲に畏くも大正天皇の御大禮の際には、假りに一時的の饗宴場を新營され、之を豊樂殿として使用されたのである。今次の御大禮に於ても同樣の御儀と承るが、窃かに恐懼に堪えぬ思がある。あはれ莊嚴雄大なる古式に據る豊樂院を營まれ諸事正格に適つて行はれたらんには、如何斗りか嬉しかるべきものを。さるにても今回の御儀式には豊樂殿の名は一切用ゐられず、只だ饗宴場とのみ呼ばれて居るのは如何のものにや。

七　内　裡

内裡は即ち皇居である。第二圖に由てその大禮の位置を知るが、更に第五圖に由て詳細が知られる。内裡の外廓は南に建禮門、東に建春門北に朔平門が開かれ、西は中和院・采女町内膳司を包擁してその外に宣秋門がある。中和院は天皇親ら社稷を祀り給ふ處で、神嘉殿を正殿とする。采女町は采女の居る所、采女は天皇に近侍して陪膳等に從事する者、内膳司は天皇に奉る御供を調進する所であるから、之を庶人の家庭に當つれば、中和院は神棚を安置する處采女町は奴婢の部屋、内膳所は臺所である。

内郭は廻廊を以て圍み、南に承明門、東に宣陽門、西に陰明門・北に女嬬門を開き、その中に十七の殿と七の舍が略ぼ左右均齊に配置されて居る。殿は程度の高いもの、舍はこれよりも低いものである。別に若干の附屬建築がある。

殿舍は總て長方形のプランを有し、これを廊を以て連絡する組織は元來支那の宮殿・官衙・寺觀・住家等の型に據つたもので、我國で多少之を日本化したのである。後の寢殿造の制も亦た之に準ずるのである。この多數の殿舍に就て一々之を説明することはその煩に堪えぬが故に、茲に只だ其重要なる殿宇に就て一言を述べて置く。

域内南半部の殿宇は天皇に屬するものであり就中紫宸殿は即ち正殿である。その北の仁壽殿は始めは天皇常住の御殿であつたが、後にその西の清涼殿を常住とせられた。その西の後涼殿はその附隨の建築と見られる。仁壽殿の東の綾綺殿は御物を納むる所、その東の温明殿は即ち内侍所である。北半部の殿宇は後宮に後するもので、就中常寧・貞觀の二殿は中宮御殿である。

内裡の建築の樣式手法は大内裡の重要建築に比して大に異なるものがあり、殆ど純然たる日本式であつた、即ち屋根は檜皮を以て葺き、木材は總て素木でめり、建具は蔀戸・板障子・布障子等が用ゐられ、床は板敷であり、玉座は高御座でなくして御帳臺であつたのである。

八　紫　宸　殿

紫宸殿はシシンデンともシシイデンとも發音せられ、又別名を南殿・南大殿・正殿・南正殿・前殿とも云ふ。即ち内裡の正殿で、大極殿の外朝の正殿なるに對して、これは内廷の正殿



であつたのである。

其規模の大要を擧ぐれば、先づ中央に身舍がある。その廣さ九楹九十尺、深さ三楹三十五尺、その四面に廂が凸出して居る。南北の廂は廣さ九楹九十尺、深さ二楹二十尺、東西の廂は廣さ三楹三十五尺、深さ一楹十尺であり、以上を通計すればその面積二百六坪九合餘である。

廂の外には更に幅五尺の孫廂がある、即ち廻り縁で、簀子張りの板が張られて居り、勾欄が繞らされて居る。その正面に十八級の階があるが、その各級の高さ四寸、廣さ一尺である。東西面には各々二つの側階がある。

身舍の中央に御帳臺が据ゑてある。その大さは一丈四方、簀床の高さ一尺、その上に四隅に三本の八角造りの柱が立てられ、その高さ七尺五寸、上に小組格天井を造り、天井板の代りに花菱の文様の綾が張られて居る。四方に夏冬に懸け替へらるべき帳を垂れ、前面に狛犬一對が置かれる。内部には式に從て褥を設け、その上に御椅子が備へられて居る。

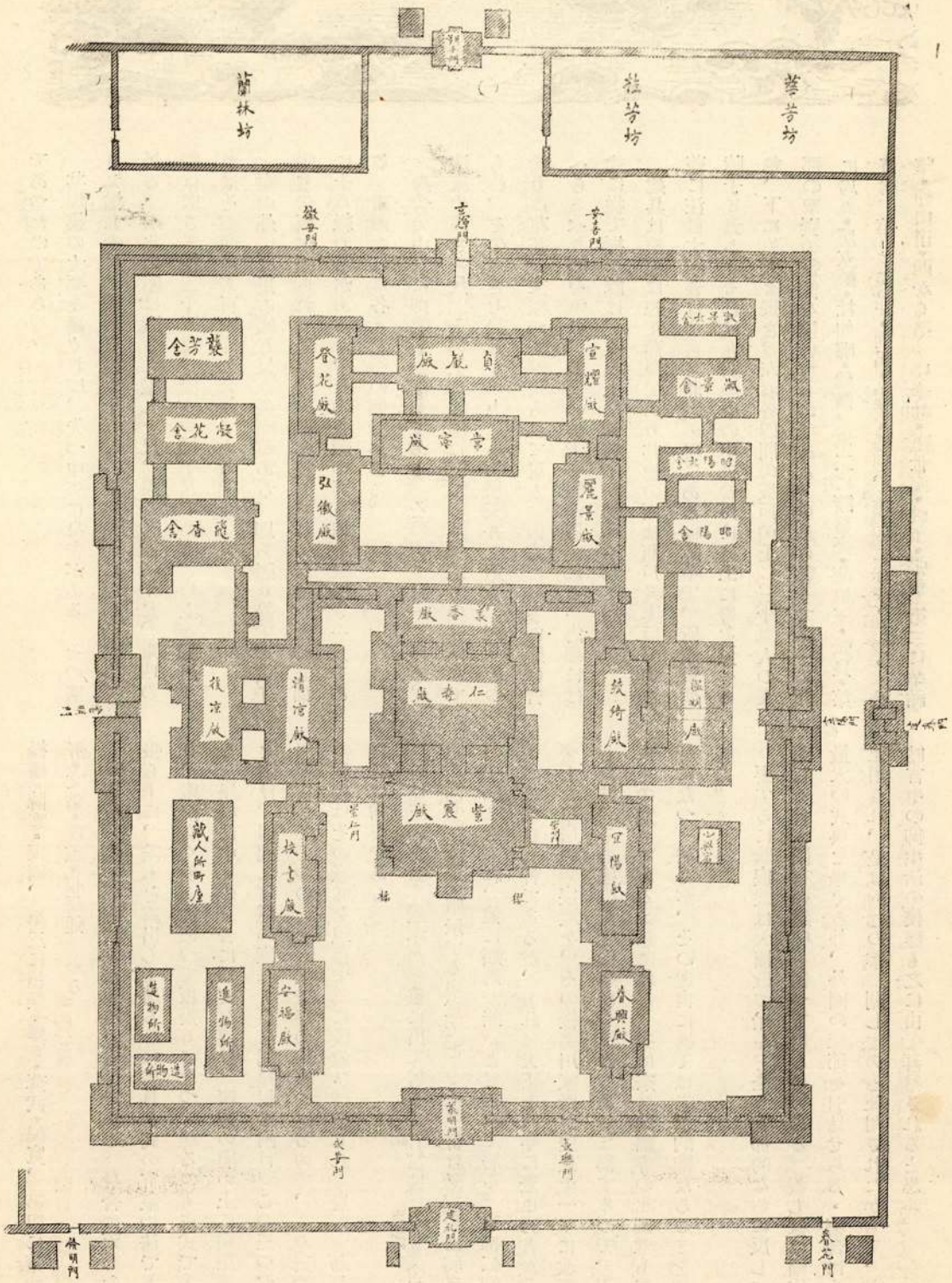
建具は前面は總て蔀戸であり其他の面は蔀戸及妻戸である茲に注目すべきは身舍と北廂の堺にある板障子で、所謂賢聖障子と云ふ。それは九間の中の中央の戸には上に書を負へる龜、下に狛犬を畫き、左右各四間の板戸の上に三十二人の支那の聖賢の畫像を描いたものである。東から數へて第一の間に馬周・房玄齡・杜如晦・魏徵、第二に諸葛亮・蓮伯玉・張良・第五倫、第三に管仲・劉禹・子產・蕭何、第四に伊尹・傅說・太公望・仲山甫・西から第一に李勣・眞世南・杜預・張華、第二に羊祜楊雄・陳寔・斑固、第三に桓榮・鄭玄・蘇武・倪寬、第四に董仲舒・文翁・賈誼・叔孫通である。

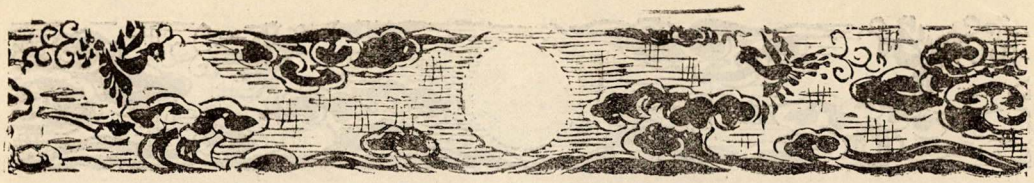
紫宸殿の構造形式は甚だ面白いものである。身舍に天井を張らずに、垂木を露出して居るのは純日本式の宮室の法であり、床が高く地上にあつて板張りとなつて居るのも古式である。屋根は中央の身舍に切妻を架け、四方の廂の上に廂屋根を附け、四隅に階隱の意味で更に隅屋根を附け、この三つが相連接して一つの大きな入母屋の屋根を造るので、この三つの屋根はその意味を現はす爲に段違ひに造られて居る。勿論材料は檜皮である。

軒は三軒と云て垂木が三重に出て居る。これは恐らく身舍・廂・孫廂の三段を暗示するの意であらう。三軒は紫宸殿に特殊の手法とせられ、他に類例が無いとせられて居る。京都仁和寺の金堂は三軒であるが、あれは天正十八年に豊臣秀吉が造營した皇居の紫宸殿を、その後德川家康が慶長十一年に改營した時、その儘仁和寺に賜はつたのであると稱するので、正にその通りであると思はれる。次に奈良興福寺の北圓堂も三軒になつて居るが、その理由に就ては未だ的確なることを知らぬ。

要するに紫宸殿は大極殿の殆んど全く支那的なるに反して著しく日本固有の趣味を保つて居るのである。蓋し彼は國家最大の式典を擧ぐる外、外國の使節を引見せらるゝ場合にも使用され、是は内廷の事に關してのみ使用されたからで、當時宮中の御生活の模様も之に由て拜察されると思ふ。

第　五　圖　平安京內裡之圖（大內裡圖考證附圖に依る）





九　大內裡の變遷

桓武天皇の大內裡御造營以來今日に至るまでの皇居の沿革は非常に複雜なもので、勿論茲にその要領すらも述べ難いが試に一言この問題に觸れて置くのである。

桓武天皇以來、內裡は十五回の火災に罹り、その都度に再建されたが、高倉天皇の治承元年の火災後は、再び大內裡の復興が行はれず、大內裡は茲に滅亡して之に代つて興つたのが即ち里內裡である。里內裡は元來大內裡が再建されつつある期間、假に內裡の代りとして用ゐられた當時の權門の邸であり、圓融天皇の貞元元年の火災の時からこの名稱が用ゐられたのである。而して治承の火災以後は大內裡が復興されなかつたので、里內裡は終にその儘本內裡となつた。その最初の內裡は即ち閑院內裡である。高倉天皇から九代九十一年間の皇居であり、その規模は內裡と寢殿造の折衷であつた。之に次で富小路內裡が興り、六代八十七年間續いて更に之に代つて東洞院土御門の內裡が出來た。東洞院內裡は卽ち北朝の創設したものであり、今日の京都御所の前身である。

その後南北統一せられても、皇居は依然舊地のまゝであつた。足利氏時代の前半期に於ても內裡は屢火災に罹つたが、應仁の亂以後に至て內裡は荒敗の極に達した。何分にも京都は戰亂の巷となり、群雄は互に相攻伐を事として皇室を顧る者がなかつたのである。斯くて皇居は風雨の潰倒腐朽するに任せられ、僅かに方四十丈の敷地の周圍の築地は悉く崩れたので、假に竹垣に棘を結びつけて間に合せられたが、三條大橋の上から畏くも內侍所の御燈が見透されたと言ひ、紫宸殿の御前の廣庭は市井の群童の遊戲場と化し、御階の下の橋の下には賣賣店を出して客を呼ぶ商人もあつたと傳へられて居る。凡そ日本開闢以來皇室の衰微せること此時より甚しきは無いのである。

織田信長が入洛するに及び、永祿十一年に皇居の造營を遂げたが、なほその規模は充分でなかつた。豐臣秀吉は天正十八年に更に皇居を擴張し再建し、次で德川家康は慶長十一年諸侯に課して皇居を造營するに及んで、皇居の面目は大に改まつたのである。江戶時代に入て、皇居は數回火災に罹つたが、茲に特筆すべきは光格天皇の天明八年正月晦日の大火である。この時皇居も全燒したのであるが、天皇資性英邁にましまし、この機會に於て宮室復古の恩召があり當時裏松光世の著した大內裡圖考證を天覽あり之に由て親しく叡慮を幕府に傳へられた。將軍家齊は老中松平定信卽ち白河の樂翁公を總裁に擧げ一切の事を委任した。定信は愼重に古典を調査し設計は總て勅裁を仰ぎ、工事請負は入札に由りて其最高額の者に命じたと云ふ。工事は寬政元年三月二十七日地築始より翌二年十一月二十二日天皇還御迄二十ケ月を費した。此時紫宸殿・淸涼殿・宜陽殿・內侍所・承明門・左暉門・朔平門・南庭の回廊等は皆古制に復し賢聖障子その他の繪畫裝飾までも古式に法り、大に皇居の面目を改めた。之を寬政の御營造と稱するのであり、卽ち古への內裡の一部を復活したのである。そ

の後神嘉殿・皇后御殿・御三間・御獻の間・御學問所・東宮・泉殿代等が追ひ〳〵に建てられて規模が完成したのである。

十　現在の京都御所

現在の京都御所は即ち安政の御造營に成つたものである。前記寛政御造營の御所は孝明天皇の安政元年四月六日午の時火を失して全部燒亡したので、幕府は老中阿部正弘を總裁とし再建に着手した。その計畫は殆ど全く寛政御造營の通りであり、僅かに些細の點に於て若干の相異があつたのみである工事は安政二年三月十八日木造始、四月八日立柱、八月二十四日上棟、十一月二十三日竣工して車駕新內裡に還幸された。

其工費は金二十七萬六千二百十三兩三分餘、銀八千五百二十八貫百八十五匁、米二萬千三百九石九斗七升であり、工匠は百四十萬八千百五十人であつた。御作事奉行は時の京都町奉行淺野長祚であつたが、彼は工事一切の事を編纂して安政內裡造營誌十卷を作つた。その記事は頗る詳細にして、營に建築史上の好資料であるのみなるず、當時の社會の事情を知るべき好個の參考資料である。その後敷地の輪廓の整理建物の增築等、若干の變更があつた。

明治天皇の二年、車駕東幸の後は、宮闕兎角荒廢に歸せんとする傾向があるので、當局に於てもその保存の方法を考へ其不必要の建物は概ね之を撤廢し、或は之を東京に移し、或は之を神社に賜ひ、必要なる殿舍は充分に修理を加へ、掃除を嚴にし出入を愼み、永遠保存の方針が確立した。曩に大正天皇御即位禮の行はれた時、更に內侍所第三朝集所等若干の增築改修が施されて今日に及んだのである。

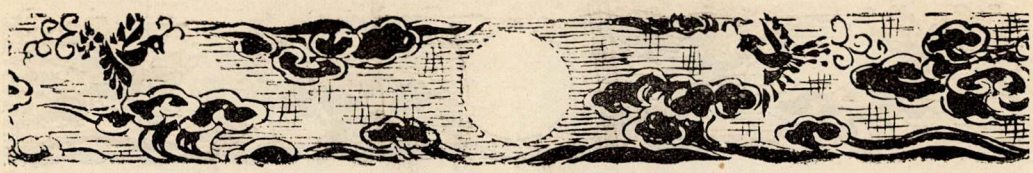
なほ安政御造營當時の御所の規模に就て次にその大要を附記して置き度い。先づその外圍の地域は南北に長い長方形の東北隅を大きく欠き取り、東南と西南の隅も少くし欠き取られた形で、總面積二萬五千四十二坪餘と注せられ居る。周壁は立派な五本筋の築地塀であり、南の正面に建禮門、東に建春門、西に宣秋門、北に朔平門を開き、別に西面に淸所御門皇后宮御殿御門及數ケ所の小門がある。この中に多數の殿舍が立ち並んで居るが、之を大別すれば古への平安內裡の如く南北の兩區となり、南部は天皇の御所であり北部には皇宮の御所である。

南部は建禮門を正面の正門とし、門を入れば承明門あり、門の左右から廻廊が出で折れて北に向つて中に廣い中庭を作り、その中庭の北に紫宸殿が立つのである。この規模は今日もその儘で今次の御大禮の儀は、大正天皇の御時と同じく、この中庭に於て行はれたのである。

十一　京都御所の諸建築

終りに現在京都御所の重要なる諸建築に就て簡單なる說明を加へて置き度いと思ふ。

（い）　先づ第一に建禮門は車駕通御の時に限つて開かれるので、總檜造、檜皮葺の四脚門であり、其大さ間口三間一尺奥行二間三尺六寸、屋根は左右切妻である。建春門は大さ



建禮門と殆んど同じであるが、屋根は前後大唐破風であるから一番立派に見へる。宣秋門は前二門と同大て屋根は切妻である。清所御門はやゝ小さく、間口二間三尺であり、皇后宮御門の間口は一丈五尺七寸である。朔平門は間口二間五尺、奥行二間一尺である。以上を皇居の六門と云つて現在我國の唐門の中で最も偉大にして最も莊嚴なるものと云ふことが出來る。併し之を古への平安京の內裡の諸門に比ぶれば殆んど比較にならぬ。平安內裡の建禮門は五間三戸で東西六丈南北二丈四尺であるから、現在の建禮門に比して約五倍の大さであつた。建春門は三間一戸であり、朔平門も宣秋門もこれと同大同型であつた。この外修明門・春華門・式乾門等があつたのである。

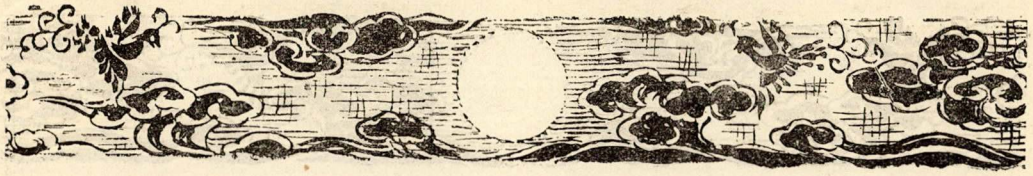
（ろ）現在の承明門は五間三戸の八脚門で平安內裡のものと同型である。大さは廣さ八間四尺、深さ三間五尺、柱大さ一尺五寸丸である。不思議なことは、この門及廻廊丈けは總て瓦葺で、白壁丹甍と云て、壁は白く木部は丹塗りである。承明門左右の廊は長さ各十四間一尺五寸、折れて北へ東廊は宣陽門に接し、西廊は清涼殿の南に接するので、總延長八十間一尺、梁間二間である。東西に開かれたる日華月華の兩殿は各三間一戸である。

（は）清涼殿は古代の宮室の型を見るべき貴重なる實例であるが、複雜なる房室の配置に成るので茲には詳述致し難いが、建物の桁行南北十間半梁間東西七間四尺五寸、その中に晝御座・夜御殿・鬼の間・臺盤所・朝餉間・御手水の間・御湯殿の上・萩戸、弘徽殿上御局・藤壺上御局二間が配置せられ之を繞つて廂があり、更にその外に孫廂がある、南廂は即殿上の間で所謂殿上人の祗候する處である。

晝の御座は天皇の御座所で東面し、中に御帳臺が据へられ室の東南隅に石灰壇そて二間に一間程の土間がある。これは天皇が大神宮と內侍所とを遙拜される處である。室の西南の隅に壁を穿ちて櫛形の窓が明けられてあるが有名なものである。夜御殿は御寢所であり、鬼の間は壁に百澤主が鬼を斬る圖が描かれてあるに由て名けられ、臺盤所は調度を置く所、朝餉間は膳部であり、御手水の間は盥嗽を進むる所、御湯殿の上は御湯殿を司る女官の居る所、萩戸以下は奉仕の女房共の詰所である。東廂に荒海障子年中行事障子があるが、何れも古式に則つたものである。

（に）溫明殿即ち內侍所は明治二十二年八月大和の橿原神宮の本殿として、神嘉殿は同じく拜殿として移建されたが、溫明殿は既記の如く大正天皇御卽位禮の際に新築された。今之が春興殿と稱せられて居るが、元來春興殿は承明門の東北、日華門の南にあつて、武具を格納された處であつたこの名稱を內侍所に與へられたのは如何なる理由によるか甚だ訝かしく思はれる。

（ほ）小御所は紫宸殿の艮位にあり、元と幕府の使臣所司代に謁を賜はつた所で、參內の諸侯も多く此處で拜謁しにと云ふ。上段・中段・下段の三室及び廂より成り、上段には豊樂院雅樂の圖がある。



（へ）御學問所は小御所の北にあり、天皇講學の所で、上中下三段の三室及其横に當る菊の間、山吹の間、鷹の間の三室より成る。上段には十八學士登瀛圖あり、蘭亭・丘陽樓・花鳥等の畫がある。

（と）御三間御殿は御學問所の北にあり上中下三段の室を備へ、大極殿朝賀の圖がある。御獻の間はその北に隣接し嵐山・高雄の圖がある。

（ち）常御殿は御三間御殿の艮位にあり、天皇常住の御殿即ち正寢で最も廣大である。古へは仁壽殿が正寢であり、次で清涼殿が之に代つたが、室町時代以後別に常御殿が出來たと云ふ。その房室の配置は、中央部に御寢の間があり、東に御清の間、南に上中下三段の室、上段の東に劍璽の間がある。東から北へ折れ曲つて、一の間・二の間・三の間・次の間・申の口の間がある。西部も申の口になつて居る。

（り）迎春殿は常御殿の北にあり、林泉に對する小建築であり、御涼殿は其北にある小建築で、天皇納涼の御殿である聽雪の御茶室は又その北の林泉の中にあり曲廊を以て通ずる。これは孝明天皇が親ら好みの意匠に由て皇室費を以て作られたのである。

（ぬ）泉殿代は元と文政十三年京都大地震の際避難所として造られ、禁池に臨んで居る。今の建物は安政の造替である。錦臺は常御殿の辰位禁池の東、假山楓林中の小亭である。花御殿は常御殿よりも北に通ずる廊の北端にあり、東宮の御所で、四つの房室及廂より成る。黑戸御湯殿はその廊の西にある。

（る）參內殿は內の御車寄の內にあり、上皇行幸の時此の處から入御され、又皇族大臣年賀の時もこゝから參進する。千秋萬歲猿舞・三月三日鷄鬪等は此處で行はれ、天皇は上段に出御ありて天覽ある例である。例の如く上中下の三段に分れ、廂が西方車寄の方に附て居る。長橋局は參內殿の艮位にある。

（を）公卿の間又諸大夫の間は虎の間・鶴の間・櫻の間より成り、公卿參內の節の控室である。

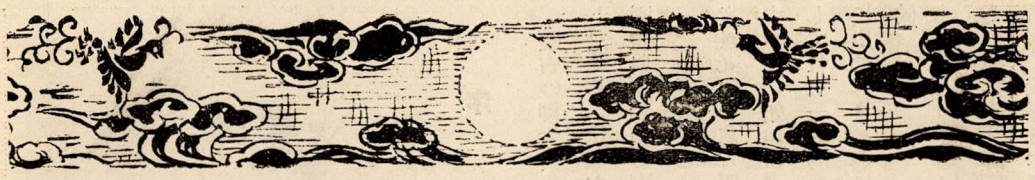
（わ）この外車寄から清涼殿の後を通つて小御所へ通ふ長廊下の左に臈香の間がある、これは將軍入朝の時祇候した處であると云ふ。その他錦鷄の間・八景の間・水鳥の間・林和靖の間・議奏の詰所・傳奏部屋・對の屋・女孺部屋・臺所・諸倉庫なぞが縱横に廊下に由て連續配置されて居る。

（か）更に內裡の北半部には皇后宮御殿、別に離れて上皇の宮室なる仙洞御所・女院御所即ち大宮御所等があり、なほこの外に御苑かあるが、之等に就ては今言及すべき時間が無い。

附記

日支宮城の比較

桓武天皇御造營の平安京は、大體に於て唐の長安城の制度に倣つたものであるが、その規模は我は彼に比して僅かに二十七・七%の大さに過ぎぬ。素より當時の國力に比例するので



敢て怪むに足らぬが、日本に於て延暦當時の國情から考ふれば平安京の規模を以てして猶ほ且つ過大であつたかと想はれる。

傳ふる處によれば、左京は相當に人家が密集して居たが、右京は人烟稀薄であり、或は道筋丈け出來て家屋の建たなかつた部分もあつたと考へられて居る。幅員二十八丈の朱雀の大路は、追ひ〳〵修理が屆かなくなり、路面に雜草の生ひ茂つた處が出來、羅城門は終に所謂鬼の棲家とさへなつたと云はれて居る。延暦當時京都の人口はどの位であつたか、何人も推測した者が無いと思ふが、予は恐らくは二十萬人を超へなかつたと想像する。或は到底二十萬には達せぬと觀る人があるかも知れぬ。

爾來京都の市街は漸次に東北に向て發展し、西南はいつしか變じて田畝となつた。今や市街は日に殷賑を加へ、大規模の造營物も陸續として興る間に、昔なからの御所は、淸楚にして典雅とは申しながら、その規模は餘りに小さく、御大禮の式を擧げさせらるるは手狹であると拜承する。

この點に於ては流石は支那の宮城は堂々たるもので、現在の北京城は明の永樂の築造でありその內裡なる紫禁城も同時の經營であるが、東西六町南北七町餘の敷地の中に、整然と配置された殿門の規模は世界無比である。我が建禮門に當る午門は恰も巨山の如き高壁の上に五字の樓閣が聳え、その次ぎの我が承明門に比すべき大和門は九間七戶の重層の樓門で三百坪の大さである。

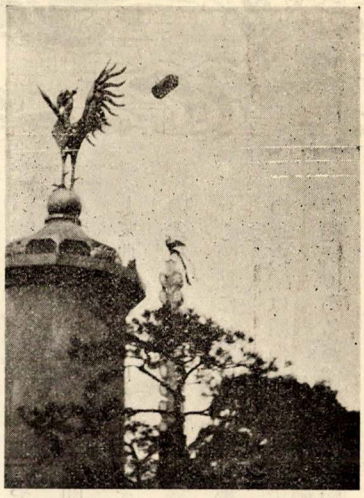
さて大和門の北に聳ゆる大和殿は卽ち我が紫宸殿（元來大極殿に相當するもの）に當るもので、白大理石の三成壇の上に屹立し、其大さは六百十三坪であるから、紫宸殿の三倍の面積であるが、重層四注の巨宇で、屋根は黃色の釉瓦を以て葺き、全部極彩色であり、莊嚴言語に絶する。況や殿前の丹墀には十八の寶鼎、一對の龜鶴、日圭及嘉量、二對の金瓶が据へ付けられ天子の尊嚴寶祚の無窮を象徵して居る。

予は之に思ひ競べて、我が宮殿の甚だ簡素狹小なることを痛感するのである。勿論宮殿の尊きはその物質的條件に在るのでなく、徒らに巨大にして華麗ならんよりは、質素にして淸淨なることが如何斗りか奧床しいのではあるが、大禮を擧げらるるに手狹であると云ふが如きは洵に畏れ多いことゝ思ふ。

次に紫宸殿と支那・朝鮮・琉球に於て、最近まで卽位禮の行はれた宮殿との大さを比較して見る。

支那	北京、紫禁城、大和殿	六百十三坪
日本	京都御所、紫宸殿	二百六坪九合餘
朝鮮	京城、景福宮、勤政殿	百九十六坪七合餘
琉球	首里城、正殿	百六十五坪八合三夕

（了）



御大典と京都の表慶施設

會員　松室重光

序

曩古の御大典や洵に森嚴崇高、世界に冠絶し、萬邦に比類なき儀禮にして、神國日本の國體典型無上の表現ここそ存じ候。

之を奉祝するには宜しく正に此森嚴崇高の意義表現を愈々明大ならしむるを以て本となすべく、如何に表慶に腐心致し候とは雖も、決して世上一般的なる種々の御祭騒と同一の軌に出づべきものにあらざることは勿論の義に候。

特に此御盛典の行はせらるゝ平安の都の、その建築や裝飾施設につきましては一に世界萬邦に我等日本の東洋文化の眞髓を顯示する極めて重大なる意味の存するものこ存じ候。

此等の諸施設につきては、今春以來日本國中大小の新聞等が連月連日詳を寫し細を繪きて、悉く之を國民の前に報導讃美いたし居候て、最早何物をも餘し居らず候に付、今更之に蛇足を添ゆるの愚は致す間じく候。

實に此御大典奉祝の表徴として、我京都の市民は悉くを擧げて如何にせば其赤誠の表現に欠くる處なきやを心配苦慮して萬遺漏なきことを期し居る儀に候。

されば、出來上れる各般の施設は、此市民の、至誠の表徴として、慶祝の現示として、實に申分無之樣に存ぜられ候得共、田舍漢が見聞して歡喜の餘りに發する無遠至極の妄評も、又彼等が眞情流露の一端として或は他山の石の微細片こも相成候場合もて有之愚考仕候に付、茲處に少しく其邊の事柄を記述いたし度こ存じ候。

第一　京都の門戸玄關としての停車場

我等年來、日夕茲處に出入いたし候て、平素體驗いたし候ところの所感を申上げ候。

世界の美術國、精神文化の東洋の本源、その藝術の淵叢歷史の根本の地として、一千二百年の古きを傳ふる京都にとりては、此停車場の建築が頗る似合はしからぬものなりこ思ふ者に候。

之は過渡期に於ける外國文化移植の一表現に過ぎず候得ば、餘り手烈しく論評するは、其所生の事情を知る限りに於て稍酷に失し申し候得共、一切の因縁を離れて單獨に今日之を見申し候時は、決して結構なものとは申され難く、其「プラン」に外觀に可なり雜然として不純のものある樣存ぜられ候。

今春以來京都の驛舍は此御盛典を迎へまつる準備として、內に外に盛んに工事施設を見受け申し候。

さて如何に其面目を改められ候や。

(一)正面玄關衝當りの中眞に手荷物の取扱所を置きて上下の旅客待合室を截斷いたし居候て、永く御客をまごつかせ居候點は交通機關本來の面目を發揮する上に於て決して便利なものとは考へられずと思ひ候により、これなどは最先に根本的に改善せらるゝものかと期待いたし居候處たゞ其位置を少しく後退せしめたるだけにて利便第一の停車場としては中央玄關の利用を妨碍し居ること、依然として少しも相變らざるは遺憾に候。

(二)上下三等客の待合室が增築せられ候こゝは、其改善の主たるものの樣に御座候然るに此待合室の交通關係を見る時は、瀕繁に人の出入往來する爲には必ずしも便利に出來たりとは申され難きやうに相見え申し候。

云はゞ一個の袋小路をつくり付け候だけのものにて、人の出入交通の利便第一たる關係には餘り多く考慮せられざりしものらしく御座候。

(三)之に連れて出入客の降雨の際に於ける車馬使用の關係も又別段の改善を見ざりしは遺憾に候。

自動車馬車は庇の下には入れられ申さず候に付、降雨時の混雜雜沓は矢張り元の通にて少しも變り無之候。特に降車時に於ける夜間なぞ隨分甚だしき不便有之候何故に此點に考慮を拂はれざりしか「パス」と公用自動車にて市中と交通往來せらるゝ高官公吏諸君には、平民が平素蒙りつゝある不便や損害については更に關知せられざる樣に候。

(四)一二等客待合室の內部の塗替えなども從來甚だ薄暗くして陰氣なりし點には何の改善も加えられ申さず、矢張り舊態其儘なる色調塗粧は餘りに無考への儀と存じ候。

此の待合室嫌はしき一事は光線の射入不充分なると共に、兎角窓の開閉不注意にして室內換氣の頗る不良なる事に候得共之も今度は改められし痕も無之候。

(五)內部各室廣間廊下等の床なども、せめては明るき色調の瓦敷ともいたされ候得ば、玄關口としての淸新の快ろよき感じを與へ候べきに、其邊にも考へ及ばれざりしか何の模樣替も見申さず候。

(六)便所が有効に改善せられざりし事も又小言の種に御座候。

申す迄もなく、水洗便所の許され居る今日に於て、此多數の人々の集合する停車場の公衆便所を、其一端の一箇處に集中限定しをるのは愚擧と存じ候。

之は上下の待合には夫々一箇所づゝ施設あらまほしきものにて、時間を急ぐ行旅の客には其利便莫大なるべきも、其點も又空しく看過せられたるらしく候。

(七)改札集札口の柵を從來のものより態々丈だけ高めて改造せられたるは何の故に候や、其意味分り不申候。

群集し來る人々の不作法を豫期して、出



京都驛前奉迎門

入時の混雜整理の意味なれば、他に其方法有之べく、之は時代錯誤の仕事の樣に見受られ申し候。

此邊の施設は出來る限り簡單開放的になし置き、平素に於て國民の交通道德の訓練の一端ともなし度相考へ居候處に、矢張り國民の多數は禮に嫻れざる野性未開のものとして取扱はれ候ことかと考ふる時は我等國民として甚だ心苦しき次第に有之候。

(八)荷物取扱所の改造も當事者苦心の結晶と存じ候、手荷物等配達運搬の制度愈々擴張せられ候時節として、手荷物受取所の少々遠き位は決して不便には無之と存じ候、たゞ此等の關係論評は事餘りに事務的專問に亙り候に付素人たる小生は差控え申すべく候。

(九)「プラットフオーム」へ渡る跨線橋の如きも本來ならば、とくの昔に地下道に改められて「ホーム」の中斷の不便が除去せられあるべきに、今回は之も行はれ申さず候。

(十)最後に此停車場の外觀が、屋根の葺替え、壁の塗替へ等によりて新らしくせられたる一事結構には候得共、今一步を進めて此機會に本建物の表現する外觀よりその無用の修飾を撤廢して幾分にても清純の樣式に改め、日本文化の本源の京都の玄關として立つ西洋建築の價値比較判定の料ともなされ候得ば頗る面白かりしならんに、其方面には考へられざりしにや、舊態踏襲は惜しき限りに候。

されば此外觀の修飾は結果に於て無用の費となりたるものと存じ候。

兎もあれ經費其他の關係上、恐らく當事者の計畫も其十一の實現せられしに過ぎざるべく、餘りに身勝手な不足ばかり相並べて甚だ恐縮とは存じ候得共、其全般の規模より見て早晩改築の要ある建物に云はゞ餘計の費をおかけ相成候樣に存じ上げ候。

第二　驛頭の廣場道路

驛前の廣場より、河原共儘なりし砂利が取除かれ候て、豆砂利に敷き改められたるは些事ながら結構に存じ候。

併しながら、此廣場は鐵道省の所管の御仕事か、又は京都市役所の施工範圍内にあるかは存ぜず候得共、場所柄よりすれば烏丸通や河原町通の鋪裝に先ち、第一に施工せらるべきなりと存じ候處に、今日迄放置せられたる場句、只僅に其砂利の粒を細にしたるだけでは一向に御客待遇に懇切なりとは申され難く京都としては迂濶千萬の次第と存じ候。

現に七八兩日の小雨によりてすら市電乘降場前なごは以前よりも甚だしき凹面滯水の穴

だらけと相成、車によらぬ徒歩行旅の民衆の迷惑は甚大に御座候。

若し此儘に放置せられ候得ば、今後に於ても降雨に際しては、出入幾萬の人々は渡河の決心を以て其足元に心配しつゝ、をご〳〵と時間を急ぐ艱澁の行歩は、我身ながら淺間しくも又情けなき儀と覺え候。

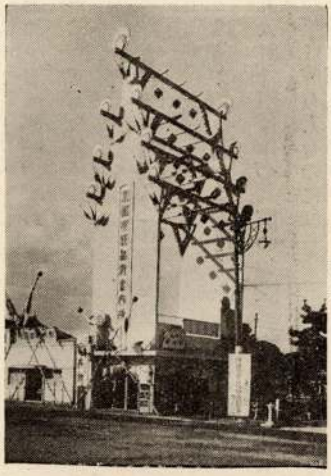
これ實に我京都としては放心の至りここそ存じ、外に對しても恥かしき次第と存じ候。

第三　廣場と市電の乘降場

驛頭の廣場と京都市營電車の乘降場との關係も又感心出來ぬもの、一に候。御大典期間だけの事かとも存じ候得ども、河原町、熊野神社方面ゆきと、烏丸線其他行の線との乘降場を分ちたるなど、京都人には兎も角我慢し得らるゝ、不便にして、來客の爲には禮として忍ぶべき事かとも思ひ候得共、電車を利用せんとせらるゝ幾十萬の京都未知の降客など甚だ迷惑せらるゝ儀と存じて恐縮の至に候。

安全なる交通機關として、便利なる施設として、此驛頭に於ける電車乘降場は或は迂回し、或は線路を横斷し、東に西に氣を配りての乘降行歩の危險は遂に避けられ難きものに候や。

配車の不均衡も又不便の一に御座候。表示案内の不親切、明瞭を欠くことも其一に有之候。此等は御客招來を第一とする我京都としては今度こそ徹底的に施設せらるべかりし事を考へ居候處、何等の表現に出會いたさゞりしは自他の不運とあきらめて宜敷候や。



京都驛前の裝飾塔

第四　奉迎門

驛頭の奉迎門は京都市の建てたる物に候。なか〳〵美麗に立派に出來上り申し候。之は不骨にして寒冷紗や鐵板張ペイント塗其他の方法によりて巧みに本邦固有の形式の門塔を假設表現したる點、兒事の手腕と感服仕り候

但し見物人の申す事を側聞いたし候に、或は其手法が纖細で莊重の觀がないと申し、或は優雅なれども纖弱に見ゆると申し、或は其塗彩に餘り遠慮したる爲落つきはあるか矢張りごことなく寂しく思はれると申し、區々の妄評を吐き居り候。

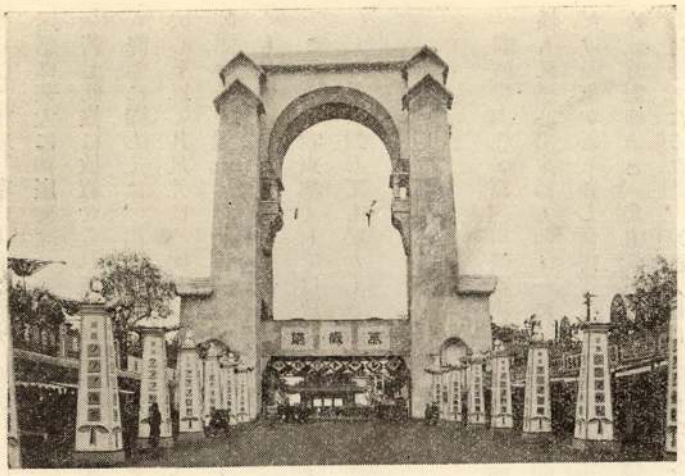
此假設の門は洵に妍麗に候得共以上の妄語にも又多少の理窟之有樣存じ候、如何にも堂々莊重の觀には乏しき樣存ぜられ申し候。でも京都市の玄關の第一の施設として甚だ結構に候、如何程之に費用相懸り申し候や承知致さず候得ば、其構造や形式について勝手な批判は愼しむべきを禮といたし度も、斯樣な形式構造を用ふる時は、たとひ經費に御いとい無之候場合に於ても、施工の時間に甚たしき限定ある以上、えてして最初の案通りの物たらしめ得難きを常と致し候。從て設計者の折角の苦心も更に酬はれざるは御氣の毒とも存じ候。

斯くて相當に費用を拂ひ、充分に考案を立て申し候ても、此種の假設的建築は滿足なる結果を生み難きものと相成、折角の期待に添はぬ表現の限定を見る事と相成のみならず、必ず豫想以下の價値批判を受くる儀に墮するにあらずやと愚考仕り候。

さるにても此御大典の森嚴崇高の特殊なる

意義の擴張と添加に施設したる表慶の方法としては、此種類の形式方法を以てするの外、他に何物をも求め難きものに有之候やゝ

何處に於ても、何時にても見らるゝ樣な典型に出ずる時は、遂に御祭騷ぎ的氣分の添景範圍に墮して餘りの見應へもなく折角の結構も之れ程の効果を發揮し得ざる樣相成は心すべき次第に候



京都大禮博萬歲塔

思ふに大正の御代を距ること茲に二十年、其間世情は更に異常の進歩をなし候ひて、建築裝飾術の如きも餘程發達を遂げ居り、特に歐洲大戰以後の精神文化復興氣分の熾たる今日に於て、我京都に於ける此昭和の聖代の初頭を壽ぎ祝ふ施設は、何處迄もその森嚴崇高味に一致する表現たらんことこそ望ましき次第なるに、今度の京都の一般的表慶設備は劃合に幼稚にして、場所によりては旧舍祭の添景に見ると同樣のものまるに聊さか惜むべき限に存ぜられ候。

第五　街路の表慶施設

驛頭より道筋き眞直に北上して烏丸通より丸太町寺町に出づる間の施設は矢張り京都市の手に成りしものに候。

此裝飾は模型迄も豫め製作せられ候ひて、充分の工夫考案洗錬を經たるものの由に候。左らば申分なき立派さと感歎いたすべきが、不幸にして此景觀は稍技工に過ぎたるものと存じ候。其取入れたる「モチーヴ」が第一に尋常一樣にして、其組合せ稍複雜に、其色調餘りに刺戟的に覺え、特別たる典雅氣品の認め難き樣考ふるものに候。

之は或は施工者の技能に劣惡なりし結果にもや、原案はもつと立派に高雅なりしかと思ふものに候が、旛や皷や斯なる御大典威儀物の圖樣を共儘續返して使用せずとも他に幾多の方法の存せしならんに遺憾に存じ候。

其上に此通りなぎは其裝飾を二重にも三重にもなして聯さか蛇足を添えたる嫌あるは、平素藝術の都として誇る京都の市民としては少しく思案になり過ぎたる結果かと存じ候。

平素より裝飾的に取扱はれある電燈柱を態々包みかくしたるも重複施設の一に候。更に各戸軒下に帳幕飾をなしたるも其一にて候。其上に國旗や提灯や、隨分思ひきり澤山に添加したるものに候。而して此等の物の間に連絡統一を欠ぎたる爲に、交互に其裝飾的意義の發揚を制限邪魔せられて、其一つ一つが、それ〳〵に充分の効果を表現せざるは惜しきことに候。

四條通の裝飾も其案平凡にして稍俗調を帶び居り申し候。此通にても其電燈柱は完全に包みかくされて、其美術的に造りたるものは事ある時には全く無効なることを證明したる樣に相見え候。

此通の柱冠幕飾りの色合は烏丸通程の極端

なるものには無之、稍々すみたるだけに落つきて見え候へども其雲や鳳凰なぞの裝飾元は矢張り他と變化なく、何處迄も表慶の瑞章は他に求められぬ樣に見做されたるは遺憾に候

京都第一の繁華の中眞にして今少し變化ある施設を見ることを得ざりしはをしく候。

寺町通の四條以南の裝飾は其裝飾的電燈柱に垂加したる球飾によりて稍兒戲に類し居候小供に觀せての綺麗さは有之候得共、今度の表慶としては何の意味をもなさぬかの如く見受られ申し候。

要するに京都の目抜の道筋は平素其美術工藝の都として誇るにも係らず、其家屋と街頭と、店舖の看板裝飾等に何等統一的純精の施設なき處へ、之を其儘に差し置きて更に附加したるものと一層共調和を失し自他互消の結果を生じたるやうに相成申候

此點は獨り京都に於て見る現象に限られ候儀にては無之、日本全國が都市美に對して其住民の無自覺なる一表徵に過ぎざれ共、京都は此好機會に何等か此點に考慮を拂ひて先鞭を着けたらば頗る面白からんと思ひ居候處に一向に其氣配すら見せざりしは殘念のことに候。

斯くて折角裝飾的に建設し置きたる電燈柱迄包み隱して、之に特殊の施設を加へ、其本體の自然を生かす工夫に出でざりしことは甚だ不用意と存じ候。

都市としての京都は、何か事あれば其行事の衝に當るの處、都市經營の如きも平素に於て充分此等の點に留意し、常々より態とらしく飾らざる美を誇る樣致し度ものと念じ申し候。

第六 張幕裝飾

軒並に打廻したる張幕は皆悉く新らしき御大典特製のものにして、定紋付の幕を張りたる家は甚だ僅少に相見え申し候。

それ程市民は御大典奉祝に熱誠を物し居候此幕の種類紋樣は大抵左の如き物に有之候。

イ、紅白藍の三段二幅金巾にて上に對向の鳳凰、下段より中段の白地へかけて菊桐模樣の染抜き

ロ、同上にして上の鳳凰も稍似たるもの、下段より中段へかけて瑞雲と櫻立花模樣染抜き、

ハ、同上にして上の鳳凰の中央に奉祝の二字を表はし下段より中段へかけて桐崩し瑞雲の模樣染抜、

ニ、同上にして上の鳳凰は一羽の丸形、下段より中段へかけて桐の模樣染抜き、

ホ、紅白紅の三段、二幅金巾製、上中の二段にかけて鳳凰の模樣染抜き、

ヘ、紅白二段小幅金巾無地、

ト、紅白三段小幅金巾及同上六段のもの、

チ、褐、白、藍三段二幅金巾無地、

リ、同上にして上に鳳凰對向の丸、下段に瑞雲模樣染抜き、

ヌ、白褐の二段にして上に鳳凰の藍色染抜き、

ル、白下は褐色にして二幅金巾立枠菊の模樣染抜き、

オ、同上にして立枠内に菊桐模樣、

ワ、同上にして眞向一羽の鳳凰の下に市の徽章、左右に櫻立花の染抜き、

カ、同上にして上に萬歲の二字崩し染抜き

等々の數種に之有候が、大體に於て色合は二種、紋樣は何れも申合せたるが如くに鳳凰や菊桐瑞雲なぞ、御大典表慶の模樣の元は此等の外には無之ものの樣に御座候。

鳳凰は瑞鳥と考へらるゝものにて候、目出度しるしはまだ外にも有之樣に存じ候が、矢

張り圖案家の考慮に其軌を一にするものか、面白きことに御座候。

さて此等の幕の効果は紅白のものは眼にうつくしく映えて綺麗に候へども、甚だ輕くして何等荘重典雅の趣無之候。

褐色を用ひたるものは餘程地味に見え申し候、夜間の電燈飾には從つて餘り引立ち不申候へども、何等けばけばしき趣なく稍落つきて相見え申候。孰れにしても其な位に大差は無之候。

以上の幕は町内によりては其家の軒高の高下に係らず同じ高さに一樣に打廻はしたる個處も有之候。他は各戸の軒下に通常の方法通り張り候ため其高さ區々に有之候。定紋付の幕を打廻はすなれば後の方法普通にて甚だ宜敷候得共、同一の大さ、形樣のものを段違に張立てたる結果は決して感じの良きものとは見受けられず候。

さて爰に我等は注意すべき一事に遭遇いたし申候。これ迄の式典御祭等の場合、とくに京都市にありては各戸其定紋付の幕を打廻す習慣に之有候處、今回は一町内又は數町區が統一的に一樣の幕を張廻はしたる事に候

即ち一家一門が擧けて表祝したるものが、茲に一躍して一町一市が全體的に集團的に表慶の同一方法を執ることと相成たる點に候。

我日本の國民性として、國家の内外に重大事ある場合、平素に於ける一切の關係交渉を捨てゝ一致團結するてふ點の自然の發露が今度の張幕施設に現はれ來れるものと考ふる時我等は限りなき難有味を覺え、強味を感ずる者に候。



萬歲塔アーチの仰觀

行幸の御盛儀を奉拜する場合に於ても、民衆は其洋裝が燕尾服たるとフロックたるとに論なく、和裝の者と全く同一列に跪座奉拜して一言不滿らしき口吻を漏らす者なかりし一事と共に爲政者等に此國民の赤誠をよくよく善導して其政治に誤まりなからん事を期せられ度ものと冀望する儀に候。(十一月十日所見)

第七　提灯と國旗裝飾

誠と喜とを神に捧ぐる提灯は、至尊の御盛典に同じ誠と喜びとを恭しく捧げまつりて、至仁至高の上の御盛德に浴さんとすること、最と美はしきこと存じ候。

たゞ世の進歩と共に提灯の蠟燭は電氣と替もたる爲安全と便利は得られ、提灯裝飾は今後も倍々盛行する樣相成申すべくと存じ候。

慾を申せば、我等は從來の提灯の明りに於て其蠟燭の燃ゆる焰のきらめきに一種の美妙なる味を感ずる者なりしが、電燈にては其放先一定不變にしてたゞ光明なりと申す以外の妙味は無之を殘念といたし候。

但し一定不易はなか〳〵事物に期して得難きところ、公明正大は事に携はりて又甚だ執し難きことなるを考へ電燈の光明を以て此意義ありと認識する時は茲に科學の進歩は我等の心境にも又一段の光明を添ふるものと見申すべきか、此提灯は皆一種の日の丸の印に奉祝の二字を染めたる型統一されありて夜間の光景はなかなか美はしく御座候。此提灯立ての上の蛇の目の雨傘は京都らしき氣分を見す

る上に於て上乘のものに候。之は場所によりては無きのも有之、其處迄は統一出來ざりし樣に候。

國旗裝飾表祝の意義こそ至純と存ぜられ候如是至純、如是無邊、公明正大にして無窮永遠の輝きを意示するもの恐らく他に無之候。

我等は此國旗を以て我國の表徴が眞に世界無比たることを覺えて常に之を誇る者に候。

されば公と云はず私と云はず凡て表慶の場合に於て、此烈日光威耀榮萬古の日本表現の國旗揭揚が何物にも優り、如何なる場合にも通じて融通無碍に其宏遠崇高の意義顯彰を喜ばしく思ふものに御座候。

此國旗揭揚こそ「アーチ」や門や其他の一切の施設に優りて無限の威容を表現いたし居候之は今度の御盛典に於て遺憾なく表示せられ居申し候。

第八　橋の裝飾

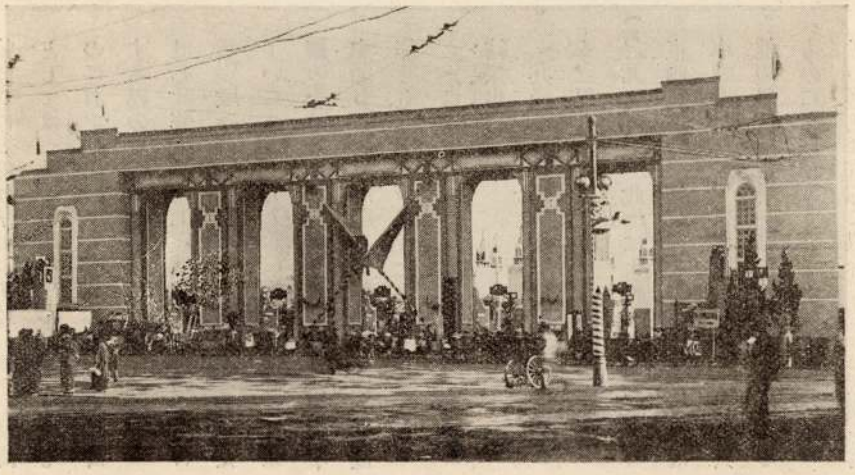
加茂川に架設せられある橋らしき橋には、悉く其言に裝飾的添加施設を見たるは餘りに御叮嚀なることと存じ候。

元來非藝術的なる土木的施設の中に於て獨り橋の欄干のみは、多少共に裝飾的施設のものに御座候。三條、五條の橋の昔しながらの日本風なる、よし其規模に於ては古今大分の相違は有之候とも橋その形式に於ては、我國の史的表現の代表の一たることを失はぬ面白きものに候。四條の橋にしてもたゞひ其橋欄の裝飾に幾多の批議は有之候とも、之又我國風を基礎としたる處に於て、即ち京都らしき點に於て一種の意義表現あるものに御座候。

今此等の橋と云ふ橋の欄干を矢鱈に裝飾的施設を加えたるは何の考へに候や、從來のそれが甚だ見苦しきものと云ふなれば、それは改善の方法も之有べく候。此等は其儘さいたし置きても決して差支に有之べきものにては御座なく候。

特に三條大橋の如き、其舊來の美觀を新らしき裝飾と稱するものを以て一時たりとも殆んど抹消し去ることなど奇怪至極と申すべく候。之は京都の面目の汚瀆に有之候。斯くては橋畔に俯伏せらるゝ高山彦九郎先生も驚歎痛惜せられて更に其悲憤の涙を流され申すべく、鴨川が不時の洪水でも來すことなきやを恐るゝものに候。

要するに橋と云はず家と云はず、之に加ふる裝飾は、扨其自體の存在を一屑明瞭ならしむることに於て意義有之、之を無意義のものとなすが如き加設は嚮てこりては思案に能はざる例に墮し、遂に餘計な失費をなしたるに過ぎず候。



京都大禮博西會場正門

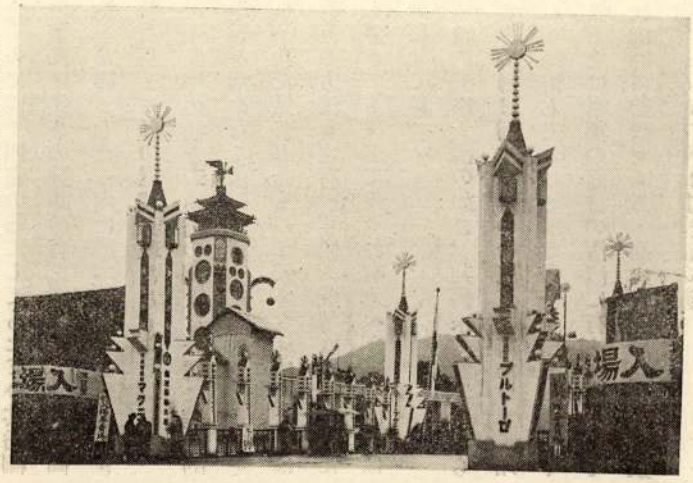
今此等の橋の裝飾を一寸大觀いたして、一二の說明的批評を加へ置き候。上流よりすれば

（い）葵橋。此橋は久しく京北の清淨區として世に著聞したる鴨御祖神社の神聖地に通じ、又北の方八瀨大原より比叡山に、而して東の方は京都帝國大學や吉田や白川の名勝地に通ずる要衝が在るものにて現時にありては其交通往來三條、四條のそれと更に讓らざるものに御座候。古來は此橋なく、行幸啓や御祭典の時のみ臨時に架設せられたるものにて候。而して本來の葵橋は現在のものより三町の北に在りて直ちに下鴨にのみ通じたるものにて有之候ひしが、先年洪水に流失して以來未だ架設せられず、元の出町橋が此葵橋の名を冒せるものに候。

橋は其欄干を三條、五條のそれの如き形に模して擬石造に有之、可なり御粗末なるが上に如上の通りの瀨繁なる往來なるにも係らず、夜間の其照明は皆無のものに候。

但し此照明の皆無なることは、たゞひ名ばかりには候得共、其歷史よりすれば寧ろ結構にて、それが爲に御祖の森の神寂びたる氣分今に甚だしく更えられざる點に於て效ありと申すべきものに候。

欄干を四間毎に腰は角形杉皮包み、其上は擬青竹打出し「ペイント」塗の鐵力板卷きとなし、根元を杉葉巻きとし、其上に同じく「ペイント」塗の扇面を立て、更に此上に旭光飾りをなしたるものに候。



京都大禮博東會場の裝飾塔

鐵力細工「ペイント」塗のそれ自體の安價貧弱さの表現は今更申す迄も無之、裝飾としては一種の申譯をなしたる程度のものに有之、美觀でもなき代りに醜惡と評する程のものも御座なく候。

但し此裝飾の仕上げは御即位禮の第一日紫宸殿の御儀に萬歲唱和相濟みても猶完了いたさざりしものにて、晝間は多少景觀の一と見られぬでも無之候得共、前申す通り夜間の照明なき爲其效果は全然沒却せられ施設の意義を失ひ居り候。

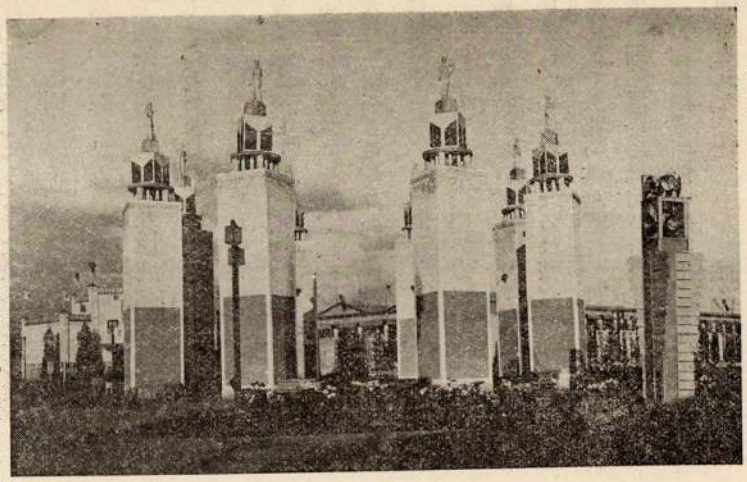
（之は十一月十日午後三時半過ぎ實見の結果也）

（其後十四日に至りて裝備完了、電燈つく、但し見榮えなし、十五日追記）

（ろ）丸太町橋。此橋は大禮記念博覽會場の東西連絡の交通路にも當り、平素より電車道路として、吉田岡崎の勝區、大學其他の學校地帶等を結ぶ重要性を帶びたるものにて候。

橋の形式は京都に似合しからぬ鐵欄を爲して、美とは申され難きものに候。

此橋の步道の兩端に木造朱塗破風造り、屋根を擬瓦造鐵力板張、棟と下り棟の四



京都大禮博西會場裝飾噴水塔

隅の五ケ所に大小金色の鳳凰を置きたるなど純日本の殿堂風にしつらへたるが、其中間は白ペイント塗の柱、同じき桁、陸橋等宛も洋式「パアーゴラ」のそれの様にて此間に充分なる連絡と調和は取れ居らず候。照明は陸橋の下端に電燈を垂加いたし居候て、可なりの明るさを有し居候へども、云はゞ和洋混交の、一寸見る時は宮殿の歩廊にでも入る様な感じあれど、之を過ぐれば其趣一變して、何の趣味もなき様に見受け申し候。

裝飾としての價値は夜間の照明によりて存するとでも申すべきか、晝間は格別の効なきものと存じ候。軒に垂れたる帳や又懸けたる額など御大禮にちなみて萬歳旛數多く稍々煩はしき感じは有之候。

(は)二條橋。之も非美術的なる橋に御座候其橋欄十二三間毎に又鉄力板「ペイント」塗の角柱を架設し、之に萬歳の額を懸け屋上には御光を立てられて候。

照明は屋上各面壹個毎の大電球を置き、柱冠下には同様小電球數個宛を並べたり此案は平凡にして別段の批評無之候。

照明の方面に於ても結構とは申されず候

(に)三條大橋。如何致して斯様な拙劣案を實施いたし候ひしか、之は二條橋と殆んど同一にして一層劣悪なるものに御座候角柱の比例甚だ悪く、色彩も又卑俗、此橋こそ其在來の姿其儘に差し置きて、夜間の照明だけを充分になしたらんには、如何ばかり京都らしき温雅清純の感を與へしならん、惜しき限と存じ候。

次手ながら一言添え置候。此橋の東口南端に建てたる正之高山先生の銅像は、東京萬世橋の廣瀬中佐の銅像と同様、あたら偉人を汚瀆するものに候。

(ほ)四條大橋。其歩道を鉄力板張角柱の柱列となしたるものに候、其塗彩暗緑色のものにて更に美と云ふ明快の感じを與へ申さず、之に御大典の威儀物模様など矢鱈に添加して俗悪の標本に有之候。

此橋と三條大橋の如きは斯る時機に際して尤も京都らしく純日本式の裝備ありてこそ優雅なる都大路の景觀と申すべきに折角の京都的氣分を破壊したる段は恐縮の外なく候。

斯くて京都第一の歓樂地區たる新京極に頗る淺薄凡庸なる洋風の劇場や寄席や活動寫眞小屋が續出して、千二百年の舊都たるの面影を失し、宛として新開地を見るに等しく此四條三條あたりからも漸次に京都的氣分は滅却せられゆくは如何にも無念に存じ候。

(へ)五條七條の大橋なども考へ居候得ども取立て、評判するだけの價値無之と存

じ候に付之にて止め置き候。

第九　官衙學校の施設

質實を尚び、純正を基とする學府に於て、其表慶の形式は最も莊重なるものに有之、と心窃かに期待いたし居り候に、態とらしき表慶門を假設したるなどは愚擧と存じ候。

殊に帝國大學までが御多分に漏れずしてか同樣の施設をなし候ことは常々指導階級として威張る處として、其權威を自覺せざる愚かしき至りと思はれて可笑しく候。

勿論理想は必ずそれの實現を期すべく、學府と雖も決して世間と離れて存在成立し得るものには無之候へば、此御盛典を奉祝するに人後に落ちざるやう心掛けあるは當然に御座候。

それにしても其表慶の方法には、自ら他と異なりて特別なる考案相立ち候はんかと存じ居候に、一向平凡なるは甚だ物足らぬ心地いたし候。矢張り其所謂理想は實學とかけ離れて、斯る場合には用ひられ難きものに候や。

京都府廳正門前の燈籠や、京都市役所東南隅のそれなどは必ずしも有之こその要なきやにも思はれ申し候。如斯洋風の建物に本邦固有の東洋風の裝飾を添加することは、之を別々に分離して見る時は差支然之候へども、之を一體として見れば何となく憐ならぬやうに存じ候。

但し平素如何に「バタ」臭く西洋かぶれの言動や生活樣式の種々相を何の遠慮もなく採用表現して、天晴れ世界一流の文明國の仲間入いたし居る顏も、いざ國家の大典御擧行と云ふ場合に遭遇いたし候ひては、是等の雜觀の一切を抛擲し去りて、何の執着もなく直ちに本邦固有の形式表現に立歸ること如此、國民の心の奥底に潛在する國體の精華意識は常に斯樣にして顯揚せられて輝々と其威光を發揮するものなることを國民が悉く充分に體得いたし候へば國礎萬々代に搖ぎなく誠に以て難有御事と我等感激に堪えざる次第に御座候。

第十　御大典紀念博覽會

世人は見世物興行的なる誤魔化し博覽會には最早見飽き果て居り候。民衆は其度々繰返へされる體驗によりて、今や博覽會に對する智識は格段に進歩いたし居候やう覺え候。

從つて博覽會の月並的規模より出でざる時たとひ文化住宅の懸賞や何かで如何に客を釣らんと試むるとも雖も、其不人氣なることは洵に當然と云ふべく候。

然らば我京都の御大典奉祝記念博覽會が、此等の事情を如何に見て企圖せられたるか、何等か清新の規模を立て、此機會に大に我日本と京都を世界人の前に展開して其名譽を發揚いたし居るやと申すに、我等は事期待に反して、全く左樣にあらずと思はしめらるゝを遺憾と存ずる者に候。

それを如何と申すに、第一古き建物をいつ迄も利用しやうと試みたるは年老ひし醜女の化粧を新らしくしたるとと同樣にして、幾回其化粧を仕直しいたし候ても、如何にそれを濃厚に致しても、其額による年限の皺は決して隱すに隱さるゝものにては無之候、それを試むれば試むる程倍々其醜を發揮し、寧ろ其良



京都大禮博第一會場の入口

からぬ輪廓を鮮明にするの嫌有之候。

東會場は即ち之に候。之を主體となしたる所に其出發點に最大の錯誤有之候。

元來岡崎公園の地たるや平安神宮の存在するによりて意義有之ものに候。即ち此神宮を主體となし、又中心となして其四隣の經營をなしてこそ最も多く有意義に其光彩を發揮するものと思はれ候處に、神宮を取巻く各種の建築に一向其趣致無之、其圖書館にしても又商品陳列所にしても、たゞ平凡なる洋風建築の展開に過ぎざるは予の常に遺憾に存ずる處に御座候。

博覽會の建築も第一に考ふべきは此點にして、何とかして神宮の建築と連絡統一ある本邦固有の樣式色調の發揚せられ得ぬものか、其處に一工夫を要せし義と存じ候。

特に最近出來上れる此神宮の大鳥居は其大さに於て日本一とは申され候得共、會場運絡の萬歲塔は全然之が存在を無視して、其間何の關係なきが如き、博覽會經營者の餘りに放心大膽なるには吃驚の至に堪えず候。

次手ながら一言いたし置き候。此神宮の大鳥居は不幸にして其始めより兎角の批判あるものに御座候。其第一は、神宮の彼が如き形式結構より見て、最初より之を無用なりとする點、其第二は鐵筋「コンクリート」構造の科學的可能性を誇らんが爲に徒らに其規模を大にして、更に神宮の建築と偕調のとれぬと云ふ點、其第三は色調の面白からぬと云ふ點、其第四は鳥居其物の「プロポーション」の宜しからぬと申す點なぞ頗る非難の多きものに有之候。

此鳥居が博覽會場に取込められる形して、僅に一個の博覽會の添景的施設と見做されて神宮の存在價値を傷つけ自らも亦蔑視せられると云ふ次第に候。

而して博覽會其物は其形式を一層不純亂雜にしたる嫌を生じて、自他共に頗る不利と相成居候點は惜みても猶餘りあることに候。

斯くて博覽會は其建物に此地に相應したる何等かの雅趣清新の意義も表現せられず、遂に定石的のものに墮して一向衆人の注目に値ひせず、間々個々に一寸宜しく思はるゝものも見受けられ候得共、それすら少しも引立たずに看過され申候。

然るに興行的博覽會の定則方略は茲にもそつくり繰返へされて踏襲せられ、人を集むるに種々なる餘興や懸賞の行はるゝことは何と批評いたすべきか、大都市の催物としては餘りになさけなき樣に存ぜられ申し候。

餘興は遂に博覽會にあらず、懸賞を以て入場者を集むるは其内容の貧弱を意味す。其演藝が如何に見事にして變化を極め居候とも、博覽會の目的は人の娯樂觀賞のみを目的とい たすにては無之候。御大典を奉祝して京都に於て行ふ博覽會は今少しく御大典との意味の連係あらまほしく、藝術の都、歷史の都に最も適合したる表現施設の試みられたらんにはと、たゞ此點に憾みを殘す義に御座候。

實に此博覽會は京都そのもの、殖産工業の發展には何の寄與する處も無之やうに候。

若し夫れ軒を連ねて内外に建てられたる賣店に至りては眞に沙汰の限りにして、艷けし色けし、感興を殺くこと極めて甚大に御座候

私は斯く迄して此博覽會の開設せられざるべからざる理由を知るに苦しむ者に候。蓋し職業的市會議員達の市政遊戲氣分の發揮以外何の根據も無之もの、樣にては京都市民こそ實に氣の毒千萬、此絶好の機會に其恥を中外に曝らしたるに過ぎざるは返へすゝも殘念と存じ候。

茲に我等の最も同情に堪えざるは斯る雰圍

氣中に於て裝飾や建築に從事せらるゝ技術者諸君の苦衷にて候。

既に申述べ候通り、京都市の大禮奉祝の施設は、田舍漢すらなか〳〵滿足いたさざる處有之候。思ふに技術者諸君には充分の力量手腕を發揮して最も美はしく京都情緒の展開をなさるゝの用意をさ〳〵怠りなきもの有之たるべきに、環境の制肘事毎に加はりて、結果の斯くも思はしからぬものと相成たる爲、折角の苦心に非難の矢のたち候こゝは甚だ御氣の毒と存じ候。

さて博覽會の內容をざつと一見いたし度と存じ候。

博覽會は產業振興の爲にとは申しながら、之は又余りに極端に商賣廣告に利用し過ぎ候ひて、全然建築の外觀の美を沒却し居るこそ淺間しき限りと申すべく候。

先づ東山二條の通よりゆきて道の兩側の裝飾柱を始めとし、疏水に架けたる橋も兎も角も、一切廣告に二重三重に便用いたし候て、其環境景觀の一切を隱蔽いたし居候は何と評すべきや、言ふも恥かしき心地いたし候。

第一本館前の何店かの五重の塔や山鉾の模型的建物など醜き物の一に數ふべく、折角の公會堂前は之等の殺風景至極の建物にて滅茶苦茶の有樣なるこそ苦々しき限りと存じ候。

第一本館正面中央の御化粧は前にも申述べ置き候通り、醜婦の厚化粧宜しくの體たらくにて、何の美的表現とも相成居らず候。

此入口前面の某保險會社の廣告噴水塔は、狹き正面入口の交通を邪魔いたし居る外、更に注目の價値批判を受け不申候。

又中庭に於ける某保險會社の噴水塔の如きも、其規模此中庭の其位置には些と大に過ぎて他との均衡取れ申さず候。

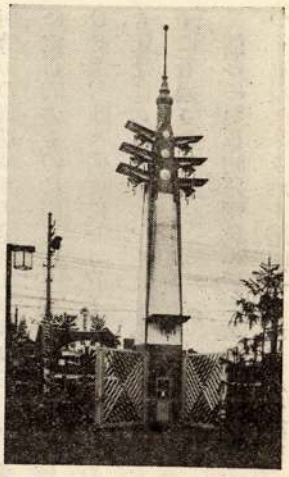
但し斯樣にして公衆の注目指斥を受くることが癪て其會社の商賣廣告の充分なる目的を達したりと申さばそれ迄に御座候。

此正面玄關の東側に滿蒙館有之候。滿洲蒙古は政治的經濟的關係に於て我國とは極めて「デリケート」にして且つ密接重大なる地域なることは日清日露の二大戰役を以て我國家民人が至大の犧牲を拂ひたる過去の事實よりして國民の周知し居るべき事に候。

從ひて此館は其位置に於てもつと重要の場所に優遇せらるべき筈のものに御座候。兩大戰役以來僅に三十年になるやならざる今日に於て、國民の大部分が其生々しき歷史事實を忘却して滿蒙と我邦との關係如何を知らず、爲政者が頗る重大なる交涉失敗をなすも全然他事同樣看過して少しも義憤を發せんともなさざる國民に的確なる智見開發の便宜といたす意味に於ても最も重要なる場所に位置せしむべきものに候。

にも係らず斯る一隅に縮こまり居候處に、第一に此館の建設を無意義と致したる嫌有之又其建築樣式に北支那一帶に普通見る處のものを取りたるは別段の難は無之候得共、內外共に施工粗惡にして折角の支那建築の美的表現とはなりをらず、其規模少さくして此雄大なる封土の表現に相應せず、多く公衆の視注する所とならざるは惜しき事に候。

臺灣、樺太、朝鮮の諸館の如きも、又外的殖民政策の助長開展の爲には可なり重大性を帶ぶる物に有之候。然るに此等諸館の位置は



京都大禮西會場出入口

又決して良好なりとは申し難く候。

元來此等の疆土は何れも比較的未開の狀態に有之、未だ其殖産工業の內地同樣に開發せられたるものは無之、特に滿洲蒙古の如き、其封疆の廣大なる、農牧山林に無限の富を包藏いたし居とは申しながら、此農牧が頗る原始的位置にありて、多くの產業的製產物無之ものに御座候得へば、悉く此等の土地が獨立の一館を建設して、其貧弱なる內容に公衆をして失望せしむる舊來の方法は考慮を要すべき義と存じ候。

個々特殊の建物を經營して其形式表現に苦心いたし候ても、畢竟同じものを繰返すこと、相成、而して內容の我內地の如くならざる時、共に失敗の結果に墜し候ことを想像いたせば、此等を一個の建物に取纏めて內容出陳の方法に其地理的歷史的背景を加味したる新機軸を出す方遙か優れるもの有之と愚考仕候

萬歲塔の建物こそ頗る不可解のものと存じ候。何として斯る馬鹿げた粗大のものを建築いたし候か、平安神宮の廣場は之にて全く打壞され申し候。折角苦心の結晶にして市民の醵金による大鳥居すらも種々なる批判を蒙り居る際、少しは考へて物を取扱ふべきことに候。

之ぞ即ち無用の長物、よくも斯樣なものを案出いたしたるかなとたゞ呆然たるばかりに御座候。慶流橋の欄の添加裝飾、それに隣して建てられたる廣告物、孰れか醜ならざる、悉くの建物は徹頭徹尾廣告に悉用せられ居候

抑も商賣繁昌の爲には、山水の美容も、建物の雅趣も、一切犧牲として恬として恥づることを知らざる者の方賢こく候や、或は又之を利用して興行的に利益を擧げんと謀りたる市の經營者の方一層賢こかりしや、我等は對內的には甚だ失望し、對外的には最も恥かしく感ずるものに御座候。

樺太館。寧ろ純粹素撲の山小屋の形式でも用ひ候ひし方其地方表現として最も優りしにと思ふ者に候。

臺灣館。旧舍の活動寫眞館でも、優に之に過ぐるもの御座候。たゞ阿里山材による純本邦風の建物のみ有價値と考へ申し候。

朝鮮館。之に未成品と存じ候。屋蓋、棟等その形更に整はず、畫龍點晴は愚か鱗すら畫かざるは奇怪に御座候。在朝鮮の新たなる同胞は斯る建物によりて解釋せらるゝことを嘸かし悲しみ居るべくと存じ候。

見來れば此等の建物を個々に建設したるは徒らなる費用損の外何の得る所無之候。將來の博覽會に於ては此點を考慮一番して大過なきを期せられ度ものと思ひ候。

第二本館。是は評する値なしと存じ候。

西の會場。此地は全然新たなる計畫により經營せられたるものに候。西門。本館等其入口の形式など稍見るべき樣に候得共、惜しむらくは其工事極めて粗惡にして、折角の案も其輪廓すら正確に表現せしめ居らず候。

希望として申し候得ば、此會場は門も陳列館も一棟の連續的のものをして取纏めたらば工事の粗雜は有之候とも、幾分其入口等の主要部にも力を注ぐ事出來候ひて、多少見榮えいたすものと相成候ひしかと存じ候。

八幡製鐵所の特設館も其性質上もつと簡にして宜しかりしかと思ひ候。

東西會場を通じて賣店の飮食店などは沙汰の限りに候。兎角博覽會の景觀を殺ぎて煩はしき氣分を起さしむるものは此等の店に候。

此等も經營者として一番營利を離れて親切なる工夫をなすにあらざれば、遂に世人は博覽會其物に絕對信用を置かざる樣相成可申、深く戒心すべき次第と存じ候。

跋語

默つて側聞いたし居候得ば、田舍の甲乙人と丙丁者は、共に無作法至極に頗る得手勝手な妄評を下して嬉々として數百千言、なか〳〵盡くる所もなき樣に有之、最早聞くもつらく、之を筆寫することは猶更の迷惑のことに有之候に付茲にて切上げ申すべく候。

彼等の言議は間々正鵠と思はれ傾聽に値する點も有之候へども、又甚だ向ふ見ずの愚說も有候、讀む人幸にて可然判讀有之度候。

詮ずる處、彼等には京都と云へば直ちに其一千二百年の帝都と其山川社寺と歷史が響き美術工藝の中心として今も猶我國第一の優越位置を保てるものと信じて、此京都の現狀を餘り重く見過ぎ居るにあらずやと思はれ候。

何かと云へば公に皇室に於て行はせらるゝ特殊の大典が此地に於て行はるゝ爲に京都の市民は少々慢心し增長して、一向平素に於てそれ等に關する充分の用意を整へ置くでもなく、我皇室と殊遇恩寵に浴しながら、ひたすら之に感激するばかりにて、當然爲し置くべき事を閑却し、一朝事起りて始めて周章狼狽し、突嗟の間に事をなさんとして反つて折角の誠意の表現方法に失敗し、其結果として無智の田舍漢迄も欺瞞する樣な態を憤慨しての言葉とも存じ候。

京都に於て尙ぶべき點は田舍漢の感心を待つ迄もなく、其山川が飽く迄清らかなる狀態に存する點に有之やう覺え候。而して其山川と社寺が共に其一千二百年の歷史を極めて明確に連續展開せられ居ると云ふ點に存する樣に存じ候。

されば京都の市民としての覺悟の第一は、平素に於て其山川社寺の特殊なる景觀宏麗の舊態を最も完全に維持表現せしむるに全力を盡くすべき事にして、之に其土地の衞生的施設を充分完備せしめて、何人をも安心して觀遊出入せしむべき樣にし、其御大典行事を最も淸醇に取扱ひて、入洛の男女をして一に其典雅優麗の氣分に滿足せしむることに有之べくと存ずる者に候。

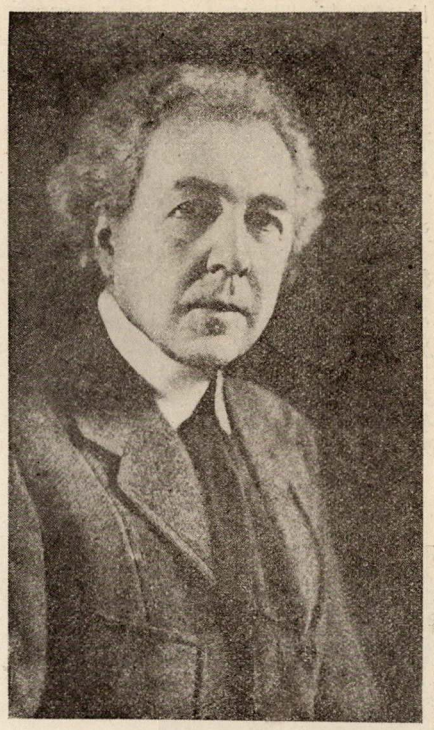
特に其建築や裝飾や、否一般的なる都市經營に於て、之に携はる理事者が、能く此市の特長と市民の心境を明察透觀して、決して一時を粘土塗粉飾するの場當り的表現を試むることなく充分研磨洗鍊せられたる正しき藝術的作品を提供する心掛を有つべきことに候。

今度の諸施設を見て、我等も又痛切に感ぜし一事は其案の始め善美にして、實施に於て甚だしく劣惡の結果を來し、雲泥の差を生じたることに候。

如此は之が實施の任に當りし者の技能拙劣なりし爲か、或は其心事に於て一點純ならざりしものありしが爲か、兎に角御大典は何個月に於て終了する行事なるが故に、如何程の批判を受くるも、それは畢竟一時的の假象に過ぎずして永く人の言議に留まるものに非ず云はゞ旅の恥は掻き捨てなりしと云ふ樣な心掛を持ち居し爲に候はずや、警むべきことに候、萬一如斯考を持ち居たりとすれば實に言語同斷に候。

最後に申添え候。京都には帝國大學を始め高等工藝學校、繪畫專門學校其他の技藝各般の大中小殆ど全部の學校存在するやうに覺え候。此等の學校は、其教育機關としての任務は單に教壇より子弟に學問を授けるだけのものには止まらざるべく、平素よりして社會萬般の事件に對し、其學究的公明正大なる批判指導の權威を發揮せらるべき位置を爲せらるゝものと存じ候。從ひて間接此贐古の御盛典の市民慶祝の行事に際しても直接に指導せられしならんには今一層立派に奉祝の實を擧げ得られたることと存じ候。

思ふに市民は此權威者の意見を傾聽するの充分なる雅量有之べく候へば今後と雖も事の中外に對して京都の面目に關する場合、否國家的に日本の地位宣明の折柄なぞには堂々と忌憚遠慮なく其所懷を公表指導せられ度く希望の至に堪えざる義に候。昭和三・十一・十四



ライト氏

建築道の爲に

フランク、ロイド、ライト

名古屋高等工業學校
建築科助教授
松永德昌
城戸久譯

一、建築家と機械

機械は厭でも應でも建築家の道具である。然し建築家がこれを支配するに非れば機械は彼を支配するに到るものである。機械？然らば機械とは何か？其は人間が自らの創造力によつて其の腦髓から造り出した物である。——或る特種の仕事を機械的に自動的に、倦まずたゆまず、且つ人間が爲るよりもより安値に、時にはより良く爲さしめんがために。

完備した機械は私達人體の機能と驚くほどよく似て居る。今試に完備した機械裝置をとつて之を人間の機能と比較したならば、何人も此の類似を對照指摘することが出來やう。しかも機械——原理としての機械ではなく手段としてのそれ——が此世に表れて尙ほ新しい。にも拘らず既に斯の如き成功を收めて居るのである。然し機械力の此の成功は人間から其古き理想を奪つた。何となれば人間の理想も元は手足の機能に關したものであつたからである。今日吾人は足の代りに車輪を有ち手の代りには精巧な代用物を有する。又原動力としては、あたかも心臟や腦髓の一部の如くに作用する眞鍮や鋼鐵の機械があり、又生のエネルギーとしては爆發物或は膨脹體がある。かゝるからくりの世界は近代人の腦裡から多分に創造のエネルギーを奪ひつゝ次第に此世の勞役を司りつゝある。

然るに、自ら制御するを得ない機械は人間の操縱如何に依つて解放の機關とも又奴隷化の機關ともなる。

又機械には原動的意志がない。從つて人間は自ら創造せるこの怪物の背後になほ依然として存在して居る。即ち人間なくしては此の怪物は萬事休するに至る。私は茲に機械を怪物と稱した。何故救世主と言はなかつたか。それは機械は之を驅使するもの即ち動かしたり停止させたりする人の意には及ばないからである。

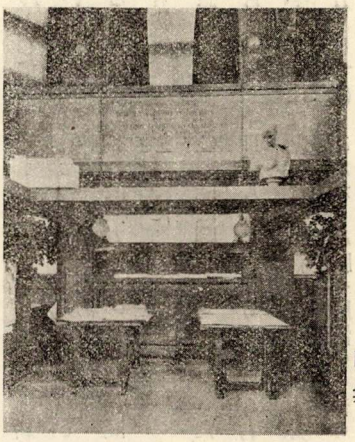
人の飽くなき欲求は奴隷に依つて『ギリシヤが有せる光榮やローマが有した壯大』に於て遂行せることを現代に於ては機械に依つて成しとげるのである。——而も無限に增大した範圍に於て。今や人間の本性に巢喰ふ貪欲性は機械を用ひることに依つて全人類を奴隷化せしめんとして居る。——爾く機械は速やかに非常に進歩したものである。この事はモロツコ神の如き近代の機械のみを研究することを止めてより大なる範圍に渉つて之を觀察するの暇ある人にとつては明なことである。

而して見よ！之迄全ての時代に於て幾百萬の人が手足の背後に存在する自發的意志に依つて權力の壓迫に苦み、奴隷とされ酷使せられて虐殺されて來たことか。だが而し現代に於ては之だけの差異——弓矢と彈丸の差違がある。昔時百萬の人を殺戮するに少くとも數千の人を要したのに反し、今日は機械を持てば一人にして百萬の人間をも殺戮し或は奴隷とすることが出來る。而も機械の背後に在る人間は何等彼の良心に關はる所はなく單に人格無き力を發動させたに過ぎない。如斯機械は殺戮者である如くに、亦下僕でも有り得る。では一體何で有るべきであらうか。之を決定するは正に創造力を有する藝術家であつて他の何人でもない。此事柄は小なる範圍に於ては單に社會學的であり科學的である。元來機械を使用するのは生の保全のためであつて破壞のためではない。人間に更に豊かな生活を持たせるために機械を使用するのである。機械を支配するところが、人生と、人生としての要求を理解し、機械がよく爲し得る仕事を機械に與へるやうに十分に機械を理解し且つ此の目的に適ふ如く機械を使用するに非らざれば機械を使用することは眞の意味に於て生を保全し得るものではない。

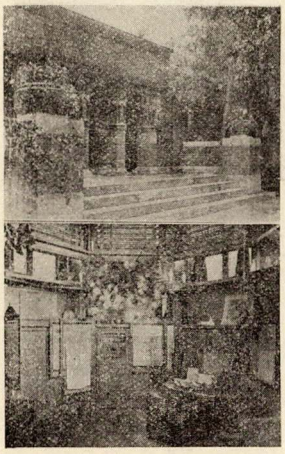
各時代には各の技術が有つた。各時代の技術は常にその製產組織や道具の問題であつたか或はその組織や道具が技術の問題であつたそして其何れたるを問はずこの事は今日に於ても全く事實である。

現代は現代特有の技術——而も不幸にして無制限の技術を有して居る。組織は變化せられ機械は私達の一般的道具と化して居る。

アメリカ——カナダやブラジルも亦アメリカであるから私達はユナイテツドステートと云ふ意味でユソニアと呼ぼう——このユソニアは機械に身を托し怒るべき程度に機械製と



左同室 同裏



エリトアイの氏トライ

上・玄關　下・圖書文庫

なつて居る。今日迄に、機械の背後にあつて機械を支配した心が機械の存在を是正する爲に機械を以て果して如何なる事をなしたか。又機械の性質に適應した如何なる仕事が機械に與へられたか。技術の點に於て、單に動作の速くなつたこと以外、人生に役立ち生を保全すると眞に云ひ得る所の何物が機械の使用に依つて我國に發達したか。

多量生産か？そうだ。私達は何でも昔の十倍程の多量を有つて居る。而し其等は人生に對する質に於ては昔の同一物の十分の一より尚價値少きものである。そして事物の中に反映せられた創造的生命は優美ならざる實用性の外には全く滅びて了つて居る。私達は過去の事物に依て生活して居乍ら不謹愼にも之を變革しようと試みて却つて之を不具にして居る。量に於て十倍にして居る以外に何物をも創造して居ない。生産の途中に事物の精神を抜き去つて死殻貝殻——何れであらうとも吾々の所有するものは斯のたぐひである——に滿足しやうとして居る。

人間に依つて作られた物は凡て『生』に値するものである。其等は單に、生活の功利的目的に役立つて居るばかりでなく又それが物としてとつて居る形にその用途の性質表現する程度に『生』を享有し得るものである。曾つてそれは其等の物の中にある美であつた、そして之は其等の物を使用した人々の生活の質を證明する證左であるが、此を爲すには物を作ることに愛が注がれたのである。物を作ることに生命あらしむる愛の歡喜のみが之等の物を製作した文明の質を是認し、或は否認するものである。

年月の流れと共に勃興し、沒落せる凡ゆる偉大なる文明の記錄を見よ、そこに諸君は物を創作する歡喜としての愛の證左を認め得るであらう。創造的な藝術家——即ち愛するが故に作りつゝある物に愛着を有つ藝術家——が事物に生命を與へたのである。そして夫等は人間——人の生に對する愛と理解こそが夫等の物に反映して居る——の死後數千年の後もなほ生存して居るのである。私達は此等を貪る如く研究し、哀心讃嘆して大に此等の美の秘密をば學ぶことが出來る。

乍然、果たして私達は斯くして居るだらうか。又私達はこの神聖なる遺産を如何に處理して居るだらうか。私達は之を機械がなし得る所のもの、百倍千倍のものを得んがために——普遍的な無知な事實であるが——機械の胃の腑に平氣で御馳走して凡る感情を亡ひ、而も之を進歩と稱して居る。其故に私達の技術は複製と模倣と遍在とに依つて成立して居ると言ひ得る。過去の時代は斯る汚濵の形式より救はれた。と言ふ半ばの理由は他人の手に成る作品を自らの手に依り模倣することが如何にも馬鹿氣た事であつたからである。手では滿足に行かなかつたのであるが機械では全く滿足に行くのである。さればこそ現代の多くの人々は人間の理解力に何等の密接な關係を有せざる模倣物として曾つては情意の表はれなりしものを有つて居る——云はゞ、ものに生命の愛を反映せしめた人々の精神を有つて居る。

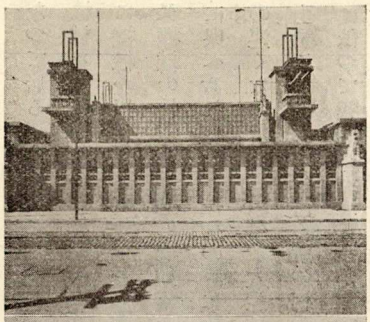
私達ユソニアンは如何なる人種にも劣らず人生を愛して居るだらうか。私達が人生を矢張り量で考へやうとして居る——質の劣つて居ることを顧みず凡ゆるものを鑵詰の如きものに考へて居るといふ事實は昔のことだらうか。人は鑵詰の食物に依つて十分生存して行かれる。だが併し殆ど原始動物の生活形式で鑵詰生活を國民が果して爲し得やうか。而も無限に？鑵詰の詩、鑵詰の音樂、鑵詰の建築

鑵詰の娯樂、全てが機械に依つて鑵詰にされて居る。私はかゝる狀態に疑惑を抱くものである。私の周圍は此の狀態で進んで居るけれども、これには限界があるものである。私達は最も有効に機械を道具として使用し、私達獨自の方法で生活の萬物に生命の愛を注ぐ技術を有たねばならない。然らざればやがて私達は全く生活に生ある何物をも有しなくなるであらう。然らばそれを如何にしてなすべきか。又如何にして何人もが道具を支配すべきか。それは道具の性質を學ぶことに依り、又習練に依り道具が一事に對し、何物を如何にして最善になし得るかを發見すればなされ得るのである。

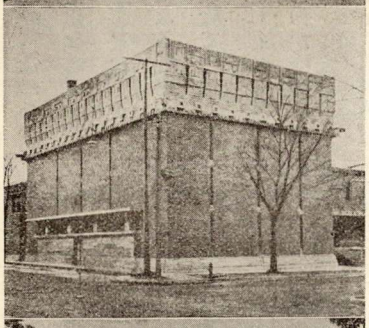
之を先づ建築家が機械に對する場合に就て見よ。建築家はその時代の製産方法の支配者であり又あらねばならぬ、そして彼等は其時代に於ける生命の愛の飜譯者であり又あらねばならない。彼等は其生活の背景に歩一歩、此の愛を表現することを學ばねばなるまい。然らざれば彼等は自己の職務を裏切ることになるだらう。此のことたるや、デモクラシーに於ける文明の正しき指導者としての彼等の力と共に、非常に必要である場合に於ては決して起るものではない。今日に於ては石工、佐官、大工、彫工、畫工たることは左程建築家の助けとなるものではない。

（つゞく）

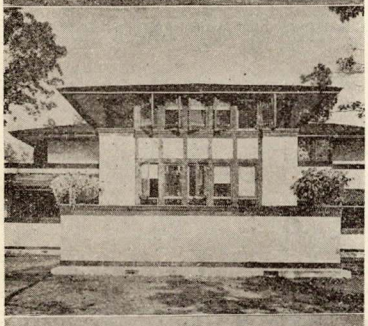
（Architectural Record 誌一九二七五月號載所）



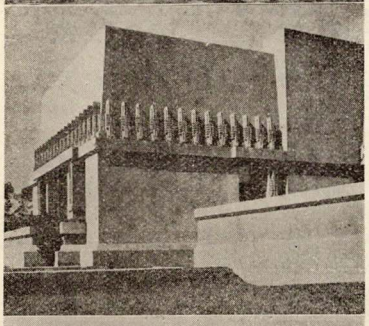
ライト氏作品
シカゴ遊園
東面中央部



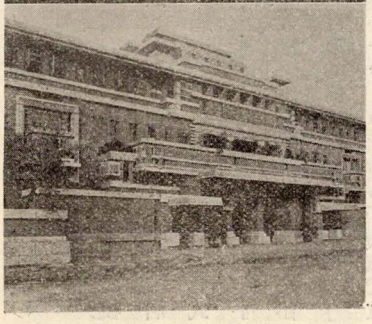
倉庫



ウイリツツ氏邸
外觀



バーンスドール氏邸
一部詳細



帝國ホテル
外觀



ランファン（一）

都市計畫家銘々傳の五

藤田進一郎譯

都市計畫家としてのピーター・チヤールス・ランファンの傳記は、アメリカの首部ワシントン創建の物語とは、ほとんど切り離すことのできないやうにこんがらがつてゐる。しかし、こゝには事實の分類をして、まづワシントン市がどうしてできあがつたかを說き、然るのちランファンの生涯とその都市計畫とを述べることにしやう。たゞしこれは、便宜上かうするのであつて、あへてこの二つの不可離の題目を截然區別して、その一つ〳〵について詳細な年代的記述をしようとするのではない。

一　首都の爭奪

ある一州のみに偏せず、殖民地全部にわたつて、共通の一つの首都を建設しやうとする思想は、一七八三年の條約調印前から、すでに存在してゐた。ところがそれがいよ〳〵表面の問題となつて現はれてくると、猛烈な首都の爭奪戰が、各州の間に始まつたのである。まづハドソンの上流約百マイルにあるキングストン市民は、もし自分の町を首都に指定してくれるならば、聯邦政府用の建築物の敷地として百エーカーを寄附し、かつ一切を國民議會に譲り渡し、國民議會の所屬としてその節度をうけるやうにしてもらひたいといふことを提議した。

この一切を國民議會に譲り渡し、國民議會の所屬としてその節度に服するといふことは國民全體の國民議會をして、ある特定の一州の恩惠に浴せしむる必要をなくならしむる妙案と見られ、遂に最後まで首都創建の根本條件の一つとして受容されたのである。現にワシントンの所在地は、いかなる州からも獨立し、議會によつて統治されるといふ意味で、フェデラル・ディストリクト・オブ・コロムンビアと呼ばれてゐる。

メリーランド州も、そのアンナポリス市と州廳と、『公共廣場（パブリック・スクエア）』と、州の通貨三萬ポンドとを、ヴアージニア州もまたそのウィリアムスブルグ市と、州立法院議員の官舍十三戸と州内で希望の土地二十五平方マイルとを寄附

しやうと申し出た、なほニュー・ジャーシー州からも、ペンシルヴェニア州からも、ほゞ同樣の提議があつた。ここにペンシンヴェニア州のフィラデルフィア市は、初めて自由の鐘の鳴りひゞき、かつ現に大陸會議の催されつゝある土地だといふので、是非こちらへとの強硬な主張である。

これには、りつぱな理由のあることであつたが、一七八三年六月のある日の出來事のために致命傷をうけて、遂に葬られてしまはなければならなかつたのである。議會はちやうど開會中の事であつた。給料の支拂ひを待ちくたびれてゐた歩兵の一隊がランカスターから進發して、獨立閣（インデペンデントホール）を包圍したのである。給料の支拂ひを強制するため、脅迫が目的であつた軍隊は、說き伏せられておとなしく退却したけれども、危險を感じた議員達は州廳の役員に向つて、守備軍の召集を要求した。翌日になつて早速要求どほり守備軍は召集されたが、議會はなほ物騒だといふので、ニュー・ジャーシー州のプリンストンに移動し、その後さらにアンナポリス、ツレントンを經て、最後にニューヨーク市に納まり、フィラデルフィア說は、遂にお流れになつてしまつたのである。その頃すでに、法律をもつて、會議の場所として一または三平方マイルの聯邦所屬地を設くべきことが規定されてゐたが、場所はまだ確定してゐなかつた。

首都建設の歷史は、さらに別の方面からも觀察される。一七八四年、新らしく出來たポトマック會社は、オハイヨ河の潮流を通ずる運河の鑿開計畫をたてたが、これはポトマック河は、太西洋と中央谿谷とを隔つる山脈の裂目の一つに沿うて流れてゐるのを利用しようとしたのである。社長はジョージ・ワシントンであつた。この工事の區域内には廣大な土地が含まれ、三州の協調を必要とした。いろ〳〵交涉してゐるうちに、現在州と州との間を結びつけつゝある『聯邦條項』（"Articles of confederation."）はこのやうに大規模の事業を實行するには、極めて不完全であつて何等の安全保障をも與へないものであることがわかり、その後だん〳〵とその修正が行はれ、遂に一七八九年の憲法會議において、有力な一つの中央政府を組織し、大規模な全國的事業をも、支障なく實行のできるやうにすること、および同時に、ある特定の州の寄附に係り、アメリカ聯邦政府の所在地たるべき（十平方マイルを超えざる土地）を統治すべき全權をも議會に附與することを決定したのである。

新議會はニューヨーク市に開かれた。議場にあてるため、遠かにその市廳舍を改造したが、そのときの建築技師は、餘人ならぬランファンであつたのである。ランファンの作つた聯邦大廣間（フェデラルホール）は、非常な賞讃を博した。その大露臺（グランドバルコニー）において、第一期の大統領ワシントンは、就任の宣誓式を行ひ、その多くの會議室のうちでは、一七八九年から、一七九〇年にかけて、若き建築技師ランファンの生涯の仕事に關するやうな重大問題が、熱心に論議されたのである。首都をどこに定むべきかといふことについては、南方諸州と、北方諸州との間に、意見の相違があつてなか〳〵一致をみない。ある一派はツレントンの奥デラウエア河の瀑布地方がいゝといへば、他の一派はまたポトマック河沿岸の一地方を主張して、互ひに降らない。

すゐぶんきわどい掛引も行はれたが、何分現在の一時的首都は北方のニューヨーク市にあり、それが有力な抵當物の一つとなつて、北方側の勝利に歸し、ツレントン地方を調査

する委員會が組織されたのである。ところがどうした事のゆきちがひか、二週間後になつて、ポトマック河上に第二の首都を建設しようといふ法律が、偶然の事から多數で通過し南方側が大氣焰をあげる事になり、ニューヨーク市の假りの首都も、どうやら賴りないものになりかけてきた。國民のうちには、首都の位置を、かうしていつまでも決定せず、あちらこちらと持つて廻るのは、國家としていかにも威嚴のない始末だと批難するものもあり、首都の座は、方々へ自由に引つぱり廻すことのできるやうに、乘物作りにし首都にはなくてならないワシントン將軍の騎馬像も車輪じかけにしておくがよからうなど、冷評するものもでてきた。

そこへまた他の問題がおこつて、ます〳〵國論を分裂せしめた。北方諸州は、その首都たるべき西部地方とびきかへに、戰時の負債を棒引にしてもらひたいといひだしたのである。ハミルトンは西方の主張を審判し、ゼツファーソンはヴァージニア州出身の議員を說き伏せ、公債案は通過、數日の後に成立した住宅法をもつて、首都の所在地はポトマック河上たるべきこと、それの竣成する一八〇〇年までの假りの首都は、フィラデルフィアたるべきことを規定したのである。

二　地の利

かくて決定されたポトマツナ河畔の指定地の地形をみると、どこかイギリスのロンドンに似てゐる。つまり實際において、イギリスの首都を形成した原則を、理論的に應用した結果決定されたものに外ならないのである。それは人江の咽首にあり、海に出口をもちながら、海からの攻撃には比較的安全でもあれば、河流を通じて、背後の奥地とも連絡することもできる。最初の橋梁または渡船場に位置して、南北交通の要衝にも當つてゐる。どうしてもでたらめに決定されたものとはいへない。おまけにマウント・ヴアーノンにあるワシントンの閑居からは、あまり遠くもない距離にある。數へあげるとい、條件ばかりである。なほ外國人などの輕視しやすい一つの要素としては、當時北米においては、新都市の建設、分地の計畫、土地の賣買が、大流行であつたことをも數へなければなるまい。認許都市（ファイアット・シティー）とあとから〳〵と續いてできあがる。雨後の筍町とは、實に、殖民地觀念（コロニアル・イデオロギー）の一部であつたのである。



ワシントンの國會議事堂西側正面
背面は圖書館前通つて以下道へ右側の建物は議會事務室

三　建設委員會

一七九〇年十月、ワシントン大統領は、法律をもつて首都に指定されたポトマック河の流域を訪ひ、ジョージタワンと東部支流との間にある極南部を選定し、アレキサンドリアの裁判所から適當の距離と、方位とをもつて聯邦地區（フェデラルディストリクト）とする旨を宣言し、法律の規定に隨ひ、一切の事業を經營すべき三人の委員を指名した。一人は醫師、一人は法律家で後大審院の判事となつたもの、一人は國會議員を罷めて間もないものであつた。この三人の委員は、最初はみな日給で働らいてゐたがその後市内に住居するといふ條件のもとに、年俸千六百ドルを支給されたのである。市内居住を條件としたのは、事業監督の經費を節約し、訪問客に對しては何時でも委員から分地の案内ができるからであつた。委員は度々更迭した。議事堂建築主任のソーントンも、かつてそのうちの一人であつた。

四、土　地　獲　得

ワシントン大統領が、首都のうちに包含させようと企てた土地は、二つの小さな紙上都市（ペーパーシティー）における十九人の地主および多數の分地保持者のものであつた。ワシントン大統領は秘密にジョージタの二人の友人に交渉して、地主ら相談して何か面倒な問題をひき起しさうな土地に對して、他に撰擇權を獲得せんことを依頼したが、その後、まさに建設されんとする首都の正確な地位、少くともその中心をどこにおくべきかといふことを公表する前に、まづ次のやうな條項の承認を求めたのである。

一、土地は全部二人の保管委員に委託すること。

二、市を、街路、分地、および公共使用地に分割すること。

三、地主に分地の半分を返還し、公共建築物並に公園に使用した土地に對しては一エーカーにつき六十六ドルを支拂ひ、街路に使用した土地は無償とすること。

この條件は、明かに、街路の數および廣さに關して、事業當局者に非常な自由を與ふることとなつた。原案どほり實現された曉には全面積六千百十一エーカーのうち三千六百〇六エーカー即ち五十九パーセントは街路に充てられ、五百四十一エーカーは公共使用地として買收され、九百八十二エーカーは政府の手によつて買收された分地となり、九百八十二エーカー即ち十六パーセントは所有主に返還された。分地の總數は二萬二百七十二個、正味一エーカーにつき十個の割合であつた。再分された各區劃を、さらに偶然政府に割り當てらるべきものと、地主に割り當てられるものとに細別したのである。

地主の大部分は直ちにランファンの計畫に贊成した。これはむしろ驚くべきことであるが、理由のあることである。つまり、建築に割用さるべき一エーカー内の面積が比較的に狹いから、この分では、將來市の近郊に向つて大に發展し、市の周邊の土地の所有主に、早晩大利益を持ちきたすものと、見てとつたのであつた。

建設委員は、土地の獲得に少しも收用法を用ひなかつた。メリーランド州は、一定の面積に限り、無償で土地を收用し得る法律を作つてはゐたが、この權力は單に一種の脅迫にすぎないとみられてゐた。一七九七年ワシントン大統領は、市の土地保管委員に對し、街路および公共の目的に使用する土地を、永代借地の形式で、建設委員に寄託することを通告したが、最初地主との契約は、十分に有効

であるといふ檢事總長の意見に基づいて、その儀に及ばずといふことになり、土地の公有が記錄に止められるに至らなかつたのである。

五　測量と計畫

聯邦地區の位置もきまり、建設委員も任命されたので、地區の境界を決定するために、ワシントン大統領はエリコット少佐を雇ひ入れ、同時にランファン少佐にも、その測量と、都市計畫の立案とを依囑した。ランファンはポトマック河畔に到着して三日目に、ゼツファーソンに對し、今度首都を建設しようとする土地の、いかにも理想的であることを熱心に書きおくり、三週間後にはすでにワシントン大統領に對して、計畫の大體の輪廓を描いたものを提出してゐる。ワシントン大統領もまたランファンと一緒に現場を視察し、土地の測量にも深い經驗のあつた彼れとて、間もなく自作の一般計畫のスケッチを送つてきたそれにはゼツファーソン自案の計畫略圖をも添へてゐたが、それは簡單な基盤目のものにすぎなかつた。多分ワシントン大統領のも、これとあまり變らぬ程度のものであつたらうとおもはれる。六月に初めて現場を檢分してから、四ケ月もたゝないうちに、ランファンはその計畫原案を完成し、ワシントン大統領の手もとに届けたのである。その後さらに市の位置に關する會議が開かれ、對角線街路の數を原案よりも少くしたり、大統領の官舍を少しく西寄の高臺に移したり、多少の變更が加へられ、修正案と、長文の報告書とは八月になつてできあがり、十月には分地の競賣が行はれたのである。建設委員はその完成したランファンの原案を製圖して印刷に附せんことを迫つたが、ランファンにとつては、これは容易な事業ではない。それには、大部分森林であり、かつ最近の伐採作業から、殆んど通過することもできないやうな土地を、可なり廣い面積に亘つて測量しなければならなかつた。ある程度までは事業の監督をもしなければならなかつた。また運河や橋梁や、公園や、公共建築物の詳細な研究をもしなければならなかつた。しかも、かれの計畫は、單に紙上で描ちあげたものでもなく、信賴するにたる地形圖から作りあげたものでもなく、正確な位置のはつきりと分らないやうな地上の點をたよりに、整理しなければならなかつたのである。その秋ごろから、ランファンと建設委員との間に、何かにつけて意見の衝突があり、地圖の印刷の遲延と同時に、その間柄がだん〳〵と面白くなくなり、遂に最後の決裂となつたのは、ランファンの任命後約一ケ年を經過してからであつた。ワシントン大統領も、深くこれを悲しんだが、かれとしては建設委員の意見に賛成しなければならなかつたのである。

分地を賣却するための計畫の準備は、エリコット少佐とその助手たちによつて行はれ、さらに後任者によつて引きつがれた。測量の全部完成したのは、一七九五年六月であつた。

六、建　設　期

法文の規定によると、議會は一八〇〇年十二月、新首都において開會されることになつてゐる。建設委員は、都市の計畫をしなければならないのみならず、議場や大統領の官舍をも建築し、かつ有志を勸誘して、ホテルや住宅をも建築せしめねばならなかつた。街路の清掃と地ならし、橋梁の架設、議事堂に荷物を運搬するための運河の開鑿、埠頭の設備

等は、さし迫つた重なる事業であつた。一七九一年ランファンは、礎石の石切場を選定し翌年には、懸賞つきで議事堂および大統領官舎の設計案を募集したが、經費と時間との制限内において、その目的に合致したやうな立派な設計案をめつけるのは、容易なことではなかつた。建築技師の間には、たえず些細なことで喧嘩口論が初まり、かつ適當な職人を狩り集めるのにも種々な困難が伴ひ、經費の支拂ひについても、あとから〳〵と苦情ばかりがもちあがつてきた。一八〇〇年になつて議事堂の一翼ができあがり、大統領官舎の一部も住めるやうになり、市中には、煉瓦造り百九軒、木造二百六十三軒、まづ三萬人を收容し得るやうになつたのである。

七、財　源

住宅法(Residence Law)は首都建設の財源については、何ごとも規定してをらぬ、ヴアージニア州立法院は、十二萬ドルを、公舍建築費として、メリーランド州は七萬二千ドルをおの〳〵寄附し、公債が募集されるに隨つて經費を支出することができた。ところがそれも使ひ果されていよ〳〵財源に窮し、公有地を擔保として外國公債を募集しやうとしたがそれは不成功に終つた。そこでワシントン大統領はメリーランド州に對して、二十萬ドルの擔保つき公債を、參面額で借り入れることを交渉したが、州の西部地方は、ポトマック河の運河開鑿で地價が騰貴し、かつ殷賑な市場の都市の出現することを見越した結果、その承認を得たのである。議會はこのうち十萬ドルの裏書をしたが、政府のワシントン移轉後全市の負債を償還した。

不動產の開拓については、市はあまり成功しなかつた。分地の賣却は、可なり甘く運び、政府の分前の半分以上は、五年間に賣れ切れたが、その賣價は思つたよりも安く、かつその地代支拂ひが滯りがちであつた。買入價格は無論極めて低かつたけれど、豫期したほどの値上りを見ず、多くの私有者や、投機者は、莫大な損失を招いた。根據は頗る疑はしいものだが、地價が投機的にあまりに騰貴するものと豫期されてゐるので、議事堂の東南部には、商賣は繁昌しないといふ傳說が殘つてゐる。ある土地會社はそこで六十個の分地を、多くの所有主から八十ドルで買ひ受け、一年後に五百個を二百六十六ドルで賣り拂つたがこの價格は長く續かず、會社は遂に破產してしまつた。その後土地の投機を制限するために、實行委員の手を通じての賣却は、すべて狹い面積に限られ、速かに家屋建築に着手するものだけにゆるされることになつた。公有地賣却證券の總價格は八十五萬ドルである。

(つゞく)



セメントの凝固と顯微鏡的觀察

京都帝國大學教授　吉岡藤作

二十世紀に於ける土木建築界の大革命は、コンクリート工事の顯著な發達だと云はれて居ります。殊に我國の如き、最近に急速に向上して來て、歐米の建設に後れて、而も彼等と略對等に、或はより近代的に、諸般の文化施設をなさんとするものにとつては、從來の煉瓦類を以てしては幾十年たつても覺束ないので、コンクリートがあつて、始めて可能なるものであることは、誰しも考へて見れば解り易い事であると思ひます。コンクリートの原料は、砂、砂利及びセメントの三者であるが、其内でも結合能を表はす、所謂有効物質はセメントであります。從來は主としてポルトランドセメントが使用されて居つたが、最近では高爐セメント、又は礬土セメント等の特趣セメント類も使用さるるに至りました。このコンクリートに使用するセメントには、必要條件として、一定の優良な性質が要求される。この性質とは水をセメントに對して一定の比率に加へて混捏するときに、或は壓搾して希望する形態に成形することが出來、或は建築物道路面等に流がし込んだ場合に、あまり急激でなく、又數時間以内に、流動性を失ひ凝固して固態と化し、夫れから時日が經過すると、堅牢なる强度に達すること、而して長き年月を經過しても、一旦得た大强度を損ずる事無く、鹽水又は汚水に汚されても、强度を損し、又は崩壞することもなく、尙ほ氣泡の變化に遭遇して龜裂を生ずることも無い性質であります。

今から百三年前に、ポルトランドセメントが英國に於て、アスプヂンによつて創めて造られて以來、幾多の經驗により、原料の種類について、又原料の配合比について、燒成の溫度について、粉碎機について、熱經濟について、絕へざる進歩を來たし、品質の改良を遂げたのであつて、現今のポルトランドセメントは、不思議な程優秀な性質を持つに到りました。

歐洲大戰前後に際して、佛國に於て彼のシマン、フオンヂュ（熔融セメント）が現はれ、其の當時のポルトランドセメントに比し、甚だしく短時間で凝結し、非常な高强度に短時間で達する點に於て、高價ではあつたが、セメント界の驚異として、異常なセンセーションを卷

き起こしたものであります。爾來二三特趣セメントの市場に出現するを見たが、これらに剌戟されてか、最も大量に使用されて居るポルトラントセメントの品質も、續いて意外な進歩を見たのであります。其の結果は、從來の普通のセメントであれば、加工後一ケ月は觸れないで、待たねば得られなかつた強度を、僅々數時間乃至は兩三日で、容易に出す事が出來る樣なセメントをも、容易に製造することが出來る樣になりました。其の爲めに戰地に於ける砲臺、交通頻繁な道路、鐵道等の如き、急を要する而して早く使用に耐ゆることを要するもの、修築は、これを使用して、全く好都合に施工後短時間で、安心してつかひ得る事に成り、このことは迅速を尊ぶ軍事上の諸行動に關して、又列國競爭場裡に善處すべき、產業的能率增進の上に於て、誠に劃期的の事項と云はねばなりませぬ。而して又急ぐ必要のない方面には、例へば高爐セメントの樣な、低廉な價格にて、長期の後には、充分な强度を與ふる樣な製品の出現は、又經濟的見地より重要なる意義を有するものであります。

さてセメントに、水を加へて捏ると、何故に凝結し、何故に丈夫なものになるかと云ふことについては、物事を科學的に見る現代人には必ず一度は考へる事柄でありませう。能く問はれる質問であります。誠に興味の深い事柄であります。昔から有名なセメント學者が、說を發表した事は尠くないのであるが、其の眞相に到つては、現今尙ほ議論されて居り、確かに定つて居る譯ではないのであります。

工場に於ては、而しこれらの現象の眞相を明かにしないでも、可なり良質の製品を作るには、如何樣になすべきかについては、永き間の經驗によつて、ルール・オブ・サンブがあるのでありますが、最近の樣に、セメントの要求が愈々嚴密になり、種類が從來とは變つて來ると從來の習慣に依る金科玉條では不充分で、科學を基礎とした最も的確な智識を要求するに至つて居ります。

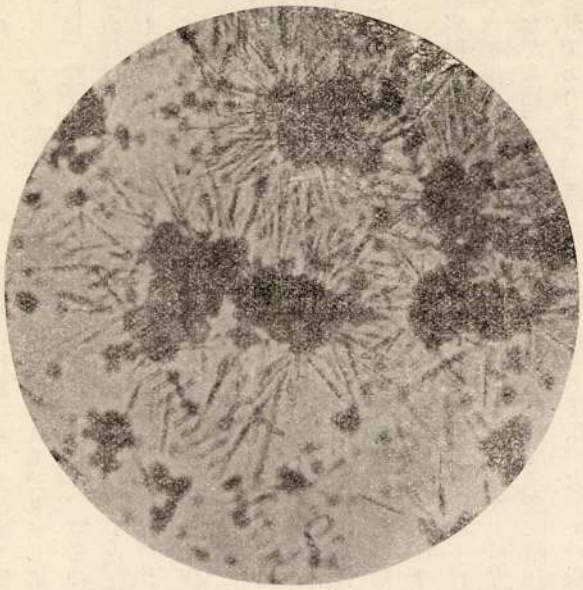
物體の有する强度の眞の原因については、物理學的に嚴密に云へば一般に明かでないと云ふ事であります。セメントの場合に於ても、勿論不明であるのであります。しかし、セメントに水を混じて强度が出るに至る道程は、適當な方法に依ると、ある程度迄は理解することが出來るのであります。その一つの方法は、顯微鏡で見て、水との反應の進行の模樣を詳しく觀察すると、種々の現象が相當に確實にわかるのであります。

元來ポートランドセメントは、石灰、珪酸、礬土を主體とし、これに多少の鐵、硫酸等が入つて居るので、これらの諸成分を一定の割合に含む調合物を、殆んど熔融せんとする迄燒いて、後微細な粉末に粉碎したものであります。其の內に含まれて居る主なる化合物は、三石灰礬土、三石灰珪酸、二石灰珪酸で、顯微鏡的に觀察すると、三種又は四種の違つて見へる部分より成り、結晶質の部分と、硝子質の部分とあり、從つて市販のポルトランドセメントはこれ等の微細な破片の混合物であります。

礬土セメントと云ふのは、石灰と礬土を主成分とし、これを完全に熔融して出來た塊を、前同樣微細な粉末に破碎したものであります。又高爐セメントとは、製鐵用高爐よりの礦滓と、ポルトランドセメントの燒塊とを、一定の割合に調合し、これを機械的に混合粉碎した

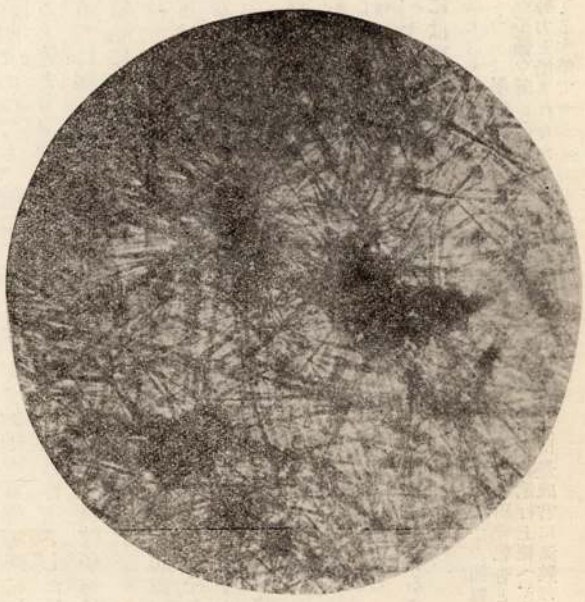
混合物であります。

扨てセメントに水を加へると、如何様な現像が起るかと考ふるに、セメント粒子の表面に水が來るときは、接觸面に於て、兩者の間に往來が起るであらう。(一)粒子より水中に溶解すべきものが出る。溶解したもので、水は追々に濃厚になつて來て、遂に飽和點に達し、そこで固體が折出して現はれて來る。(二)水が粒子の內部に浸入する。若し固體が膠質であつたらば、粒子は容積を增大する等の事柄が想像される。



第一圖　高爐セメントの針狀晶

所がポルトランドセンメントについて、實際は如何樣になりゆくかとそれを顯微鏡下に伺がふと、注水して暫時たつと、辛うじて認め得られる核を生じ、其內に結晶が核を中心として成長し、その結果遂に立派な形態の結晶となつて現はれて來る。其の結晶は、除々に出來た場合には六角板狀晶で、適當なる方法で試驗をすると、この種の結晶は石灰及び礬土より成る含水化合物であることがわかる。第二期に現はるゝものに、針狀結晶が粒子の表面から放射狀に出て來る。これは含水珪酸石灰であるらしいのである。又六角形の大形の結晶が表はれて來る。このものは水酸化石灰であります。尙ほこれらの外に、不定形に見へる雲狀物が見受けられます。これが又第二の針狀結晶と同じ成分から出來て居るらしいのであります。これらの結晶の生成は、豫想通り、ポルトランドセメント粒子中の物質が、一旦水に溶解し、最も



第二圖　礬土セメント加水物の結晶

安定な化合物ゝして、其の液相より分離したものであります。

次に粒子夫自身は如何樣になるかを見詰めて居るゝ、水量が比較的少ない時には、セメント粒子は時間の經過するに從ひ漸次膨大して、時には長さで約五割方增加する事も見受けられる。しかし水量が多いときには、粒子の成分はゞし〳〵溶解するゝ見へて、粒子の周邊は消失し、直徑は漸次短縮せられ、遂に僅少の殘滓を殘して、殆ゞ全部形を消し去る。何れの場合に於ても、粒子は漸次透明性を增して行く。

これらの現象は、コロイドに特有の性質で、粒子中には膠狀體が出來て居るこゝは疑ひない所であります。

實際コンクリート工事を行ふに當つては、セメントに對して用ゆる水量は、比較的少量に過ぎないから、セメント粒子の大部分が、水に溶解するゝはあり得ない。しかし、溶解作用は、勿論ある程度迄は起つて居るので、含水珪酸石灰、含水礬土酸石灰、水酸化石灰が、結晶ゝして、又膠狀ゝして折出し、これが未分解のセメント粒子、砂粒の如き固形粒子を結束する現象が起るこゝは想像するに難くはない。これらの水加反應は、未分解のセメント粒子、及び水が共に存在する間は徐々ながら進行する。その何れかが無くなれば、茲に此の作用は無くなる理であります。但し水が作用に際しては、大氣中の炭酸瓦斯が必ず作用して炭酸石灰の粒狀結晶か澤山に表はれる。

高爐セメントの如きは、澤山の針狀結晶が生成する。其の程度は、ポルトランドセメントに比して大差がないが、或は寧ろ多い樣に思はれます。（第一圖參照）

礬土セメントの場合には、最も迅速に水加生成物が現はれて來ゝす急激に晶出する場合には、絹絲光澤を有する纖維狀の結晶を（第二圖參照）緩漫に出る場合には、正確なる六角板晶を無數に生じます。尙ほ液の表面には、結晶質でない皮膜を生じるが、全く膠質で、稀鹽酸を用ひても溶解し難いものであります。

以上の如く、セメントの水に對する溶解現象、亞いて水加物の分離析出が、セメントの凝固の主要原因の一つゝすれば、溶液から水加物が析出するには、飽和濃度に達すればドシ〳〵析出するもの故、要するに可溶性成分の水に對する溶解速度であれば、水加物は迅速に析出し、それだけ迅速に凝固し、强度も出るこゝゝ想像される。電氣傳導度を側定して溶解速度の遲速を比較したるに、大體に於て、急硬性セメント類は、溶解速度が大なる結果を得て居る。又注水後の時間の經過ゝ、電氣傳導度ゝの關係、及び可溶性成分の分析ゝ相俟つて、セメントの水加現象を一層明かにするこゝが出來るこゝゝ考へます。

又礬土セメントの場合には、普通の濾紙で作つた濾液は、最初完全に透明であるものが、時間が經過するゝ混濁を來たし、遂に器底に立派な六角板狀結晶を生じ、膠質物を通過させないコロヂオン濾過を行つた濾液が、時間を經過しても、沈澱又は結晶を生じない事、及び溶液が透明であつても、混濁を來たしても、始終電氣傳導率に於て同一である事等より、礬土セメントの場合には、水と作用さした最初に於て、直ちに膠狀物質を生じて居り、時間の經過に從ひ粒子が增大して遂に結晶に移り變はるものであることを知ります。

夫故セメントを水ゝ捏つた場合に、時間の經過に伴つて凝固するゝ云ふ事は、セメント微粒子の成分が、一旦水に溶解して、それが含水物ゝなつて、膠狀又は結晶ゝなつて析出すること、及び粒子か水を吸收して容積を膨大するこゝに依つて、最初與へられた水を、時間の經過に伴ひ、漸次吸收し消耗するこゝは明かであつて、依つて固相に對して液相が漸次減少する爲め、其の泥狀物の流動性は漸次減少し、遂に之れを失ひ、一旦生成せる膠狀物質は追々結晶質に變じるゝ云ふ現象が、セメント類の凝固に可なり重大なる原因を與へて居るゝ考へない譯には行きませぬ。

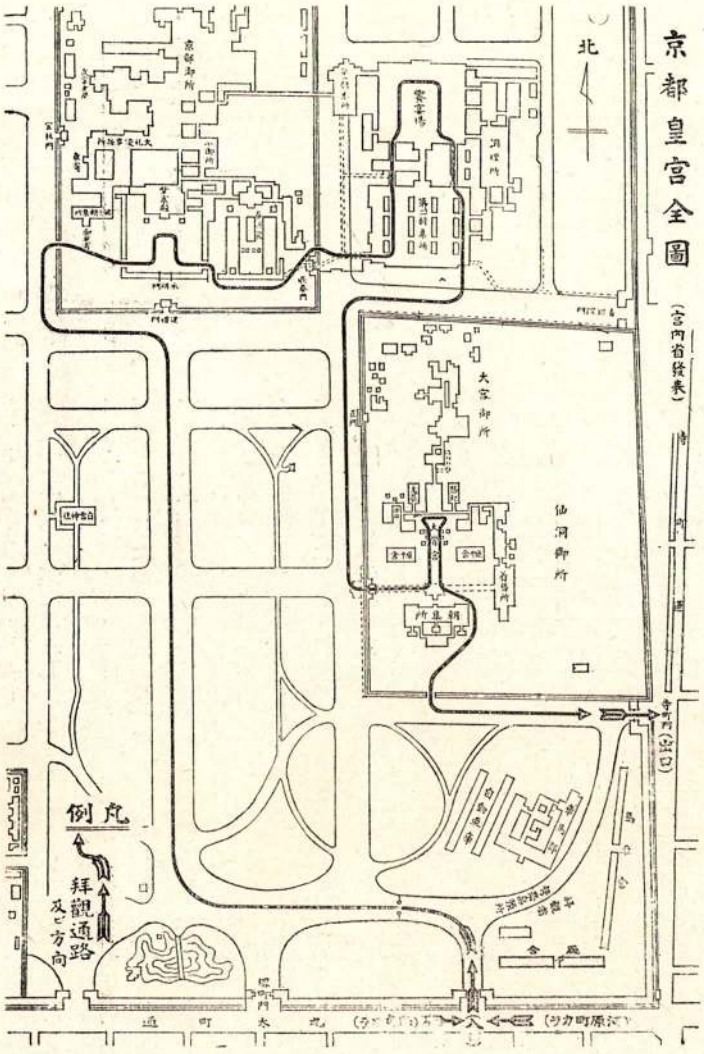
以上はセメント凝固に關する最近の說に著者の實驗を添へた通俗的な講演であつて學術的發表ではない爲めに文句、記事の上に研究報告として幾多の不備な所があることを諒とされたい。茲に本實驗遂行上絕へざる熱心と努力を惜まれなかつた助手熊谷國嗣君、學生高田豊成君に滿腔の謝意を表する次第です

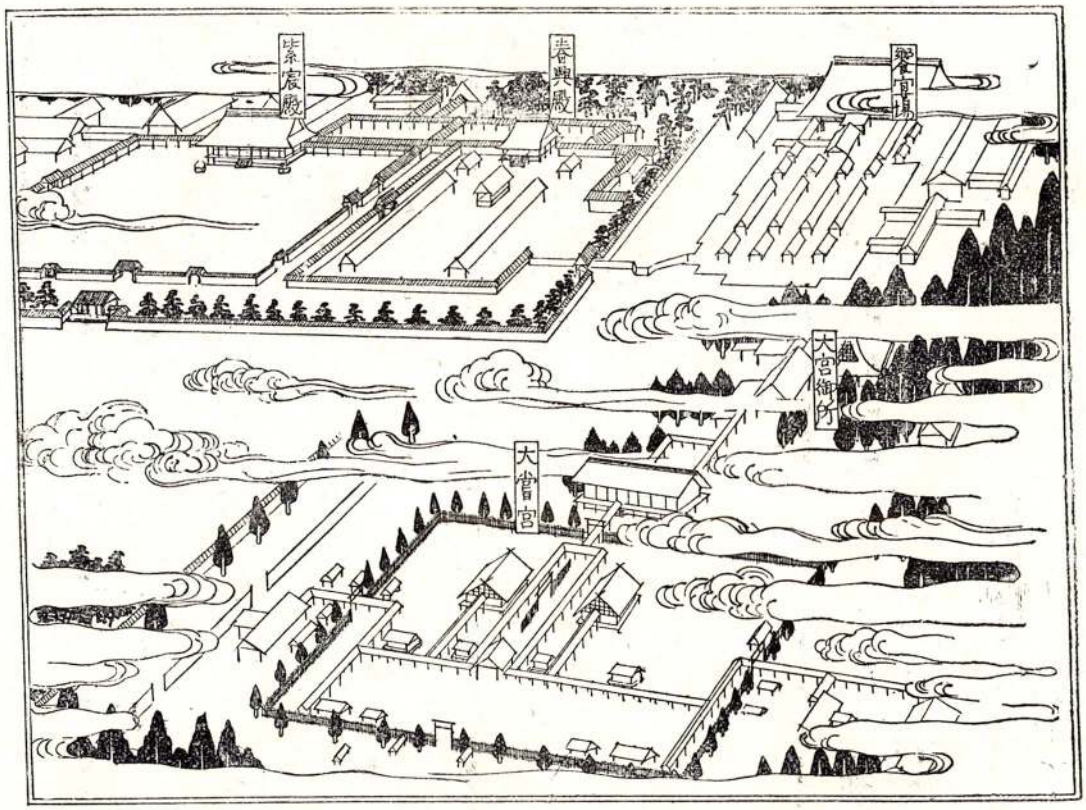
御大禮謹記

微力ながら昭和の聖代に建築にたづさはる者として、曠古の御盛儀に會ふことを得た慶びを永遠に記念せんがため、御大禮中に行はせられるもろもろの御儀式の次第を略記し、建築、調度についてはなるべく詳細をつくすことにしました。しかしながら、事、九重の雲深き宮中の御儀のことゝて、奉察し難き點の多々あるのは止むを得ないことに存じます。

大禮の意義

こゝに御大禮と申し奉るは皇室典範及登極令に規定せる即位の禮及大嘗祭を併せ稱するもので、實に、天皇御在位中唯だ一たび行はせらるゝ最大儀典であります。その期間一年有餘、場所も東京、京都は勿論、皇室に關係深き伊勢、大和、今回御選定になつた悠紀、主基兩地方は申すに及はず全國に亘り國家、國民にとつても重大な大





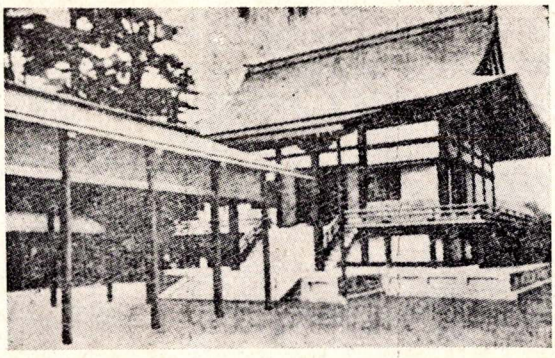
典でありまして、大正天皇崩御後一年間の喪が明けました昭和二年十二月新帝の大禮を行はせられるための官制が發表され、大禮使總裁閑院宮殿下大禮使長官近衛文麿公をはじめそれ〳〵の大禮使職員が任命されました。こゝには建築に關係のある造營部職員のみを擧げました。

參與官　内匠頭　男爵　東久世秀雄（部長）
事務官　宮内書記官　鹿兒島虎雄（典儀兼造營部）
宮内技師
北村　耕造（造營部）同
鈴木　鎭雄（同）同
菊地　白（同）同
海老　定德（同）同
深尾　代治（同）同

大禮前儀

大禮期日御奉告の御式

大禮使會議で諸儀式を行ふ期日をまつ議定し、閣議を經た上、御裁可を得て宮中三殿賢所（皇祖天照皇大神を祀る）皇靈殿（歷代天皇、皇后、皇族の御靈を祀る）神殿（天神地祇八百萬の神を）祀るに大禮期日御奉告の御式があり、伊勢神宮、大和畝傍神武天皇山陵、前帝四代（仁孝天皇から大正天皇まで）の四帝陵にも期日奉告の勅



宮中賢所

寫眞說明

賢所は「カシコドコロ」と訓む。又恐所、畏所等の文字を用ひたることあり。其の意、上、御一人より下、萬民に至るまで、尊み畏むべき所なりといふに在り内待、常に之を守護したるを以て、一に内待所と云ひ、之に因みて、神鏡をも、亦た内待所、或は賢所と申す。

（大正度大禮記錄に依る）

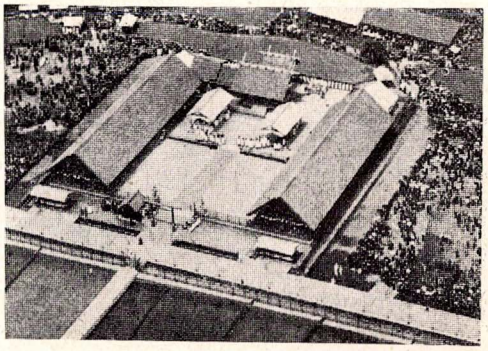
使發遣の御式が宮中鳳凰の間に行はれました。昭和三年一月十七日のことであります。この日國民にも官報號外で大禮日が告示され、同時に締盟各國にも通牒が發せられました。

齋田點定の儀

二月五日、これは大嘗祭の主要な神に獻ずべき新しい米を作る齋田の地方を神秘的な龜の法に據て定める儀式で宮中三殿の一つである神殿の前で行はれるもので悠紀の地方（京都を中心にして東或は南にあたる地方）を滋賀縣、主基の地方（北或は西にあたる地方）を福岡縣と卜定いたし、これを奏上し、正式に右の地方を御勅定がありまして悠紀齋田は滋賀縣野洲三上村に、主基齋田は福岡縣早良郡脇山村に御選定になりました。

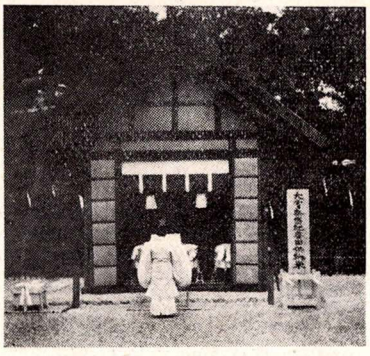
齋田拔穗の儀

こゝに悠紀齋田では四月十日の修祓式に始まり御鍬入式、播種式を經て六月一日嚴かに御田植を擧行されました。主基齋田でも四月十四日の修祓式に始まり、六月五日御田植の式が行はれました。兩齋田は奉耕者の誠を致したる奉仕により豐蘆原瑞穗國の名をそのまゝに稻のみのりも豐かに日を定め



主基齋田御田植式

差し遣はされ、神々しく拔穗の儀が行はれました。悠紀地方では九月十六日、主基地方では九月廿一日のことです。

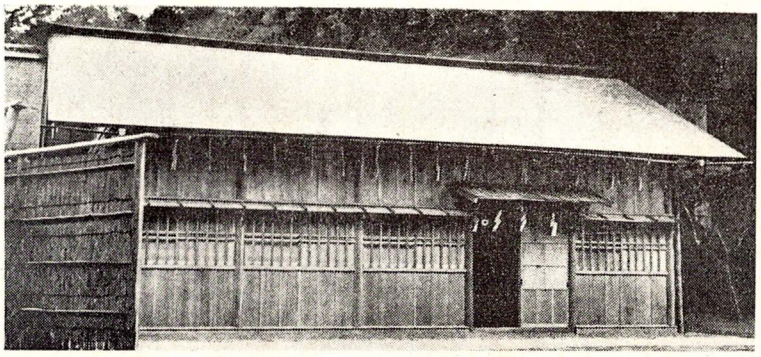


悠紀齋田供納米の齋車
（仙洞御所内大嘗宮西北隅）

て拔穗の御儀が行はれました。兩齋田ともに、齋田の傍に齋場を設へ、神殿、神饌殿、稻實殿が造營されます。そして拔穗使（勅使）がかくて兩齋田の神穀は稻實殿におさめ、精穀となしました量が各々三石、玄米のまゝ五升であります。これを辛櫃に入れて京都御所大嘗宮の齋庫へ供納することになります。神穀の一部は神饌に、その一部は白酒黑酒の御料にさせられるのであります。

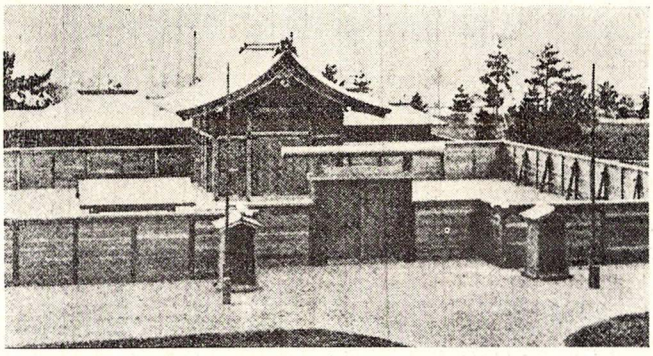
白酒黑酒は古から大嘗會ならびに豐明節會（今の大饗）には用ひ

させられる御酒でその色によつて名が起つたものであります。今回も古例により上賀茂別雷神社の傍



白酒白酒の酒殿
（上賀茂別雷神社内）

ら清淨の地に酒殿を設らへ、醸造は十月十七日にはじめられ、十一月五酉の日に仕上げられるのであります。



名古屋離宮内賢所奉安所

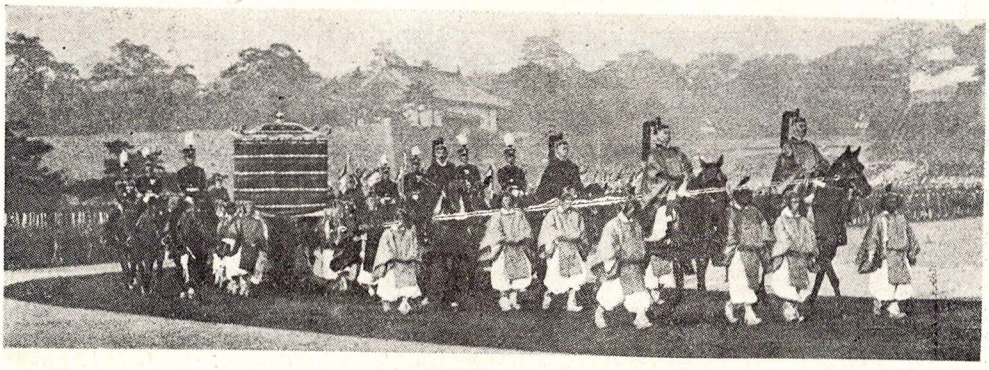
天つちと久しきまでに萬代に
仕へまつらむ黑き白きを

京都に行幸の儀

登極令第十一條に

「即位の禮を行ふに先だち天皇神器を奉じ皇后と共に京都の皇宮に移御す」

と制定されてある如く、神器即ち賢所を奉じて京都舊御所に御一代御一度の嚴肅な鹵簿であります。



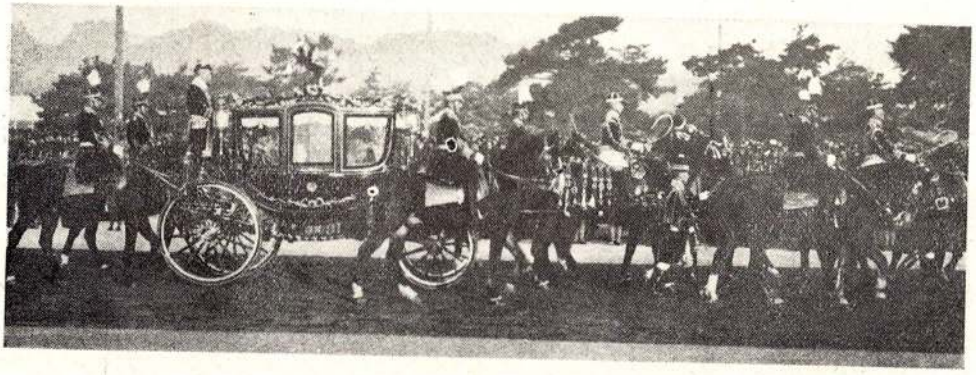
京都行幸の儀鹵簿

東京御發輦は十一月六日で、途中名古屋離宮で御一泊、賢所は同離宮内深井丸の假奉安殿に鎭座ましまし翌七日京都皇宮に入らせられ、賢所は同御所内春興殿に移らせられました。

御羽車　賢所奉安の方形檜柾白木造の輿で、屋根の中央上には葱華と稱へる擬寶珠を頂き棟角は蕨手で高さ六尺有餘、その周圍を蘇芳色牡丹文の織物で包みまゐらせ十六名の八瀨童子が千草色の布衣單に細纓の冠に緌をかけ「イチミ」の脛巾に藁沓をはく古風によつて舁ぎ奉りました。

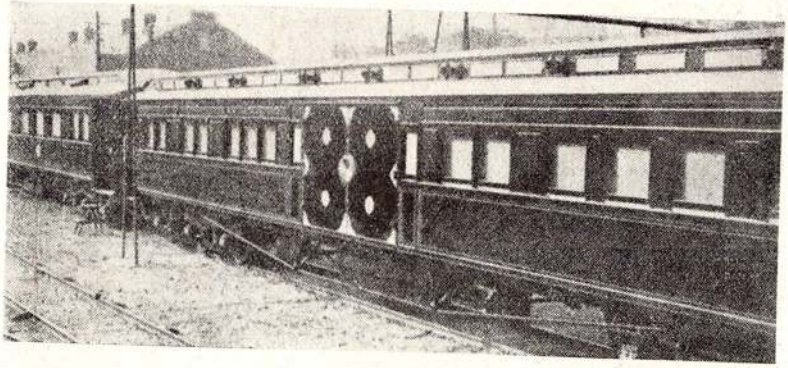
鳳輦　特別御料儀裝車で外側小豆色漆に塗られた左右には金色の菊花御紋章燦と輝くルキ十四世式で、屋蓋上には寶玉の眼をちりば





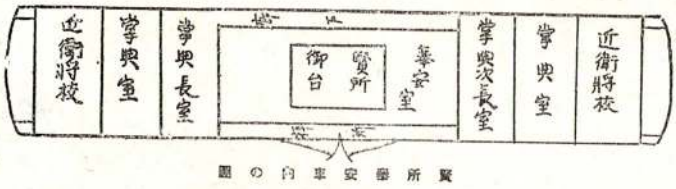
鳳凰（宮城を出てます）

めた金色の鳳凰を戴せまわらせ、壯嚴華麗、高さ頂上まで十呎五吋

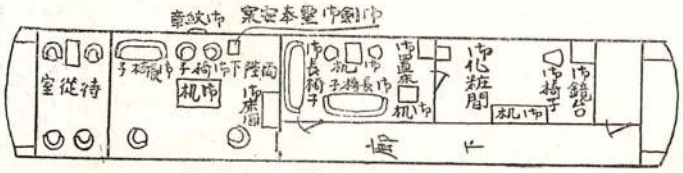


賢所奉安車の全部

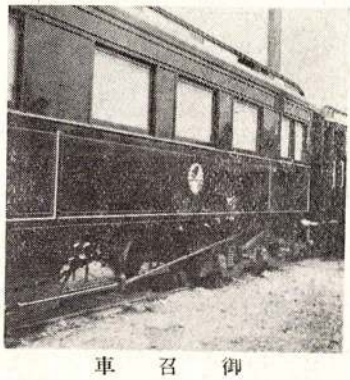
長さ約十四呎、幅六呎四吋あり、八頭立騎馭式であります。



賢所奉安車内の圖



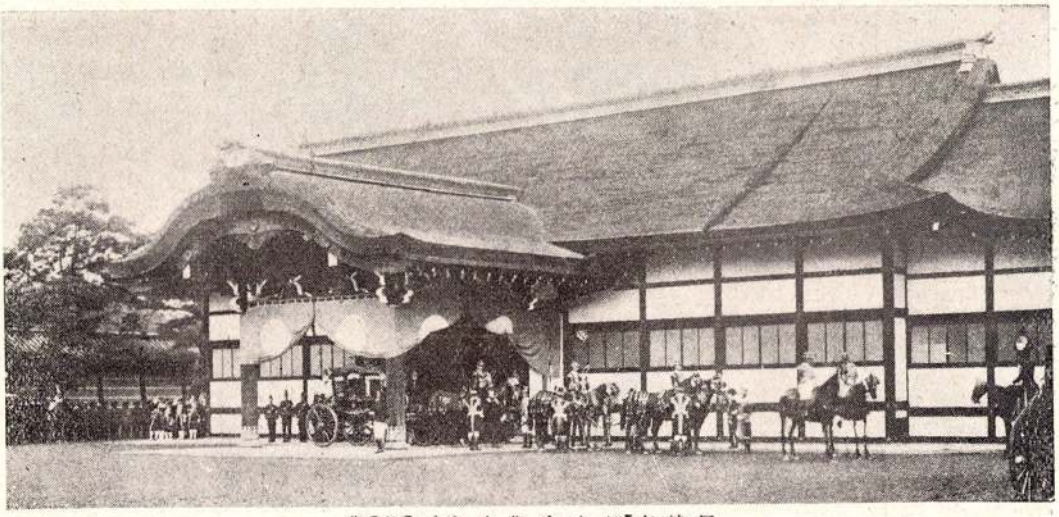
賢所奉安車及御召車平面



御召車

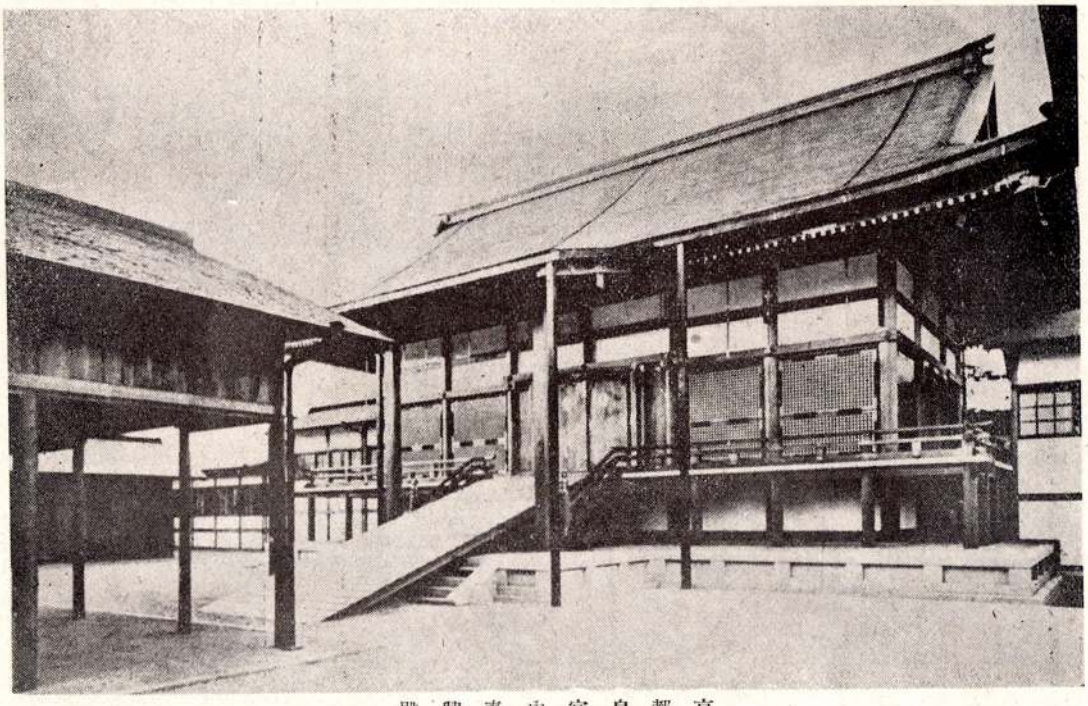
御大禮行幸啓の御料車

御料車は御座所、御憩の間、御化粧の間の三室に分れ、更に侍従室が附隨されてゐる。御座所は薄黄紅の混合色の明い唐草花模様の綴絹にて四圍及天井も一面張壁となし、床には水色の絨毯を張られ御室の正面には菊花散らしの彫刻に若草が一面に萠え出る春の野に群馬狂ふ清々しい油繪を正面コンゾールの上部に掛け、その上部の欄間には濃艶な薔薇の日本畫の掛額があり、すべて清楚な御室と拜せられる。中央には丈長の御机に双翼をひろげた鳳凰の向鳥に桐花葉の散らし模様の刺繍の薄銀鼠色の御机掛美しい御書見机あり、その御傍には兩陛下御用の綠色の綴絹の丸形の肱掛御椅子のほか皇族御對坐用の同形御椅子が二脚置かれ、聖上御椅子の傍には紫檀の腰高の御劍、御璽捧持案が置かれてあり、窓際には長椅子が造りつけ



鳳輦京都皇宮御車寄に着御

になつてゐる。御座所からは廊下傳ひにて御憩室に、更に次室御化粧の間が列つてゐる。兩室の裝飾は御座所と大差なく多少壁色は濃く御椅子の色が薄いだけの相違である更に賢所奉安車は中央に賢所御座所がある。内部は木曾檜の白木造にて格天井神々しく、床には眞菰のすのこに模した毛織物を敷き、中央には八寸高の四尺角白木賢所移御案を設けられ四圍には御壁代白絹の幕をめぐらされてゐる。入口には二枚折の觀音開きとなつて左右に開かれ一尺五寸巾の長い廊下が御拜所となつてゐるもので、御室の前後は掌典長、同次長、掌典、近衞將校室の三室づつに分れて賢所を汽車中



京都皇宮内春興殿

にて守護し參らすのである。

春興殿

舊京都御所內なる內待所は、明治二十一年、橿原神宮の社殿として引渡され、唯だ其の址を存するのみなりしが、大正二年、舊址に就きて、賢所奉安の宮殿を造營することに決し、尋いで、其の工竣り、同四年の大禮に際しては、即位禮の當日、茲に賢所大前の儀を行はせらる。現存する春興殿、即ち是れなり。

構造の樣式　殿の構造は純ら東京の溫明殿に法らむとせしが、更に登極令附式の規定に基きて、南廂の廣さを接し併せて、舊內待所の樣式をも參酌して、簡樸崇高なる神殿式となせり。

往古春興殿の位置　往古の春興殿は「シュンキヤウデン」又は「シュンコウデン」と訓す。舊と大內裏の一區にして、紫宸殿の東南に位し、宣陽殿の南、即ち日華門の南に在りて、西は安福殿と相對す。殿は西面にして、廣さ七間三面、西は上廂を以て左掖、日華の兩門に通ず。

新造春興殿の位置　新造の春興殿は、紫宸殿の東に位し、建春門內なる內待所址に建てらる。廣さ五十八坪餘にして、南廂、外陣、內陣、及內々陣に區劃す。周圍には緣を環らし、之に接續して殿東に大淸を構築し、正面なる向拜には續階を設け、周緣の東西北三面は、木央の中階より渡廊下を經て木屬舍に連絡す。

本殿の外觀　本殿は花崗石積の壇上造にして、檜の圓柱を石据建とし、外部を白壁塗とす。屋根の制たる本殿は、單層の照屋根、入母屋造、正面なる向拜は指勾配附屬大淸は片流の招造にして、總て銅製の鍬葺とす。

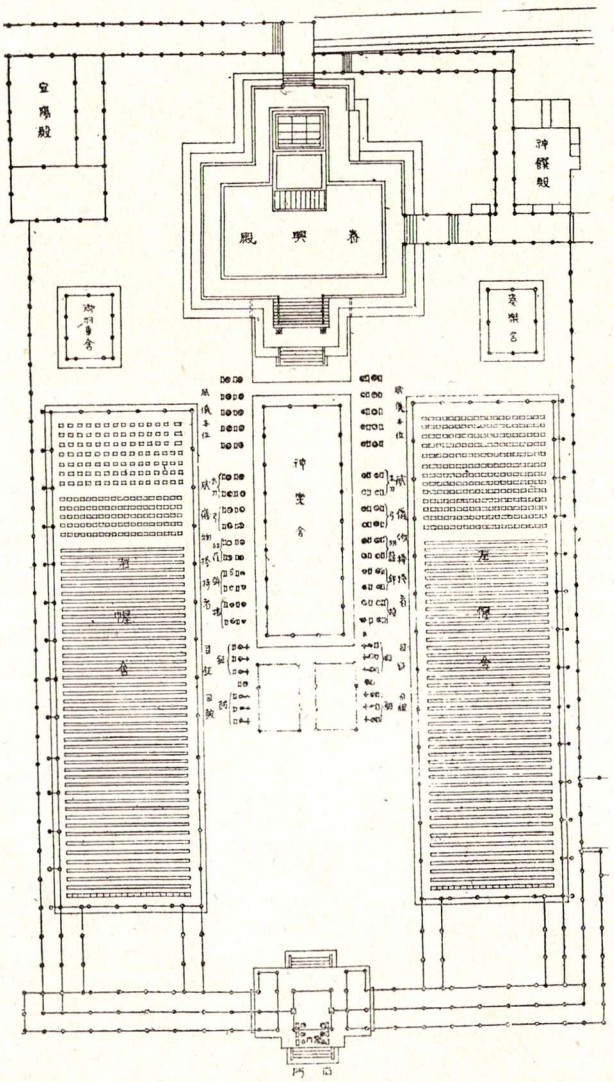
本殿の基礎　本殿の基礎は混凝土打にして、柱下を煉瓦の根積とし、石材は讃岐福田島產の花崗石を用ふ。本殿には丸柱を用ひたれども、向拜のみは角柱とす。各種の柱頭を舟肘木組とし、本殿の軸部たる柱、其の他主要なる構架を腰足型とし、鴨居の上部を內法長押とし、天井の邊を天井長押とし、何れも、緊結して柱に指し組む、其の堅牢想ふべし。

各部の構造　本殿の屋根裏は外陣の南廂を虹梁と蟇股と斗組との構架とし、小屋組の和式小屋即ち家根骨の構造を用ひて、棧梁を三重組とし、軒は桔梗桔木釣の裝置を爲す。軒先は棰を二段に載架して二軒とし、向拜を葺卸とす外陣の家根裏と軒裏とは、樫劃を本繁棰とし、裏板を鼠斗張とす。本殿の蔓は杖首束と杖首棹と及斗との組合せとし、搏風には懸魚を附す。柱及主要の部分には木曾產の檜木を、小屋組の一部、棧梁、桔梗等には松材を、桁、小屋束等には杉材を用ふ。屋根軒付、即ち屋根の末端を椹板の蛇腹裏とし、椹の小軒板を蛇腹の上に疊み重ねて、椹の厚扮板を土居葺二重野地とし、屋根全面を鼠斗板張とし、和製アスベスト及和製アスファルト、フエルトを敷きて、耐熱耐水を十二分にし、雨漏を防止するに備へ、又銅板にて棟を二重に包む。

壁の內部は、檜板の鏡張とし、平滑にして繼合せなき板面は光澤を放たて洵に其の名に負かず。外部は、檜の格組を下地とし木摺打の白漆喰塗とす。牀は總て檜の拭板張とし、板面に一の釘痕を現さず。殿の外圍に於ける落緣は切目張として板の切木口を外部に見ゆる如くし、勾欄を附して、正面に木階を設く。

內陣の天井は平格組とし、內々陣には枝輪折上を用ひ、其の天井の格組には猿頬形の小組格子を入れ、小組の上部に檜の柾板を張る入口を觜軸構とし、其の狀、額緣の一種に似たり。扉には板唐戶を用ひ、端簔軸釣として古代の樣式

を模す。蔀戸の格子形も、舞良戸の密なる横桟も、框桟と同じく、黒蠟色の漆塗とし、全體を檜造として、戸板を胡粉塗の建込とす。外部の簷廻りに於ける搏風及懸魚の長面及木口、桁、棰、木階等の各木口を始め、内外の長押の釘隱にも、勾欄、板唐戸、蔀戸等にも、金箔鍍せる銅製金具を附す。壇上の地面に於ける軒下は、混凝土敲を打ち、比叡山麓白川産の白砂を敷き、牀下には深草砂利の敲を打ち、壇の周圍なる雨落と溝底とには、紀州那智産の黒砂利を敷く。



賢所大前の圖

舎を構ふ。庭上には神樂舎を中央として、東西兩側に幄舍を設け、正門の左右に手水舍を置く。小御所の南廊下より元十八間廊下の址には、通御廊下を設けて、殿の背面に達すべく、殿の外陣には左右より東西に通ずる廊下を造り、西に皇族休所を、東に神饌殿を配置し、神饌殿の南に掌典内掌典詰所を設け、其の周圍に長押塀及板塀を作り、塀重門及板塀口を設けて出入に便し、附屬建物を其の中に竝列す。

殿の正面十二間の處に正門を建て、門の左右には築地塀を築き、之に連續して、南庭の周圍に土塀を環らし、殿の正面なる木階の西には御羽車所を設け、東には奏樂

宣陽殿　春興殿の宣陽殿に連なるは、猶ほ溫明殿の綾綺殿に連なるが如し。登極令附式には宣陽殿を以て、賢所大前の儀の際、天皇の御服を換へ給ふ所と規定す。

（大正度大禮記錄に依る）

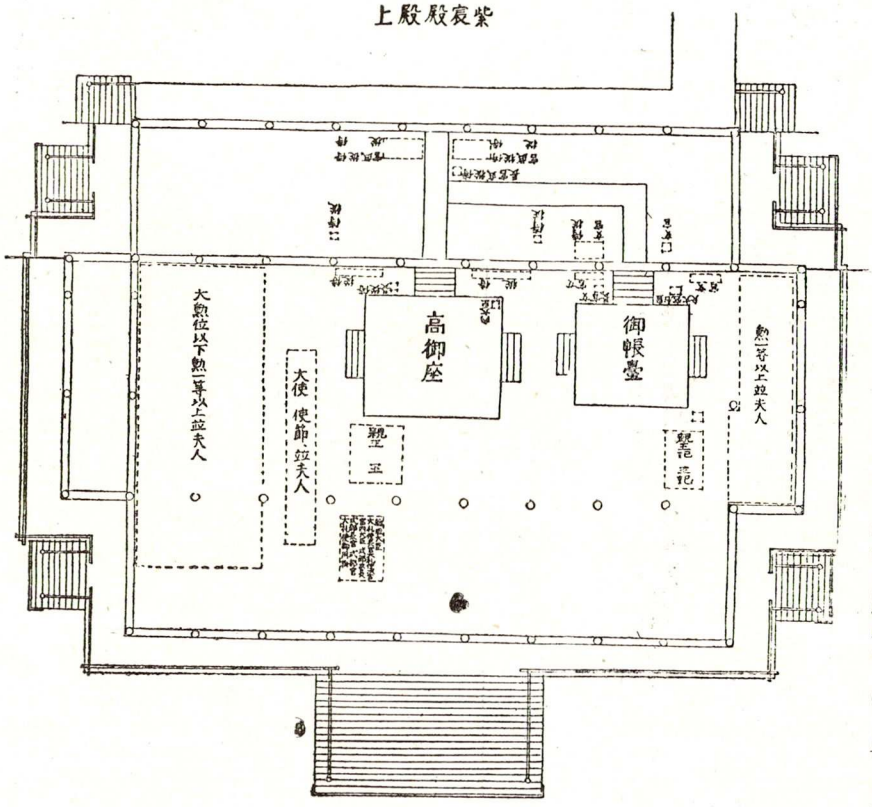
即位の禮

即位の禮とは天皇踐祚の後日を定め、儀を整へ「天津日嗣の高御座」と稱する萬世一系の皇位を繼承し我が帝國を統治する國家主權の本位に即かせ給ひしことを皇祖皇宗に親告され、竝に一般臣民に告げさせらるゝ式典であります。更に詳く申せば皇祖皇宗に向はせられては賢所大前の儀あり、一般臣民に對しては紫宸殿の儀を行はせらるゝのであります。

十一月十日　即位禮當日皇靈殿

神殿に奉告の儀

同日　即位禮當日



、おるので、その大前に御儀が擧げられます。御式の順序はこの日早

賢所大前の儀

賢所は春興殿に移御ましまして

旦、御殿の装飾、天皇皇后兩陛下の御座を設く。午前八時廿分參列諸員朝集所に參集。各皇族殿下宜陽殿に參入。兩陛下御座所より宜陽殿に渡御、帛御袍を召さる。衛門、司鉦司鼓、威儀物奉持者、威儀本位各位置につく。鉦鼓により諸員列立。參列諸員朝集所より東西の幄舍に參進。神樂歌を奏し神饌幣物を供し掌典長祝詞を奏す。天皇皇后兩陛下出御御座に着御。各皇族殿下は南廂に。內閣總理大臣以下供奉諸員はその後に侍立。天皇御親祭。皇后陛下御拜禮。各皇族殿下御拜禮。兩陛下入御、諸員最敬禮神樂歌を奏し幣物、神饌を下げ御扉をとざす。鉦鼓により各員退下。

十一月十日即位禮當日

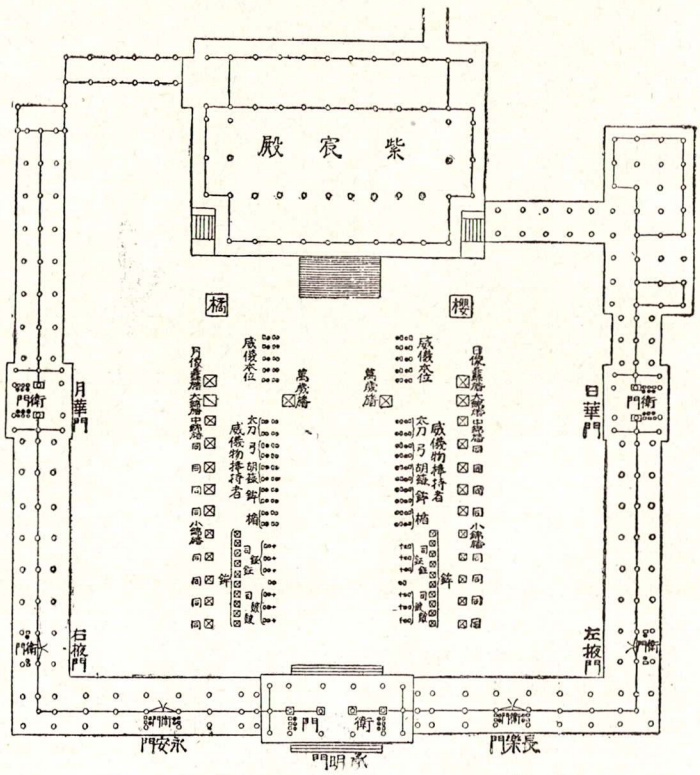
紫宸殿の儀

早旦御殿裝飾。午後一時廿分儀仗兵建禮門外並に建春門外に整列。同一時五十分參列諸員日華門外月華門外列立。衞門。司鉦司鼓、威儀物捧持者、威儀本位參役者參入本位につく。鉦鼓により參列諸員は殿上の東廂西廂又は廻廊の本位につく。警蹕を稱へ天皇陛下出御。侍從神器を奉じ內大臣以下御後に候す。天皇陛下、高御座の北階を昇御、御椅子に倚らせらる。侍從神器を御帳內の案上に奉じ御笏を供す。內大臣繼壇上に昇り御帳外の東北隅に候す。皇后陛下出御、各皇族妃殿下、皇后宮大夫女官供奉、皇后陛下北階より御帳臺に昇御、御椅子に倚らせらる女官御檜扇を供し各皇族妃殿下前面壇下に參進本位につかせらる。侍從二人分れ進み高御座の東西兩階より壇上に上り御帳を褰げまるらす。天皇陛下立御皇后陛下立御諸員最敬禮。內閣總理大臣南廂の西階を降り南庭に出で正しく北面して立てばこゝに天津日嗣の高御座の大御業を初めます御聖旨を勅語を以て賜ふ。內閣總理大臣南階を昇り南榮の下に於て壽詞を奏す壽詞を奏し訖れば南階を下り萬歲

旌の前面に北面して萬歳を稱ふこと三聲諸員これに稱す時に午後三時。訖つて內閣總理大臣南廂の座に復す。侍從高御座の御帳を垂れ

賢所御神樂の儀

午後二時御殿裝飾、同三時參列諸員參集、御儀始まる。



紫宸殿之儀（庭上參役者配置圖）

女官御帳臺の御張を垂る。兩陛下入御、警蹕。鉦鼓禮の終るを告げ各退下。

十一月十一日即位禮後一日

十一月十二日

神宮、皇靈殿、神殿ならびに官國幣社に勅使發遣の儀

午前八時御殿（小御所）裝飾、同十時大禮高等官着床、御儀始まる。

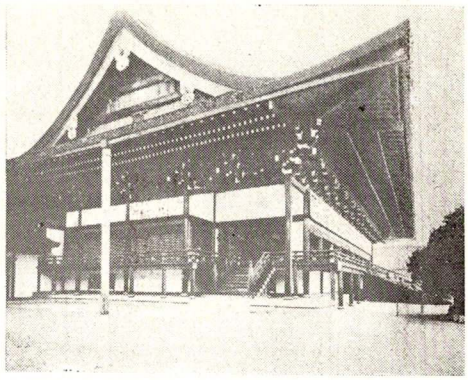
紫宸殿

紫宸殿は、京都皇宮の正殿にして、古しへ南殿と云ひ、又南大殿、前殿等の稱あり。舊と、朝堂院の正殿たる大極殿を以て天子朝會の所と爲し、即位の禮をも此に擧げらしが、同殿燒失の後は、紫宸殿に於てすること多きに居る。明治天皇は、前蹤に依り慶應四年八月二十七日、此の殿に於て、即位の禮を行はせらる。

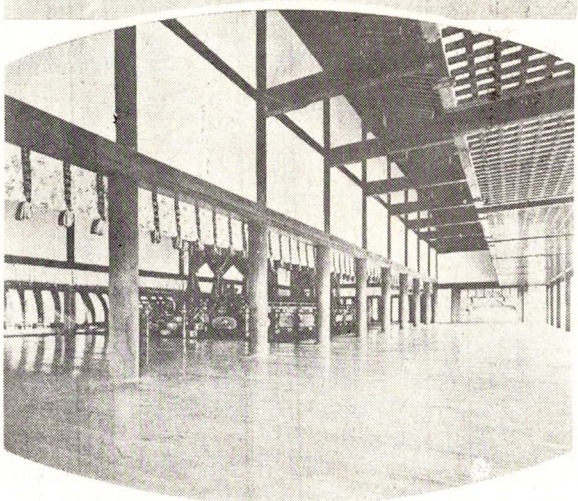
紫宸殿の廣袤　抑も、紫宸殿を中心とせる今の京都皇宮は安政三年の造營に係り、舊記に其の地域を誌して、南面は東西百三十八間半、東面は南北二百四十六間余、西面は南北二百四十六間余、北面は東西百三十三間を算すとあり。古しへは、方四十丈の區域なりしが、豐臣氏の時より、漸次擴張して前記の規模を成すに至れりと云ふ。

紫宸殿の規制　殿は內裏の中央より少しく南に偏して、承明門內に在り。東西九丈、南北七丈五尺にして南に面す。屋の制、東西の榮は搏風製とし、檜皮葺にして雨下四阿と爲す。中央東西九間、南北三間を母屋とし、母屋と北廂との中間に賢聖障子を立つ。母屋の中央なる額の間の南より北に距ること一丈七尺五寸の處に御帳臺を設く。南二間を南廂とし、東西九間、南北二間にして、板敷を南北行とし、南面を格子とす。額の間には「紫宸殿」の額を掲ぐ。現存するものは、治部權大輔書博士賀茂保孝の筆に係る。其南砌に木造十八級の階あり。每級の高さ四寸、廣さ一尺、左右に葱臺の欄干あり。母屋の東南北四間と東西一間とを東廂とし、母屋の西南北四間と東西一間とを西廂とす。四面





橘樹の西より紫宸殿をあふぐ

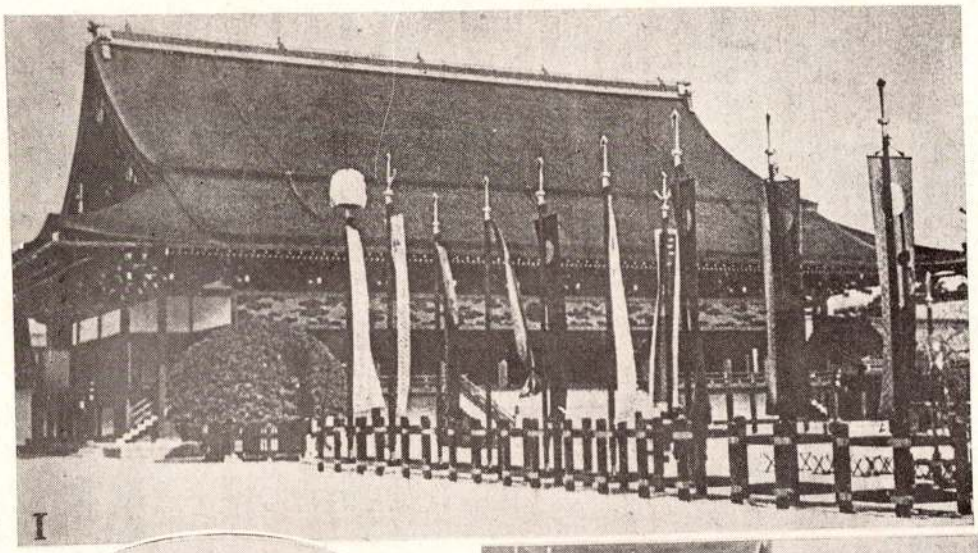


紫宸殿南榮より高御座御帳臺を拜す

には廣さ五尺の簀子を敷き階なき所には欄干を設く。南階の左に櫻右に橘を植う世に左近櫻、右近橘と云ふ者、是れなり庭を南庭と稱し、儀式を行ふ所とす。殿砌の下には溝を疊らし、石を以て築き、大宮川の清流を引く。

紫宸殿の鋪設

本殿の南榮に、日像の繡帽額を懸け、母屋の中央南面に、三層繼壇を立てゝ、高御座を安く。壇上第一層及第二層に赤地錦、第三層に青地錦を敷き、其の上に繧繝縁疊二枚、大和錦縁龍鬚土敷一枚、大和軟錦毯代一枚、東京錦毯代一枚を重ね敷き、御椅子を据え、左右に螺鈿寝各一脚を安く。高御座の東方に皇后の御帳臺を安き、其の鋪設、高御座に準ず。高御座及御帳臺繼壇の下四面に兩面錦を敷き、其の北階下より十八間廊下までは兩面錦、十八間廊下より御學問所迄は、白布を敷きて筵道とす母屋の四面には壁代を懸け、北廂の東西北の三面及東廂の東南二面に軟障を懸け、殿外四面に翠簾を懸け、又露臺の東面に翠簾、西面



即位禮紫宸殿の儀　庭上の鋪設



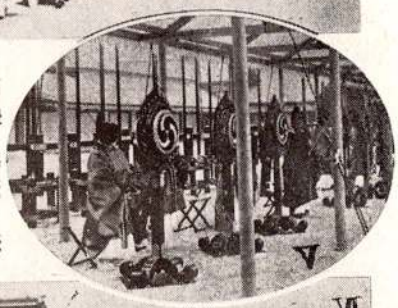
同上習禮司鉦司鼓、威儀物捧持者參進



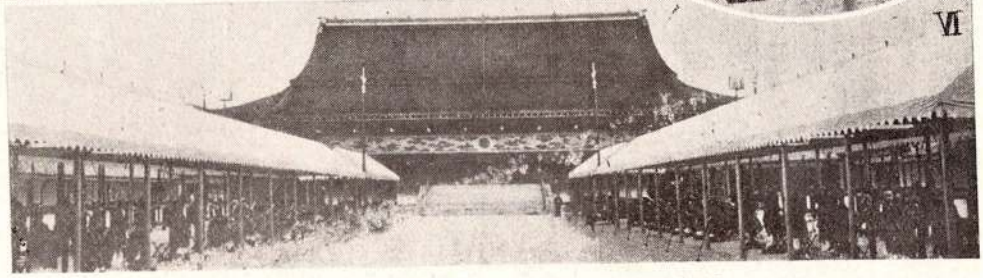
同上習禮衛門退出



同上習禮　威儀、司鉦司鼓（西方の參役者）



同上習禮庭上參役者の退下

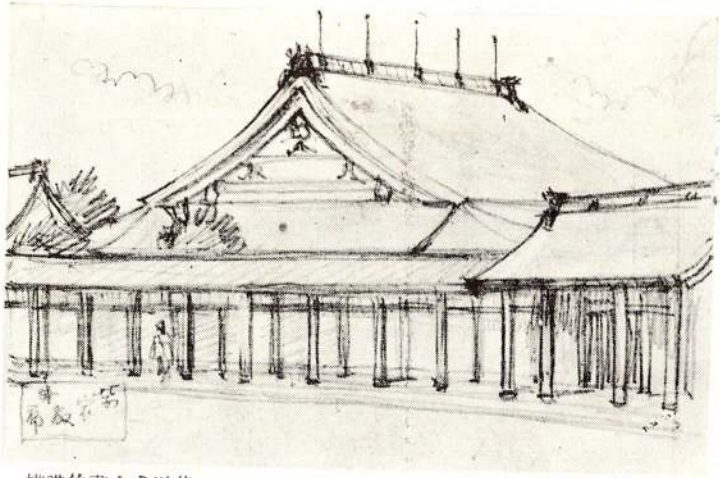


同上習禮雨天用意の天幕で庭上參役者各々その本位につく

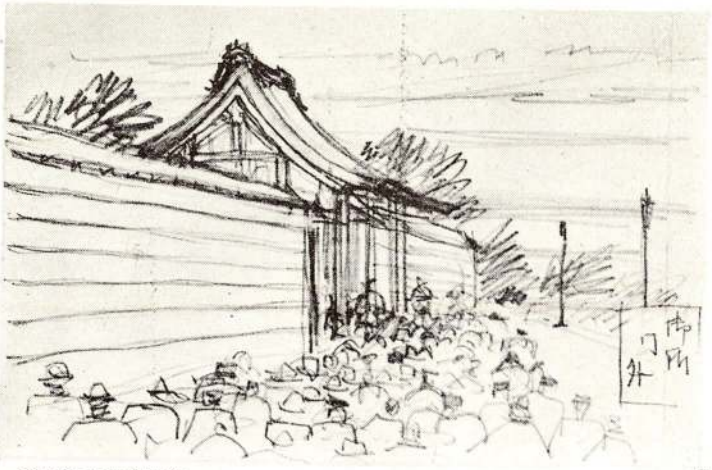
に軟障、東軒廊の南面に翠簾、北面に軟障を懸け、北廂の中央竝に東西の兩端及北廂より東廂の入口に至る間には幌を懸ぐ。

南庭櫻樹の木柵南端より正南二十四尺に日像纛旛一旒、橘樹の木柵南端より正面二十四尺に月像纛旛一旒を樹て、日像纛旛の正面十尺に頭八咫烏形大錦旛一旒、月像纛旛の正南十尺に靈鵄形大錦旛一旒、兩面旛の正南十尺に菊花章中錦旛、菊花章小錦旛、左右各五旒を樹て、各九尺の間隔を存す。大錦旛前面三十一尺に萬歲旛左右各一旒を樹て、小錦旛の前面十二尺の併行線上に枠左右各十竿を布列し、各四尺五寸の間隔を存す。其の前面十三尺の併行線上に鉦左右各三面を布列し、各五尺の間隔を存す。第三の鉦より正南十尺に鼓左右各三面を布列し、各五尺の間隔を存す。以上諸旛竝に枠の枠臺大小四十六及鉦鼓の臺十二は、何れも前記所定の位置に埋め込み、混凝土を以て固定す。

廻廊　廻廊の內側には、延長七十七間の附庇を設け、牀は稍々前方に傾斜し、奥行三間を三段に



廊外殿宸紫　　撰謹伯畵之成川荒

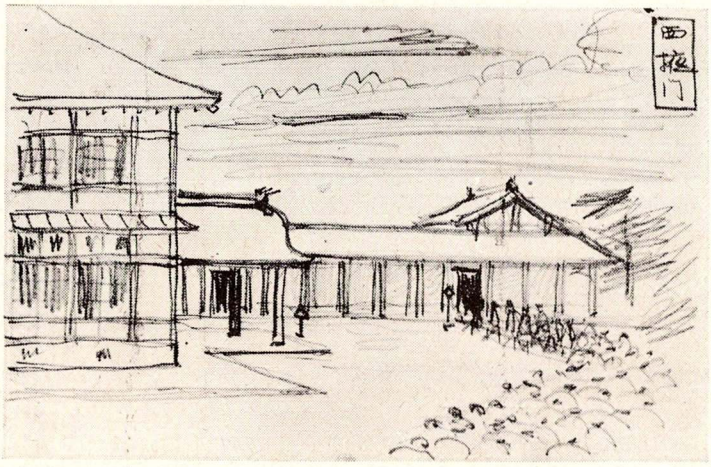


外門所御　　撰謹伯畵之成川荒



殿宸紫　　撰謹伯畵之成川荒

張り、牀面には締絲畦織布を敷き詰め、各參役者の本位を標示する爲に、徑約一寸五分大の眞鍮平鋲



西掖門　荒川成之畫伯謹摸

高御座と御帳臺

高御座は大正天皇御即位禮の際工藝の粹を集めて御調製になつたもの、少しのくるひもなく、漆の色にも時代がついて、いよいよ麗しい艶が出てゐるので、今度の大禮には御裝飾の部分品を新調されたのみであつた。御構造はなかなかに込み入つて螺鈿、錦繡、彫刻、彩繪が各部に施された立派なものであるが、總高十九尺六寸、三層繼壇の上に組み立てられ繼壇最下の正面が二十尺奥行十八尺である。一番下の繼壇は高さ三尺五分、前面の眼象には中央に鳳凰、左右には麒麟が極彩色で描き出されてゐる。背面には幅六尺五分の五段の階段を打ち、庇裏には緞子幕を張り、前面軒下には緞子幕を絞り上げて裝飾を施す。

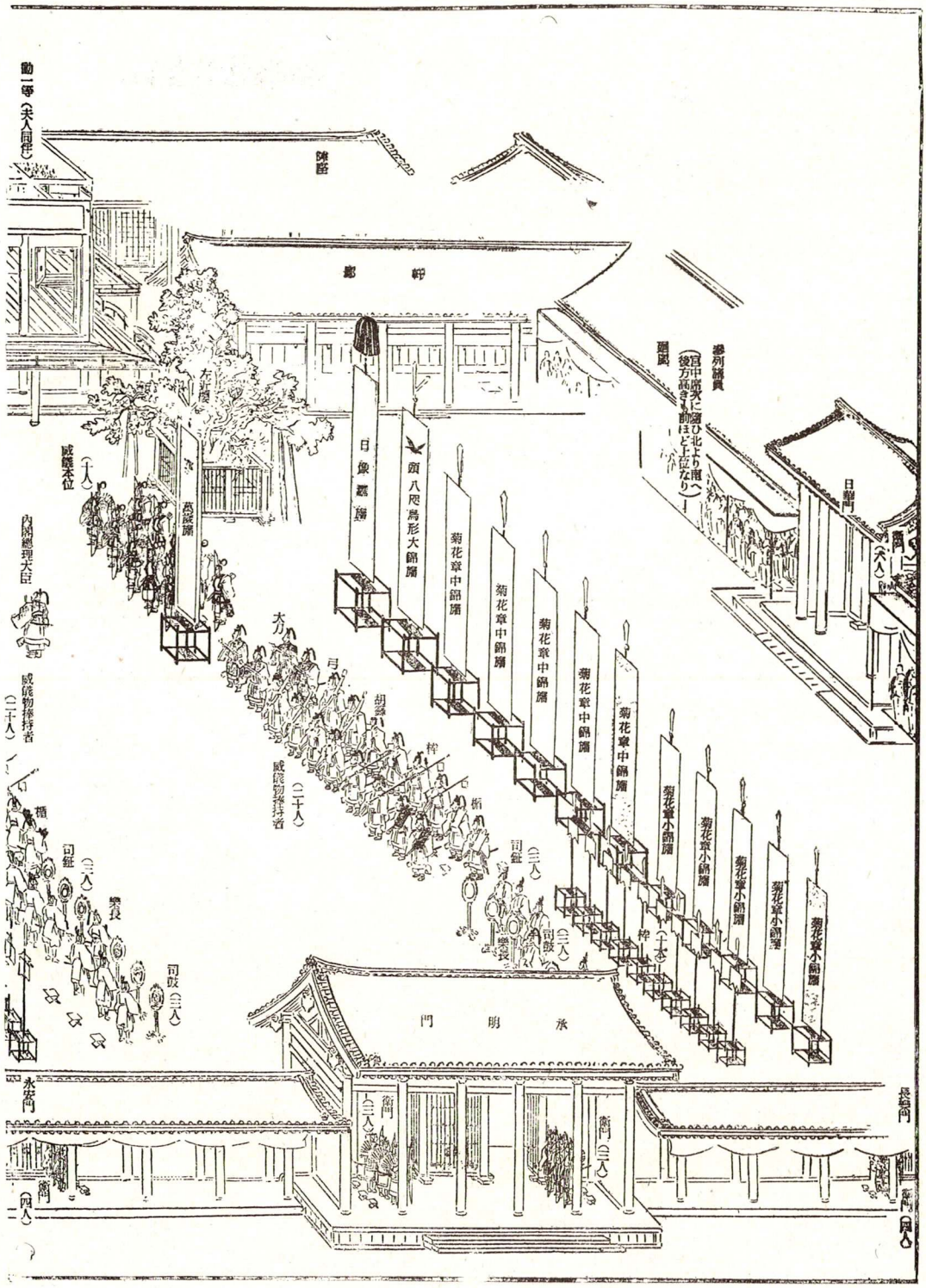
（大正度大禮記錄に依る）

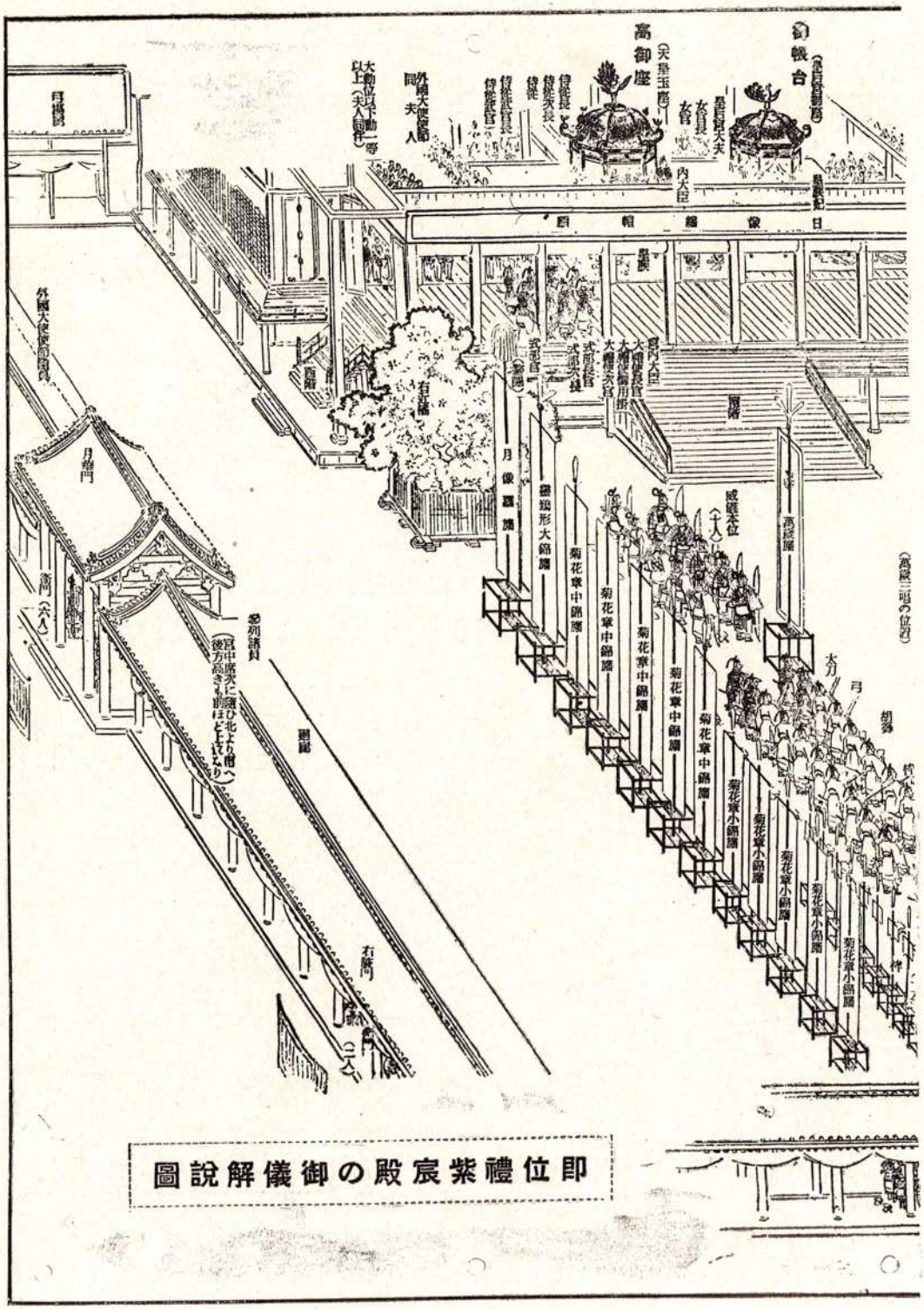
左右兩側面には幅五尺三寸八分の三段の階段があり、壇上の四周に設けられた高さ一尺四寸の勾欄は朱漆蠟色塗で、菊花御紋章の入つた金の金具が打たれてある。そして壇上には赤地に牡丹の錦が敷れてゐる。その上に八角形高さ四寸の第二層、それより少くし小形の第三層が据えられ、その上に八角形八本柱の高御座が組み立てられてゐて、蓋上中央の頂きには金色の翼を、飛びたゝんばかりに仲ばした大鳳凰があり、棟上八隅の蕨手の上には各小鳳凰が金色に光つてゐる。搏風には御鏡が光つてゐるし、內部にも多數の御鏡が光つてゐる。棟下の八隅に懸られたのが玉旒で黃金の彫りに玉がちりばめられてゐる。八面に懸られた深紫色に緋の裏をつけてある御帳の上層に金銅すかし彫りの美しい唐草形の帽額がかゝつてゐる。高御座の御內には繧繝緣を取つた疊が二枚、その上に大和錦緣龍聲土敷こいふ備後表が一枚、その上に大和軟錦毯代、その上に東京錦毯代が一枚づつ色の配合も功に敷かれ、その上に玉座の御椅子があり御椅子の兩側にある案が、御劍と御璽を安かれる案で、螺鈿細工の美しい案である。

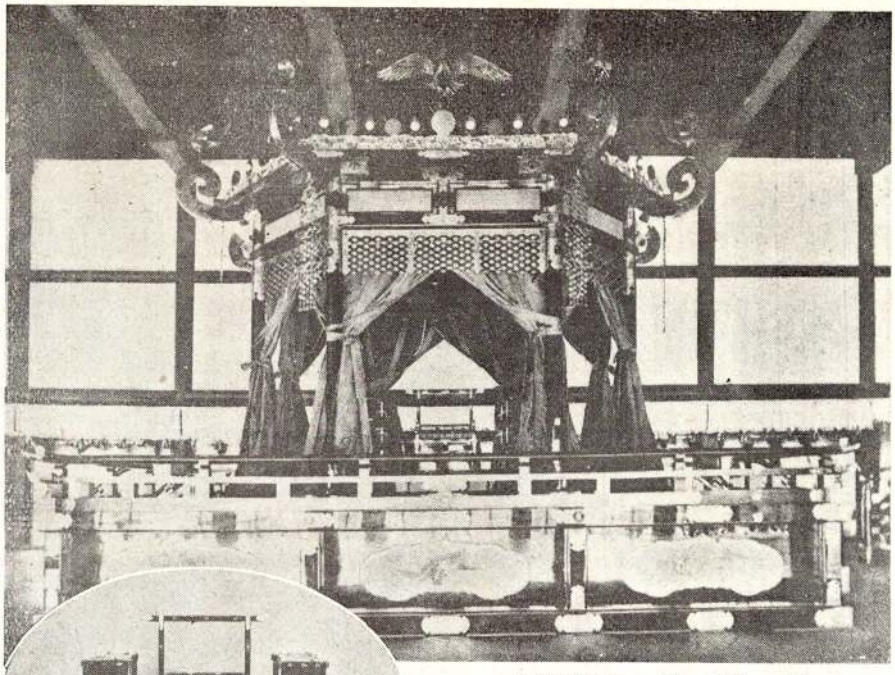
御帳臺は申すまでもなく皇后陛下の御座で、やはり大正天皇御即位禮の時御調製になつたものであるが、この度の御大禮に於ては皇后陛下の昇御を拜したのであつた御構造は大體、高御座と同じであるが、蓋上に大靈鳥が一翼あるのみで、この鳥は鸞こいふ鳥を像られたもの、由である。

日像繡帽額（もかう）

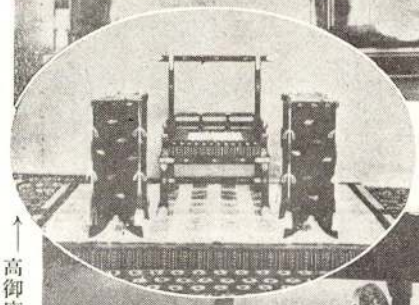
紫宸殿はつねに障子が閉され、南榮即ち正面の軒の上には岡本保考の謹書した「紫宸殿」の御額がかゝつてゐるのでありますが御儀の前におろされて帽額が掛けられます。


勲一等（夫人同伴）
陣幕
幄舎
参列議員
（宮中席次に準ひ北より南へ後方高き程ほど上位なり）
廻廊
日廉門
（六人）
威儀本位
（十人）
内閣總理大臣
威儀物捧持者
（二十人）
菊花章中錦旗
菊花章小錦旗
日像錦旗
頁八咫烏形大錦旗
大刀
弓
胡簶
（二人）
杵
楯
（二十人）
威儀物捧持者
（二十人）
司鉦
（三人）
司鼓
（三人）
樂長
（一人）
司鼓（三人）
永安門
（四人）
永明門
南門
（十三人）
南門（三人）
長安門
南門（四人）


高御座
(天皇玉座)
御帳台
(皇后宮御座)
大勲位(以下勲一等以上(夫人同伴))
外國大使館同(夫人)
侍従長
侍従次長
侍従武官長
侍従武官
内大臣
女官長
女官
皇后宮大夫
皇后宮亮
皇后宮大夫
皇后宮亮
皇后宮女官長
皇后宮女官
内大臣
大禮使長官
大禮使次官
式部長官
式部次官
式部官
(奏任)
式部官
(勅任)
内大臣
大禮使長官
大禮使次官
大禮使用掛
賢所
皇靈殿
神殿
賢所
皇靈殿
神殿
賢所
皇靈殿
神殿

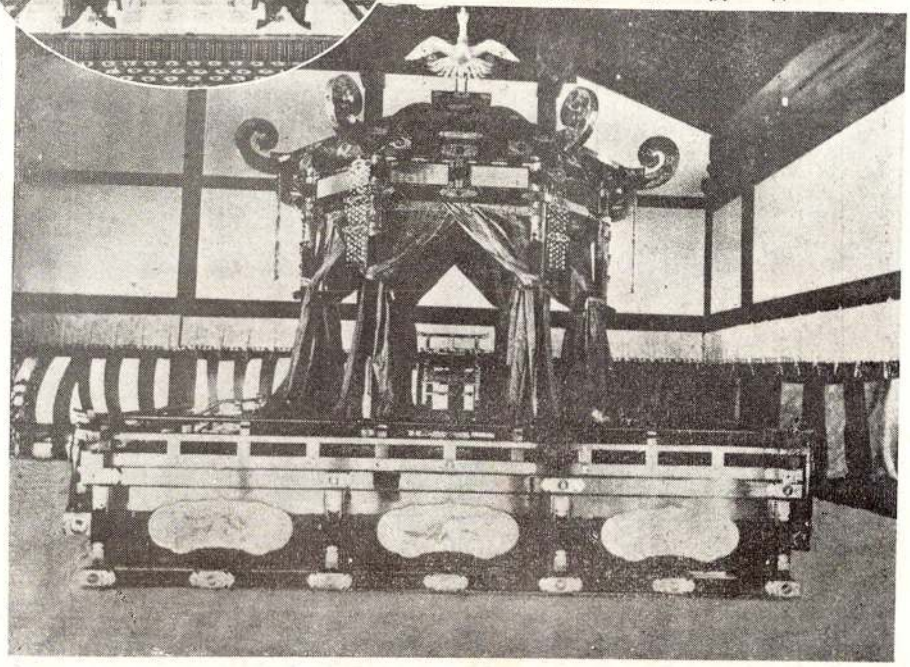


高　御　座　（天皇玉座）



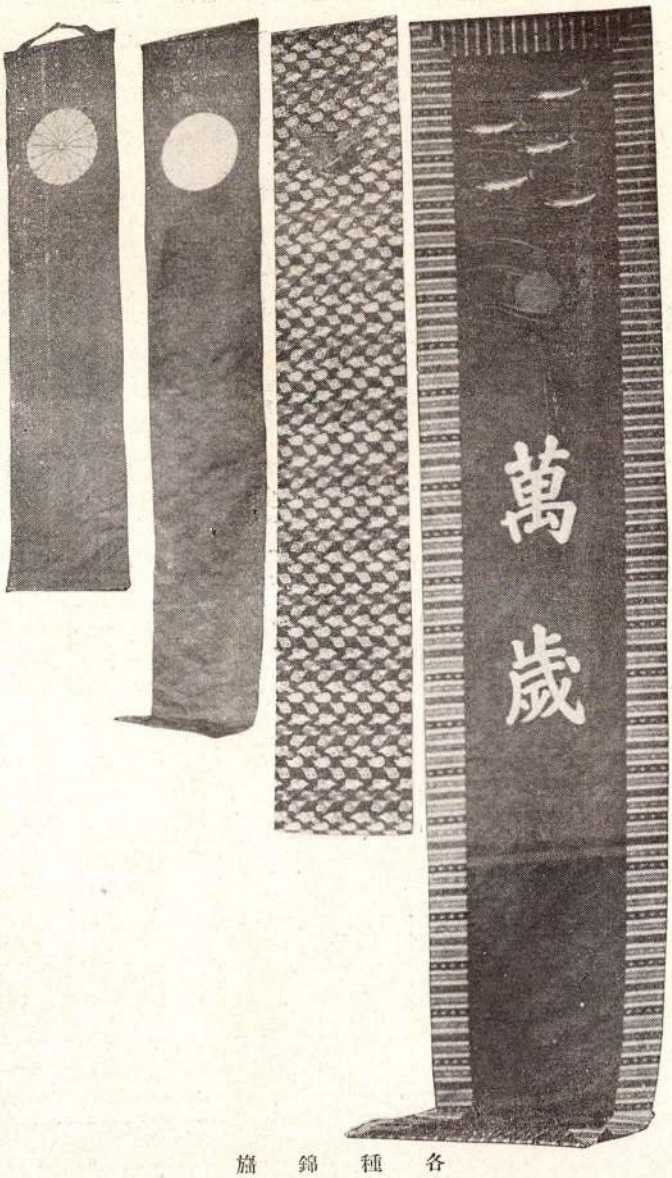
←高御座に安く劍璽案、御椅子等

御　帳　臺　（皇后御座）



日像繡帽額　は白地綴錦地文小葵上文五彩瑞雲、中央に金色日章を表出す。輪廓あり、波線狀に蝶文を配す、皆金色裏は緋色の細布五巾を繼ぎ合す。白絹四幅下端に、紫地　葵綾一幅を繼ぎ合せたる中倍を入る。右を合せて一條と爲す。長さ九十一尺七寸、幅五尺二寸、日像直徑三尺二寸、重量十四貫四百二十八匁、錦の表一枚の絲目十貫五百八十匁。上部裏面に金具を裝置す。

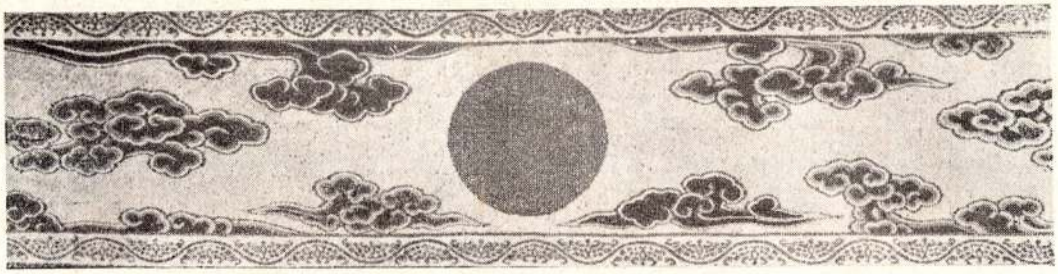
（大正度大禮記錄に依る）



各種錦旗

大嘗祭

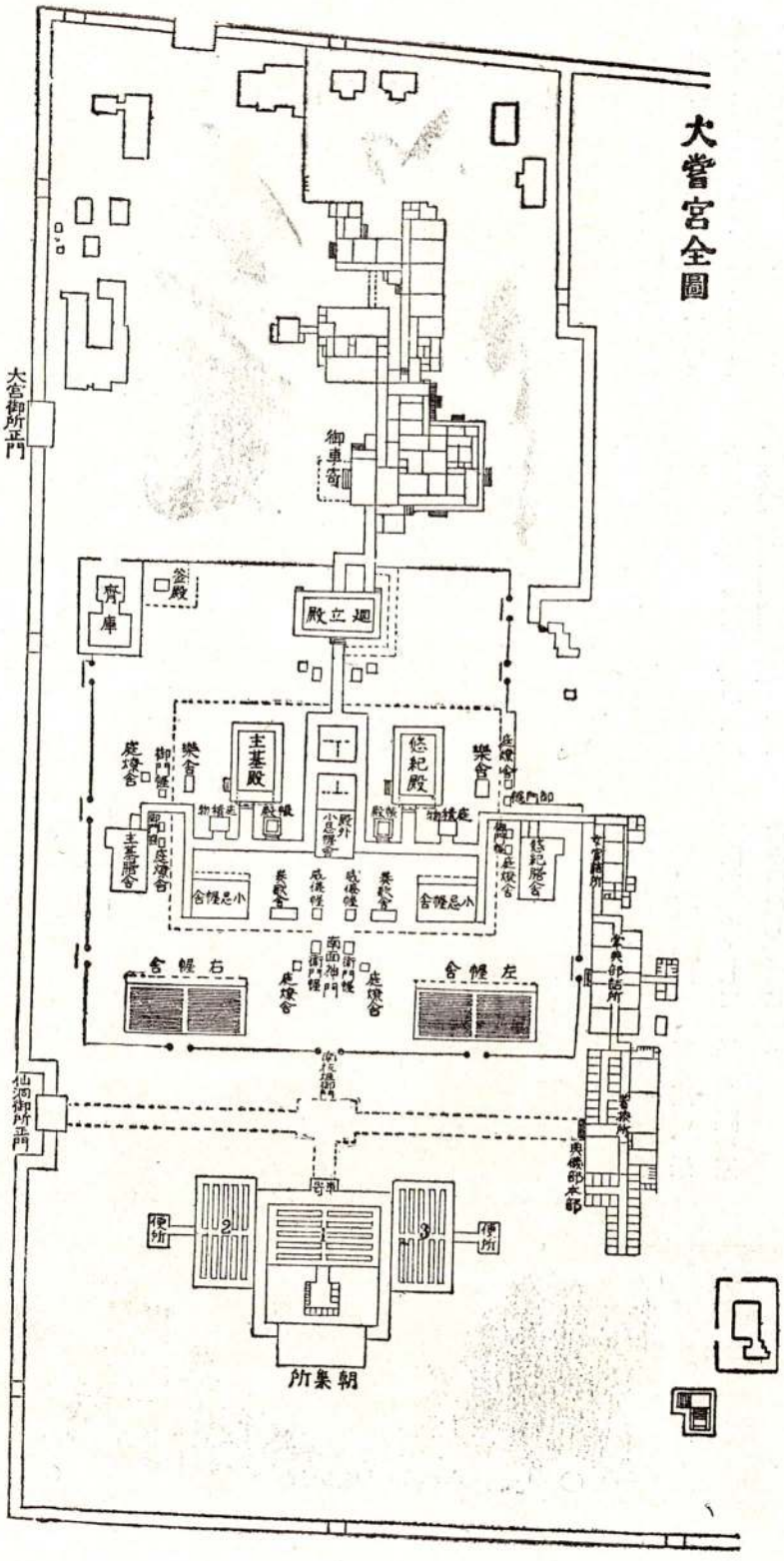
大嘗祭とは、天皇即位の後始めて豐葦原千五百秋瑞穗國の新穀を以て、皇祖及天神地祇を祭紀、主基の兩殿に請饗せられ、且つ大親からも聞し食さるる大祀なり。其の皇祖及天神地祇に奉事せらるゝこと、猶ほ在ますが如くし、以て報本反始の禮を正しうし給ふ。從つて、其の儀に主とする所は、崇高深朴、宛として、皇祖親臨の遂古を想はしむるに在り。



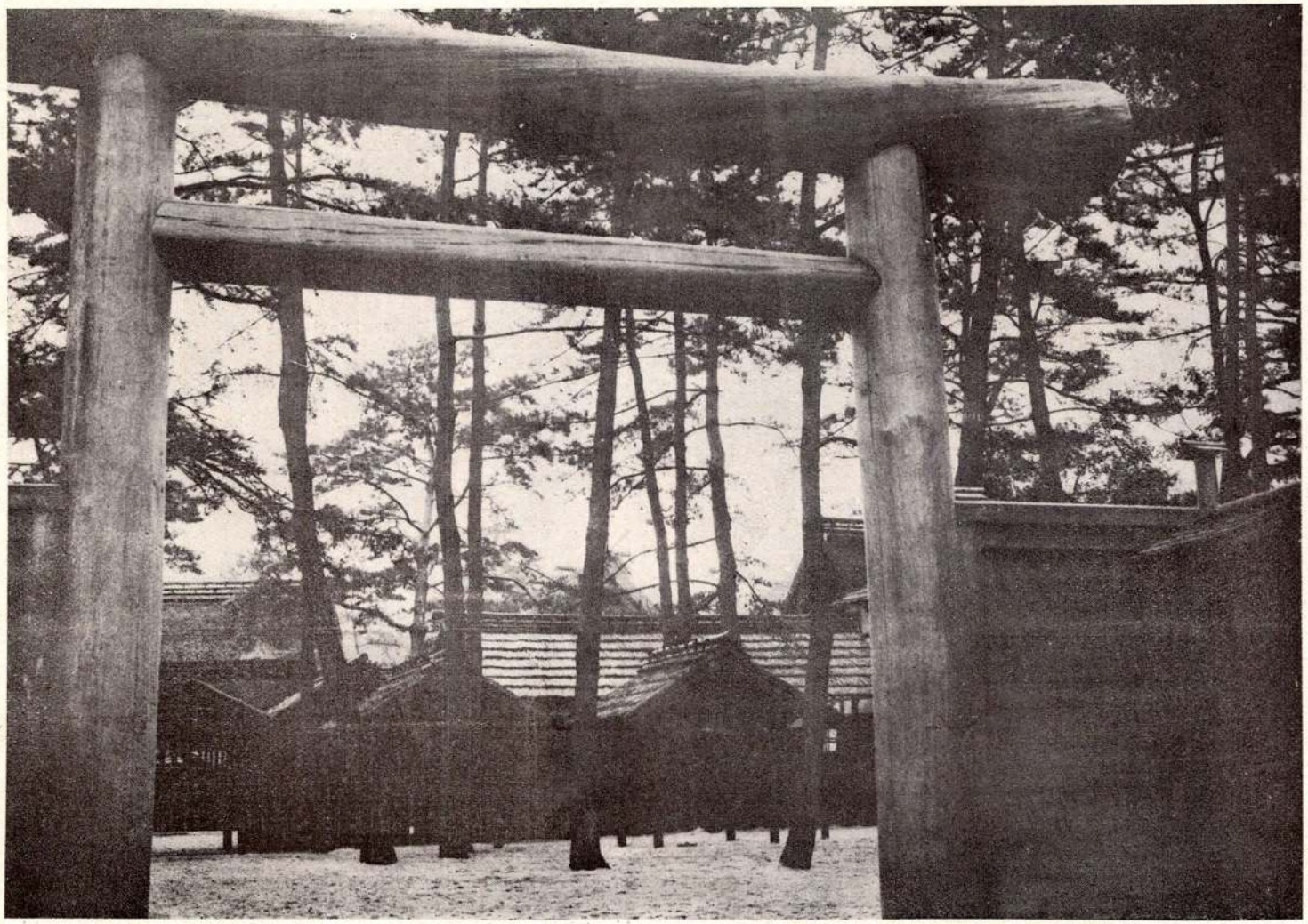
紫宸殿の南榮へ掛けらるゝ幔幕

大　嘗　宮

大嘗宮は、舊仙洞御所正門内北方に位し、廣袤六十間（但し、東北隅なる東西約八間南北二十八間の地を除く）板垣を匝らし、南面に南板垣御門（中央）、東掖門、西掖門、東面に左掖門（南寄）、通用門（北寄）、西面に西板垣御門（中央）、右掖門（南寄）、通用門（北寄）を開き、東面各門内及西面各門外に瀦塀を樹てて外廊とす。内に東西四十間、南北三十間を劃して柴垣を匝らし、其の中央にも、南北に亘れる柴垣を設けて之を二分し、東を悠紀院、西を主基院とす。四周せる柴垣の正南に南神門、正東に東神門、正面に西神門、正北に北神門を開き、中垣の正中にも、亦た神門を設く。東西兩神門



大嘗宮全圖



大誉宮南神門より庭燎舎を拝す

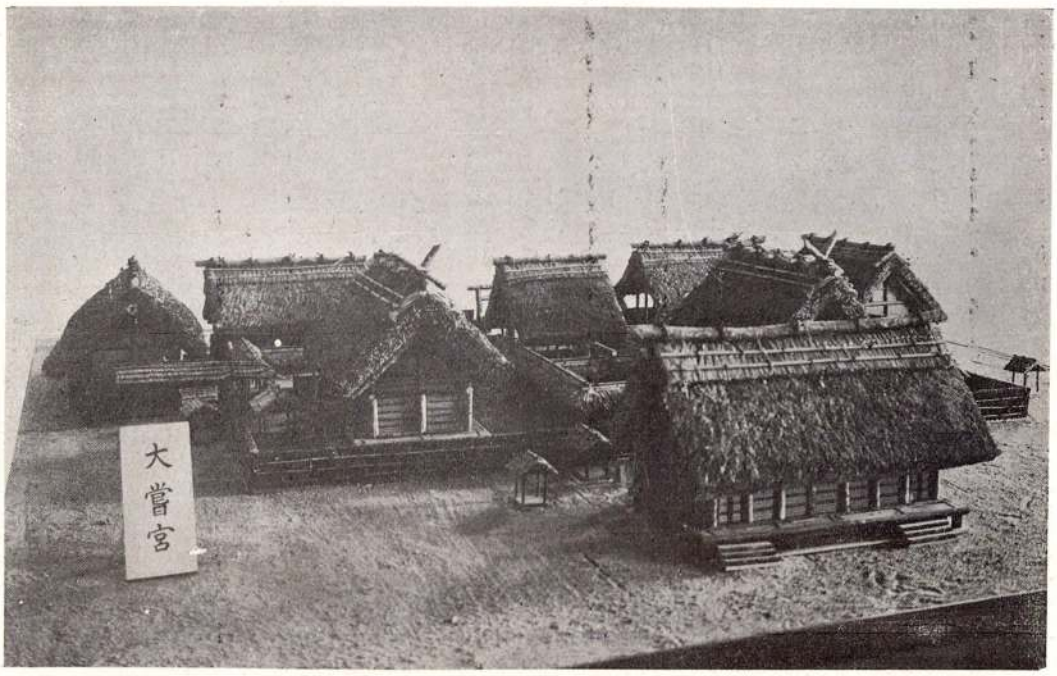
の外に各舁を樹て、中垣の南北兩端に於ては、丁字形に柴垣を附す

悠紀殿及主基殿の位置及附屬舍

悠紀殿は、悠紀院の正中北寄に位し、其の西南に帳殿あり、東南に庭積の帳殿あり、同殿の東北に樂舍あり、南に小忌幄舍あり、小忌幄舍の西に悠紀風俗歌及國栖古風の幄あり、東に柴垣を隔てて悠紀膳屋あり。主基殿は、主基院の



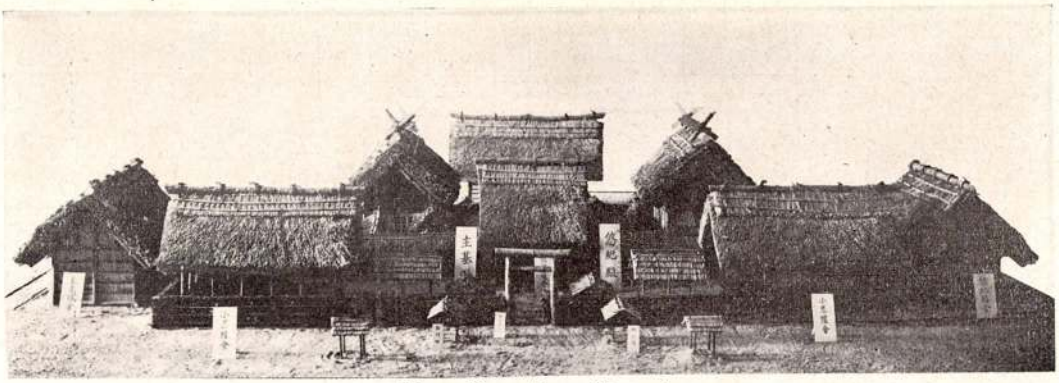
廻立殿（十四日、十五日の大嘗祭に陛下が小忌の御湯に
召し、かゝられ御祭服を召したる御殿



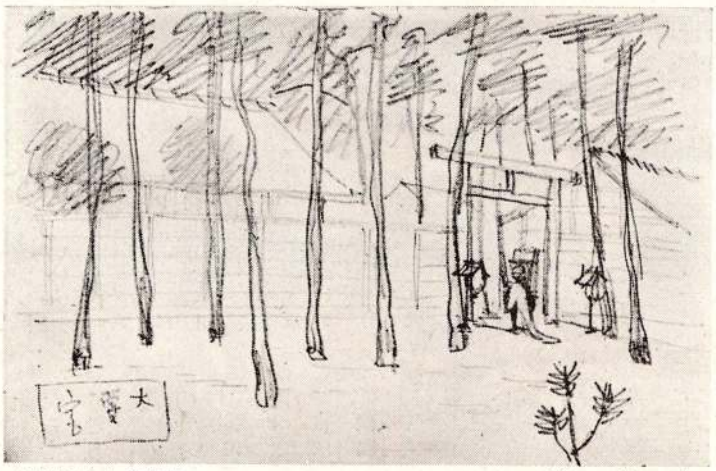
大嘗宮模型

兩儀の規制

正中北寄に位し、帳殿以下の配置悠紀に同じく、唯だ、東西相反するのみ。兩帳殿の中間に殿外小忌幄舍あり、神門の北に廻立殿あり其の西北に釜殿あり、南神門内の左右に威儀幄あり、各神門外左右に衛門幄及庭燎舍あり、南板垣御門内の左右に參列員の幄舍あり、同門外の左右に哨舍各一棟あり、東西兩掖及右掖の各門外左右に哨舍各一棟あり、廻立殿の南階より北神門を經て右折し、左折し、中垣の神門を經、右折して殿外小忌幄舍の東側を經、左折して帳殿前を經、又左折して悠紀殿の南階に至る間、是より小忌幄舍及悠紀膳屋に至る間、及帳殿竝に庭積の帳殿前に廻廊を設く。主基亦た同じく、唯だ左右相反するのみ。別に廻立殿東の御間北扉前の渡廊下東側の階より廻立殿の東方を經て同殿南階の下に至る間に廊下を設く



大嘗宮模型



大嘗宮　荒川政之畫伯謹寫

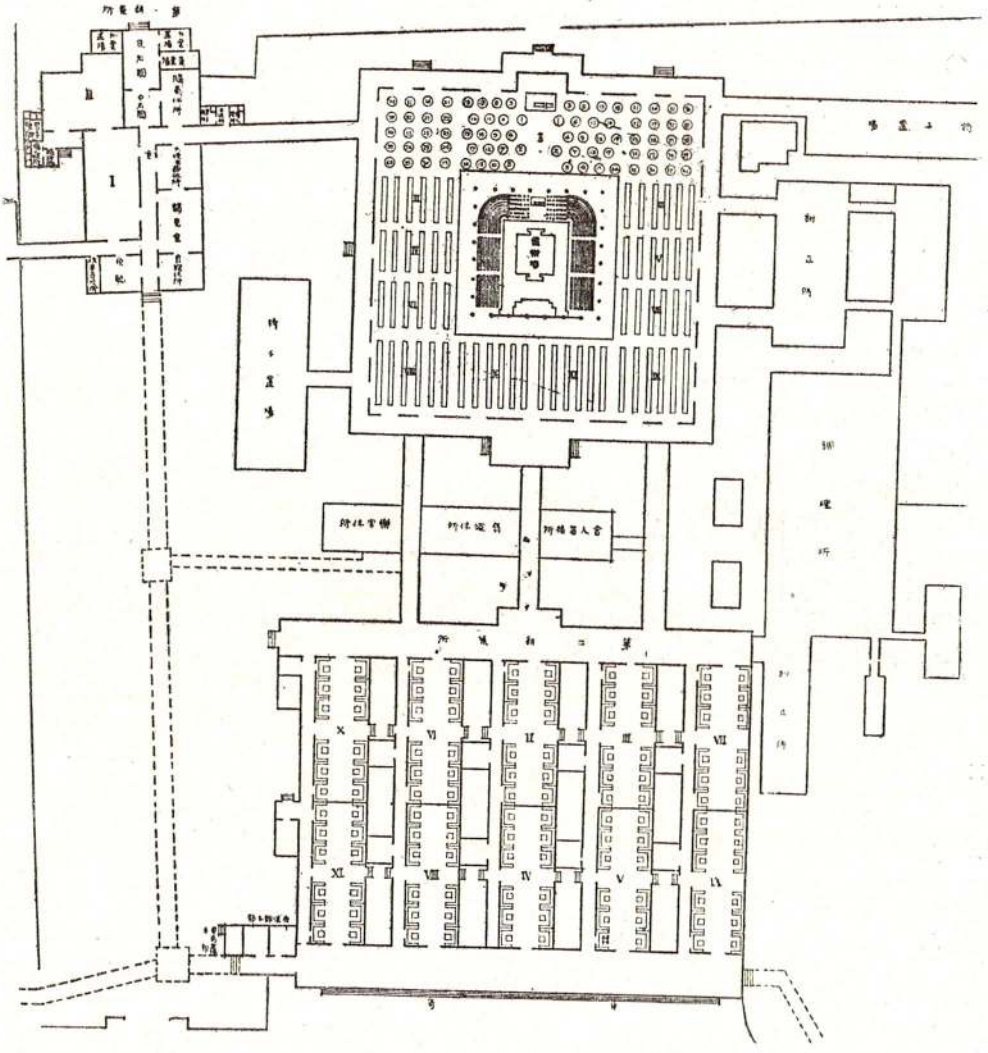
悠紀殿は、東西二丈七尺、南北四丈二尺にして周圍に簀子を設け、殿内を二分し、北を内陣南を外陣とす。内陣は、方二丈の入口及西方南寄には、何れも扉を附し、簀子を隔てて階を設く。殿舍は、總て黒木造りにして、承塵、壁及扉には近江表を張り、床及簀子は竹簀子とし地上には阿都賀草（生茅）牀上には薦及近江表の疊を敷き、屋根は萱を以て葺き千木及勝男木を附す主基殿、亦た之に同じ。但し悠紀殿に於ては千木の上端を内削（水平に切る）下端を外削（垂直に切る）にし、破風の拜の兩方を上にし、主基殿に於ては之に反す。

（大正度大禮記錄に依る）

七尺にして、正門一丈一尺を入口とす。外陣は、東西二丈七尺南北一丈八尺にして、南方西寄

大饗

登極令第十五條を拜しますと、



大饗宴場並に朝集所の配置圖

即位ノ禮及ヒ大嘗祭訖リタルトキハ大饗ヲ賜フ

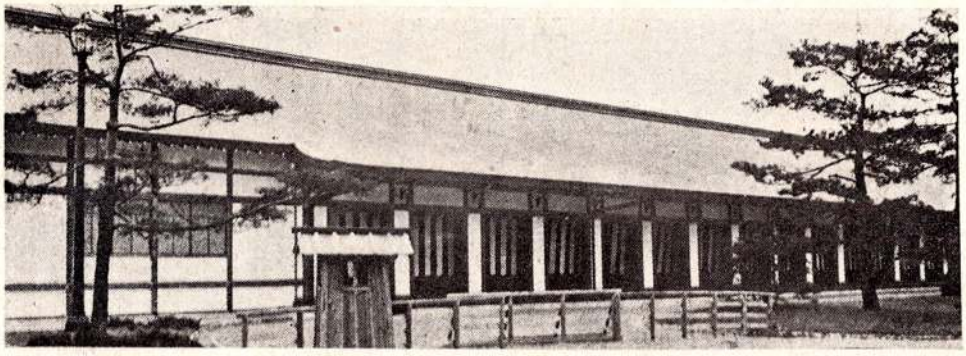
こあります如く、大禮の二つの大きな御儀が滯りなく訖らせられたる十六日と十七日とを之に宛てさせられまして、これを第一日の儀。第二日の儀。夜宴の儀の三つの大きな御儀があります、いま上の例によつて三項に分つて申述べます。

古は大饗と申す獨立いたした御儀はなかつたのであります。即ち即位式を擧げさせ給ひて後、大嘗祭が卯の日に訖つてから、之に續いて三日に亘つて節會と申すのを行はせられ、第一日のを辰日の節會とも悠紀の節會とも申し、第二日のを巳日の節會とも主基の節會とも申し酒饌は賜はりはしましたが、この二つの節會は御神事であらせられたのであります。然うして第三日のを午日節會(ごまのあかりの)とも豊明節會(とよのあかりのせちゑ)とも申しまして、齊(ものいみ)を解いて御宴があるのであります。今回の

大饗にあらせられましても、如上の各々の節會の趣は十分に拜し得られるのでありまして、決してこの各々の節會が略されたのではないのであります。

第一日の儀

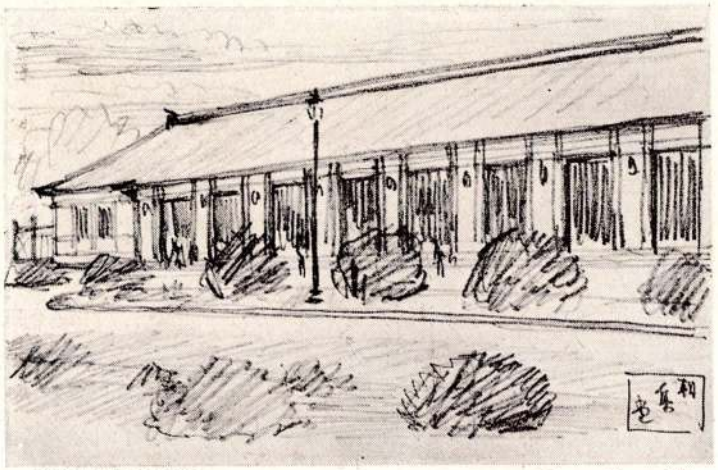
大饗を賜ふ御殿を豐樂殿と申します、今回は京都皇宮の東の廣場に特に建設いたされ、これを大饗宴場とも申すのであります。御建物は莊嚴を極め、總建坪一千八百坪、高さは四十餘尺、その御殿の中央は約百二十尺四角の舞樂場が設けられ、その周圍が饗宴場となるので、この饗宴場は桃山時代の建築の粹を集められた美しいもので、天井は格天井、その一つ〳〵には花、鳥の文樣が極彩色で描かれ、まはりの御壁にも古代の文樣ある壁紙を張られ、柱は朱漆塗でありまます。そしてその中央の舞樂場は天井を張らぬずつと古い形式によられ、鐵筋混凝土で造つた臺



第二朝集所

があつてこれに朱塗の勾欄がめぐらされた舞臺が設けられてあります。その舞臺の南側の左右には東には龍、西には鳳凰の裝飾をつけられた大きな樂の太鼓が立ち、鉦鼓が置かれ、その後には錦の幕が懸つて樂屋となつてゐるのであります。

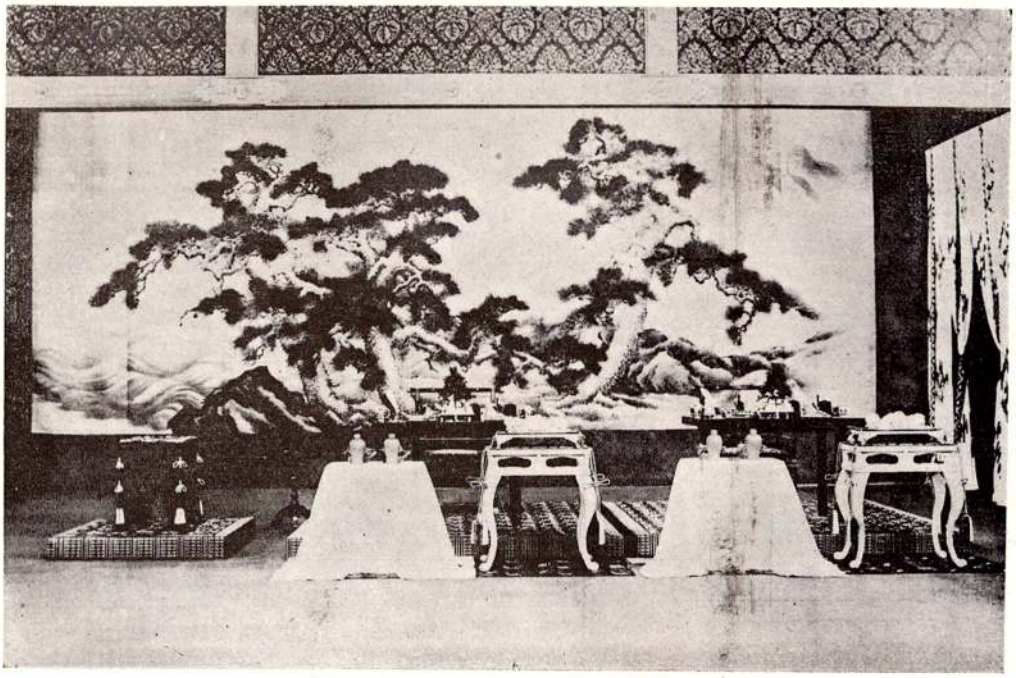
玉座は御殿の北方正面に南面して設けられ床の上に繧繝縁の疊三枚を並べ、その上に錦褥代を敷き、その上に御椅子が安かれてあるのであります、勿論神劍神璽の案は御側に安かれます。その東方には玉座と同じ制にて皇后陛下の御座が設けられてあります。玉座、御座の前には臺盤と申して下々でいふ食卓が置かれるのであります玉座、御座の御後は錦軟障と申しまして、高さ約一丈二尺幅三丈餘の白地の絹へ紫の裂を以て縁をとり、その素地へ老松を大きく千年の色をみせ安國の山、水が明るく光輝に光ちてゐる繪が描かれてあります。この繪は故今尾景年が描きたしたもので、大正度の御料と



朝集所　荒川成之畫伯謹撰

なり、今回のもこれを用ひさせらるるのであります。また玉座を拜して右の方、即ち御殿の北廂の東北隅には悠紀地方の風俗歌の屏風左の方、即ち御殿の北廂の西北隅には主基の地方の風俗歌の屏風と申しますのは兩地方の風景風物を歌に詠み、繪にして、これを歌人と畫工が合作謹制いたしましたもので。下々の言葉でこれを申しますならば、悠紀のそれは滋賀縣の悠紀齊田を中心といたしまして、その近傍の風景を川合玉堂が描き同じくその風景風物を御歌所々長入江爲守子が和歌に詠んでこれを色紙に謹書したものを張交ぜといたしたる御屏風。また主基のそれは、繪の方を山元春擧、和歌を御歌所寄人阪正臣が奉仕いたしたる御屏風なのであります。

兩陛下には御座に着御あらせられますと、侍從は劍璽を案上に奉安いたします。然して供奉の諸員本位に就きます。



豊樂殿大饗宴場の玉座

ここに勅語を賜ひます。內閣總理大臣は奉對をいたします。次に外國大使使節を代表いたしてドイツ大使同じく奉對いたし、式部長官がこれを御通譯いたしたのであります。

次に侍從と女官が奉仕いたしまして、兩陛下に白酒黑酒を供します。次に諸員にも白酒黑酒を賜つていよ〳〵御饗宴が始まるのであります。

御饗宴中久米舞、悠紀主基兩地方の風俗舞が奏せられ、五節の舞が訖りますと 兩陛下に御挿華を供へます。また諸臣にも挿華を賜ひます。斯くして盛大な饗宴は終らせられ兩陛下の入御ありて各々の退下いたすのは午後二時過であります。なほこの日お召しに預かる者は約九百名であります。

饗宴場

饗宴場は、方四十一間、千六百八十餘坪の廣さを有し、中央に方

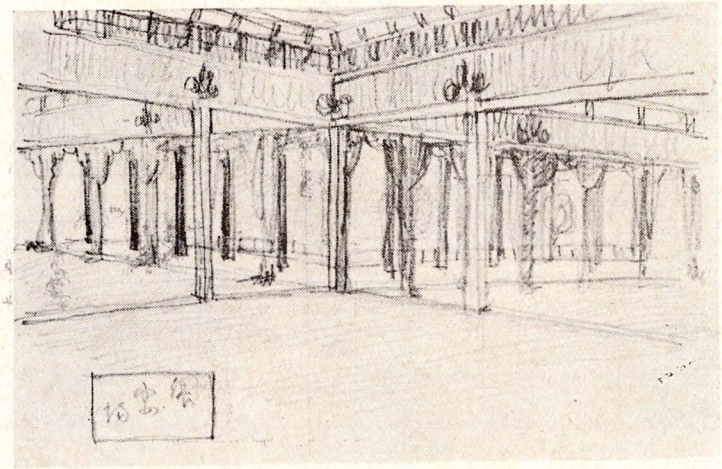


聖代を壽ぐ君臣和樂の大饗宴場

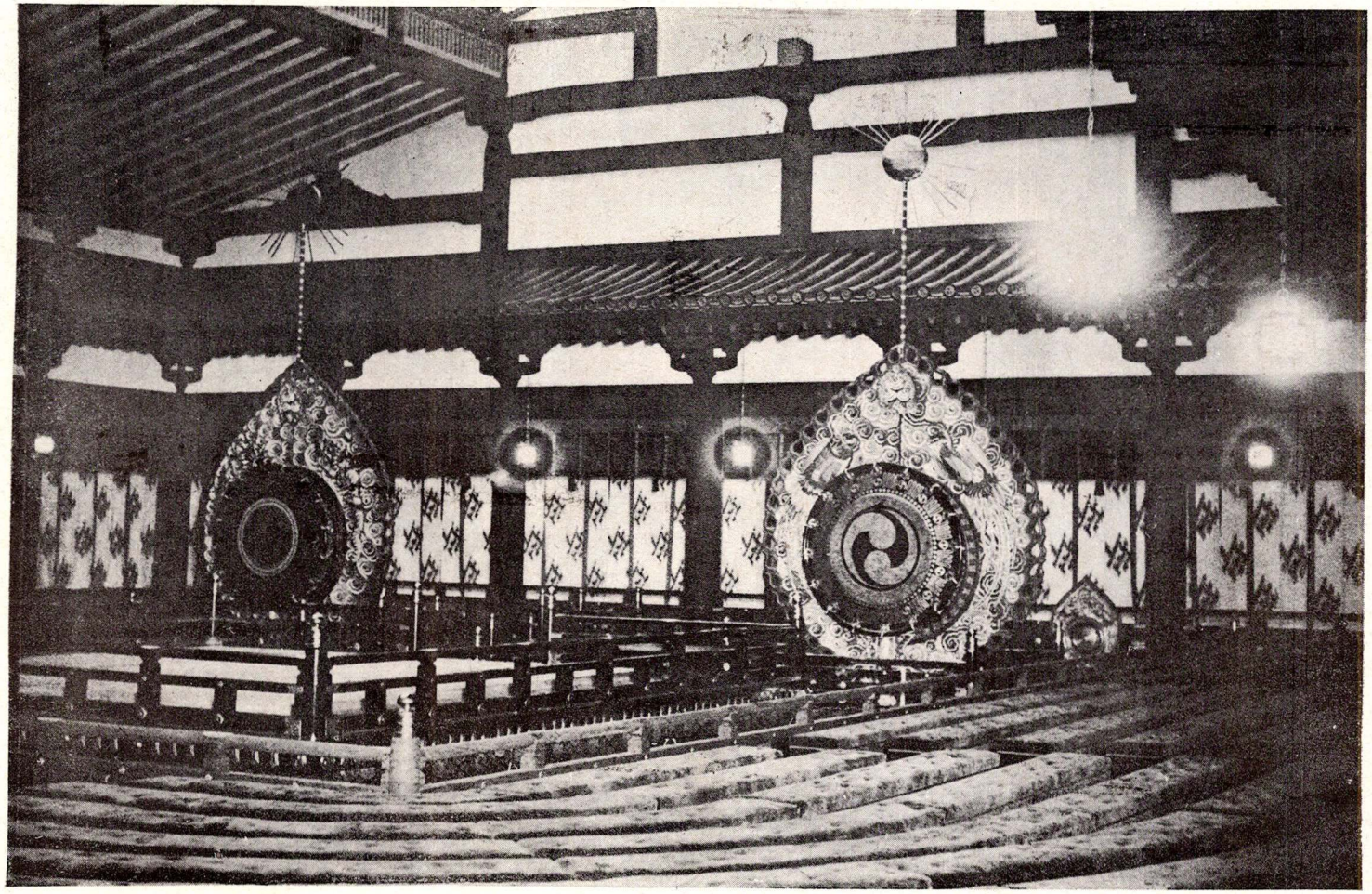
十四間の舞樂場を設けて、幅二間の入側を附し、其の周圍を食堂とし、更に匝らすに幅二間の廊下を以てし、南方には、大渡廊下を設けて、宮殿蘇鐵の間に連り、同廊下の中央より更に東西に向ひて渡廊下を設け、西は便殿（白書院）東は元臺所なる大禮使事務所及第二車寄に通じ、北方には附立場、調理所以下八棟を設け、渡廊下十八箇所を添ふ。外に附帶設備としては、二の丸宮殿の各室を以て休所（第一より第四に至る）に充て、增築又は模樣替に依りて、車寄、附屬豫備室、化粧室、喫煙室（第一より第四に至る）及車馬置場等を設け、殿内の牀には、總て絨毯を敷く。

舞樂場周圍の入側と食堂との境界には、柱間に簾を垂れ、其の外側及食堂の四面（玉座の後方六間を除く）に朽木形壁代を懸く。

玉座は、場内北方に設けられ、其後方に水墨千年松山水の錦軟障を掛け、又悠紀（東北隅）主基（西北隅）兩地方風俗歌の屏風各一雙を



饗宴場　　荒川成之畫伯　謹撰



大饗宴場内の豊樂殿

立て、其の前方及舞樂場の左右兩側（本章に於ける左右は、玉座に向ひて之を定む）を陪宴諸員の席とし、四方の廊下には、處處に盆栽等を排置す。御宴中は、前記境界の簾、竝に壁代を寒げ、食堂の南端は、左右共第四班に沿ひて壁代を懸く。天井は、構造彩色、共に華麗を極め、天光、線を爲して華紋ある玻璃を透射するは、殊に趣あり。

舞樂場

舞樂場は、東北西の三面を開き其の中央に牀を下げ、方二丈六尺一寸の舞臺を設け、後方左右に鼉太鼓各一基、更に其の後方左右に鉦鼓各一基を置き、其の南方人側に沿ひて東西十八尺、南北十一尺の樂官幄を設く。舞臺には、萠黃色の地敷を布き、南北兩面の中央を除きて、四面に朱塗の勾欄を廻らし、其の下部に、水引幕を張りて、總角を懸け、南北兩面の中央には木階を附す。鼉太鼓及鉦鼓の臺にも、亦た水引幕を張りて總角を懸け、鼉太鼓臺の南面には木階を附す。樂官幄は前面左右に朱塗の勾欄を設け、東西には木階を附して昇降に便し、幄の後方には簀の幕を張りて樂器を排列す。幄の左右より、饗宴場南方廣間大渡廊下に至る牀下には下行道を造り、是より樂官休所に至る間には、天幕廊下を設けて、舞姫、樂官の道路とす。（大正度大禮記錄に依る）



神苑　荒川成之畫伯謹摸

第一日の儀について十七日午後六時三十分から凡そ一時間半の間第二日の儀が前と同じ御殿で行はせられる。この儀に御召に預る者は、極めて少數でありまして外國大使使節並に夫人を合せて約三百人位であります。この儀が終られ、ひきつゞいて夜八時すぎから夜宴の儀を行はせられます。

聖壽の萬歲を祝ふめでたい萬歲樂、また御代の太平を壽ぐ太平樂もこの夜奏されます。

神宮に親謁の儀

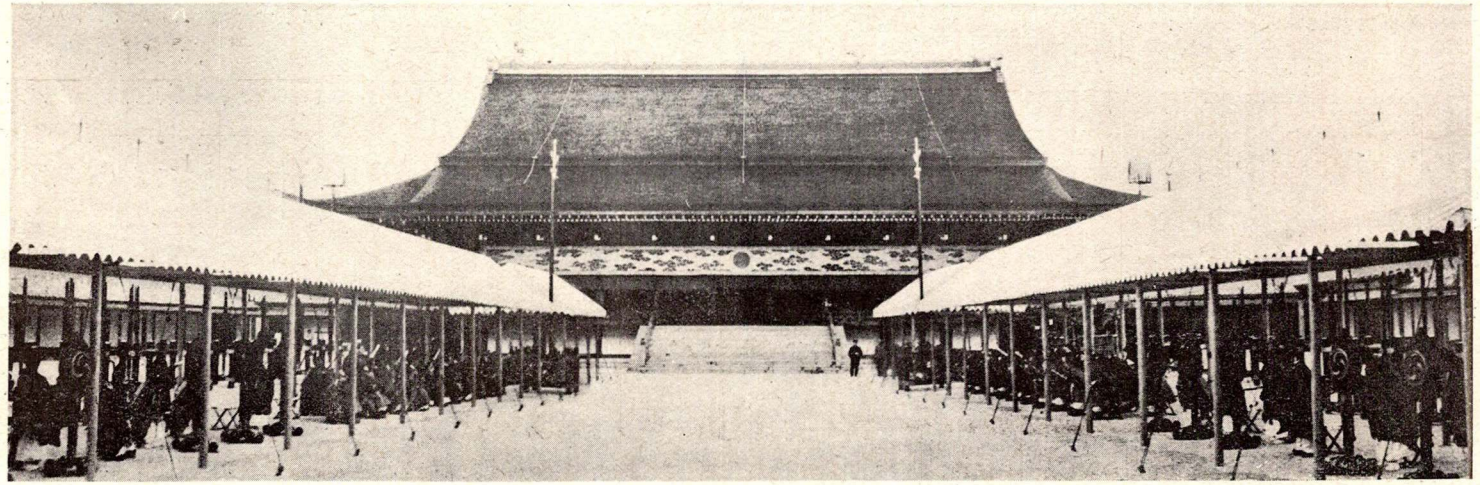
即位禮と大嘗祭を終らせ給ひ、大饗をも賜ひ、こゝに重なる大禮を滯りなくすませられたので兩陛下には十一月十九日伊勢に行幸啓行在所神宮司廳に御駐泊、踐祚後はじめて外宮は二十日に、二十一日は內宮に親しく皇祖に御奉告、且つ冥助の深いのを申謝し給ふのであります。

御親謁奏幣の儀の訖つた翌二十二日京都に還幸啓あらせられます次いで大和畝傍の

神武天皇山陵親謁の儀

か二十三日に行はれます。次いで翌二十四日には泉山の仁孝天皇山陵及び孝明天皇山陵に親謁の事あり、その翌二十五日には伏見桃山なる明治天皇山陵に親謁の儀ありいよ〳〵翌二十六日には再び賢所を奉じて京都驛御發輦、途中名古屋へ御駐輦の上、二十七日午後三時半に御久方ぶりで東京に着御、宮城に入らせられ、同五時には賢所が溫明殿に還御の儀があり。翌二十八日には賢所御神樂の儀、つゞいて二十九日には多摩の大正天皇山陵に親謁の儀、同三十日には皇靈殿神殿に親謁の儀があり、これで全く登極令でさだめられた御大禮に關する諸儀を終らせられるのであります。（終）

（附記　本謹記中の插畫が大朝社寫眞ニュースに依るもの多し同社へ謝意を表す）



即位禮紫宸殿の庭上の習禮

秋季大會高野行

八木幸次郎
松室重光
X
Y
生

秋季大會の記

會員　八木幸次郎

本會秋季大會は十月二十七八日の兩日に亘り天下の靈場高野山で頗る盛大に擧行された

二圓で高野山へ泊りがけで參詣出來ると云ふ事は、二圓出すから月並の宴會場へ來てくれといふ事よりも、高野山を知らぬ者や精進料理を食つて見たいものや寺で寢て見たい者にはたしかにうけがよかつたせゐか、今迄餘り大會に御出席にならなかつた新顏が頗る多く見受けられ、六十餘人の御歷々が面白く二日の閑暇をつぶしたといふことは大會の目的に叶つた一大收獲であつた。

恒例の大會なんて云ふものはどこでいつやつても不參者から行けばよかつたなんて云ふ言葉を聞くことはなく、大抵一人で勝手に行く方が自由氣儘でしかも安く目的を達し得るぢやないかなんて間拔な會なのだらうと云はれるのが普通である樣だが、此度の大會は自分が高野山は初めてだと云ふハンデキヤツプを取除いても、確かに面白かつたと思ふ。さりとて盛夏を除いては二度と同じ事は御免と思つてゐるが、一般の意向も大同少異であることはたしかめたものだから、流石は天下の靈場と、天下の建築協會の御催だと譽めなければならなくなつて來る。二十七日午后四時難波驛集合但し雨天の節は長野にて宴會（金の都合で即日散會）といふ頗る要領のよい強ひて理屈をつければ遊士の自由意志をプラスからマイナスに迄天候により左右せしむるやうな强迫を堂々と發表してゐる案內ビラを撒布して、さて當日となつて見ると、夏ごろから不順であつた天候の故障を一掃した樣な肥馬高天の小春日和で遊心勃々自ら難波へ足

が向いたのは恵まれたるこゝで實に幸先がよい。德政委員長の深刻な顔の皺も頗るのびのびとして實に愉快に見えたのも、やがて財布の口を緩めねばならなくなつた前徴かも知れない。

四時二十六分浦勘定奉行の堺から遠路遠行の御出張による光榮を乘せることを最後として、一路高野山へ向け發車した。三日市を過ぎ割り込み電車が急に特別仕立貸切電車に化ける樣になつてから、豫め用意された物質で飲み且つ食つて腹の中では醋酸のカクテルになる樣な電車中の宴會が始まつた。

個々の善良なる老青年を喜ばしながら集團的の不良老青年に化したこゝは、委員一同が集團的の讃辭を浴びるこゝとなり大いに面目を施したのは面白い。高野口で初乘の高野登山電車に乘り換へて見たが、ドアーエンヂン附きの頗る氣持ちのよい南海の老舊車とは違へるばかりの立派



大會參加者記念撮影

さで東京の地下鐵道そつくりの新造車で、トンネルとカーブの多いこゝは電車賃の高くなる理由を說明するに充分ではあるが、登山ケーブルカーでなくて、登坂電車であるのだとほろよひ氣嫌の夜分でも氣が付かにやならんといふことは不況時代の惠まれざる建築屋の第六感であるかも知れぬ。行き詰りの神谷驛で物足らぬながら降りて、澁々親讓りの自働歩行機を使用して五十丁の夜行登山を初めることになると、かねて覺悟はしてゐるものの一層緊張した氣分になつて來る。筆者の樣な日淸戰爭の最中に產れて來し、冒險性が先天的に植えつけられてゐるものは、一番登りの功名心に驅られて寧ろ痛快がる樣な感情に支配されるかも知れないが、大部分の人々は年をとるといふ原則を如何にすれば年々年を減ずる樣になり得べきや等と云ふやうなトツカピンの廣告にある文句を考へ出す悧巧なる理性に支配されるこ

こであらう。

折柄の滿月に近い銀光を浴びて冷かな靈氣を吸ひ込みつゝ、極樂橋迄は寧ろ下る樣な氣持ちで樂々行ける。成る程極樂橋にはちがひない。登る前に大いに下つて樂をする。先がわからない者には全くの極樂橋なのだ。橋を渡つて一廻り迂廻すると愈問題の不動坂だ。峻路二十九丁は一寸オールドボーイスにはこたへて來る。外套をこゝで上着を脫ぎ面倒だからカラもワイシヤツも取つて片手に下げて、昔の意氣でぐん〳〵人を拔いて行く時には汗が出て、一寸氣を拔く時に汗がひつこむ、先頭に立つて競爭者を二三町引離してからは、拔かれぬ程度に速力を加減する度毎に汗が出たり引込んだりしたけれど、カラもワイシヤツも汗で汚さなかつたかはりに、此のマラソン式登山で方法は後日アスピリンと守妙の御厄介になつたことに至つて明かに失敗に終つたといふ事になる。

午後九時より九時半迄の間に一同無事宿坊の常喜院に到着した。頗る熱い風呂を短氣に浴びる者、氣長に浸る者等色々あつたが、兎に角食膳が運ばれたのは十時頃であつた。

明日の豫定

一午前六時　起床
一同七時　食事
一同八時　出發
一同八時四十五分　奥院參拜
一同九時半　金剛峰寺參拜
一同十時　靈寶館着
一同十一時半　大門着撮影
一正午　宿坊歸着晝食
一午後一時　金堂工事場集合
一同一時半　解散

右の行程を揭示してから午後十時半魚精進料理と磐若湯だか小坊主のサービスで宴會が始まつた。精進料理とは云へ流石は祖先傳來の腕前で調理された上に近代的文化を取入れたものだから、頗る體裁よくホテルハダシの出來榮だと思ふが、吾々生臭坊主の味覺を刺戟するには甚だ單調のきらひはなきにしもあらずで、一寸佛臭い(線香臭いか)茶腕蒸の中に現代向の栗を見出した時には思はず歡聲をあげた程だつた。立派な紙包に上等な御箸があげた程だつた。立派な紙包に上等な御箸が入れてあつたが明朝の食事にも利用すべしと云ふ御觸をいただいたり、二の膳の御供物を頂いて包紙を請求するに初めは新聞紙が來たなと思つてゐると急に本美濃紙に變つてしまうあたりは誠に高野山らしい氣がする。宴酣なる時例によつて自己紹介をやつたが、松本儀八君の動議により德政委員長が氣前よく皆に御土產を奮發したことはよい例をのこしてくれたと思ふ。何しろ開宴が午后十時半で色氣のない小坊主を相手の磐若湯で、有名なる歡樂境鷲谷は遠いし疲れたし寒いしと云ふことで、恒例の不良老靑年も手を束ねる方なく頗る謹直に善良なる宴會をしたことは、場所がらとはいへ誠に喜ばしくもあり又物足らぬことでもあるが、幹くとも金がかからなかつたことだけは共通の利益であつた。閉宴後直ちに活潑なる掃除が始まつて野球式に三個の一樣なる敷蒲團より成る寢具と枕が頗る短時間に投敷かれてから三々五々寢に就き一同靈夢を見たことだらう。

二十八日午前七時半奥ノ院へ向出發した。下駄のローマ字で見ると井西といふ小坊主だか中學生たかわからぬ氣持のよい案內人が同行した。福島正則が父母追善の爲寄附してから存在を認められ、其後孝子福島市永正利に

より再び鑄直されたと云ふ六時の鐘を左に見て所謂高野山の堺筋を練つて行く。『珠數屋四郎兵衛庸行』といふ俗離のした看板だの、別格總本山何々寺等といふ様な現代向の看板だの、寺の棟に大きな天水桶を乘せてゐるのを氣にしながら、先づ第一に佛門にふさわしいローマンスとフヰリアルラブとが錦心の商壹道具に利用され徹底的に宣傳された苅萱堂へ這入つて見る。筑前苅萱莊の住人加藤左衛門尉藤原重氏が僅かに二十一歳を以て佛門に入り謹直に終世修業したといふ事實を、巧みに俗向に脚色して正妻原田種昌の女桂姫と妾千里との女鞘當、千里謀殺、その身替としての非人の落命、石童丸の出現、千里の不思議な頓死、親子地藏といふ風にきはめてセンチメンタルな宗教的ポスターを三十枚壁面にずらつと並べて、頗る能辯な活辯以上の坊さんが一々順序を追うて解說しつつ、ほろりとさせながら問題の御簾の前迄案內して行く。何だか薄氣味が惡いやらくすぐつたいやらと云ふ感がしてたまらない。一通りポスターの說明書繪葉書等の商用が相濟むのを待つて誠に勿體らしく鮮に御簾が上げられると間髮を容れず鉦を合圖に御經が始まつて、苅萱道心手製の親子地藏尊の御開帳が始まるや矢つぎ早に目的の御守りの授與がある。いや實にうまいこと全く日本一流石總本山の御膝元と思はれる。苅萱の由來說明と御本尊の御開帳と商業とが僅かに三四分の間に割合に品よく秩序整然と行はれ、しかも從業員僅かに三人に過ぎないで、芝居と活動とを一所にしたやうな感を與へたといふことは多年の練磨とは云へ現代向に敬服の外はない。論より證據一度行つて見たまへと云ひたくなる。行く事數丁にして高野山獨特にして他の追隨を許さない奥の院の入口の一の橋に至る高野山に行つた者の印象に殘るものは何と云つても、一の橋より御廟に至る十八町の間にある古今の名士の墓地である。墓地開拓のパイオニアー多田滿仲より現代に至る諸名士の墓地として傳へらるゝものは、皇室を初め奉り、織田、豊臣、德川の諸大名の名前をずらりと並べて度膽を抜いてゐる。井西案內人の極端に簡約して漢文的朗讀說明によれば、曰く上杉謙信、武田信玄、といふ風に、歷史講談小說芝居に出て來る英雄傑物義士烈女をはじめ諸大名の名前が行く行く展開されて天正以來の武家政治の歷史を追想させられる。おまけに一番大きな墓は駿河大納言忠長卿の建てた崇源院殿の墓で高さ三十尺台石八疊敷、次は藝州淺野家墓の高二十尺、次は高十八尺の前田家で、やれ前田家の墓はこれで何個所島津家も毛利家も同樣等と、傳統的大高野山主義を拔目なく以心傳心的に小坊主でも心得て說明して居る樣なもので、これでは誰でも墓地をこゝにしたいと思つて見るのが人情かも知れない。近くは大和屋の墓地や關東大震災罹災諸氏の墓地等が吳越同舟的にいはば高野山の新開地とでも云ふ所に出來てゐるのが一層新らしき競爭心を挑發して興味をそそつて居る。弘法大師爪彫地藏、姿見井戸、流汗地藏、頰截地藏等と有り難き遺跡が散在して更に『父母のしきりにこひし雉子の聲』といふ俳聖芭蕉翁の碑迄加へてあるのは誠に高野山らしい。第三橋なる玉川に架する御廟橋を渡れば彌勒石といふ石炭の樣に光つて輕い緣結の有り難い石がある。愈奥ノ院の大詰に近づき、先づ庶民納骨堂より大師御入定の靈域奥ノ院御廟に對し頗る火付の惡い五束の線香を忝しく丁寧に落

付いて點火して、各所に捧げてから、人口に膾炙せる名所燈籠堂より御廟を禮拜した。所謂長者の萬燈、貧女の一燈は比叡山の不滅の御燈に比較して著しく平民的氣分がしてしかも數の多いのが有り難い。歸路一の橋を渡りて奥ノ院に向つて禮拜し、九時三十分金剛三昧院に到着した。本尊五智如來(運慶作國寶)を藏する特別保護建造物多寶塔は、貞應二年鎌倉尼將軍が三代將軍菩提の爲建立したもので、不動堂と共に當山に於いて貴重なる特建の双璧でなければならぬ。不動堂は他の場所にあるものだが、本尊不動明王、八大童子(運慶作)都合九體の國寶を藏し、鳥羽天皇皇女八條院の御願に依り行勝上人建久八年建立したもので、建物四隅の構造異樣に異つて、四人の工匠各隨意に作製したものを相結合したとも云はれてゐる。

次に總本山金剛峰寺に至る。丁庭前管長泉大僧正の本葬式の當日であつて、狩野元信、狩野幽齋の筆で有名な大廣間、梅の間、又文祿四年七月關白豊臣秀次公が五奉行の印書を奉じて誅戮に向へる、福島左衛門尉、池田伊豫、福原右馬の三將の面前で、憤怒自刄した豊臣一家の悲劇で有名な柳の間をも見ることが出來なかつたのが殘念であつた。それより御大典奉祝特別出陳の爲め臨時料金二十錢增(五十錢となる)と頗る有り難く標冒してゐる高野山の寶庫靈寶館に至る。二十錢でぎれだけ出品數が增したのかわからなかつたが、流石は宗教的勢力の結晶として幾多の得難き寶物を收容してゐるのは偉大なものである。鐵筋コンクリート造の日本建で時代の影響とは云へ舊來の因習を破つた建築を見て誠に面白く感じたが、又前面の樹根をトロで据えた木煉瓦式ペーブメントには一屑の敬意を拂ひたくなつた。

十時半豫定より早く大門に着いた。間口十間奥行四間銅瓦葺の樓門で、兩脇に浪華法橋運長の作金剛力士の像を收め頗る堂々たるもので、高野山の西端に位してゐる。此の樓門は寶永二年の竣工で、その位置がわざわざ交通の不便な俗界を離れた所にあつて、たゞ俗界の山々を脚下に見下してゐるといふことを喜んでゐるのは弘法大師としては一寸物足らぬ考へだと思つてゐるが、曾圖らんやケーブルカーの布敷には最も都合のよい位置で目下工事中であつて見ると弘法大師も中々現代向だとも考へられる。一同例により揷圖のやうな紀念撮影をした。十一時半金堂建築場へ到着。金堂は先年炎上したものだから、少しく位置を變へて武田博士の設計で大林組の手で骨組工事を施工してゐるものである。現場主任高井利五郎氏の案内で基礎工事見學した。バラスもなければ砂もないので、クラッシャーで碎石と碎砂とを同時に造つて篩別して使用してゐる樣な不便さはあるけれども、機械の仕事だけに正確完全でコンクリートとしてはたしかに强度大なるものが出來るだらう。現場一順の後大林さんの一行歡迎宴が開かれた。料理は遙々野田屋から取寄せて、妹尾應務部長をはじめ、木村營業部主任の御歷々がわざ〳〵御出張しての應接振は誠に鮮かで感謝の外はない。斷髪美人と桃割美人の出陳で一同に里心をつけてくれたのは、場所が場所だけに頗る要領を得て妹尾式の感を巧に表現してくれたのは實に愉快であつた。席上武田博士より派遣された、監督者側の戸次工學士の談によると、金堂の建築は基礎柱壁を鐵筋にして小屋を鐵骨とし其他は純然たる木造で

柱の周圍を悉く高野檜で張詰めることに非常に御苦心をされ、桝組屋根等は全く木造で、出來上つた感は純然たる木造と何等變りはないとの事で、如何にも高野山の傳統的習慣を尊重したる空前の傑作であるやうだ。建坪は二百十六坪四合で龜壇を加へると總坪數四百四十九坪となり四個所に高地上三尺五寸の石段を設け、景屋入母屋銅瓦葺で高七十尺、桝組三手先の堂々たる壯觀は今から想像しても實に立派である。此の建物を外觀をして全然木造建築としての價値を損ずる事なくして、巧妙に內部的に耐火構造を應用した、過去の傳統を尊重したる近代的構造法で、寺院築建に一新紀元を劃することは疑の餘地なきものである。修學院及不動堂を見て常喜院に歸着し晝食の後正午を報ずる『サイレン』の異樣に響く音を聞きつつ解散した。

高野詣

會員　松室重光

貳拾年の昔、一たび登攀した高野山の淨境に、今の姿如何あらんかと思ひつゝゆく

先づ遊覽的南海鐵道の施設が、此方便門として何等それらしる事のなるのに驚ろく。

昔の樣に徒歩してゆかば兎も角、身を勞苦することなくして車中悠々と沿道の風物を迎送し其間に心地を清めてゆかうとするには、其施設餘りに貧弱で話にならぬ。ゆつたりと腰を卸す坐席すら與へないで、吊り皮にぶら下つて鮮詰の道中をなさしむるのは人間の旅行ではなくて荷物の運送にも及ばぬ非道さである。これは野山に遊ばん爲には先づ苦楚を嘗め險難を味へと云ふ意味か、御客取扱としては獨り其本社を大々的に改築するのみが方法ではない樣に思ふ。

此頃の流行的現象として郊外電鐵會社の其起點停車場を堂々と改築して御客の送迎に加へて物賣り商ひで大に便利をはかるのは決して悪い事ではないが、さてそれが何時を有効に使用せられやうか。

攝河泉の低地の山野は甚だ手凡であるが、多少人爲的施設によつては其春秋の自然的景觀を今少し美化し得られやうと思ふ。會社は此點を一考すべきである。

大阪人の徹頭徹尾無風流古俗なのをよることにして、之を荷物扱ひになし、此等の人達が一たび玄關を潛ぐつた後は飽く迄其人格を無視して荷物待遇に始終しやうとするのは遺憾である。

沿道の停車場なども、もつと其建築的施設に改善を加へたらどうだらう。

神谷からさきは今工事中であるが、若し極樂橋のさき迄も今同樣の施設で押通されたらそれこそ高野の山は泣くであらう、而して極樂橋は地獄橋となるであらう、それは凡夫の淺間しき姿を表現することによりて。

そして佛法鳥も遠く逃げ去るであらう、紀の川の水は涸で增すか失望で渴るであらう。

極樂橋から上へは近畿名所の例に漏れず又『ケーブル』が出來るとの事であるが、これこそ大變だ、叡山は其他の殷鑑甚だ近い、何卒

斷然止めて貰ひたい、不動坂位は一汗かいて登るのでなければ何處で俗塵が掃ひ落せやう高野の奥を俗臭を帶びてゆく樣なればたゞひ名ばかりでも殘して昔をしのぶ女人堂なども何も全然撤去すべきである。

野山幾千の僧侶達は眞言に末世相應の法ありとして、此極端なる惡俗化を其儘默視してゆく樣に思はれるがそれでは此山は漸次其生命を失ひつゝある。

山上の店舖街など其殺風景なること呆れるばかり、何とか建築の樣式位は制限して、野山の歷史傳統と調化せしめられないだらうかしかし鷲谷さかに、人間の俗聲がきこえて、鳥は啼かぬ世の中だから建築の俗化位は問題でないのかも知れぬが。

寺坊の宿屋稼業も愈々露骨になつてきている。在家俗人の餓えた腹には其精進料理では滿足し兼ぬるらしね、さらばせめて其建物だけを昔風の儘に維持してゆきたいが、それも不可能か。

金堂の建築を弘仁式單層に復舊するだけで他の坊舍は何ともなれと云ふのでは高野の難有味はなくなる。

奥の院への參道の敷居など餘りに人爲的でとても數千尺の山上にある氣持がしなる、ゆくゆく指呼せられる諸大名の墓も、彼等がありし昔の『ブルジョア』的氣分の殘映の外格別我等に感興を與へない。

此間にありて唯一つ感慨の種となつたのは明智光秀と石田三成の墓である。光秀の態度については裏面は兎に角、其表面的には論議する餘地もないが、石田三成に至つてはたゞ之れ敗者である、彼は豊臣氏に取つては矢張り忠臣と見るべきであつた、其墓の勝利者のものの堂々たる間に少さながら存在しているに於て一切平等の佛地の妙味がある。

茲處に我等の心地を清めてまことに崇高に拜したのは歷朝の御塔であつた、其規模は極めて少さいが、それに無限の崇高味が表現せられて覺えず襟を正さしむるもののあつたのが此行唯一の收獲であつた。

高野の山は昔の樣な淨境ではない、其杉や檜や亭々として高く聳えて居る姿も何時迄持續することであらう、文化施設の便で日歸りが出來ると云ふことはたゞ參詣者の氣分を急しくさせる外野山淨境の眞言味、醍醐味を喫せしむる所以でない樣である。

靈寶館出陳の繪畫彫刻は眞に天下一品のものばかり、こゝで拜觀者の帽子外套を脫かせたのは靈寶の尊貴を意味しこの事であらうが佛像等の前に賽錢箱を置いたのは甚だけしからぬ感じがした。若し之を禮拜の目的となるなれば別に耐震耐火の佛殿を建立して其中に安置し奉り此傳統歷史と共に其典儀をも併せ行ふこと昔の如くなすべきである。

高野山は其規模に於て雄大である、之を強て人間の力で弱少ならしむるのは愚である、何處迄も此自然味を尊重せねばならぬ。寺坊の庭園の如きも自然の趣を出來るだけ失はぬ樣せられたいものである。兎もあれ我等は十年後に登山せずして今詣てたのを慥に幸福と覺えた。

最後に建築家として此山に希望する一事がある。山の史的表現として僅に殘存する不動堂や金剛三昧院の多寶塔や經藏などの數字の特別保護建造物が殆んど積極的の保護の何物の設備をも持たぬのは甚だ危險である。野山の靈寶は佛像や繪畫や古文書のそれだけではなね。萬堂や大塔の再建もさることながら、

此特別保護建造物の防火的施設の方が寧ろ今日の急務ではないか、急速度を以て俗悪化しゆく山内には今後と雖も火災は必至の事象と見ねばならぬ。即ち之に備ふるの計あるべきは野山の精神維持の上から云ふも當然であらう。

山を村とし、町としてもそれは此山の矜持ではなる、避暑觀勝の目的で毎日幾萬の男女が登山しても大師の靈蹟はけがされる以外何の得る所もなからう。此山に登る人々は皆特別の精神意義の體得を置くべきであらうか、之に必要なるは實に其傳統史的の事象の完全なる保存でなければならぬ。

高野山紀行記

會員 X Y 生

手紙には白露錦繡の候と相成申候の挨拶が見え、十指に餘る郊外電車は沿線の名勝不名勝の模様を仰々しく書き立てる、我等都會人は初めて秋蘭なる事を知る。十月二十四日我協會も會員相互の親睦を深め見聞を博める恒例の秋季大會を催した。目的地は何處にしやうと委員會で卓説に議論を凝らしたあげく殊勝味を帶びて高野山參詣と定つた。だか仕帶條件として若し雨ならば長野で燈乘つて陶淵明ならぬ夜宴と云ふ豫定であつた。但し此方ならば出席すると云ふ猛者もあつた。當日は朝から一天拭ふた様な申分無い秋日和、そして本會に出席通知の人員は德政委員長を初めとして六十名を突破する盛況で先ず天の時と人の和を完全に獲得した是は其會合の目的を半ば達したゝ見るべきである、

午後三時頃よりは會員が陸續難波驛に聚つてさん〳〵と降る秋陽に映じる紅白の胸章の波は蕩たる和氣を醸し出す。

蔭り初めては來たが未だ白日の午後四時二十分我々の車は一路高野を指して大阪を離れた。

岸の里で本線に別れ住吉東も過ぎて堺東驛に來れば煙と塵を殆んど含まぬ透明な郊外の空氣は我々の野山への憧れを唆り初める。

秋の日は釣瓶落しの譬に漏れず萩原天神の森過ぐる頃は一抹の殷紅色の殘照が西南の空を染めて二上、葛城、金剛の山々遠くは紀伊の連山が薄蒼々と暮れて來る。夕けぶり立つ紫の村、黄金敷く稻田。明るい小川の流れ、水枯れた狹山池。次から次へと車窓に應接する、そして我々の車は薄暮の野路を山裾へ山裾へとひた走りに走り行く。

途中南海の好意に依つて長野驛で茶の接待を受け持參の壽司を開き始めた。正宗の芳醇も現れて獻酬の盃梭の様に飛ぶ。頰熱して歡聲わき日入つて月東山に出で歡談の車は音高く紀見のトンネルに入る。途中驛で紅裙を具した醉客が這入り來て大聲に警察風を吹かす池田谷君が一寸と術を使ふ上氣嫌で下りて行く。橋本過ぎて紀の川にかゝれば瀨杭に絡む水掫の形した十三夜の月が中瀨に浮ぶ。高野下で登山電車に乘り換えて愈々山路にかゝる。路にかゝつても文明の有難さ高野下から神谷まで二十余分で達する。十年前には空想の

世界が今實現されてゐる。いや一二年前までは肩で息して青息を吐息吹き分けた事を思へば有難さ通り越して寧ろ誇りかにさえ感じるこんな不心得な登山客を迎へては空海も嘸折角高野山を選んだ無駄骨を悔いてゐるだらう

線路の勾配は漸く急を加へて僅五哩ばかりの所山襞穿つ所の隧道二十余とはちと驚かされる。車輪の一廻轉毎に身は仙境に近ずく思ひがする。幸村で名高い九度の莊や學文路の里は灯淡く遙脚下に眠り、月光浴びてクツキリと浮み出る山の尾根　羽蒼き山の主の棲家とも見える黝き塊は老杉の森立ち交つて白樺色に光るはは、その紅葉。谷間の闇分けて銀光蜿々と走るは渓流。萬象は寂として皆湖底に沈むの靜けさ。しかし我々が車内は芝居の休憩室よりまだ賑かである。一寸と樂天の詩をもじつて見た。

遠上高野鐵路斜　馳車座愛楓林晩
車中煖酒騎紅葉　醉顔紅於二月花

神谷驛で下車した。此處より女人堂まで三十二丁と云ふ此の宿は昔は逆旅茶店徑を挾んで櫛比し豊國の道中双六繪に偲ばれる様な雅趣掬すべき物があつたと云ふが今は追々寂れるばかり。近松が心中萬年草に縁ある花屋も夜目には定かならず只突如として起る『JOBKお待たせ致しました次はメンデルゾーン作圓舞曲であります。』折角の文化文政の夢や近松情緒は一返に現代へと引戻される。

昔と今の境の神谷を過れば我等は爪先上りに登り初める、四寸岩過ぎて三町許下れば渓流に懸した凝寶珠朱欄の極樂橋を過ぐ、この邊りは、所謂千古斧越を許さぬ高野寺域に入る。見上る懸屋の上に更に空にそそけよと生ひ繁る樹木を徹して秋水の如く射す月影は岩をかみて潺々と流るゝ渓水に碎けて眞珠と光り玉と散る。橋を渡れば道は峻坂と成つて一歩は一歩に喘ぐ。然し幸ひ夜道の事とて冷々した夜氣と谷より迫る嵐氣で割合に樂だつた

形面白い樹影を踏んで一同意氣軒昂。老體なれ共松室氏は昔取た杵束、一日十八里主義でトツプを遙に切られて居たが夜道で道沓み迷ひ宿坊に着いた時は殿を仕めてゐたとは當夜氏の打開け話であつた。

外不動の辻堂に腰打掛け一息ついて筧の水に喉潤せば暫しは忙然たる程の快さを覺える慾も得も雜念も皆汗に出て五體は虚空藏、無我の無念のと考へる事をさえ許さぬ程の虚坦さ。こんな具合なら面壁九年は三年位で卒業しさうな氣がする。

頭腦の複雜と感能の鋭敏さを誇る近代都會人も自然の懐に踏み入ると日頃の未稍神經的な生活が馬鹿らしくなる。馬鹿らしさの殻を破れば割然悟聖と來る。そして眞善美聖のアブソルートな物を無條件に憧れる。

即身佛性呵。山の墳邊に寺を造つた大師も旨い事を考へた物だと思ふ。清水に一息ついて悟りを開いた我々は又登る。諸君の諧謔に打興ずる内に早くく女人堂に着いた。

そこには夜目にも古ぼけて檐傾き物錆びた繪馬堂の様な一棟が深山杉を背景に建つてゐる。是こそ何百年に渉つて數々の男女愛別離苦の物語りを殘す名高い關所である。女人堂の其の名を聞くさへ物古りて響く女人堂、瞳をこらせば上の方から久米の介が心配氣に下りて來る。お梅は嬉しさ隱して忍んで來る。吉祥院の法印が喝と叫ぶ。杉並木を縫ふてしほ〳〵と石童丸が來る『もうじき大門までケーブルがかゝるんだつてな』忽ち現代人の聲がする。はつと我に返る。オヤ〳〵今の石童

丸が二人になつて提灯を持つて居る『常喜院で御座います、お迎へに參りました』と先に立つ。經堂の檜皮葺の屋根に置く露が月を吸つて銀と冴える。

微かな鶏の聲に混つて森の向ふで笛大鼓三絃の馬鹿囃が聞える『高野はえらう面白い所やな鷲谷はあの方か』と揶揄ふ『うんにやありや御大典奉祝踊の稽古です』と素氣く小僧は正體を說明する。金剛峰寺の前過ぎし六時の鐘撞堂を右に取るに黒塗の羽目板に白壁の長屋門窓の障子に明か〳〵と電燈の光り二階造りの僧房が見える。我等の宿坊常喜院である。門を入つて案内さるゝまゝに汗と疲れの身體を本堂に横へる。一電車後れた人を待つ間にと風呂浴びて蘇生の思ひをする。夕食の膳に皆揃つて就いたのは十時少し過ぎてゐた。食事は高野山の事だから二の膳付きの精進料理季節物の松茸松露、すき腹と珍らしさとで中々甘い。器物なぞも普風だが立派な物。

委員長の挨拶次いで各自の自己紹介が始まる、磐若湯が廻つて空き腹に滲みる。そして果は恒例の福引の催促が出る。鷲の鳴く音を聞きたいとの注文も出る、座を立てばモー十二時に近かつた。床延べる間に椽に控えた土産物を素見す。杓子、陀羅助、珠數、繪端書等々々。浦氏は褞袍着て丹念に土産の木魚の音利きをしてゐる、ぽく〳〵の響と共に先刻の總ての希望が空となる。

書院に入つて寢に就くと室内の電燈も橙色を帶びる。

夜となるに栗色の灯もて來る
高野の山の僧房の秋

と誰かが歌つた樣に此の電燈が栗色の行燈ならばと悟しまれる。夜の合奏が始まるギリ〳〵グウ〳〵ムニヤ〳〵中には鷲谷の亡念になやまされて居るものもある。曉の五時過ぎ高野嶺の梢に蒼白い微光が動く未だ門前の六時の鐘も鳴らぬに廣椽側に起る騒々しい元氣な聲音に夢破られた。

朝食の膳に添えて德政委員長より紀念の塗杓子の贈り物が出る。御挨拶に曰く昨夜大師が私の夢枕に立たれて申されますには『其方昨夜鷲の鳴く音を聞かさなかつたは誠に善哉〳〵其信念にめでて茲に杓子を與ふにより一同に別つべし夢違背あるべからず』との仰せでありました。扨て此杓子を探じまするに其の形圓にして圓にあらず方にして方にあらず所謂杓子にして杓子定木に墮せず融通無凝の滑脫味を帶び、切手を貼れば交通性を帶びます左れば無用の物かと申ますと人間にはなくてならぬ三度〳〵の飯を盛る道具であります依て釋(杓)空海上人の賜としてどうぞ御受納願ます。

食後いよ〳〵一同打揃ふて奥の院を初め所々の見物に廻つた。一々書けば案内記めくから省略するとして劝學堂に入つては昔よく緣日に出た『のぞき』を偲んだのを手始めに難有さ二分珍らしさ六分趣味二分のプログラムを昨夜一同に呈示された豫定通りに行つた。

中國景敎流行碑を過ぎるに御廟まで二十余丁は墓石の林が續くそして案内子の物讀むに似た聲につれて我々の頭は左右に廻る。

行き詰る所正面に燈籠堂がある。いはゆる貧者の一燈長者の萬燈の本家だが建て直したのか新らしく見受けた。

其の奥に南面して瑞籬の内に御廟がある。蓊鬱たる老杉が白日を遮り清淨の水周圍を繞り幽邃の氣人に逼る何の効得あるを疑ふを許さずして自然に頭が下る。

奥の院より戻つて鎌倉時代の作と傳へられる多寶塔を觀るそれから金剛峰寺に廻つたが合憎と前管長の本葬が行はれるので參觀出來なかつた。元祿の昔關白秀次が恨を呑んで及に伏した柳の間は只幕の向ふに窺ふのみ、金剛峰寺より南三丁余に靈寶館がある此の邊り一帶に落葉樹多く櫻葉紅に鈴懸のは、そ色取り取りで面白い。

コンクリート造り御殿風の靈寶館に入れは丁度特別拜觀日で二十五菩薩來迎の圖を始めとして珍器佳什がふんだんに並んでゐる。こても短時間で見切れるもので無いが此處に盡きぬ、興味を惜しみながら大門に來た。

晴れた日は阿波が見えると云ふが合憎の曇りで見えず記念寫眞を撮つて早速大林組の金堂再建作業場に行く。作業現場の前に二張のテント張つて急造のテーブルに雪白の潔く、爽々しいのは我々の一行を歡迎する爲めに大林組の特に設けられた饗應の席である。且同組よりは妹尾一夫氏が、大阪から特に來山され歡迎の挨拶を述べられた。そして主任技師より金堂新設計のアウトラインの說明があつた。卓上には大阪野田屋より朝四時頃から特に用意して持參したと云ふ。サンドウイツチとお菓子の御馳走が並べられた且山には珍らしい新舊二樣の菩薩を給仕こされたのは秀逸であつた。作業場は今基礎工事中で地下六尺ばかり堀り下げて栗石を打堅めた所であつた栗石の打上げも上手に出來て居た。此運送不便の山上でクラッシヤを用ひて砂利と砂こを製造する設備は誠に賢明な計畫である。側の製圖室で圖面に依つて新金堂の構造の說明を聞き木造建築を耐震火災的にする事の多くの苦心を知つた。金堂見學後再び宿坊に歸りて中食をなし茲に我等の秋季大會の全コースを芽出度終つて解散した。

日本建築協會會報

役員會

○常務會

△日時　十二月四日午後五時—八時
△會場　大同生命ビル、ライオン食堂
△出席者　片岡理事　松本監事
横濱主記　坪井主記　和田主記
吉井主計　岡部主計
△決議事項
一、昭和四年度收支豫算の件岡部主計より説明あり異議なく原案可決
一、昭和二年度決算報告の件は豫算と對照して一見瞭解し得る樣決算表を作りては如何の片岡會長の意見あり依て其の意に副ふ樣作製する事の希望ありて可決
一、評議員會總會日取左記の通決定
十二月八日(土)評議員會
同　十八日(火)通常總會
同二十二日(土)再度召集通常總會
同二十六日(水)評議員會
一、御大典式場見學の件は十一月例會を休會したる代りとし見學の豫定なりしも來春擧行の事に延期す。
一、今村博士來阪に付之を好機とし十二月例會として講演會擧行に決定。
一、今村式地震計購入の件に付編輯より伺あり評議員會に付議する事に決定（但し剩餘金より支出する事剩餘金無ければ基本金より支出に決定）
一、今村博士より原稿寄稿を求むる爲金五百圓編輯より支出に決定。
一、委員會委員任期改正の件は各委員長より意見を纒めたる後常務會に於て決定する事に決す。
一、會員詮衡
一、職員下半期賞與及增俸の件及協會員除名處分の件は評議員會に附議する事に決定。

委員會

○第一部(法制)各分科總會

△日時　十一月二十八日午後五時半—八時半
△會場　大同ビル、ライオン食堂
△出席者　池田委員長　今村幹事
岡本委員　川口委員　椎原委員
林　委員　井原委員　阪井委員
高田委員　島田委員　田中委員
協議事項
一、左の通各分科より今日迄の經過報告あり
第一分科　林委員報告
第二分科　井原委員報告
椎原委員提出の住居地域内に音樂堂建設に關し意見交換なせり。
第三分科　阪井委員報告
當分科研究中の試驗制度の要不要に付討議し大體に於て分科會の意見と一致せり
第四分科　高田委員報告
勞働法案に付其の骨子とする處其他同案に付田中委員より說明あり。
勞働法案は當分科に於て研究し大に聲援する要ありとの意見に一致せり。
一、今林幹事提出委員任期改正建議案は可決。

○第一部(法制)第一分科會

△日時　十二月七日午後五時半—八時
△會場　住友倶樂部日本室
△出席者　小川主査　林委員　椎原委員
協議事項
一、美觀地區設置の促進及建築物の高さに付ての建議草案作成

○第一部(法制)第一分科會

△日時　十二月十二日午後六時—八時
△會場　今新
△出席者　小川主査　加藤委員　林委員
川口委員　北垣委員　椎原委員
協議事項
一、美觀地區並風致區指定の促進に付建議草案議決あり。

○第一部(法制)第二分科會

△日時　十二月十一日午後五時半—七時
△會場　大同ビル、ライオン食堂
△主席者　高木主査　井原委員
協議事項
一、出席者少數の爲調査研究をなさず。
當分科會の今日迄に調査終了したる湯屋取締規則に付本委員會に提出するに決す。

○第三部(資料)第一分科會

△日時　十二月三日午後五時半—八時
△會場　大同ビル、ライオン食堂
△出席者　大澤主査　谷口委員
高田委員　中村委員　熊取谷委員
協議事項
コンクリート試驗報告

○第三部(資料)第四分科會

△日時　十一月十九日午後五時半—八時
△會場　大同生命ビル、ライオン食堂
△出席者　下浦主査　大高委員（東亞ペイント）
協議事項
一、白色ペイント規格(調査として)
固形ペイント　溶解ペイント
ボイルドオイル　乾燥材料
二、防錆塗料　各種規格
三、右兩塗料に對する施工順序並に調合割合表作製の件
△日時　十二月三日午後五時半—八時
△會場　大同ビル、ライオン食堂
△出席者　三木委員　岡委員　田阪委員
協議事項
塗裝標準規定の件
一、木材鐵材　ペンキ塗
一、木材　ワニス塗
一、壁地ペンキ塗又はワニス塗
右各塗裝に就き一二三等の工事に分ち塗裝に要する手間

○第三部(資料)第六分科會



故會員藤本好雄氏遺影

會員藤本好雄氏昭和三年十月二十九日病を以て逝かる。茲に哀悼に禁へず茲に照肖と略歴を掲げ謹んで弔意を表す。

氏は明治六年四月十九日德島市富田浦町字本中ノ町に生る。

明治廿六年德島師範學校卒業後同市に於て教職に在り同廿七年七月丸龜歩兵第十二聯隊に入營六週間現役兵勤務を了る。

同廿二年九月に到り東京高等工業學校附設工業教員養成所本科に入學し三十五年同所卒業と同時に福岡縣立福岡工業學校教諭に任ぜられ在職七年餘に及びたり

同四十二年市立大阪工業學校教諭に任ぜらるゝに及び奏任待遇を受く。

大正二年五月多年教育界に盡粹せし故を以し從七位に叙せらるゝ同七年二月高等官八等を以て待遇せらる次いで同七月正七位に叙せらる。

同九年公立實業學校長に任ぜられ高等官五等の待遇を受け奈良縣立吉野工業學校長に補せらる同八月從六位に叙されたり。

同十一年願に依り教職を免ぜられ爾來民間に在りて諸般の建築設計監督に從事せらる。

同十四年十二月福岡縣若松市に於て藤眞化學工業所を設立し經營に鋭意努力されしも不測支那動亂の爲昭和二年五月事業を休止されたり。

昭和三年七月門司市技師として招聘せられ多年の蘊蓄を傾けて同市々廳舍新築に着手せられんとする秋に當り不幸十月突然病を得て若松市公立病院に入院し治療せしも及ばず病勢急激にして遂に同二十九日怨焉として逝去せらる。享年五十六歳

△日時　十一月十九日午後五時半―八時
△會場　大同生命ビル、ライオン食堂
△出席者　阪井主査
須賀委員　井上委員　城口委員
伴　委員
協議事項
一、本日は洗面器に付て協議す、次回は陶器營業者の出席を求むる事
△日時　十二月三日午後五時半―八時
△會場　大同生命ビル、ライオン食堂
△出席者　阪井主査
中村委員　城口委員　伴　委員
鈴木委員　澁谷委員
協議事項
本日東陶のカタログに依り洗面器に對し現在形の上に於て普通型二十一種の内を十種に減ずる事に決定す。尚新型の分に對し(足付共也は二人立)現在十二の内八種に減ずる事に決定す。
其外船舶用醫者用として特別形四種と二人立の足付一種を保留せり。
一、手洗器の分は現在十四種の内を七種とするに決す。追て寸法に付協議する事又名陶に打合せをなす事。

協會員異動

入會者

會　員　肥後一夫君　大阪市東成區生野國分町一二〇
普通賛助員　荒井龍吉君　京都市上京區烏丸二條上ル第一生命保險建築場大林組出張所
同　高安九藏君　大阪市西區立賣堀通四丁目十番地
退會者
會　員　足立圓次郎君　蛭子屋秋生君
普通賛助員　今村亮君　辰巳常治君
逝去
會　員　名譽賛助員　山岡順太郎君　昭和三年十一月二十六日
同　金澤仁作君　昭和三年十二月八日

改名

普通賛助員戎市太郎氏は今回戎勇と改名せられました。

轉勤轉居

會　員
森　義弘君　兵庫縣明石市右手塚町一七七
鈴木　末尾君　爾後一ヶ年間東京地方出張の豫定
宇都宮邦士君
吉井　長七君
田中　四郎君
早眞　俊夫君
中西　十一君　大阪市住吉區杉本町五三九ノ一
會　員(地方在住)
西山　銀吉君　東京府下杉並町阿佐ヶ谷四九二
朝香　茂君　東京市日本橋區蠣殻町一ノ一東華小學校建築場大林組内
大坊　榮助君　一宮市松降町大乘馬四六
水上　昌三君　福岡市博多上吳服町八片倉生命保險會社建築工事場大林組博多出張所
吉武　長一君　(區劃整理完了の爲事務所々在地地名左記の如く變更)東京市日本橋區通一丁目五番地ノ一(日本橋南詰)愛知ビル内
松江　秀季君　東京市神田三崎町復興局第二出張所
普　賛
佐藤　佐七君　京都市丸太町新道上ル。ハリマ旅館方
樋渡　純眞君　岡山市上伊福大林組伊福出張所岡山清心女學校建築場
津田　知一君　横濱市鶴見區市場町。
井奥　進君　大阪市東區下味原町一〇四坂矢方
深井傘太郎君　堺市五町七八四ノ一〇
林　健雄君　臺北市千歲町三ノ七
森本　文章君　兵庫縣川邊郡小田村杭瀨
今福太田九。久保勇方
岡本豐太郎君　吳市本通六丁目吳銀行本店新築工事清水組出張員詰所
能登岩太郎君　大阪市西成區田端通三ノ一七
戎　勇君　廣島縣能美島鹿川村海軍工事建設場熊谷組出張所内
宮野　寛氏　十二月一日芽出度御退營の由。

名簿誤謬訂正

光安梶之助氏　住所(住吉區天王寺町九三)とあるは住吉區天王寺町一七九三の誤りに付訂正
山本辰次郎氏　電話天下茶屋二六五五番(名簿に之を落す)
柳下　實氏　電話土佐堀一五六二番(名簿記載の分は舊事務所の物に付訂正)
松室　重光氏　電話北四〇六四番(名簿記載の北四〇六三は誤りに付訂正)
中村　昌三氏　勤務先(武田製藥株式會社)住所(西成區粉濱東三ノ四ノ一九)とあるは誤

りに付左の如く訂正す

武田長兵衛商店　西成區粉濱東之町四丁目十九

所在不明者

左記の方當協會に於て御住所一時不明に付御存知の方は御手數乍御教示下さい。

普　賛　佐藤松治君
同　石田晴治君
同　鴻上佐藏君

寄贈雜誌

電氣評論　每號　其社
都人　每號　其社
學士會月報　每號　學士會
建築世界　每號　其社
朝鮮と建築　每號　朝鮮建築會
セメント界彙報　每號　日本ポートランドセメント同業會
住宅　每號　住宅改良會
建築雜誌　每號　建築學會
工政　每號　其會
經濟資料　每號　東亞經濟調査局
土木建築　每號　其社
建築新潮　每號　洪洋社
大阪工業倶樂部　每號　其部
通俗衛生　每號　大阪府衛生會
帝國鐵道協會報　每號　其會
工業評論　每號　其社
電氣學會雜誌　每號　其會
鐵道軌道經營資料　每號　鐵道同志會
趣味ノ園藝　每號　關西園藝會
土木建築之日本　每號　其社
工業ト社會　每號　東京工業會
工業　每號　大阪工業會
滿州建築協會雜誌　每號　其協會
庭園と風景　每號　日本庭園協會

圖書室月報　每號　東京市政調査會
大阪工業倶樂部每號　其部
エンヂニヤリング　每號　其社
工業要錄　每號　其發行所
名古屋工業會々報　每號　其會
大阪每號　大阪都市協會
都市問題　每號　東京市政調査會
新建築　每號　其社
京都の實業　每號　京都商工會議所
都市創作　每號　其會
木材彙報　每號　大阪木材協會
建築學研究　每號　其
大阪土木建築業組合報　每號　其組合
木材新聞　每號　關西木材商報社
工業新聞　每號　其社
日本建材新聞　每號　其社
日本建築士　每號　其會
東洋建材時報　每號　其社
朝鮮鐵道協會會誌　每號　其協會
住　每號　其研究社
超科學建築協會々報　每號　大阪網島工業會
建築畫報　每號　其協會
土木建築工事畫報　每號　其社
工業之大日本　每號　其社
動力之節約　每號　工場能率增進研究會

役員

會長	理事	評議員　片岡安
副會長	理事	評議員　宗兵藏
副會長	理事	評議員　日高胖
	監事	評議員　池田實
	監事	評議員　横濱勉
主記	常務	評議員　德政金吾
	常務	評議員　坪井誠一
同	常務	評議員　波江悌夫
同	主計	常務　評議員　岡部顯則
同		常務　評議員　吉井長七
同		常務　評議員　酒井勇三郎
編輯		常務　評議員　池田谷久吉
		常務　評議員　本間乙彥
		常務　評議員　松本儀八
		常務　評議員　古宇田實
		評議員　伊藤幸太郎
		評議員　小川陽吉
		評議員　大野直平
		評議員　大澤幸平
		評議員　渡部圭吾
		評議員　和田貞治郎
		評議員　高田利一郎
		評議員　竹内綠
		評議員　竹田延則
		評議員　中村義雄
		評議員　中島智喜
		評議員　村上徹一
		評議員　久保田筆雄
		評議員　熊澤榮太郎
		評議員　山脇友三郎
		評議員　八木幸次郎
		評議員　前內文二郎
		評議員　增山新平
		評議員　牧野利秋
		評議員　小西一良
		評議員　阪井米吉
		評議員　芝田知重
		評議員　下浦光衛
		評議員　姫野武
		評議員　樋口辰太郎
		評議員　森本藤吉

本誌定價表

冊數	定價	郵稅
一冊	七拾五錢	貳錢
十二冊	九圓	貳拾四錢

昭和三年十二月廿九日印刷（每月壹回）
昭和四年一月一日發行（一日發行）

大阪市港區音羽町二丁目十四番地
發行兼編輯人　鷹取陽

大阪市東區內淡路町一丁目七番地
印刷所　大阪活版所

大阪市西區土佐堀通一ノ一
大同ビルヂング
發行所　社團法人日本建築協會
電話土四二六五番
振替口座大阪三九九七五

大阪市西區京町堀羽子板橋北
特約販賣店　柳々堂書店
電話土佐堀二四四〇番
振替口座二二〇八四番

御購讀の向は本會直接又は特約店へ
振替又は爲替にて前金御拂込被下度候

恭賀新年

社團法人 **日本建築協會**

理事會長　安藏
理事副會長　宗兵
理事副會長　日高胖
監事　池田實
監事　橫濱勉
常務主記　波江悌夫
常務主記　坪井誠一
常務主計　吉井長七
常務主計　德政金吾
常務主計　岡部則顯
常務主計　酒井勇三郎
常務編輯　古宇田實
常務編輯　本間乙彥
常務編輯　池田谷久吉
常務編輯　松本儀八

外職員一同

謹賀新年

井上貢
神戸市京町十三番地
井上建築工務所

池田宮彦
阪急沿線
岡町幸通二丁目

林市藏
天王寺區烏ケ辻
二十五番地

岩淵文治
名古屋市中區横三藏町一ノ四
電本局(2)三三七八番

池村元之助
池村建築事務所
大阪市外吹田町一〇八四

伴秀雄
北區中之島五ノ三〇
西原衛生工業所大阪支店

飯田忠三郎
大阪市天王寺區
北河堀町一一四

岩尾保衛
神戸市熊内橋七丁目
一ノ四

原田俊雄
東京市麻布區笄町八

礒田竹次
神戸市元町五ノ二九
電話元町一四三二番

岩崎甚太郎
名古屋市東區田代町
堀割六一

橋本勉
西區土佐堀通一
大同生命ビル八階

濱恒次郎
浪速區木津川町一丁目十三番地

西原脩三
東京市芝區田町一ノ一二
西原衞生工業所

新阜隆次
東區神崎町二〇

北條時敬

本間乙彦
西區土佐堀通一大同ビル七五
電話土四三四三四三四五

東松孝時
兵庫縣寶塚湯本
電話寶塚六八番

朝永國次郎
東區空堀通一丁目八六
電話東四四五七番

德政金吾
大阪府三島郡吹田町
一一三七

土岐嘉平
京都市長

豐島停雲
京都市南禪寺北門

大須賀巖
丸龜市役所

大倉土木株式會社
大阪出張所
東區釣鐘町二ノ二九
電話東三二一

渡邊家三
府下中河內郡布施町
永和三六五

川村齋藏
此花區島北之町一一
汎建製作所

川島甚兵衛
東區淡路町一丁目卅一

片岡安

葛野壯一郎
北區絹笠町大江ビル
葛野建築事務所

加納義信
神戸市仲町四五内田ビル
電話三宮一三二二

加護谷祐太郎
東京市外代々幡町笹塚
一一四一番

角尾篤彦
會社株式 大阪三越

金田兼吉
神戸市神若通二丁目三九

須藤隼人
大阪市外吹田町一一五五
電吹田一七二番

河合幾次
西成區田端通一ノ九

吉武長一
東京市日本橋畔愛知ビル内
吉武建築事務所
電話日本橋三四七七番

横山鹿吉
一ノ七一
東京市外巣鴨町巣鴨

大丸家具設計部
南區心齋橋一

竹中藤右衛門
神戸市熊内町六ノ五

丹下敏行
名古屋市東區往還町九

田中譲
東區南新町一ノ五

田中勇
港區大正通一ノ六三

谷口德政
堺市大濱南公園

田中泰一郎
東淀川區今里町一九〇

田中豐輔
大阪府泉南郡淡輪

辰巳吉之助
南區鰻谷西之町二一
電南六八九番

武田五一
京都市千本通九太町
西入南

高野又助
大阪府三島郡千里村字
片山二八三

高橋貞太郎
赤坂區檜町十二

瀧村松之助
港區九條南通一ノ一三〇
大塚鐵工所々主

宗兵藏
東區北濱四丁目五十番地

雙田万次
鐘淵紡績株式會社
淀川支店

中川彌八
神戸市外六甲村
德井大和町

中川辰藏
北區曾根崎上一ノ八三

永田三次郎
東成區猪飼野町
電話南五六八番

直木倫太郎
神戸市野崎通三丁目五

村上徹一
兵庫縣武庫郡
六甲村字八幡

村上菊一郎
京城府並木町一八二

村井季四郎
大阪府豊能郡箕面村
櫻井櫻ヶ丘

内山熊八郎
西區土佐堀通二ノ二
清水組大阪支店

浦英之助
堺市三國丘町四六九

野村一郎
北區梅田新道
太平ビル六階

野澤幸三郎
神戸市北長狹通三丁目
十一番地ノ二

能登岩太郎
淺野物産株式會社
大阪支店

小川安一郎
天王寺區松ヶ鼻町七八

小川繁太郎
東區今橋二ノ二三
オキナ商店

小津利一
此花區西島町北港住宅
三二一ノ一

岡胤信
東京市本郷區上富士
前町七三

岡本新次郎
東區横堀四ノ四十三

岡部顯則
住吉區天王寺町九二二

岡村德一郎
大垣市藤江町

岡田平藏
名古屋市西區西菊井町二ノ三
電西一二一一番

奥村丈太郎
奥村見積研究所
北區富田町四〇
電北八三五一番

久保幸一
北區中之島四丁目
金剛商會大阪支店

久保田種吉
東區神崎町五〇
電東三一八七番

國枝博
西區本田町通一丁目
住友ビル三階

黒住福三郎
西宮市和上町一三

熊取谷熊次郎
東區材木町七十九番地
電東一六二六番

欅田藤郎
堺市三國丘町三六七

八木盛二
西區靱下通一ノ二三

山口房五郎
東區北濱四ノ二三

山口半兵衛
東區瓦町二丁目山口ビル内
東洋リノリユーム株式會社

山中茂一
堺市熊野町東四丁

山本潔
北區芝田町
山本窯業商店

山本辰次郎
西成區千本通五ノ七
電天下茶屋二六五五番

山田文次
西區土佐堀通一大同ビル
山田工務店

山田亟平
港區七條通二ノ一一
山田工司店
電西三五六九番

山添繁藏
內外土木建築材料
合資會社

牧野元良
兵庫縣武庫郡住吉町

松岡織江
西區京町堀通四丁目
二十二番地

松室重光
京都下鴨

松下由藏
北區眞砂町四十一番地

松本儀八
大阪府豊能郡麻田村山ノ庄
(阪急沿線螢ヶ池西北二丁)
電岡町四四八番

增田直一
神戸市西須磨字中池下八
電湊川二二二九番

藤井庄作
南區北炭屋町七
合名會社 藤井工務所

藤田茂
神戸市三川口町三ノ四一

藤村愛資
天王寺區堂ケ芝町

小西一良
南區北桃谷町九番地

小西兼吉
北區天滿橋筋四ノ一三
電堀川六六六番

小松靜
合資
會社 清水組本店

駒崎朝治郎
港區西市岡町一ノ二
夕凪橋東詰電西八〇一番

權藤要吉
東京市外和田堀町
和田九

安立組
京都市上京區御池通
河原町東入

荒川義夫
京都市五條阪東山線
東入五條新通

淺野貞治郎
淺野理化學工業所
港區三先町四丁目五〇

坂本森一
西成區千本通一ノ七

佐伯與之吉
港區市岡元町五ノ八

佐野政風
淺野物產株式會社
大阪支店

佐藤彰美
市外箕面村櫻ヶ丘

佐藤正次郎
西淀川區大仁本町
一丁目二十番地

笹岡家具裝飾店
西淀川區海老江上三丁
目一一七

木村寬一
天王寺區堂ヶ芝町九〇
電南一九二番

木村組
南區竹屋町十三番地
電南(75)八六番

木村梅次郎
神戶市下山手通六ノ七六
設樂建築事務所

湯淺豊太郎
大阪市外濱寺公園八三

宮本長治
兵庫縣廳營繕課

宮崎加平
住吉區天王寺町七二〇
電天下茶屋二五二五

水口庄太郎
此花區下福島二ノ六六

下浦光衛
神戶市國香通五ノ五七

白川雄一
東淀川區中津本通一ノ一

白杉龜造
兵庫縣武庫郡魚崎町一〇〇

設樂貞雄
神戶市西須磨上町十七

平島末吉
住吉區天王寺町天下茶屋天神森筋五七六

日高胖

菱刈隆
臺北市

森下新造
東區餌差町四二ノ一

森本藤吉
南區高津町參番丁二一

森定松之祐
東區紀伊國町九〇五

千賀正人
東京市外西巢鴨町上新田七五九

鈴木克已
福山市西町甲八三〇番地

菅谷元治

須賀藤五郎
株式會社 須賀商會

國産



アスファルト

陸屋根防水用 ブローン
電氣絶縁用 アスフルト

地下室防水用
道路鋪裝用 アスファルト

御參考上
カタログ進呈

日本石油株式會社

大阪市西区江戸堀通三丁目〇

東京本社 下関 小樽

建築事務所案内

（次第不同）

池田建築事務所

所長

建築士 池田實

建築學士

所＝大阪市西區西道頓堀住友ビル

電話櫻川1144・3724

宅＝大阪市住吉區上住吉町174

建築設計竝監督

大阪建築所

大阪市北區中之島七丁目十七番地

河野ビルデング

電話土佐堀（特長二二八〇番）六一〇三番

（パシフィック・オブ・サイエンス カリホルニヤ州公認建築士）

建築士 伊藤文四郎

建築士 熊澤榮太郎

大阪市西區土佐堀通一丁目

大同生命ビルディング第八階

橋本建築事務所

建築士 橋本勉

工學士

電話土佐堀九三八番

大阪市北區曾根崎中二丁目

第一曾根崎ビルディング第四十一號

建築設計監督 小笠原建築事務所

電話北二一五五、二一五六番

建築士 小笠原月（ツキ）

住所 大阪市此花區西島町北港住宅二一〇號

電話土佐堀三二〇四番

建築事務所案内

（次第不同）

大阪市西區靱南通二丁目
ユタカビルデイング三階K室

岡部建築事務所

建築士　岡部顯則（アキノリ）

電話土佐堀五三二三番

大阪市北區中之島宗是町一〇
中之島ビルデイング

和田建築事務所

建築士　和田貞治郎

電話土佐堀七三二三番

東京市丸ノ内郵船ビルヂング六階
電話丸ノ内23二九八一番
大阪市北區堂島大毎ビルヂング五階
電話北四〇六四番

片岡石本建築事務所

工學博士　片岡安
工學士　石本喜久治

大阪市東區高麗橋三丁目二八
千代田生命保險建物三階
電話本局二九六四番

横河工務所

工學博士　横河民輔
工學士　松井貴太郎
田中綱

建築事務所案内

（次第不同）

大阪市東區北濱四丁目五〇
電話本局三一三一番

宗建築事務所

建築士 工學士 宗 兵藏
建築士 須川廉太郎
工學士 大倉三郎

大阪市西區本田町通壹丁目
住友ビルヂング參階
電話西三四三三番

東京市京橋區南紺屋町
實業ビルヂング五階
電話京橋五六六九番

國枝工務所

工學士 國枝博

大阪市東區高麗橋筋二丁目
高麗橋野村ビルヂング六階
電話本局二〇七二番

安井建築事務所

建築士 工學士 安井武雄

建築事務所案内

（次第不同）

鐵筋コンクリート建築

設計監督計算

大阪市東區瓦町山口ビルヂング

増田建築事務所

工學士 増田 清

電話本局 {2673 3176

東京市本郷區本郷三丁目八番地

建築士 工學士 設計監督

眞水工務所

電話小石川三九六三番

建築士 工學士 眞水英夫

工學士 野田六次

大阪市北區眞砂町四十一番地

眞水三橋建築事務所

電話北二〇四一番

早大工學士 松下由藏

太田正之

神戸市下山手通六丁目七六

電話元町二六七一番

設樂建築事務所

建築士 設樂貞雄

工學士 設樂貞三

支配人 木村梅次郎



大阪窯業セメント株式會社本店

大阪市北區堂島濱通二丁目十四番地

電北（長一一一二〇　一一一三）

出張所

東京市神田區表猿樂町

電神田（二一一四五四〇〇三一六）

京都市二條驛前

電西陣三四六五

名古屋市中區老松町

電東四六九

大阪窯業セメント株式會社工場

大阪市港區南恩加島町一番地

電櫻川（二一一七七　二六〇九）

西原式 汚水淨化裝置

專賣特許 第四二五九二號 新案特許 第四三二一號 第六一三五四號 第六一四二三號 第六〇七二號

國產優良品

パイロット衛生器具

弊所が本邦に於ける斯業の先驅者として大小數百ケ所に施工したる多年の經驗と研究の結果漸次改良を加へたもので構造の堅牢、工費の低廉、成績の良好、地積を要する點なきこと等あらゆる特色を具備せるものであります。

洗面器、手洗器、流し類、和洋大小便器、浴槽等各種、



CW 50 — A

（御申越次第カタログ進呈）

我國にて始めて發賣せる組合せ衛生器具にて『持ち送り』『木捻』の類に至るまで全部取揃へ一組になつて居りますが金具類はすべて

合資會社ヤンソン製作所

また陶器類は

東洋陶器株式會社

の特製品で兩々相まつて外國製に劣らぬ優良品を皆樣に御奬め致します、續々御愛用のほど願ひ上げます。

本店 東京

大阪市北區中之島五丁目三十番地

西原衛生工業所大阪支店

電話土佐堀 三七 七八番 一五 八一番

京都市下京區萬壽寺通不明門東入

京都出張店

電話下一三四五番

營業所 名古屋

建築請負業者案内

（次第不同）

池田勘藏

大阪市北區曾根崎新地
三丁目拾三番
電話 局北一一五七番

大阪市東區農人橋二丁目十二番地
合名會社 **大阪橋本組**
代表社員 橋本政吉
電話 長東一五八〇番 東一五八一番 東一七五三番

東京市麹町區八重州町一ノ一
八重州ビルヂング四階
東京支店
電話丸ノ内(23)四七八〇番 四七八一番

小倉市大阪町十丁目百廿二番地
九州支店
電話 長四三〇番

大阪市東區釣鐘町二丁目廿九番地
大倉土木株式會社
大阪出張所
電話東長 自三二一 至三二五 一三一二・六二五〇

建築請負業者案内

（次第不同）

ペンキ塗請負業

龜谷開作

大阪市北區鶴之町三十六番地
電話北六五四五番

足代（假設）
材料損料
鳶方（手傳）
工事負請業

中新

中川辰藏

大阪市北區曾根崎上一丁目
電話北一五三番

東京出張所
東京市神田區猿樂町
貳丁目壹番地
電話神田（25）三〇五番

合名會社 **竹中工務店**

本店 大阪區堂島、堂ビル 北長八一〇
支店 東京市丸ノ內郵船ビル 丸ノ內（23）長一二五〇
神戸市熊內町六丁目 萬合 八〇六
名古屋市西區幾原町二丁目 長一八四二
京都市坊城通三條下ル 中二三八六
橫濱市花咲町十一丁目 一八八九
（長堀町國華ビル）

製作所
大阪市港區南境川町 西長八〇四
東京市深川區西平井町 大手二〇四六

建築請負業者案内

（次第不同）

株式會社

佐伯組

本店　大阪市港區市岡町夕凪橋畔
電話特長西一〇九〇番

出張所

福岡市外馬出上町　電話長二二四二番
大分市南新地　電話長三七〇番
熊本市相撲町　電話長三九四番
小倉市中島町　電話長六一〇番
宮崎市宮田町　電話長四〇六番
東京市京橋區木挽町九丁目三地

諸石材販賣彫刻請負業

幷ニ

一手販賣（黃龍石（人造石用）石粉各種
　　高島產錆色（人造石用）石粉各種
　　黃龍石材各種

通名石佐事

熊取谷熊次郎

本店　大阪市東區材木町七九
電話長東一六二六番

出張所　東京市下谷區上根岸四九
電話下谷一三二九番

白陽工務店

藤田辰三

大阪市北區曾根崎上三丁目三〇番地

電話北一五六二三

建築請負業者案内

（次第不同）

株式會社 **松村組**

大阪市東區大手通一丁目二十六番地
電話東（長）二一七二番 二一七三番 二一七三番 二五五一番 二五五二番 二五五四番

東京本社
東京市丸ノ内仲十四號館十二號
電話丸の内（代表）二五五一番

藤木工務店

藤木正一

大阪市西區小林町七十五番地
電話長櫻川一五五八番

合資會社 **清水組大阪支店**

大阪市西區土佐堀通二丁目二番地
電話長土佐堀（六六六番 六六七番

（本店）東京
（支店）横濱、名古屋、京都、博多、京城、大連

特許ORCテーパー型鐵筋コンクリート造

煙突工事

合名會社 **大阪鐵筋混凝土工務所**

大阪市港區小林町一六三
電話櫻川長一〇八六・二六二二
神戸出張所・名古屋出張所

（カタログ進呈）

建築請負業者案内

（次第不同）

鑿井工事請負業

日本鑿泉合資會社

大阪出張所　大阪市北區曾根崎町太平ビルヂング　電話北三七七八番

本社　東京市丸ノ内中通三號　電話丸ノ内（二三）長一八六三番

名古屋代理店　名古屋市東區東新町萬歲生命ビルヂング四三號　電話東一四七一番

大阪市西區土佐堀通三丁目二四

合資會社

錢高組

電話土佐堀（長三四一七）（三四一八）

東京市京橋區木挽町四丁目四

東京支店

電話銀座（長四二九二番）（長四二九三番）（長二三四七番）

名古屋市中區新榮町三丁目二九

名古屋出張所　電話東三五一八番

橫濱市高島町六丁目一二

橫濱出張所　電話本局三〇七六番

大阪市東區京橋三丁目七十五番地

株式會社

大林組

支店　東京、橫濱、名古屋、小倉

營業所　京都、神戸、

工作所　大阪、東京、

大阪市東區橫堀四丁目四十三番地

電話本町八三四（本店）　櫻川一六七（工場）

石川屋

岡本工務店

岡本武藏

岡本新次郎

山中茂一

建築請負業者案内

合名會社 **有山組**

大阪市東淀川區十三西之町

電話 自宅用 北二〇五〇
營業用 三〇五一

大理石
鐵平石
萬成磨 } 工事及設計請負

大阪市此花區吉野町二丁目一六

合資會社 **山田大理石製作所**

電話土佐堀四三四二番

長尾新太郎

池上喜三信

御用ノ節ハ電話ニテ御一報次第御伺仕可候

淺沼組

本店 奈良縣郡山町字今井
電郡山二五番

工作所 奈良縣郡山町字高田
電郡山二四一番

大阪支店 大阪市東成區東小橋町六六ノ一四
電南二七九〇番

大阪出張所 大阪市港區鶴町四丁目一八二
電櫻川二九〇七番

製材部 大阪市港區小林町一九五番地
電櫻川二四五六番

建築請負業者案内

（次第不同）

株式會社 **鴻池組**

本店 大阪市西淀川區傳法町北三丁目壱
電話土佐堀（長二六二・四二一七）二六三・四二一八）番

支店 東京市京橋區三十間堀三丁目三
電話銀座（長一九九〇番 一九九一番

製材工作場 大阪市港區池島町二丁目五五
電話西七六八・長一五二三番

鐵骨橋梁鐵塔
建築金物請負

合資會社 **駒井喜商店鐵工部**

大阪市港區泉尾町七二番地
電話櫻川（六五八番 二八八六番

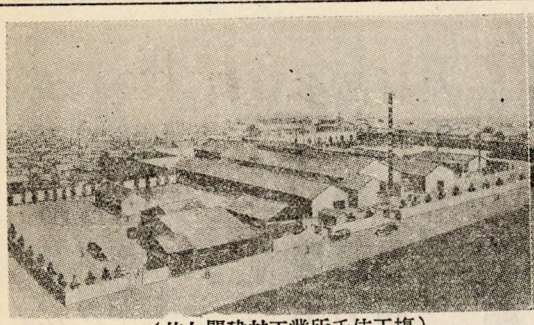
安藤組大阪支店

大阪市北區堂島濱通
一丁目八五番地
電話長北四八四番

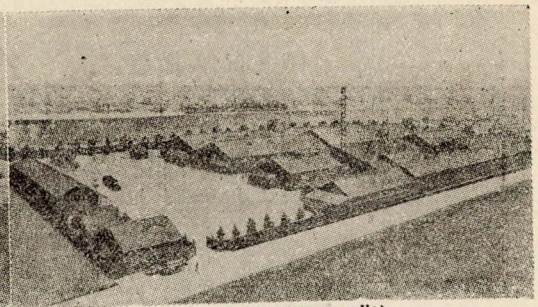
森本建築社

大阪市南區高津三番丁二番地
電話長戎二八一〇番

東京支店
東京市芝區白金三光町二五番地
電話高輪八一六七番



（佐久間建材工業所千住工場）



（佐久間建材工業所高田工場）

佐久間式マルエス印便利瓦

製造法式　特許第七四四七七號
製造法式　特許第七五六二七號

陸屋根地下室防水材料

佐久間式マルエス印

- コンパウンド
- パーマネントルーフイング
- 疊下用紙
- 建築用紙
- フエルト
- C印フエルト
- ルーフイング

國産として優秀なる



御用命

三菱地所部殿
東京府殿
東京市殿
大藏省殿
文部省殿
鐵道省殿
陸軍省殿
警視廳殿

久原鑛業株式會社殿
藤田鑛業株式會社殿
帝國ホテル殿
藤倉電線株式會社殿
富士製紙株式會社殿
慶應大學殿
南滿州鐵道株式會社殿

清水組殿
大林組殿
大倉組殿
安藤組殿
高橋組殿
戸田組殿
竹中工務所殿
藤本組殿

（其他土木建築界各方面）

佐久間建材工業所

所主　佐久間榮吉

東京府千住町三ノ三七〇番地
營業所　電淺草五〇六番
千住工場　電千住四〇二番
東京府高田町八〇四番地
高田工場　電淺草二五六番

東京工業試驗所報告

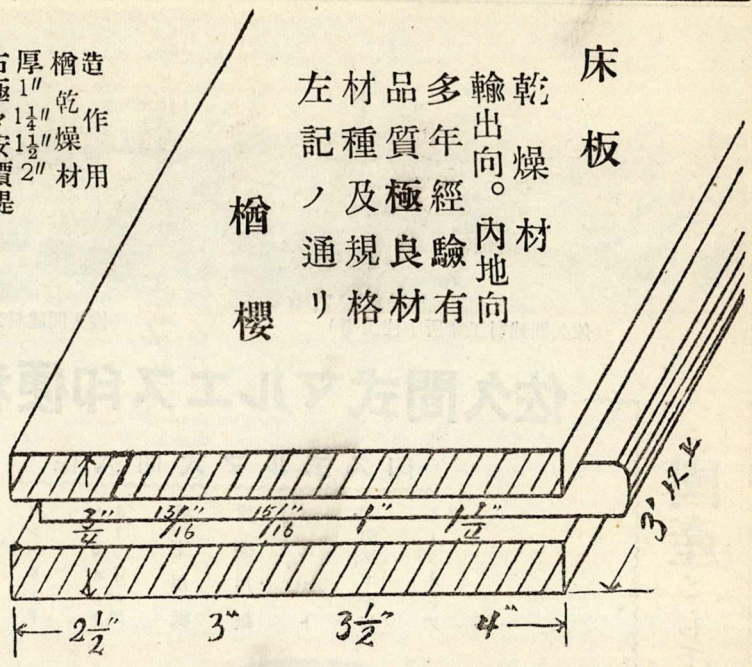
（見本カタログは御申込み次第贈呈）

品名	抗張力 縦	抗張力 横	水壓力 氣壓	屈曲試驗 丸棒直徑	屈曲試驗 廻轉度	屈曲試驗 龜裂	試驗時期
佐久間式マルエス印中號ルーフイング	縦 70·5	横 42.9	1.4	0·5	180°	生ゼス	大正十四年二月二十六日
某舶來一流(½)プライルーフイング	縦 53.7	横 21.8	1.2	1.3	180°	生ゼリ	同上
佐久間式マルエス印中號ルーフイング	縦 74.4	横 55.9	1.7	0.5	180°	生ゼス	大正十五年二月十日
某舶來一流(½)プライルーフイング	縦 80.3	横 39.3	1.2	1.0	180°	生ゼリ	同上

床板

乾燥材
輸出向。內地向
多年經驗有
品質極良材
材種及規格
左記ノ通リ

檜
櫻



造作用
檜乾燥材
厚1″ 1¼″ 1½″ 2″
右極々安價提供是非當店へ
御引合願上候

福原工場大阪販賣店
港區泉尾梅ノ町四丁目
電話櫻川一六七番

福原床板製造工場
小樽市入舟町二丁目三十四番地
電話二七一三、一二三
振口小樽二五六七

大理石工事請負

合資會社
矢橋大理石商店

本店 岐阜縣不破郡赤阪町
電話五

出張所
東京市麹町區八重洲町一丁目
丸ノ內十號館五號
電話丸ノ內四六三九番
大阪市東區北濱四丁目三十二番地
電話本局㊁五三一九
京城府光化門通一九〇

發行書目

建築構造 耐震強度計算書式及規準〔訂正補增三版〕

金一圓三十錢（送料共）

本書は構造計算に便する爲内藤工學博士が成された實例を二三集めたもので、其前に構造計算に必要な表並に公式を載せ、且建築學會發行の構造計算規準及書式を揭げ、計算の順序やそれに伴ふ事項を列記したもので、建築家必携の良書である。

早稻田建築學報 第三號 特價〔送料共〕

（震火災調査報告號）定價七圓 金五圓

早稻田建築學報 第四號

定價二圓五十錢 金一圓五十錢

早稻田建築學報 第五號

定價三圓 金二圓

早稻田建築學報 第六號

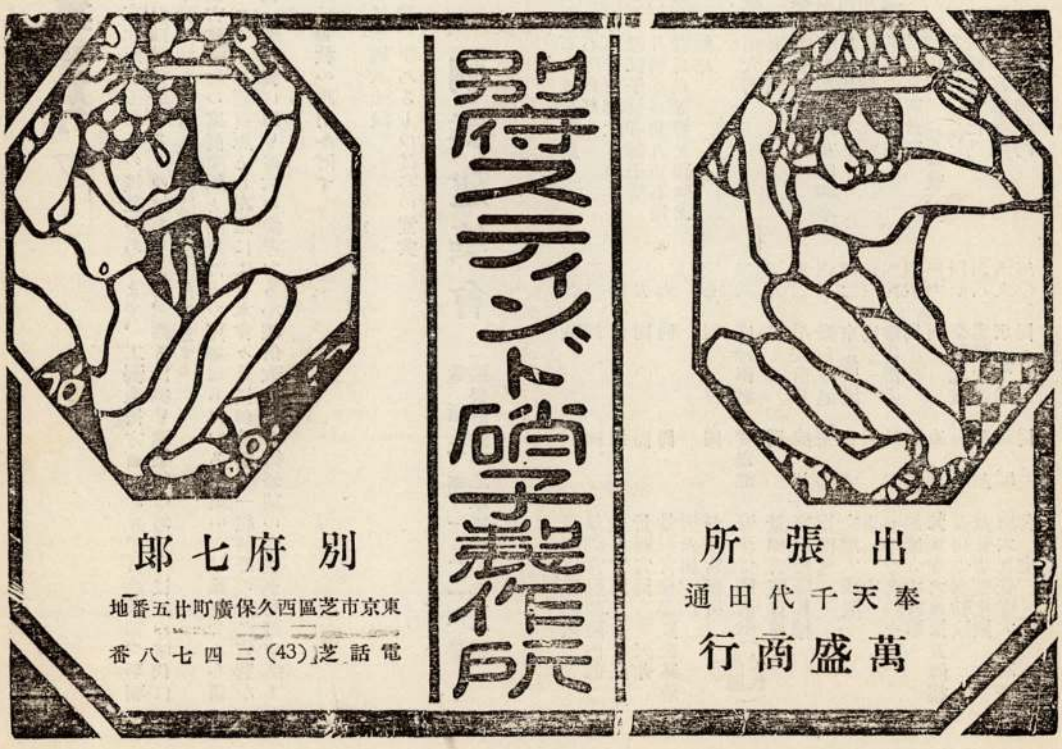
（最新刊）定價 金二圓五十錢

右建築學報は早稻田大學建築學科の教授講師並に卒業生學生の手に成れる優秀なる研究調査作品等を發表する年刊雜誌にして實に日本の大に於て發行するイーヤブックの嚆矢たるものなり、内容豐富、建築家の參考すべき資料勘なからず、御購讀あれ。

東京牛込、早稻田大學建築學教室

早苗會

振替口座 東京五三四五七番



△朝鮮古建築物寫眞圖集發行▽

過去に永き歴史を有し殊に内地と密接の關係にある我が朝鮮に興廢せる文化が殘したものは數多あります、工藝美術方面にありては高麗朝や李朝に於ける陶磁器、樂浪時代に於ける遺物等既に世に顯はれ是等は夫々識者の推賞措かざるものがあります、然るに獨り建築物にありては其の時代に於ける文化の著しき榮徴であり而も優秀なるもの數多あるに不拘未だ廣く世に紹介せられざるは遺憾に存じます。

本會茲に感ずる所あり今回朝鮮總督府博物館に乞ひ同所所藏の朝鮮各種古建築物の寫眞原版と關野博士の蒐集せられたる寫眞中より幾部分とを借用し之れに本會自ら蒐集したる寫眞を加へ是等中より左記五十種を選みコロタイプ寫眞版とし左記により本會々員は勿論廣く一般同好の士に實費を以て頒たんとするのであります建築技術家、史家、朝鮮研究家は勿論其他一般諸賢に取り多大の參考たるを確信致します御希望の向は至急御申込下さい。

記

一、體　裁　寫眞は上質紙(百三十斤)を用ひ縦八寸七分とし別に各枚の説明を附す
一、發行期日　昭和三年十一月三十日
一、實　費　(帙入五十枚一組)一部三圓八十錢　但本會々員は三圓五十錢
一、送　料　申込者の負擔とす　但一部三十錢數部取纏め發送の便あるものは其の實費
一、代金及送料は前金若くは代金引替郵便とす
一、申込所　京城府黄金町日本生命ビルデング三階三〇二號室

朝鮮建築會　電話本局一五二八番　振替貯金口座京城一〇九七一番

朝鮮建築圖集目録

高句麗時代
一　平安南道　龍岡郡　眞池洞双楹塚
二　同　江西郡　遇賢里大墓
百濟時代
三　忠清南道　扶餘　大唐平百濟塔
古新羅時代
四　慶尚北道　慶州　芬皇寺石塔
五　同　慶州　瞻星臺
新羅統一時代
六　全羅北道　益山　慶彌勒寺塔
七　忠清北道　忠州　塔亭里九重石塔
八　慶尚北道　慶州　佛國寺樓閣及石壇
九　同　同　佛國寺多寶塔
一〇　同　同　佛國寺釋迦塔
一一　同　慶州　感浄惠寺十三重石塔
一二　同　安東　邑南五重塼塔
一三　高麗時代　慶州　石窟庵石窟
一四　慶尚北道　榮州　浮石寺無量壽殿
一五　同　同　浮石寺内部
一六　慶尚北道　榮州　浮石寺祖師堂
一七　忠清北道　忠州　鷹獅子迅寺獅子塔
一八　江原道　平昌　月精寺八角九重石塔
一九　同　原州　鷹庄泉寺智光國師玄妙塔
朝鮮時代
二〇　京畿道　京城　南大門
二一　同　同　東大門
二二　平安南道　平壤　浮碧樓
二三　京畿道　水原　華虹門及訪花隨柳亭
二四　慶尚南道　晋州　矗石樓
二五　平安南道　安州　百祥樓
二六　京畿道　京城　昌慶宮弘化門
二七　同　同　昌慶宮明政殿
二八　全羅北道　益山　益山王宮塔(新羅統一時代)
二九　同　同　景福宮光化門
三〇　同　同　景福宮建春門
三一　同　同　景福宮勤政門
三二　同　同　景福宮勤政殿
三三　同　同　景福宮勤政殿内部
三四　同　同　景福宮同　玉座
三五　同　同　景福宮同　天井
三六　同　同　景福宮交泰殿後殖畑及塀門
三七　同　同　景福宮書塀
三八　咸鏡南道　雙逸郡　釋王寺應眞堂(高麗時代)
三九　同　同　景福宮慶會樓
四〇　平安南道　成川　東明館降仙樓
四一　慶尚南道　密陽　嶺南樓
四二　京畿道　京城　文廟大成殿
四三　同　同　東印寺藏經板庫
四四　慶尚南道　陝川　海印寺通度寺大雄殿
四五　同　梁山　通度寺大雄殿及鐘樓
四六　同　東萊　梵魚寺大雄殿
四七　全羅北道　金堤　金山寺彌勒殿
四八　忠清北道　忠州　法住寺捌相殿
四九　京畿道　京城　廢大觀覺寺大理石塔
五〇　同　同　住宅

榮進社ノ

戸火防上捲　シュッサルーチス
類戸鐵種各　機降昇動手



合資會社

榮進社

營業所　東京市京橋區南紺屋町十二番地
實業ビルデング三階
電話京橋(56)二、二二九番

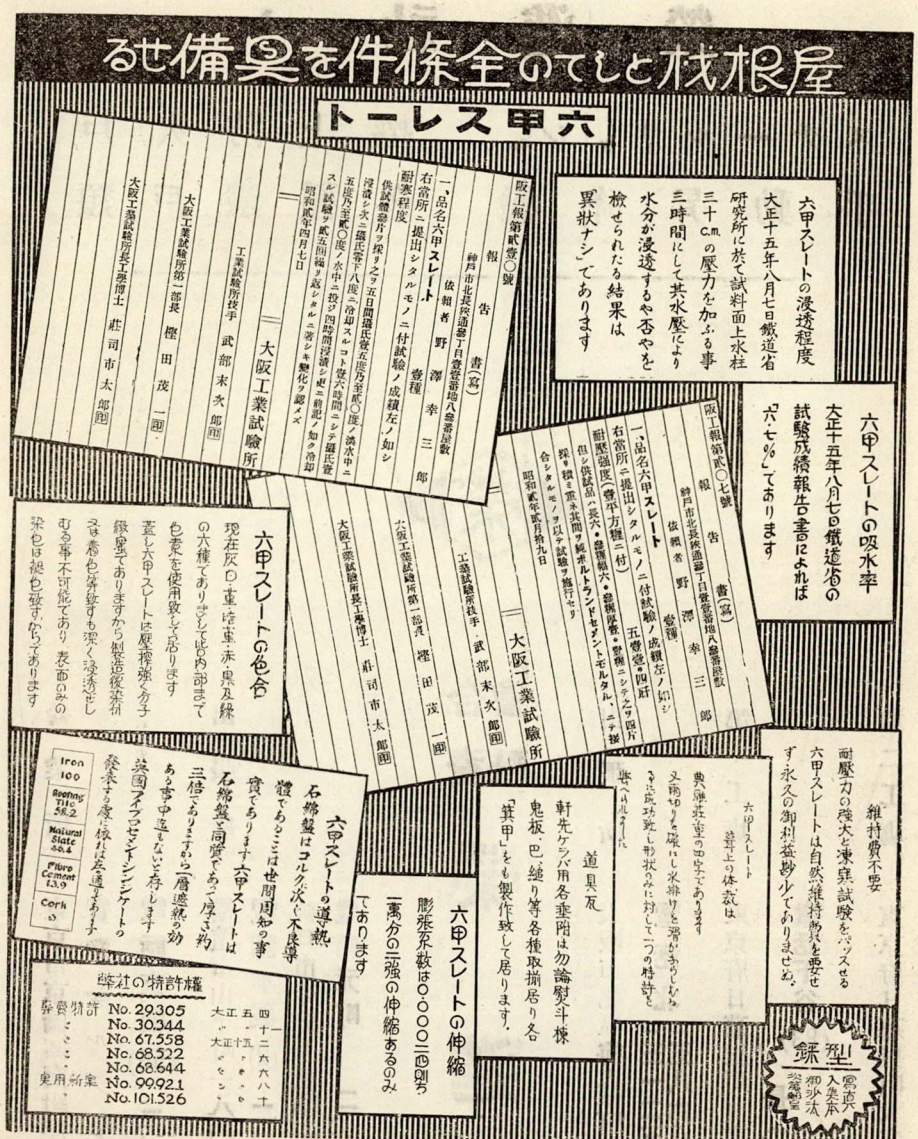
出張所　橫濱市山下町一八四　岩井ビル
電話本局(2)二、七一四番

出張所　神戸市平野下祇園町一二二番地
電話元町　二、七〇九番

出張所　大阪市北區梅ヶ枝町梅ヶ枝ビル二階
電話北(三一二五)五三五九
(五八六八)二八四六

第一工場　東京府日暮里町日暮里三八番地
電話下谷(83)長(一、〇二七番)(一、四〇二番)(一、四八三番)

第二工場　東京府日暮里町大字谷中本二五六番地


屋根材としての全條件を具備せる
トーレス甲六
六甲スレートの浸透程度
大正十五年八月七日鐵道省
研究所に於て試料面上水柱
三十cmの壓力を加ふる事
三時間にして其水壓により
水分が浸透するや否やを
檢せられたる結果は
「異狀ナシ」であります
六甲スレートの吸水率
大正十五年八月七日鐵道省の
試驗成績報告書によれば
「六・七%」であります
阪工報第弐〇七號
報告書(寫)
神戸市北長狹通壹丁目壹番地八壹番屋敷
依賴者 野澤幸三郎
壹種
一、品名六甲スレート
右當所ニ提出シタルモノニ付試驗ノ成績左ノ如シ
耐壓強度(壹平方糎ニ付)
五壹壹・四貳
但シ供試品(長六・壹糎厚六・壹糎)ニテ四片
合シタルモノヲ以テ試驗ヲ施行セリ
昭和弐年弐月九日
大阪工業試驗所
工業試驗所技手 武部末次郎印
大阪工業試驗所第二部長 樫田茂一郎印
大阪工業試驗所長工學博士 莊司市太郎印
阪工報第弐〇七號
報告書(寫)
神戸市北長狹通壹丁目壹番地八壹番屋敷
依賴者 野澤幸三郎
壹種
一、品名六甲スレート
右當所ニ提出シタルモノニ付試驗ノ成績左ノ如シ
耐壓強度(壹平方糎ニ付)
五壹壹・四貳
但シ供試品(長六・壹糎厚六・壹糎ボルトランドセメント・モルタル・ニテ接
合シタルモノヲ以テ試驗ヲ施行セリ
昭和弐年弐月九日
大阪工業試驗所
工業試驗所技手 武部末次郎印
大阪工業試驗所第二部長 樫田茂一郎印
大阪工業試驗所長工學博士 莊司市太郎印
維持費不要
耐壓力の強大と凍寒試驗をパスせる
六甲スレートは自然維持物只を要せ
ず永久の御利益勘少でありまする。
典雅莊嚴の四字であります
又雨のりも強く氷柱りも滑らかしむる
さ成功致し形狀の外に對して二つの特許と
六甲スレートの特長は
道具瓦
軒先ケラバ用各種附は勿論鬢斗棟
鬼板、巴、繰り等各種取揃居り各
「葺甲」をも製作致して居ります。
六甲スレートの色合
現在灰、一重焼重、赤、黒及緑
の六種でありますして此内部まで
色素を使用致しますから
蓋し六甲スレートは壓搾強分子
緻密でありますから製造後染附
又は着色等致すも深く浸透せし
むる事不可能であり表面のみの
染色は褪色致すからであります
六甲スレートの導熱
石綿盤はコルク次ぐ不良導
體であることは世間周知の事
實であります六甲スレートは
石綿盤と同質であつて厚さ約
三倍でありますから層遮熱の効
あり事申迄もないと存じます
英國スレフ・エンジニアのシンクアートの
發表より度に依れば左通りであります
Iron 100
Roofing Tile 56.2
Natural Slate 46.4
Fibro Cement 13.9
Cork 3
六甲スレートの伸縮
膨張収縮は〇〇〇二四倍ち
一萬分の二強の伸縮あるのみ
であります
特許權
登録特許
新案
使用
弊社の特許權
No. 29305 四十一
No. 30344 六、八、十
No. 67558 五、十五、
No. 68522 大正十
No. 68644 〃
No. 99921 〃
No. 101526 〃
錄型 寫眞入見本 御申込次第 發送致します
製造 日本石綿盤製造株式會社
發売 野澤幸三郎商店
神戸 北長狹通三丁目 番合2630 2631
東京 丸ノ内 ルノ内3670
大阪 綿業會所 大江ビル内 北5994
福岡 紺屋町三六 1945
札幌 大通東五丁目 415 203 西洋軒裏
昭和ビル内

優良廉價

アサヲ白色ポートランドセメント

Net.170 KG

專賣特許

アサヲプラスター

セメント防水劑

リクタイト

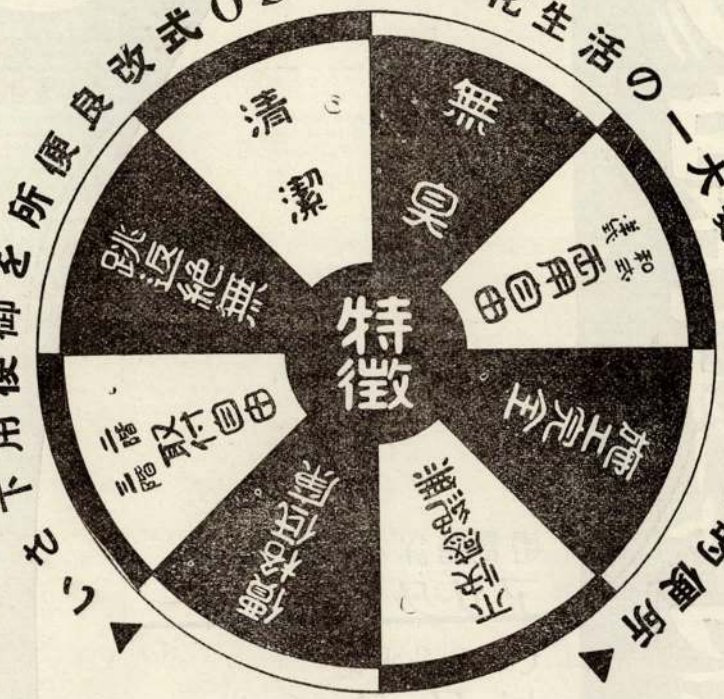
・型錄贈呈・

姫路化學工業株式會社

兵庫縣・姫路町

所便改良

特許



設備費　金七拾五圓（大便所ノミ）
　　金九拾五圓（大小便所共設ノ場合）

大阪市東區高麗橋五丁目
株式會社　須賀商會内

SO商會

電話本局　三四五九番

大正六年九月十四日第三種郵便物認可
「建築と社會」第十二輯第五號附錄

社團法人日本建築協會昭和四年度役員及常設委員會委員氏名

理事會長　評議員　片岡安
理事副會長　同　宗兵藏
理事副會長　同　日高胖
監事　同　池田實
監事　同　横田勉
常務主記　同　德政金吾
常務主記　同　坪井誠一
常務主計　同　波江悌夫
常務主計　同　岡部顯則
常務主計　同　吉井長七
常務編輯　同　山脇友三郎
常務編輯　同　池田谷久吉
常務編輯　同　本間乙彥
常務編輯　同　松本儀八
常務編輯　同　酒井勇三郎
常務主計　同　伊藤幸太郎
常務主計　同　大澤幸平
同　同　小川陽吉
同　同　渡部圭吾
同　同　和田貞治郎
同　同　高田利一郎
同　同　竹田延朗
同　同　内綠
同　同　中島智喜
同　同　中村義雄
同　同　村上徹一
同　同　久保田筆雄
同　同　熊澤榮太郎
同　同　八木幸次郎
同　同　前内文二郎
同　同　增山新平
同　同　牧野利秋
同　同　古宇田實
同　同　小西一良
同　同　阪井米吉
同　同　芝田知重
同　同　下浦光衛
同　同　樋口辰太郎
同　同　姫野武
同　同　森本藤吉

第一部（法制）委員會

委員長　池田實
幹事　今林彥太郎
幹事　小川安一郎
委員　伊藤幸太郎
同　加藤善吉
同　竹中景一
同　高木眞太郎
同　高田利一郎
同　村野藤吾
同　前内文二郎

第一部委員會第一分科
（都市計畫に關する事項）

主査　小川安一郎
委員　加藤善吉
同　林豪藏
同　岡本茂樹
同　川口一二
同　北垣熊之介
同　椎原兵市

第一部委員會第二分科
（建築法規ニ關スル事項）

主査　高木眞太郎
委員　竹中景一
同　前内文二郎
同　井原國三
同　浦英之助
同　熊澤榮太郎

第一部委員會臨時分科
（家屋稅に關する事項）

主査　村上徹一
委員　和田貞治郎
同　加藤善吉
同　川口一二
同　高田利一郎
同　田中美一
同　前内文二郎
同　佐藤松太郎

第一部委員會第四分科
（工事の施行規定及契約に關する事項）

主査　高田利一郎
委員　伊藤幸太郎
同　田中美一
同　久保田筆雄

第一部（委員會）第三分科
（建築士法案に關する事項）

主査　今林彥太郎
委員　村野藤吉
同　小川陽吉
同　和田貞治郎
同　鷲尾九郎
同　村上徹一
同　古塚正治

第一部委員會第三分科
（木材、人造板材、牀表裝用リノリューム、疊、蓆、其他）

主査　須川廉太郎
委員　吉川時三郎
同　永田三次郎
同　山田初次
同　三宅茂雄

第三部委員會第四分科
（ペイント類、ヴアニス、セルラック、アスファルト、其他）

主査　下浦光衛
委員　岩佐信也
同　岡織吉
同　大島重義
同　辰己吉之助
同　田阪吉二郎
同　三木一二

第三部委員會第五分科
（硝子類、鋼窓子、扉、防火扉、アートメタル類、銅鋲鉛等板、金具）

主査　森本藤吉
委員　糸永文吾
同　吉田喜平
同　向島文一
同　藤村愛資

第三部委員會第六分科
（衛生器具類、器具類他汽罐用）

主査　阪井米吉
委員　井上國助
同　伴秀雄
同　城口龜吉
同　須賀藤五郎

第三部委員會第七分科
（機械器具類）

主査　谷民藏
委員　萩原貞
同　長野文一
同　中川松治郎

第三部委員會第八分科
（家具裝飾類）

主査　呼子正
委員　安川梅太郎

第二部（教化）委員會

委員長　武田五一
幹事　小笠原鈔
幹事　增山新平
委員　岡本新次郎
同　大倉三郎
同　竹田延朗
同　山本春水
同　藤枝良一
同　小西一良
同　芝田知重
同　姫野武

第二部（資料）委員會

委員長　松室重光
幹事　森本藤吉
幹事　須川廉太郎
委員　大澤幸平
同　呼子正
同　谷民藏
同　中村義雄
同　永田三次郎
同　阪井米吉
同　下浦光衛

第三部（災害）委員會

委員長　光安梶之助
幹事　池田宮彥
主査　林豪藏
委員　落藤藤吉
同　大野直平
同　岡本弘
同　渡部圭吾
同　川口一二
同　谷田實
同　中島智喜
同　黒田茂
同　八木幸次郎
同　山本久吉
同　增田清
同　古川豐世
同　青柳貞
同　鹽路惣吉
同　篠原太郎（次第不同）
同　高松平太郎
同　福澤谷藏
同　淺原眞一
同　三宅重二郎
同　白石登喜治

第三部委員會第一分科
（石材、コンクリート、セメント、左官用材料、人造石、其他）

主査　大澤幸平
委員　梶垣寬
同　谷口德政
同　長屋修吉
同　熊取谷熊次郎
同　森島弘通

第三部委員會第二分科
（煉瓦、各種陶瓦、瓦、石綿スレート、石板、防水布類、其他）

主査　中村義雄
委員　河合好吉

再び光榮に浴す

謹啓昨秋曠古の御大典に際し弊社は大正四年先帝御大禮の際に於けると同樣茲に再び

一、京都御所御湯殿及御厠衛生、給水、配湯設備工事一式
一、大嘗宮朝集所衛生設備工事一式
一、第一、第二朝集所其他衛生設備工事一式
一、大宮御所御湯殿增設給水、給湯工事一式
一、畝傍山御休所、京都驛、二條離宮內諸設備工事
一、京都御所內御用、鏡其他上記諸設備用器具一切供給

等の恩命を宮內省內匠寮及大禮使より拜受致候處幸に萬事無滯竣工及納入仕候事は多年誠實、向上本位を以て從業致居候賜ものと存申候

弊社は此再度の無上の大榮譽を倍々光輝あらしむる爲め將來一層奮勵可仕候間倍舊の御援助を給はり度奉懇願候

敬具

昭和四年一月

水道、衛生、煖房裝置設計施工

株式會社 須賀商會

社長 須賀藤五郎

電話本局 一一八九三 一一八九四 一一八九五

支店出張所

東京市京橋區南金六町十三
名古屋市西區西柳町
京都市烏丸二條上ル
兵庫縣武庫郡住吉驛前
神戸市北長狹通二丁目
神戸市西須磨仲之町二十二
福岡市博多上小山町

電話

銀座 (二四)一八五三
西 七八四
上 一九六九
御影 八五八
葦合 (一一)八〇〇五
(三)〇〇八
須磨 二六一
博多 一二七九

營業品目

鋼製組立家屋
鐵骨鐵筋
鋼製窓枠
鋼製扉
メタルラス及附屬品
道路鋪裝諸鋼材
鐵骨及コンクリート用塗用
其他

本社　神奈川縣川崎市田島町
工場　神奈川縣川崎市田島町
東京支店　東京市丸の内三菱廿一號館
横濱支店　横濱市太田町二丁目十五ビルデイング

大阪市西區土佐堀通一丁目
大同生命ビルデイング

日本トラスコン鋼材株式會社

電話土佐堀一七七六・三一〇三番

名古屋支店　名古屋市東區東新町萬歳ビルデイング
神戸支店　神戸市榮町通二丁目山口ビルデイング
廣島支店　廣島市紙屋町藝備ビルデイング
福岡支店　福岡市博多上呉服町太平ビルデイング



株式会社 ターベレエタ内

各省諸官衙指定工場

エレベーター
コンベアー
ホイスト
リフト
一般輸送機械
設計製作販売

東京営業所 神田区旭町六〇七三・神田長谷電話
神戸市下沢通二丁目 本局長電 七〇七三・一七七一

◀工施ニ並賣販▶

耐火リノリウム　特許ストンプロツク
セメントプロツク　特許ポーラスライ
ドロマイト　マグネシヤセメント
㊥プラスター

葛生石灰株式會社發賣
㊥プラスター關西一手販賣元
大阪耐火リノリウム工業合資會社
大阪市西區薩摩堀南ノ町一番地
電話新町四三五九番

カタログ進呈

◀特許坂本式硝子屋根裝置▶

諸官衙・工場・倉庫・撮影所・病院・溫室等ニ廣ク御利用ヲ乞フ
屋根及ビ一般建築物天窓ニ

坂本商會大阪出張所

大阪市西區薩摩堀南ノ町一番地
電話新町四三五九番

優良國產屋根材の權威



見本進呈

九州帝國大學教授 岩岡博士考案

實用新案 **岩岡式木工錐**（型錄進呈）

能率增進 國產隨一

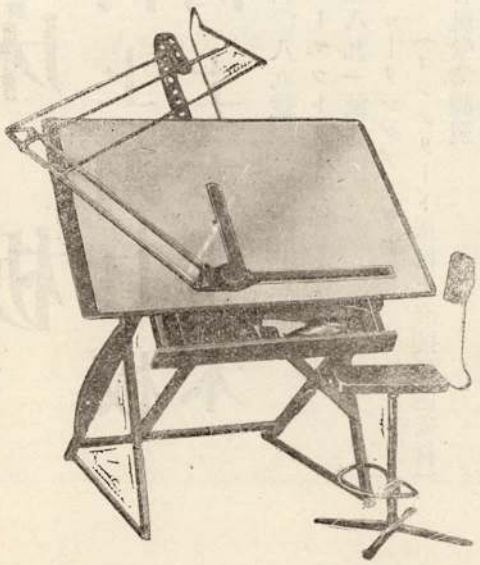


實用新案 **岩岡式自在製圖机** 高低角度自在

特許既願 **岩岡式萬能製圖機** 用法擴大

特許既願 **岩岡式簡易腰掛** 高下自在

【型錄送呈】



高級機械工具商

福岡市下店屋町十五番地

株式會社 **谷商店**

（電話一九〇六特長一四四四番）

新案
平安瓦發賣元

瓦

佐村木勝吉

品目
各國屋根瓦
各種色瓦
北國瓦
日本洋瓦

營業
土管各種
壺、便器類
葺上及販賣
淺野煙突

大阪東區材木町十五番地
（北詰東橋寺寶久へ入）
電話東三一六〇番

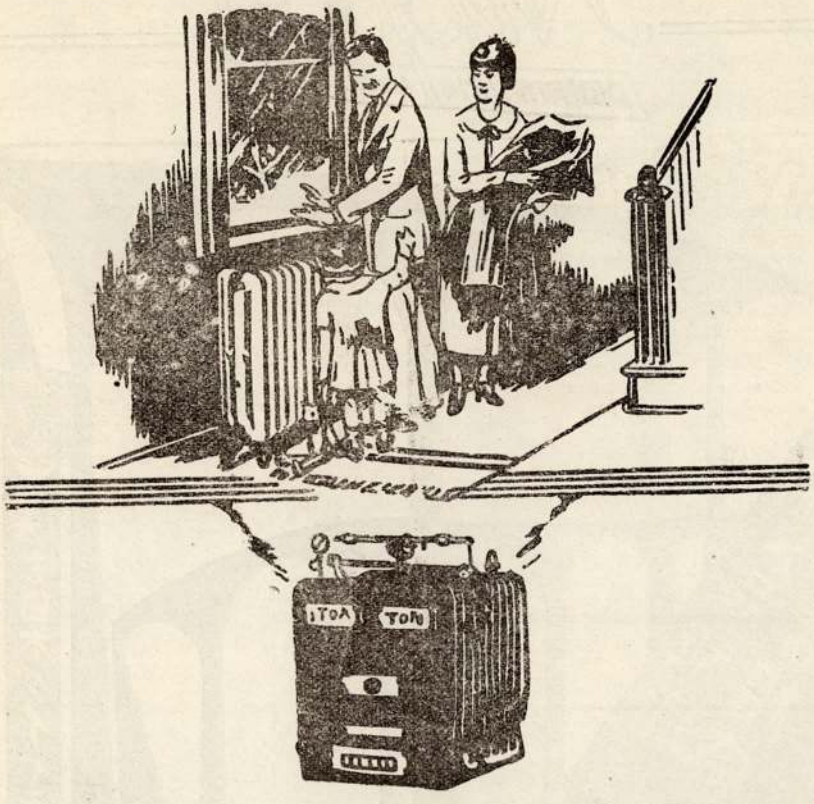
檜實剝繼手付
櫻 床板
同上羽目板
同上本寄木

特許第六六〇八九號
伊丹式パーケットリー（簡易寄木）
特許第六五八九一號
伊丹式フローリングブロック
（コンクリート床板上直接張込床材）
三菱合資會社營業課製
南洋產セラヤ材天井板
青森特產櫸材根太土臺其他

大阪 伊丹商店

大阪營業所
大阪市西區靭中通一丁目二〇番地（市電信濃橋停留場北へ一丁東側）
電話長土佐堀二四一七番

名古屋營業所
名古屋市西區南外堀町四丁目一番地
電話長本局四五九六番



合資會社

東亞鐵工所

大阪市此花區西九條濱通一〇

電話土佐堀(一一三七番
(三九六七番

合資會社

東亞鐵工所東京出張所

東京市麹町區丸ノ內ビル八七五

電話丸ノ內(23)一七九六番

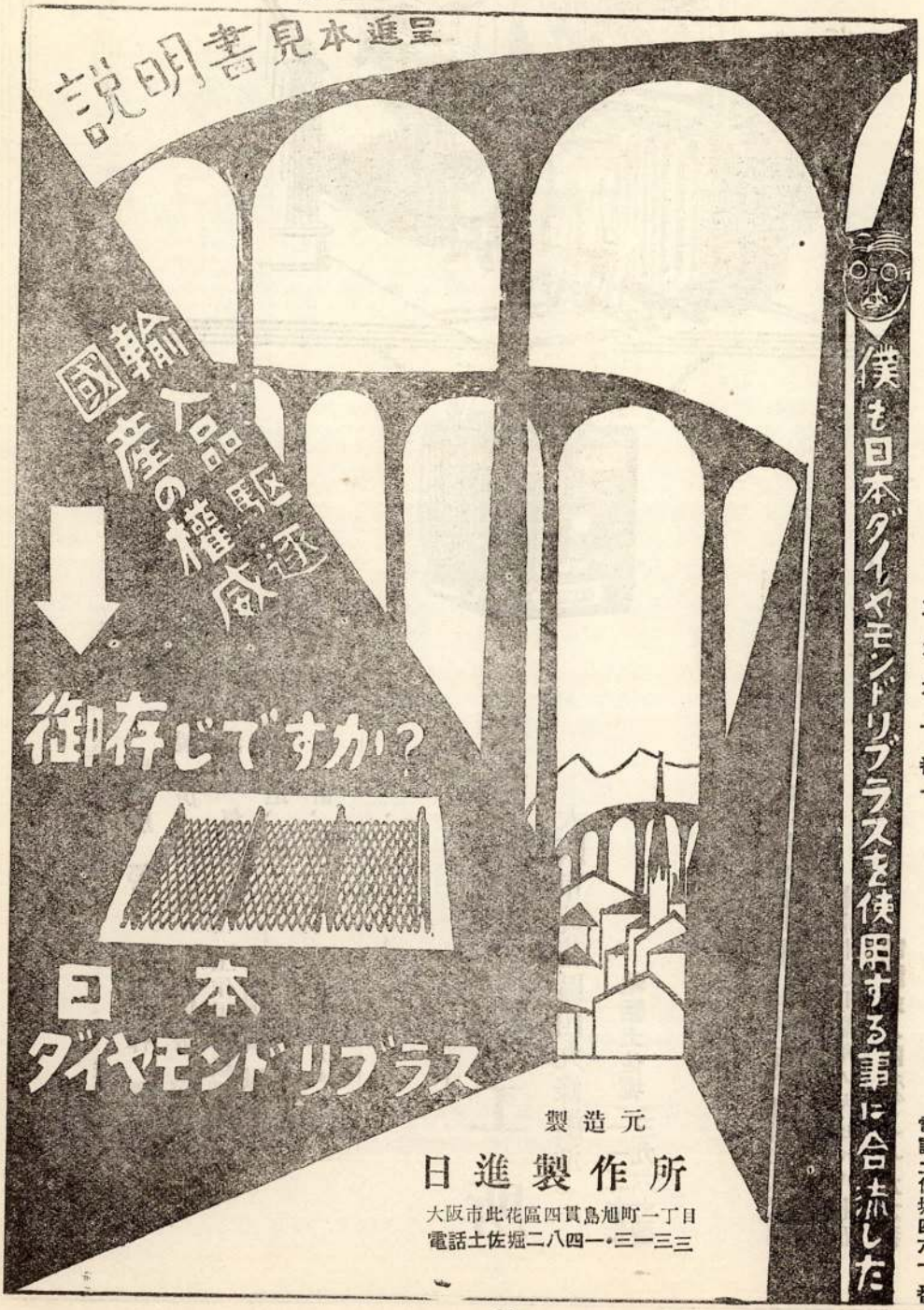
營業案內

煖房部　煖房、換氣
溫濕氣調整
水道、衛生
設計、施工

製作部　各種放熱器
工作用高級機械
汽罐、鑄鐵品
コンベーヤー、リフト、ケーブルカー

Nippon

DIAMOND RIB LATH.



元造製

日進製作所

大阪市此花區四貫島旭町一丁目
電話土佐堀二八四一・三三一三

全國一手販賣店

東京市日本橋區江戸町二丁目四番地

三共貿易株式會社

電話日本橋二四八六・二四八七
三九九一番

大阪市北區中之島六丁目

關西代理店 奥村重兵衛商店

電話土佐堀四六一番

最も進歩せる使い易いプラスター

スタッコ、マンチュリヤ

主なる特長

一、布海苔を要せず、其儘水にて練り塗工す
一、硬度適當なれば音響を反射せず
一、輕くして剝落、龜裂の憂なし
一、純白美麗、顏料にて着色任意、褪色せず
一、施行後水洗ひしても表面を損傷せず
一、價格低廉、御試用を乞ふ

耐火床張リグノイド
工場床張リグコッタ
美術床張マグコルク床
防火防水壁ロックスタッコ
水硬性防火防水壁リソイド
水硬性防音内壁エラスコ
マグネシアセメント

型錄進呈

一手販賣店元 三井物産株式會社

製造元 南滿鑛業株式會社

大阪市港區北境川町二丁目三十五番地

大阪出張所

電話長西三四八九番

玲光社

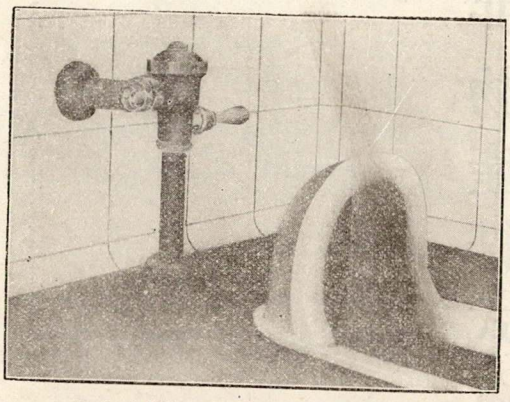
ステインドグラス
模細工
プリヅム
各種色硝子

耶太三太
耶眞彌邦
内崎瀧
木三實

大阪市天王寺區南河堀町
電話 天王寺 七九四
東京澁谷青山南町七ノ二
電話 青山 一八八〇

水洗便所洗滌辨

ヨネ.フラッシュ.バルブ



東京帝國大學營繕課御指定
東京・大阪・京都市役所御認可
製造發賣元 米本商店
大阪市天王寺區南河堀町二丁目三番地
電話 天王寺 七九四 三八〇〇番

重なる納入先

東京帝國大學　京町堀ビルデング
正金銀行東京支店　太平ビルデング
日本大學　大阪市電氣局
大阪ビルデング　大軌電鐵會社
船場ビルデング　新京阪電鐵會社

大阪造幣局　大寶小學校
灘萬食料品店　八幡屋劇場
三越呉服店別館　兵庫縣立女學校
大阪府知事官舍　名古屋共濟ビル
大阪商船紅丸　京都明治ビル
芦原小學校　滿鐵病院

電燈と電力
照明器具
水道と暖房
機械と汽罐

設計製作
据付諸工事

特約 インターナショナル石油發動機
おのくち式A1型渦巻ポンプ

深井戸用各種ポンプ・ベリル
クライン・ヴィ・マグネット・ニチール

..TRADE MARK..

合資會社

大キナ商店

大阪東区今橋貳丁目一三地

代表社員 小川繁太郎

電話本局 一三八九
五九三一番

振替大阪二〇六一一番

三熊製疊所

創業明治四十四年　神戸市東尻池町五丁目　電話兵庫一四六九番

▲當所の疊製品は現に我國屈指の建築技師及技術家を始め別莊住宅各官廳及重要會社の設計指定疊として多大の御用命を蒙りつゝあり

特長
製品優秀　技術超絶
納期正確　在庫豊富
價格至廉　確實叮嚀
疊内部防水防塵衛生裝置

新疊
院寺　校用
堂殿　學社　莊別　宅住
會社　省官
席茶　館洋　等

負請事工般一疊

賣販地布綠及表疊
全國

販路―關西關東ヲ始メ全國各地一圓現場納入

▼御設計又は御見積の上に於て疊一切の事に付御不審の點は御相談下され候はば委細御説明申上候

價格表御一報次第送呈仕候

出張所々在地　大阪　京都

建築用鐵材

丸鐵、鐵板
角鐵、アングル鋼
平鐵、ジヨイスト鋼
チヤンネル鋼

大阪市西區立賣堀北通二丁目

山本東作商店

電話（新町七四番／同七五番／同七六番）

受電略號オザカ、ナニワヅ

鐵筋用丸鐵

在庫豊富見積書御一報次第提出可仕候

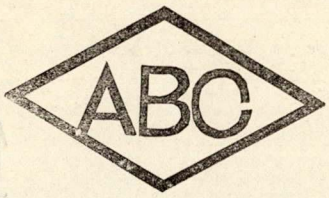
●防火宣傳●

阿部式スティールサッシュ製作
阿部式スティールドーアー製作
自働捲上防火シャッター製作

鐵骨建築及附屬金物一式
鐵塔橋梁其他構造物一式
エレベーターリフテイング一式
鐵扉、鐵柵類一式

A 合資會社 **阿部鐵工所**

大阪市西淀川區浦江上二丁目五九
電話土佐堀（長一八一四番 三八〇〇一一番 八四一五番）
振替口座大阪四八〇〇番
受信略電（オウサカアヘテツ）



淺野理化學工業所製

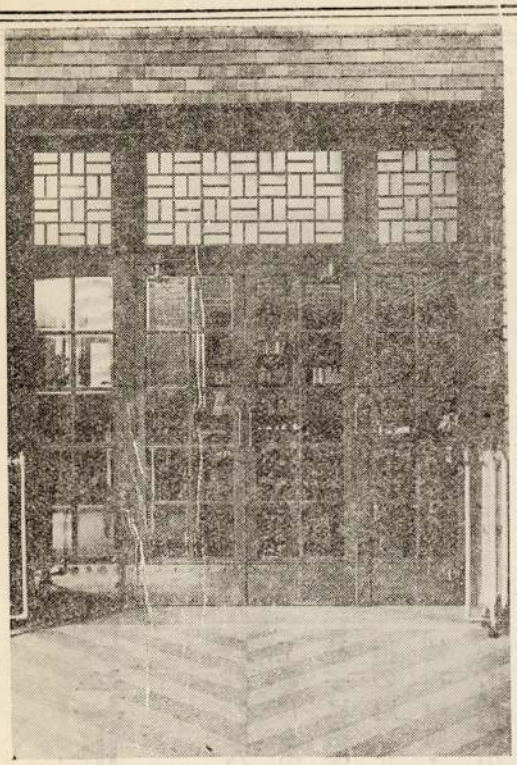
アサノソリヂットタイル
アサノソリヂット安全壁
アサノソリヂットスタイル
アサノリノリユーム鋪床料

ユニオンアスファルト
小倉アスファルト
内外各種ルーフ井ング
大連ドロマイト
大明式スカイライト
米國ミシシッピ會社製ガラス一切
網入波形グラス
米國GF會社各種ラス
セロテックス
内外各種ペンキ
其他橋梁材料並ニ請負
（型錄進呈）

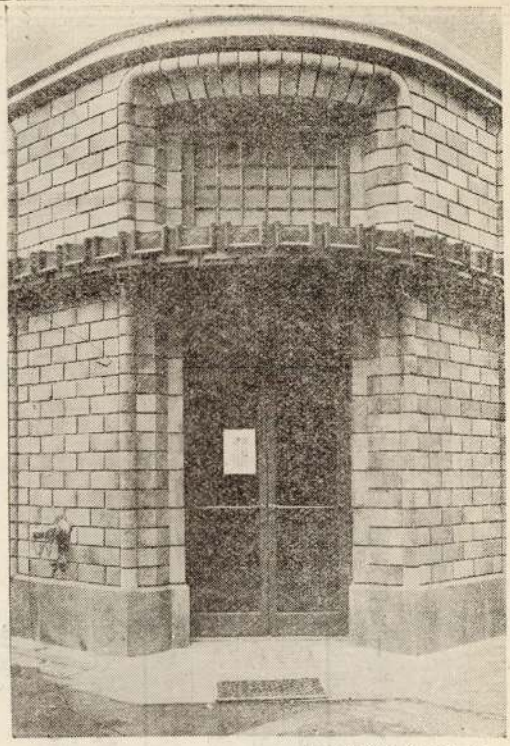
一手販賣元

淺野物産株式會社大阪支店

建築材料部



大阪　高麗橋野村ビルデイング　玄關内スクリーン　シヨーウインド造作工事
弊製作所施工　資生堂森永製菓



大阪高麗橋ビルデイング　南丸隅資生堂出入口
弊製作所施工

安井建築事務所御設計
株式會社大林組本店請負

正賀

◉建築ノ進歩ト防火ノ設備◉

請負

設計

特許壽崎式**スチール、シヤツター**
特許壽崎式**スチールドウワー**
特許壽崎式上ケ下ケ**スチールサツシユ**
鋼鐵製書架類
鋼鐵製**シヨーウインドー**
鋼鐵製**スクリーン**並ニ造作
鋼鐵製**コンクリートドウワー**
一般建築製飾金物製作

◉東京横濱大阪ヲ主トシテ全國都市百卅數個所ニ御使用先ヲ有ス◉

東京鋼鐵扉製作所

本社　東京府下南千住町南千住433. 434番地

全關西營業所

大阪市東區上本町一丁目六番地
電話局東 1309. 1310番

營業代表者　米山淺治
工場代表者　壽崎源太郎

最新建築材料

SSE眞鍮階段辷止金具

◉特　徴

一、耐久力絶大・特殊の配合に依る眞鍮を高壓搾出機に依り壓延加工したものでありますから鑄物の如く脆弱でなく分子は緻密で強靭性が甚大であります故に磨滅破損の虞れなく耐久力が絶大であります。

二、體裁優美・鑄物の如き鑄疵なく體裁が極めて美麗でありますから階段の裝飾となり建物を美化し得るのであります。

三、絶對安全・絶對に辷ることのない樣に設計製作してありますので些の危險なく最も安全であります。

◉形狀及價格

形狀	單價	形狀	單價
A型	三、一〇〇	D型	一、九〇〇
B型	二、四〇〇	E型	一、七〇〇
C型	二、八〇〇	F型	一、五〇〇

◎A・B・C・型は鉛又はカーボランダムを塡充するのであります

◎第一報次第型錄進呈

福島合名會社大阪支店

大阪市北區堂島ビルデイング

電話北五八九〇番

飛行機印



アスファルトフエルト
便利瓦
アスファルト各種
電氣絶縁材料

大阪市此花區大開町三丁目九番地

梶田豊治

電話長土佐堀五六〇一番

ステインドグラス

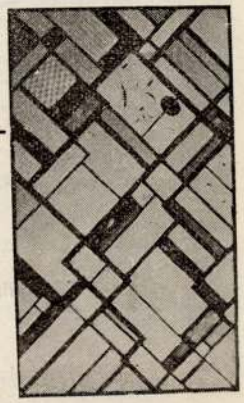
グラスモザイク

VENUS STUDIO

大阪市東區谷町二丁目五　電東四二二〇

出張所　東京　　代理店　京城

ベニス工房



理想的未代の黒ルーフ材



浅野スレート
日本石綿盤
朝日スレート
金剛スレート

品質堅牢
体裁優美

日本スレート販賣株式會社大阪支店

大阪市西區江戸堀南通一丁目廿一番地
電話土佐堀㊋3468番・3469番
本社 東京市京橋區三十間堀三丁目
電話銀座㊋684・841(專用)1860・1861・1862番(接續)
支店 横濱市常盤町5丁目81番地電話本長者町(3)5207番
門司市東本町四丁目 電話㊋548番
出張所 名古屋・仙臺・京城

電力ト電燈

美術裝飾電燈器具製作
電燈電熱避雷針電話工事
設計監督工事請負

淺海商店

營業所　大阪市北區絹笠町九番地
　　大江ビルヂング三階
　　電話直通　北一五七六番
　　交換北一二一五番　三一九六番
　　二六二〇番　三一九五番
　　三一九七番
工事部　大阪市北區曾根崎上三丁目卅六番地
　　北六六四二番
東京支店　東京市芝區田村町七番地
　　電話芝(43)二九七〇番

特許

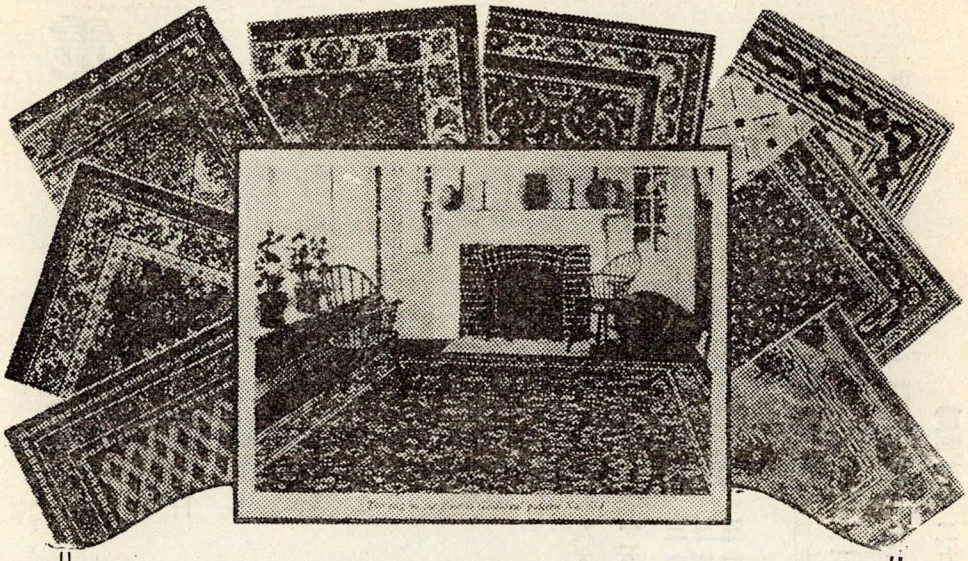
内藤式無煙風呂

浴場設備には
現代の文化的意義を充分に具備せる
内藤式無煙風呂釜を御採用願ひます

特長
下向きに燃えて絶對無煙焚方簡易
にして速く沸く燃料普通風呂釜の
三分の一

（カタログ進呈）

大阪市天王寺區大道三丁目
株式會社　内藤製作所
電話天王寺一〇一五番



大小色々

模様色合各種

山中支那緞通

寸法並ニ模様
特別御註文ニ應ズ

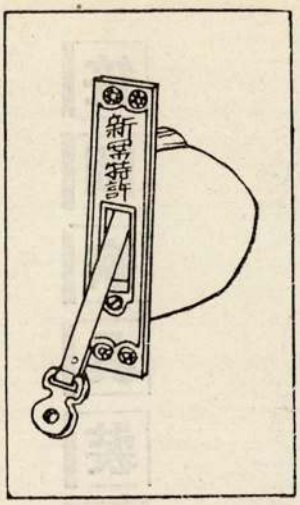
大阪市東區高麗橋一丁目

山中商會

特許秋山式

揚下窓自動窓車

窓口は分量を用ひず自動的に捲込み各所にて自由に停止することを得



特許秋山式

揚下窓安全器

窓口は分量を用ひず目方を論ぜず使用し得

自動窓車

各建築金物店にあり　呈進錄目

秋山製作所

大阪市北區臼屋町九番地

有雅琢美堂

有　らゆる優秀建築資料

雅　味滴る珍奇なる趣味タイル

琢　磨玲瓏たる大理石及銘石

美　術建築の装飾資料

堂　内に蒐集して貴需に應ず

大阪市西區江戸堀北通一丁目二十三番地

有雅琢美堂

電話土佐堀四九七〇（ヨクナレ）番（犬齋橋北詰際）

家具と室内装飾

笹岡家具装飾店

弊店は　眞面目がモットー
皆様方の使用人

營業所
工場　大阪市西淀川區海老町
一四八五番地

電話土佐堀　二九六九番
福　フクロク錄

振替口座大阪七九七三三番

S.S 品川タイル

品質優良
技術精巧

各種タイル製造販賣

品川白煉瓦株式會社大阪支店

タイル販賣所

大阪市西區靭北通一丁目二六
電話土佐堀七一一番

營業課目

公設
私設 上水道工事
水利工事水力電氣工事
煖房換氣工事
一般土木工事

公設
私設 下水道工事
衛生工事
道路鋪裝工事

調査、測量、設計、監督及ビ工事請負諸官廳ニ於ケル手續代理行爲

日本水道衛生工事株式會社

本社 大阪市東區高麗橋詰町六十番地
電話 東 長一四二二番 一四二三番
電報受信略號 ニチスイエイ
振替口座 大阪五參七壹五番

支店 東京市京橋區南傳馬町(第一相互館)
電話 京橋(56) 四〇〇一番 四〇〇二番

鋼製建具

シヤッター
サッシュ
ドアー

元大阪鐵扉製作所

日本鋼製建具株式會社

大阪支店

大阪市西淀川區傳法町南二丁目

電話土佐㈱五九二〇番

本　社　東京市丸ノ内丸ノ内ビルヂング八階　**電話丸ノ内3627**

東京工場　川崎市大師河原　**電話川崎973**

大阪工場　大阪市西淀川區傳法町南二丁目　**電話土5920**



塗裝工事請負
設計並ニ
材料販賣

松本商店

主店 松本壽美

大阪市北區宗是町十番地中島ビルヂング内
電話土佐堀二三九一・二一一五・三五〇九番

謹賀新年

東洋コンクリート合資會社

營業課目

土管・タイル
ブロック
電纜埋設用トラフ
其ノ他各種製品販賣
一般土木建築工事

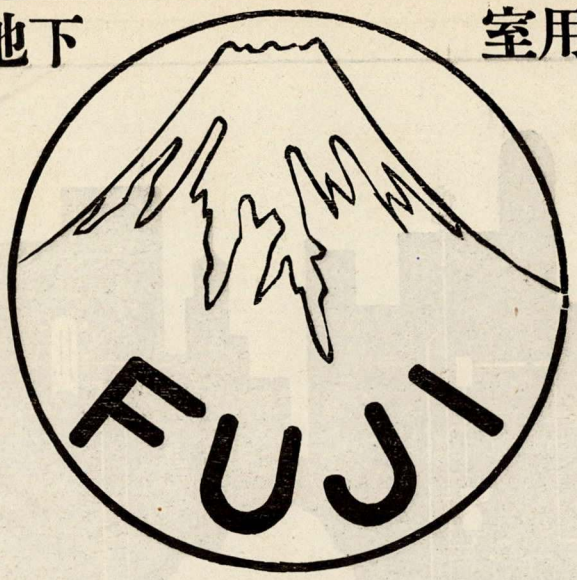
特殊ブロック建築
ブロック塀
タンク
煙突
其他ノ工事設計請負

大阪市西淀川區海老江町

電話土佐堀三八三四番

陸屋根地下室防水布

専賣許特 **富士印クロースルーフ井ング**



本品は純麻織物を主要材料とし無酸乾燥性天然アスファルトを應用し強度伸度滲透壓に於て同種品中最高の記錄を有する合理的にして最も進歩せる

クロースルーフ井ング製造所

工場 大阪住吉

大阪市東區平野町四丁目五八 電話本局五四〇七番

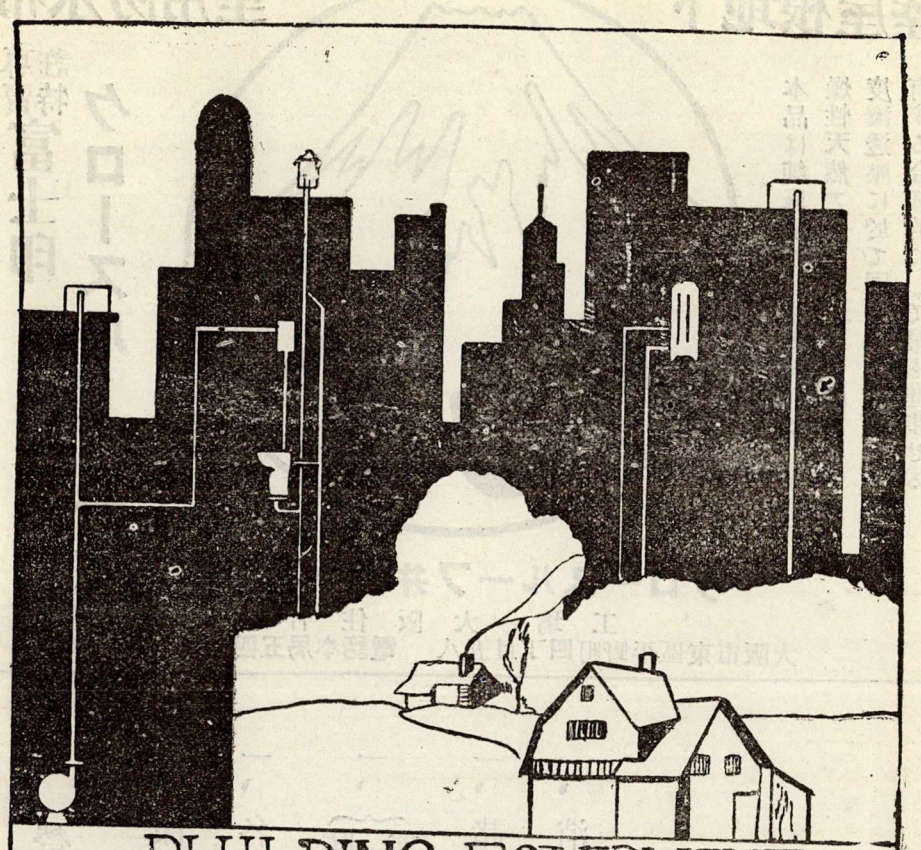
營業課目

一、保温劑及同塗布工事請負
一、各種パッキング類販賣
一、暖房給水乾燥冷藏換氣裝置
一、並浴場炊事場設備設計監督請負
一、諸機械器具特ニ放熱器販賣
一、消毒器及其他醫療器械販賣

大阪可能商會

大阪市西區阿波座上通一丁目二三

電話新町(53)二三九六番



BUILDING EQUIPMENT.

都市水道
衞生給水
煖房換氣
防火裝置
特許汚水處理
病院設備

桐田商會

大阪市北區木幡町八二
電話北二七五一番

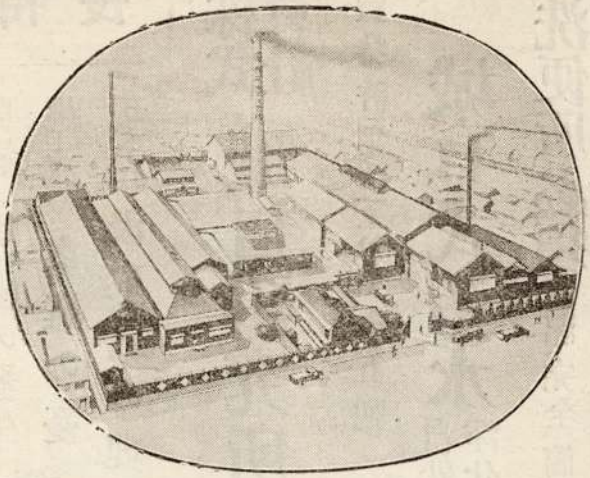
東京市芝區田村町十五
電話青山五三七五番

辨柄

登録商標

誇るべき弊社製品の特長

成分含有量の的確　分子微細にして一定不變
色澤鮮麗にして純新　大量製産にして安價提供



用途

塗料用　ペイント用　染色用　陶磁器用　漆器用　建築用　皮革用　防水布用

製紙用　リノリユーム用　燐寸用　ゴム製造配合用　電線被覆用　印刷インキ用　印刷製版用　スレート用

製品種目

富士印	金鳳印	白鳳印	金雀印	朱鶏印	丹頂印	四十鳥印	隼印	鴫印	鵙印
棕櫚印									

（見本進呈）

大阪市西成區長橋通四丁目
發賣元　合資會社　**大平工業所**
電話櫻川二六三八番
振替大阪六三九二五番
發信略號（オヒラ）又ハ（オ）

大阪市東區道修町二丁目
代理店　**藤澤友吉商店**
支店　東京市日本橋區本町
支店　京城府西小門町四二

便所之改善

専賣特許第三二七九八號

大正便所

特長

臭氣、蛆、蠅の發生絶對皆無
跳返、盜難の憂
現在汲取式の理想的便所

専賣特許第三六七一五號

株式會社 城口研究所大阪支店

城口式汚水自然淨化裝置

水洗便所必須清潔、完全、簡易の下水に放流裝置

一般給水衛生工事

『パームチット濾水器』關西代理店

大阪市北區曾根崎中壹丁目五十七番地

電話北 特長 二三 一九 八六 番番

本店 東京市神田區千代田町十八番地 特長二五二三番 電話神田二五二二番

出張所 名古屋市西區本町三丁目五番地 電話東二三〇七番
同 京都市大和大路大佛前 電話祇園四七四二番
同 神戸市三宮町一丁目百七十番地 電話三宮一六八九番
同 横濱市常盤町五丁目八十一番地
同 廣島市竹屋町百三十五番地 電話二八〇八番

大正十一年十一月三十日

賜 皇太子殿下工場御台覽

被授賞
- 名譽金銀牌 於內外各種博覽會
- 名譽賞牌 於御大典記念京都博覽會
- 優良賞 於國產化學工業博覽會

硬質陶器
建築タイル 窯元
美術淡路燒

DK 淡陶株式會社

創業 文政年間
會社組織 明治十八年
工場敷地 貳萬五千坪
同建坪 九千坪
工場從業員 七百名
タイル製產高 東洋一

本社 兵庫縣三原郡北阿萬村 電話本庄一〇
福良工場 同縣三原郡福良町 電話福良一九
大阪支店 大阪市西區阿波座中通一丁目 電話〔新町局四五二 新町二四八三
東京支店 東京市日本橋區濱町二丁目 電話長浪花六三〇五

一般電氣工事設計
監督請負

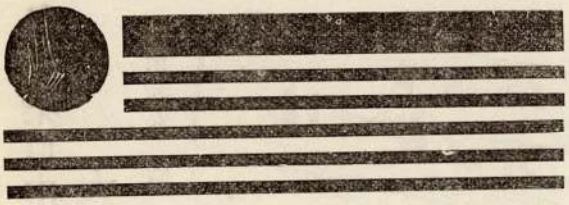
高級裝飾照明器具設計
製作並輸出入販賣

みよし組電氣工業所

營業所
大阪市東區味原町九九
電話南一〇三七・五貳二九
神戸・東京・福岡

製作所
大阪市東區味原町九九

謹賀新年



TRADE 

MARK

◎日建式 耐防水 酸

アスファルト工事請負

ダイヤモンド印

■便利瓦■

■アスファルトフエルト■

◎パーマネントルーフイング
◎アスファルトヘツシヤン
◎アスファルトクロツス
◎アスファルトフアブリツク
◎コツトンルーフイング
◎ビルデイングペーパー
◎ナフタリンペーパー

◆アスファルト各種内外◆

都市土木株式會社
アサヒ印便利瓦關西販賣店
大阪市西區南堀江通三丁目二十七番地

日本建材社

倉庫

電話櫻川二五九九番
振替口座大阪五三〇〇五番
大阪市西區南堀江通二ノ二二
電話櫻川三一二一番

各建築自由家に於て
大好評を博しつゝある



實用新案 第一一六二八五號

眞鍮代用
ユニオン眞鍮巻甲丸**レール**

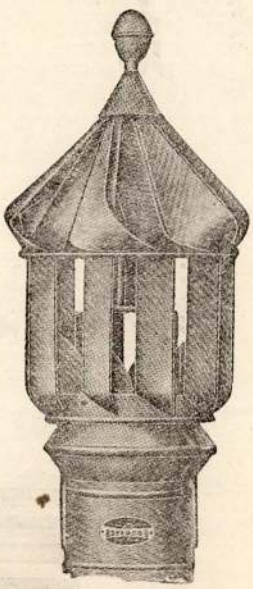
特長

一、外見上何等正味眞鍮甲丸レールと變りません
一、他の巻レールと比べて眞鍮巻板を厚板地金を以て被覆してありますから耐久力は永久です
一、値段は他品と比べて半額以下ですみますから非常に經濟的です

是非一度御試用を乞ふ!!

!! 威權の界器風除 !!

!學理と實際に基き製作したる最新式除風吸揚器!


田中式ベンチレーター

ユニオン印
建築金物製作發賣元

合名會社 **西孫南店** 建築金物部

大阪市南區順慶町二丁目
大阪市北區南森町五四番地
南森町交叉點二筋南ノ辻西入天神小橋筋
電話北二八五〇番

同直輸出入部

電話船(一九六・一九七番 三〇二九番

營業科目

◉和洋式建築金物
◉ブロンズ眞鍮製建具裝飾金具
◉窓金手摺鐵柵鐵扉類
◉釘針金平浪板諸材料
◉鋼鐵自働防火シャッター

製作=直輸=請負=入

保健!衛生! 田中式除風吸揚器
(新案特許第一一四四八六號)
實用新案 (第一一四四八六號)



建築ノ耐久ト美觀ハ屋根材料ノ撰定

KS式陸屋根地下室防水工事
太陽印アスファルトルーフキング
マルソイドルーフキング
テキサスルーフキング
各種アスファルトフエルト
耐酸性アスファルト工事
セメント防水劑マノール

見本型錄呈上

本店 大阪市西區江戸堀南通五丁目
電話土佐堀(二)二一六六番
～七一五四番

木下謹三商店

支店 東京市日本橋區濱町三丁目三番地
電話浪花二二五二番

石綿スレート(石綿盤)
天然スレート(石盤葺)
獨逸式セメント瓦
エキスパンデットメタルラス
淺野波形スレート
其他各種建築材料
販賣並ニ工事請負

タイルとテラコッター



大阪市北區芝田町　山本窯業商店　電話園北二八六番

タイルの山本窯業

硬質磁器・洋食器
建築衛生陶器
製造販賣

本社及工場　名古屋市
支店及出張所　紐育・東京

株式會社
名古屋製陶所
大阪營業所

大阪市西區新町南通參丁目三四
電話新町（局）一四四四番
～三六六一番
振替大阪七四七三二番

御申込次第
カタログ進呈

浅間工業所製品

石張ブロック

浅間石

異彩自由彫刻形



帝都の復興を彩る可き天然新材料

本邦唯一・色彩各種・火山灰
天然産放ニ絶對不變色

価格最廉
産額無限



専賣特許第七二三〇九號

登録商標
K.A.T.U.

カツセメント防水剤

特長 比重がセメントと同一

特長 火山灰を精撰せる純粋物質

最高級セメント防水剤

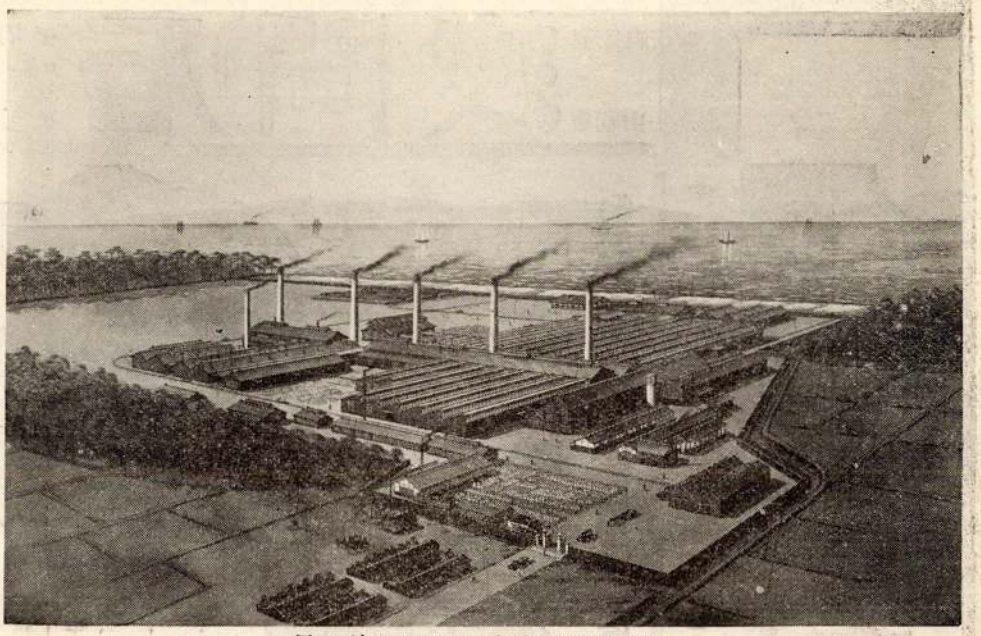
ハイローヂ

田村商會

東京市外澁谷町櫻ヶ丘六

電話青山九八四番

振替東京五五七〇〇番



大阪陶業株式會社佐野工場全景

建築用 テラコッタ

大阪市北區宗是町一番地 大阪ビル五階

大阪陶業株式會社

電話土佐堀 五三五五番 五五三五六番 五五三五七番

東京出張所 東京市麹町區内幸町一丁目 大阪ビル東京分館六階 電話銀座 (57) 五八七番

工場 大阪府泉南郡佐野町 電話佐野五九番

セメントを早く固めて
永もちさせる ケーテーオー



東京市芝區愛宕下町一ノ四　電話芝一五一二番

建築銅鐵物

鋼鐵製建具各種
鋼鐵製捲揚鐵扉
金庫及書庫鐵扉
雜作仕上鐵物各種
青銅製裝飾金物各種
建具用金物各種
設計、施工、請負

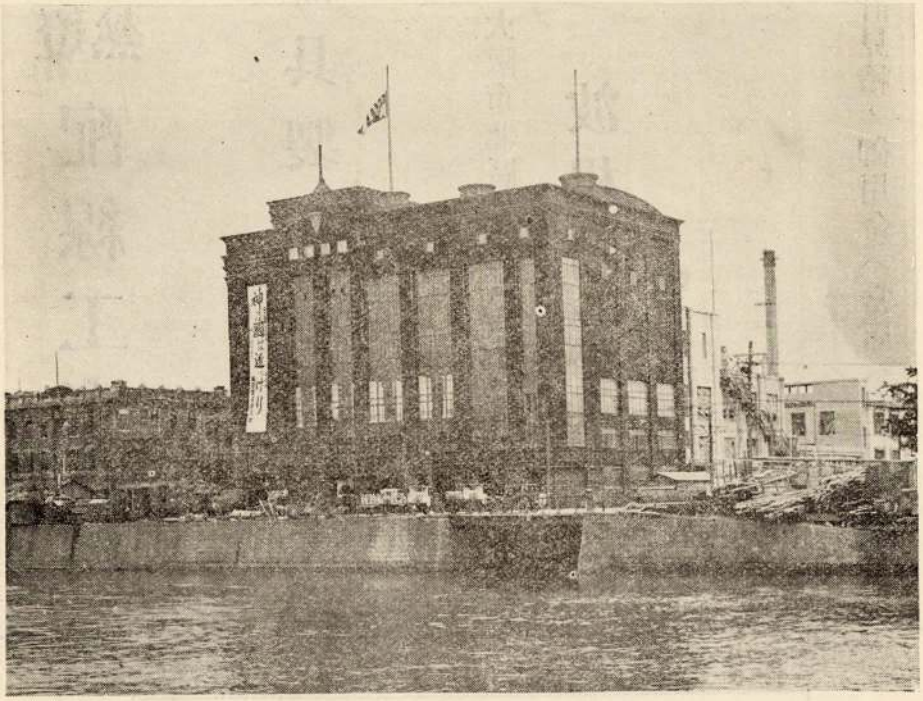
加工材料一般

營業所　東京市日本橋區北島町一丁目一番地
電話茅場町(66)一〇八八番

柴田建鐵工材所

工場　東京市外寺島一九九七番地
一九九八番地
曳船驛前

江東サッシ御採用の大阪朝日會館



江東サッシ

東京・龜戸

電話墨田3138番

電燈
電熱 配線工事
器具製作請負

大阪市北區相生町一〇一番地
波根田電氣商會
電話東一六九五番

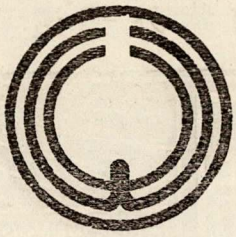
（設計見積ノ御用命ハ當店ヘ）

キング印 ルーフ井キング
羽馬印 フエルト
階段辷リ止金物 キング

大阪市北區堂島濱通壹丁目一〇九番地
斬新建築材料 直輸出入業
石川商會建材部
電話北六三二番，七四五三番
東京支店 東京市芝區田村町一八番地 電話芝三〇二五

煖房ト冷房

温濕度調整裝置



大和工業株式會社

代表取締役　山崎寛二郎

代表取締役　萩原貞

宮崎式ペーチカ

營業科目

各種煖房裝置　換氣裝置
衛生工事　汚水淨化裝置
給水給湯裝置　蒸氣諸裝置

温濕度調整裝置　冷房裝置
製氷及び冷藏裝置　除塵裝置
氣送管裝置　眞空掃除裝置
ニユウマチツクチユウヴ　バキユウムクリーナー

以上の設計、監督、工事請負並に材料販賣

本支社店　大阪北區曾根崎上四丁目三番地　電話北一〇八七・六二九一番　略語受電（オカサカワイ）
東京市京橋區南傳馬町三丁目七番地　電話京橋三二三五番（第一相互館二〇八）　略語受電（トウケウワイ）

"ACME" ULTRAVIT-GLAS

"アクメ"ウルトラヴイット

(理想的紫外線透過窓硝子)

過する理想的窓硝子
紫外光線を多量に透



ふる太陽光線中の
に可驚活力を與
凡ゆる生物の生活

紫外線透過率試驗%（獨逸伯林國立物理工業試驗所）

波長	340	320	310	300	297	295	290	280	uu
ウルトラヴイット硝子	85	83	77	63	58	53	42	22	%
普通硝子	43	1	0	—	—	—	—	—	—

歐米諸國に於ては既に多數の病院結核療養所、養老院、保育院、動物園、農園、畜產場等に使用し更に進んで積極的に發育助長健康增進等の一般衛生的設備として家庭、學校を初め會社銀行等に盛んに利用され夫ぞれ驚くべき好成績を擧げて居ます折角御使用あらんことを

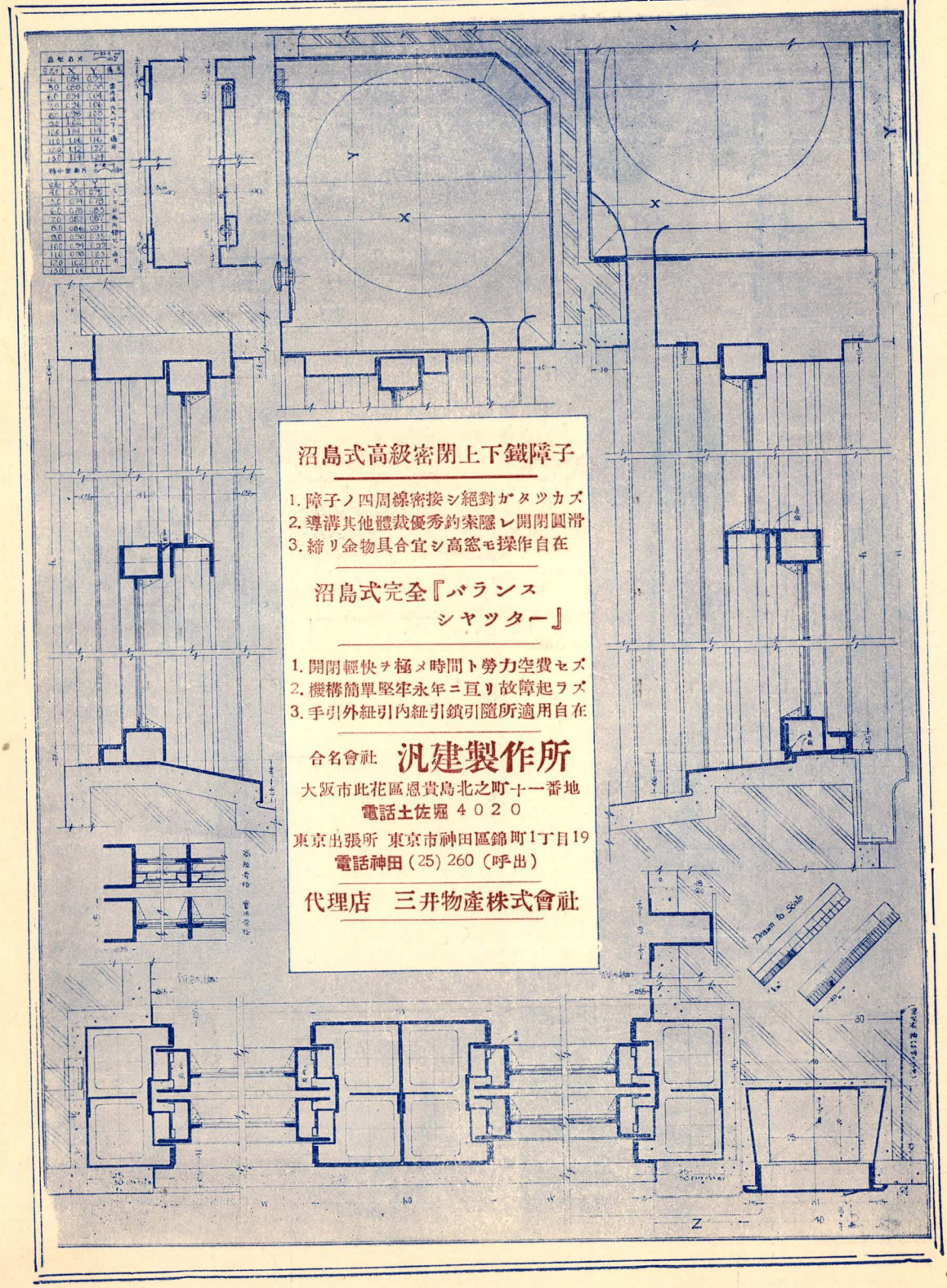
(御照會次第明細型錄送呈可致候)

株式會社

島津製作所貿易部

京都市河原町二條南

東京、福岡、大阪、大連、伯林、



沼島式高級密閉上下鐵障子

1. 障子ノ四周線密接シ絕對ガタツカズ
2. 導溝其他體裁優秀釣索隱レ開閉圓滑
3. 締リ金物具合宜シ高窓モ操作自在

沼島式完全『バランス シヤツター』

1. 開閉輕快ヲ極メ時間ト勞力空費セズ
2. 機構簡單堅牢永年ニ亘リ故障起ラズ
3. 手引外紐引內紐引鎖引隨所適用自在

合名會社 **汎建製作所**

大阪市此花區恩貴島北之町十一番地
電話土佐堀 4020

東京出張所 東京市神田區錦町1丁目19
電話神田 (25) 260 (呼出)

代理店 三井物產株式會社

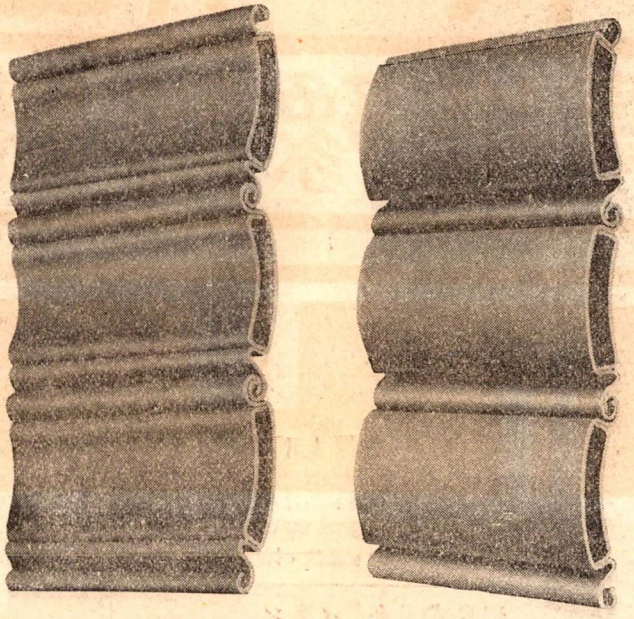
SUDZKI'S PAT. **HOLLOW SHUTTER** PAT. AP'L'D TO THE U.S.A

米國特許出願

日特
英許

鈴木式ホロー・シヤター

（最新式シヤッター）



大正十五年英國政府へ特許出願中の處昭和二年二月十七日第二六五八七三號を以て特許々可せらる

ホロー式の特徴

1 ホロー式は權威ある火熱注水試験の結果熟の傳導の遲いのか著しい特徴であつた。

2 ホロー式は高尚優美、堅牢無比、强盜、暴漢をして意氣銷沈せしむ。

3 ホロー式を DREADNOUGHT SHUTTER と英國人は評した。

4 ホロー式は卷揚が少さく素直に釋れて下る。

5 講鐵は特許鈴木式二重底レールを附屬せしむ。

6 錆止ペンキは浸漬式を用ゆ。

7 機械は精巧、圖畫は、美麗周圍と調和す。

ホロー式取付實例

◉取付場所及時日

◉名古屋市御器所町 南消防署

◉昭和貳年參月苅日

1 ホローシヤター三號型鎖引

2 巾 二十二尺 高十二尺出來上り寸法

3 シヤターア重量二百貫、シヤフト壹百貫 合計三百貫

4 錆止ペンキ浸漬式を用ゆ

5 上下時間 輕く手繰て廿秒

◉取付けの結果◉

丈夫で、輕くて、工合のよいので皆な驚歎してゐる

建築金物商會

東京 巢鴨町宮下一五四五—一五五五

支店 京都市東山通月見町二